2012 シラバス

授業要綱

ライフデザイン学部

東北工業大学

東北工業大学の理念および教育方針

【大学の理念】

人間・環境を重視した、豊かな生活のための学問を創造し、それらの統合を目指す教育・研究により、持続可能な社会の発展に寄与する

【教育方針】

専門家として必要な素地、調和のとれた人格、優れた創造力と実行力を備えた人材の育成

学士力とＡＥＧＧポリシー

１．本学の学生が身につけるべき学士力

真摯な態度と向上心をもって以下の学士力を身につける

①知識と理解力：文化性、人間性、社会性を備えた科学力と専門能力
②論理的思考と分析スキル：現象や結果に基づいて展開、解析、方向性を導く能力
③協調性と適応力：集団の一員として状況を正しく理解して主体的に取り組む能力
④コミュニケーションスキル：自己表現と相互理解の能力
⑤課題発見とその解決能力：総合的能力を駆使して、新しい現象・課題を発見し、その理解・解決ができる能力

２．AEGG（エーエッグ）ポリシー

（１）入学者受入の方針／入学（admission）ポリシー：Policy　A

本学の人材育成の目標達成のため、入学後の成長が期待される人材として、以下のいずれかを評価して入学者を受け入れる。

①基礎学力を身につけ、総合的な判断力を有すること
②専門分野に秀でた能力を有すること
③意欲的で目的意識が明確なこと
④多様な活動実績や一芸に秀でた能力を有すること

（２）教育課程表の編成・実施の方針／教育（education）ポリシー：Policy　E

①目標GPAの設定
②各学科目と身につけるべき能力の対応関係の明示
③社会的視点や人間形成に資する内容を盛り込んだ専門と教養の統合
④初年次からのセミナー系科目と卒業研修科目までの少人数教育の一貫性
⑤科目間の連携を明示したモデルカリキュラム

（３）学位授与方針／卒業（graduation）ポリシー：Policy　G_1

本学の学生が身につけるべき学士力（前述）を学科目ごとに評価するとともに、その総合評価として「卒業研修（卒業制作）」の組織的・客観的評価により卒業認定を行う。

本学では、これらの３ポリシーにもとづく学士力の養成に加え、「総合的人間教育」の観点から学生の生きる力を高めるために、以下の学生の指導方針を定め、これらを「東北工業大学 AEGG（エーエッグ）ポリシー」という。

（４）学生の指導方針／指導（guidance）ポリシー：Policy　G_2

本学学生の個性を重んじ、その成長、進路の自己設計のため以下の方針で指導する。

①学内外の多様な正課外活動の体験を通した社会の一員としての意識の醸成
②キャリア教育を通した職業人としての意識の醸成

大学のあゆみ

●昭和 39 年 1 月　東北工業大学設置認可される。
●昭和 39 年 4 月　東北工業大学開設。電子工学科・通信工学科を設置。
●昭和 40 年 4 月　電子工学科・通信工学科の教職課程を開設。
●昭和 41 年 4 月　建築学科増設。
●昭和 42 年 4 月　土木工学科・工業意匠学科増設。
●昭和 42 年 4 月　建築学科の教職課程を開設。
●昭和 43 年 4 月　土木工学科・工業意匠学科の教職課程を開設。
●平成 2 年 4 月　二ツ沢キャンパス開設。
●平成 4 年 4 月　大学院工学研究科修士課程開設。
通信工学専攻・建築学専攻・土木工学専攻を設置。同専攻教職課程を開設。
●平成 5 年 4 月　大学院工学研究科に電子工学専攻を増設。
同専攻教職課程を開設。
●平成 6 年 4 月　大学院工学研究科博士後期課程開設。
通信工学専攻・建築学専攻を設置。
●平成 7 年 4 月　大学院工学研究科電子工学専攻・土木工学専攻に博士後期課程を増設。
●平成 12 年 4 月　大学院工学研究科にデザイン工学専攻を増設。
同専攻教職課程を開設。
●平成 13 年 4 月　環境情報工学科増設。
●平成 14 年 4 月　大学院工学研究科デザイン工学専攻に博士後期課程を増設。
環境情報工学科の教職課程を開設。
●平成 15 年 4 月　工学部土木工学科を建設システム工学科に，
工学部工業意匠学科をデザイン工学科に名称変更
大学院工学研究科環境情報工学専攻博士課程（前期・後期）を増設。
●平成 15 年 10 月　東北工業大学一番町ロビー開設。
●平成 16 年 4 月　工学部通信工学科を情報通信工学科に名称変更。
●平成 19 年 4 月　工学部電子工学科を知能エレクトロニクス学科に名称変更。
●平成 20 年 4 月　ライフデザイン学部を開設。
クリエイティブデザイン学科・安全安心生活デザイン学科・経営コミュニケーション学科を開設。
工学部デザイン工学科の学生募集停止。
香澄町キャンパスを八木山キャンパスに，二ツ沢キャンパスを長町キャンパスに名称変更。
●平成 23 年 4 月　工学部建設システム工学科を都市マネジメント学科に名称変更。
●平成 24 年 4 月　大学院ライフデザイン学研究科博士（前期・後期）課程開設。
デザイン工学専攻を設置。同専攻教職課程を開設。
大学院工学研究科デザイン工学専攻の学生募集停止。
工学部環境エネルギー学科を開設。
同科教職課程を開設。
工学部環境情報工学科の学生募集停止。

目　　次

東北工業大学の理念および教育方針…… 表紙裏
学年暦 …… 2
セメスター制と学期について …… 3
単位制と授業時間について …… 3
授業科目の区分 …… 4
履修できる授業科目 …… 4
履修登録の手続きについて …… 5
CAP 制について …… 7
授業への出席について …… 8
試験について …… 8
成績について …… 10
「東北工大高校・東北工業大学　連携講座」について …… 11

平成 24(2012) 年度入学生から適用

教養教育科目履修ガイダンス …… 13
英語科目の履修要項 …… 16
スポーツ・健康系科目の履修要項 …… 18
「特別課外活動Ⅰ・Ⅱ」（各２単位）について …… 19
他大学等教養科目群・他大学開講科目群 …… 21
履修ガイダンス・教育課程表 …… 23
　クリエイティブデザイン学科 …… 23
　安全安心生活デザイン学科 …… 33
　経営コミュニケーション学科 …… 43
科目解説
　教養教育科目 …… 57
　クリエイティブデザイン学科　専門教育科目 …… 73
　安全安心生活デザイン学科　専門教育科目 …… 81
　経営コミュニケーション学科　専門教育科目 …… 89

平成20(2008)年度から23(2011)年度入学生に適用

英語科目の履修要項…… 97
保健体育科目の履修要項…… 98
特別課外活動Ⅰ・Ⅱ(各２単位)について…… 99
他大学等教養科目群・他大学開講科目群…… 101
再履修の受講案内…… 103
履修ガイダンス・教育課程表
　クリエイティブデザイン学科…… 113
　安全安心生活デザイン学科…… 121
　経営コミュニケーション学科…… 129
科目解説
　教養教育科目…… 143
　クリエイティブデザイン学科　専門教育科目 …… 159
　安全安心生活デザイン学科　専門教育科目 …… 173
　経営コミュニケーション学科　専門教育科目 …… 191

教育職員課程

東北工業大学教育職員免許状の取得に関する履修規程 …… 211
教職課程の履修要項…… 223
教育職員免許状取得に必要な科目…… 229

シラバスとは

英語でSyllabusと綴ります。元々は音楽で使われるシラブル（syllable，音節，音階の意味があり）から派生した言葉で，「一言で言う」や「はっきり言う」などの意味が込められており，一般の辞典では摘要，概要などと訳されています。このことからもわかるように，論文や判例など複雑な内容を簡単に短かく説明するものとして用いられています。例えば，長い書物の大まかな内容はその目次を知ると大よその内容がわかりますし，どのように進展するのかも予想がつきます。従って，書物などの目次も一種のシラバスと考えることができます。

ここでは，これから始まる授業科目の内容，進行計画などを簡単に説明するものとしてシラバスという言葉を用いています。その意味から，「授業の要綱」とも言えますが，単に授業要綱に留まらず，事前に内容の概要や進行計画を知って，学生諸君が積極的に各授業を履修して欲しいという願いが込められています。

ライフデザイン学部	学科名略称記号
クリエイティブデザイン学科	ＣＤ
安全安心生活デザイン学科	ＳＤ
経営コミュニケーション学科	ＭＣ

平成 24(2012)年度　学　年　暦

※学年暦が変更となる場合は、掲示でお知らせします。

項　　目	前　　期 (平成24年４月１日～平成24年９月12日)	後　　期 (平成24年９月13日～平成25年３月31日)
入　学　式	平成24年４月３日(火)	
オリエンテーション	平成24年４月４日(水)～平成24年４月９日(月)	平成24年９月13日(木)
授　業	平成24年４月10日(火)～平成24年７月27日(金)	平成24年９月14日(金)～平成25年１月23日(水)
定期試験時間割発表	平成24年７月23日(月)	平成25年１月17日(木)
補　講　日	平成24年７月７日(土) 平成24年７月14日(土) 平成24年７月21日(土)	平成24年12月８日(土)午前 平成24年12月15日(土) 平成25年１月22日(火) 平成25年１月23日(水)午前
定　期　試　験	平成24年７月30日(月)～平成24年８月３日(金)	平成25年１月24日(木)～平成25年１月30日(水)
成　績　発　表 追・再試験時間割発表	平成24年９月４日(火)	平成25年２月13日(水)
補　習　期　間	平成24年９月５日(水)～平成24年９月６日(木)	平成25年２月14日(木)～平成25年２月18日(月)
追　・　再　試　験	平成24年９月７日(金)～平成24年９月12日(水)	平成25年２月19日(火)～平成25年２月22日(金)
卒　業　者　発　表		平成25年３月12日(火)
学　位　記　授　与　式		平成25年３月19日(火)
進　級　者　発　表		平成25年３月26日(火)
夏　季　休　業	平成24年８月６日(月)～平成24年９月12日(水) ※夏季休業期間中に集中講義等を実施する場合があります。	
冬　季　休　業		平成24年12月25日(火)～平成25年１月４日(金) ※冬季休業期間中に集中講義等を実施する場合があります。
大　学　祭		平成24年10月20日(土)～平成24年10月21日(日)
創　立　記　念　日		平成24年10月19日(金)
◆　代　替　授　業　日	◆平成24年４月28日(土)：月曜の代替授業日 ◆平成24年７月16日(月・祝日)： 通常授業日(月曜の授業)	◆平成24年10月10日(水)：月曜の代替授業日 ◆平成24年10月23日(火)：月曜の代替授業日 ◆平成24年12月８日(土)午後 ：金曜３・４・５講時の代替授業日 ◆平成25年１月23日(水)午後 ：金曜３・４・５講時の代替授業日
★　振　替　休　日 ◎　全　学　休　講　日	◎平成24年５月１日(火)…全学休講日(終日) ★平成24年５月２日(水) …７月16日(海の日)の振替休日	◎平成24年10月22日(月) …大学祭後片付け等に伴う全学休講日(終日) ◎平成24年10月25日(木) …AOVA入試に伴う全学休講日(終日) ◎平成24年11月16日(金)午後 …指定校推薦入試に伴う全学休講日(午後のみ) ◎平成24年12月７日(金)午後 …専門高校等入試に伴う全学休講日(午後のみ)

平成24（2012）年度　東北工業大学　学年暦

は前期授業日　は後期授業日　は休業日　は終日休講日　は午後休講日　は休日授業日

※学年暦が変更となる場合は、掲示でお知らせします。

2012年

4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
1	日		1	火	（終日休講）	1	金		1	日		1	水	前期定期試験③	1	土		1	月		1	木		1	土	
2	月		2	水	7/16の振替休日	2	土		2	月		2	木	前期定期試験④	2	日		2	火		2	金		2	日	
3	火	入学式	3	木	憲法記念日	3	日		3	火		3	金	前期定期試験（予備）	3	月		3	水		3	土	文化の日	3	月	
4	水	前期オリエンテーション①	4	金	みどりの日	4	月		4	水		4	土		4	火	前期成績発表 追再試験時間割発表	4	木		4	日		4	火	
5	木	前期オリエンテーション②	5	土	こどもの日	5	火		5	木		5	日		5	水	前期補習①	5	金		5	月		5	水	
6	金	前期オリエンテーション③	6	日		6	水		6	金		6	月	夏季休業開始	6	木	前期補習②	6	土		6	火		6	木	
7	土		7	月		7	木		7	土	前期補講日①	7	火		7	金	前期追再試①	7	日		7	水		7	金	専門高校推薦入試（午後休講）
8	日		8	火		8	金		8	日		8	水		8	土		8	月	体育の日	8	木		8	土	AM:後期補講日① PM:金曜PM代替
9	月	前期オリエンテーション④	9	水		9	土		9	月		9	木		9	日		9	火		9	金		9	日	
10	火	前期授業開始	10	木		10	日		10	火		10	金		10	月	前期追再試②	10	水	月曜代替授業	10	土		10	月	
11	水		11	金		11	月		11	水		11	土		11	火	前期追再試③	11	木		11	日		11	火	
12	木		12	土		12	火		12	木		12	日		12	水	前期追再試④ 夏季休業終了	12	金		12	月		12	水	
13	金		13	日		13	水		13	金		13	月		13	木	後期オリエンテーション	13	土		13	火		13	木	
14	土		14	月		14	木		14	土	前期補講日②	14	火		14	金	後期授業開始	14	日		14	水		14	金	
15	日		15	火		15	金		15	日		15	水		15	土		15	月		15	木		15	土	後期補講日②
16	月		16	水		16	土		16	月	海の日 月曜通常授業	16	木		16	日		16	火		16	金	指定校推薦入試（午後休講）	16	日	
17	火		17	木		17	日		17	火		17	金		17	月	敬老の日	17	水		17	土		17	月	
18	水		18	金		18	月		18	水		18	土		18	火		18	木		18	日		18	火	
19	木		19	土		19	火		19	木		19	日		19	水		19	金	創立記念日 スポーツ大会	19	月		19	水	
20	金		20	日		20	水		20	金		20	月		20	木		20	土	大学祭	20	火		20	木	
21	土		21	月		21	木		21	土	前期補講日③	21	火		21	金		21	日	大学祭	21	水		21	金	
22	日		22	火		22	金		22	日		22	水		22	土	秋分の日	22	月	大学祭後片付け（終日休講）	22	木		22	土	
23	月		23	水		23	土		23	月	定期試験時間割発表	23	木		23	日		23	火	月曜代替授業	23	金	勤労感謝の日	23	日	天皇誕生日
24	火		24	木		24	日		24	火		24	金		24	月		24	水		24	土		24	月	振替休日
25	水		25	金		25	月		25	水		25	土		25	火		25	木	AOVA入試（終日休講）	25	日		25	火	冬季休業開始
26	木		26	土		26	火		26	木		26	日		26	水		26	金		26	月		26	水	
27	金		27	日		27	水		27	金	前期授業終了	27	月		27	木		27	土		27	火		27	木	
28	土	月曜代替授業	28	月		28	木		28	土		28	火		28	金		28	日		28	水		28	金	
29	日	昭和の日	29	火		29	金		29	日		29	水		29	土		29	月		29	木		29	土	
30	月	振替休日	30	水		30	土		30	月	前期定期試験①	30	木		30	日		30	火		30	金		30	日	
			31	木					31	火	前期定期試験②	31	金					31	水					31	月	

2013年

1月			2月			3月		
1	火	元日	1	金	（本学合同企業説明会）	1	金	
2	水		2	土		2	土	
3	木		3	日		3	日	
4	金	冬季休業終了	4	月		4	月	
5	土		5	火		5	火	
6	日		6	水		6	水	
7	月		7	木		7	木	
8	火		8	金		8	金	
9	水		9	土		9	土	
10	木		10	日		10	日	
11	金		11	月	建国記念日	11	月	
12	土		12	火		12	火	卒業者発表
13	日		13	水	後期成績発表 追再試験時間割発表	13	水	
14	月	成人の日	14	木	後期補習①	14	木	
15	火		15	金	後期補習②	15	金	
16	水		16	土		16	土	
17	木	定期試験時間割発表	17	日		17	日	
18	金		18	月	後期補習③	18	月	
19	土		19	火	後期追再試①	19	火	学位記授与式
20	日		20	水	後期追再試②	20	水	春分の日
21	月		21	木	後期追再試③	21	木	
22	火	後期補講日③	22	金	後期追再試④	22	金	
23	水	AM：後期補講日④ PM：金曜PM代替	23	土		23	土	
24	木	後期定期試験①	24	日		24	日	
25	金	後期定期試験②	25	月		25	月	
26	土		26	火		26	火	進級者発表
27	日		27	水		27	水	
28	月	後期定期試験③	28	木		28	木	
29	火	後期定期試験④				29	金	
30	水	後期定期試験（予備）				30	土	
31	木	（本学合同企業説明会）				31	日	

セメスター制と学期について（学則第 11 条，12 条参照）

大学の１年間は，４月１日に始まり翌年の３月31日に終わります。

本学では，最初の半年を前期，残りの半年を後期に分け，学期ごとに履修登録から単位認定までを完結させる「セメスター制」を採用しています。各科目の授業は１セメスター 15週にわたる期間内で終わります。

学生の皆さんは，各学期の始めに履修登録を行い，授業を受講し，各学期の終わりに試験を受けて，試験に合格すれば単位が取得できます。不合格であった場合は，次のセメスターか，翌年度以降に再度履修登録を行い，同じ授業を再び受講することができます。（これを再履修といいます。）

各学年・学期とセメスターの関係は下表の通りです。

１年次		２年次		３年次		４年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
第1 セメスター	第2 セメスター	第3 セメスター	第4 セメスター	第5 セメスター	第6 セメスター	第7 セメスター	第8 セメスター

単位制と授業時間について（学則第 10 条参照）

本学では，「単位制」を採用しています。

単位制とは，各授業科目ごとに一定の基準による単位数が決められていて，その授業科目を所定の時間履修し，試験に合格するとその授業科目に決められている単位が取得できる，という制度です。修業年限中に卒業に必要な単位数を修得すれば卒業することができます。

単位数と学修時間について

１単位の授業科目は，45時間の学修を必要とする内容をもって構成されています。

本学における授業科目の単位数算定基準は，講義や演習，実習など，授業の方法に応じ，授業時間外に必要な学習時間を考慮して，学則第10条に定められています。

具体的には，授業時間１コマ（90分）の授業15週で，①講義科目では２単位，②演習・実習系科目では１単位，としています。

１単位あたり45時間の学修時間が求められるため，概ね下表の通り「授業時間外での予習・復習等の自習時間」が必要となります。

【単位数と授業時間数・自習時間数】

授業形態	単位数	週授業時間数	＋	自習時間数
講　　義	２単位	１コマ／週	＋	60 時間／ 15 週
演習･実習	１単位	１コマ／週	＋	15 時間／ 15 週

授業時間帯について

なお，本学における各時限（1コマ＝90分）の授業時間帯は，以下の通りです。

講　時	授 業 時 間
１講時	8：50 ～ 10：20
２講時	10：30 ～ 12：00
３講時	13：00 ～ 14：30
４講時	14：40 ～ 16：10
５講時	16：20 ～ 17：50

※ただし，期末試験や集中講義，補講，補習等については，上記と異なる時間帯で実施する場合があります。

授業科目の区分

教養教育科目について
専門教育科目について
教職科目について

授業科目は，その内容によって，「教養教育科目」と「専門教育科目」の二つに分けられます。

「教養教育科目」は，「幅広い知識と豊かな人間性を持つ人材の養成」という教育目標の達成のために設けられた科目です。

「専門教育科目」は，各学科の専門の学芸を修得するためのものです。それぞれの学科が独自に設ける科目ですが，複数学科にわたり共通の科目（同一名称の科目）もいくつかあります。

この他に，教育職員免許状取得のための「教職科目」があります。教職免許の取得を希望する学生は，各専門学科の教育課程に加えて，教職科目の修得が必要です。

教職科目の詳細については，本シラバス211ページ以降を参照してください。

必修科目について
選択科目について

「教養教育科目」「専門教育科目」のそれぞれに，必修科目と選択科目があります。

「必修科目」は，必ず履修して単位を修得しなければならない科目です。この科目の単位を修得しないと，卒業することができません。

「選択科目」は，自分の興味や必要性に応じて選択することが可能な科目です。これを計画的に組み合わせて，卒業に必要な単位数を揃えるようにします。

進級・卒業条件について

各授業科目は，科目の内容および教育目標に応じて，効果的に学習できる学年・学期に配置されています。それぞれの科目の開講時期は，本シラバス中の，各学科の教育課程表に記載されています。

学生諸君は，必修・選択の指定，卒業に必要な単位数，進級に必要な単位数を考慮し，各学科が示している履修ガイダンスを参考にして，計画的に科目履修を進めてください。各学科の卒業に要する最低修得単位数は，教育課程表に記載されています。

２年次から３年次，３年次から４年次にそれぞれ進級するための条件は学科毎に定められており，条件を満たしていない学生は進級することができません。（クリエイティブデザイン学科の2012年度以降入学生には，１年次から２年次への進級条件も設定されています。）この進級条件も本シラバス中の各学科の教育課程表欄に掲載されています。

履修できる授業科目

１．履修科目は所属学部・学科の教育課程表から選びます。

他学科の同名の科目を履修して所属学部・学科の科目に振替えることは原則としてできません。ただし，再履修の場合，他学科で履修できる科目もあります。

また，専門教育科目中，「他学科開講科目群」として指定されている科目は，所属学科以外の学科において開設されている科目であっても，所属する学科が特に履修することが望ましいと考えて教育課程表に加えた科目なので，履修することができます。ただし受講人数を制限する場合があります。

１年生は，所属学科の自分のクラスで開講されているものから優先的に履修してください。

２．自分より上級学年の科目を履修して受講することはできません。

ただし，２年次に留年した学生に限り，３年次の開講科目の履修を認めます（これを先取り履修といいます）。先取り履修によって修得した３年生の科目の単位は，３年次への進級条件の単位数には加算できません。しかしながら，３年次への進級条件を充足し，かつ先取り履修により４年次への進級条件をも満たした場合には，２年次から４年次へ進級することができます。（これを特別進級といいます）

なお，先取り履修の履修登録方法については，長町キャンパス事務室または八木

再履修	山キャンパス学務課に問合せてください。 3．1つの時間帯には1科目だけ履修登録することができます。同時に2科目を履修することはできません。 同一時間帯に同一学年の科目が2科目以上ある場合（これを並列開講科目といいます），そのうち1科目だけを選択して履修します。ただし，選択しなかった方の科目を次年度以降に履修することは可能です。 4．一度単位を修得した科目を再び履修することはできません。 また，カリキュラムが変更になった場合，旧科目名ですでに修得済みの科目は，新しい科目名で再び履修することはできません。 5．一度不合格となった科目を再履修する場合は， ⑴　再履修クラスが開講されている場合は，再履修クラスで履修してください。 ⑵　eラーニング再履修クラスが開講されている場合は，担当教員の許可を得てeラーニング再履修クラスで受講することもできます。 ⑶　再履修クラスが開講されていない場合は，正規の時間割で履修することが原則です。 ⑷　上記が不可能な場合は，所属学科の他のクラスで履修することもできます。 ⑸　教養教育科目の場合は，他学部や他学科で履修することもできます。 再履修科目と自分の学年の科目が同じ時間帯に重なる場合は，必修科目が優先です。必修科目どうしが重なる場合は，低学年の必修科目が優先となります。ただし，進級等の条件を充たすため在籍している学年で修得する必要がある科目については，そちらを優先します。 上記⑴－⑸の方法で履修が不可能な場合，科目担当教員の個別の指導の下に再履修を許可する場合もありますが，すべての科目でこれを行うわけではないので，教務委員（本シラバスのティーチング・スタッフに教員名が記載されています），科目担当教員に相談してください。
eラーニング再履修	eラーニング再履修クラスとして開講されている科目は，時間割表の「eラーニング再履修クラス」の時間に，指定された演習室で受講します。eラーニング教材を使い，自分の進度に合わせた受講ができます。 受講を希望する学生は，履修登録期間に長町キャンパス事務室または八木山キャンパス学務課で申請の手続きを行い，担当教員の履修許可があった場合，受講できます。 成績はeラーニング教材の履修状況，教材の中で課される課題の成績，担当教員が実施する最終試験により評価されます（詳細は各科目解説参照のこと）。 なお，受講手続きの詳細は，長町キャンパス事務室または八木山キャンパス学務課に問合せてください。

履修登録の手続きについて（学則第13，14条参照）

履修登録について	大学では，同じ学科の学生であっても全員が同じ科目を受けるわけではなく，各自が選択した科目を履修しますので，学生ごとに履修科目が異なります。 学生は，毎学期の始めに，その学期に履修しようとする授業科目を届け出る必要があります。これを「履修登録」といいます。履修登録をしていない科目については，試験を受けることができませんので，単位を修得することができません。 本学では，履修科目の登録はWeb上で行います。これをWeb履修登録といいます。 各学期の履修登録の流れは以下の通りですので，指定された期間内に各自Web上で履修登録を行ってください。（Web履修登録期間およびWeb履修登録訂正期間については，別途掲示等でお知らせします。）

履修登録の流れ

Web履修登録の方法等の詳細については，前期オリエンテーション時に配布される「Web履修登録マニュアル」を参照してください。

Web履修登録期間 （各学期オリエンテーションの日から約１週間程度。詳細は掲示で周知します。）	別途配布するマニュアルにしたがい，各自Web上で履修登録を行ってください。 ※平成22年度以降の入学生は，1年間あるいは学期毎に履修登録できる単位数の上限が定められていますので，その上限内で登録するよう注意してください。（詳細は本シラバス７ページを参照）

↓

履修登録結果（１回目）の交付	上記期間中の履修登録結果を，クラス担任等を通じて学生へ配布します。登録結果を受け取ったら，直ちに内容を確認し，大切に保管してください。 履修登録科目は，コンピュータに登録された科目をもって決定となります。登録されなかった科目の単位は認定されませんので，自分が履修登録した科目に，誤りや履修登録漏れが無いか，十分に確認してください。

↓

Web履修登録訂正期間 （履修登録結果・1回目交付後約1週間程度。詳細は掲示で周知します。）	自分が履修登録した科目に誤りや履修登録漏れ等があった場合，または新たに追加登録したい科目や削除したい科目がある場合には，この期間中に，各自Web上で履修登録の訂正を行ってください。

↓

履修登録結果（最終）の交付	履修登録訂正期間中の内容を反映した履修登録結果の最終版を，クラス担任等を通じて学生へ配布します。登録結果を受け取ったら，直ちに内容を確認し，大切に保管してください。

なお，指定された期間内に履修登録ができない場合には，長町キャンパス事務室または八木山キャンパス学務課に連絡してください。

履修科目の変更

履修登録訂正期間が終了した後に，やむをえず履修科目の変更（追加履修登録や履修取り消し）を希望する場合は，授業担当教員の許可を得て，『履修変更願』を長町キャンパス事務室または八木山キャンパス学務課に提出してください。

ただし，『履修変更願』を提出できる期間は限られています。詳しくは掲示により周知します。

特別な届出の必要な科目

以下のような科目は，通常のWeb履修登録での登録ができませんので，履修登録訂正期間最終日までに，特別の届出用紙で履修登録してください。

(1)　他学科開講科目・他学部教養科目

他学科開講科目または他学部教養科目の履修を希望する場合は，それぞれ所定用紙（「他学科開講科目群履修届」・「他学部教養科目履修届」）に必要事項を記入し，所属学科教務委員の許可，および科目担当教員の許可を得た上で，長町キャンパス事務室または八木山キャンパス学務課に提出してください。

なお，他学科開講科目で修得した単位は，「他学科開講科目群」（専門教育科目）の単位として認定され，他学部教養科目で修得した単位は，「他大学等教養科目群」（教養教育科目）の単位として認定されます。

ただし，進級・卒業単位に算入できる単位数の上限は，学科によって異なりますので，所属学科の教育課程表を参照してください。

⑵　特別再履修科目

科目担当教員の個別の指導の下に特別に再履修を受けること（特別再履修）を希望する場合は，所定用紙（「特別再履修許可願」）に必要事項を記入し，科目担当教員の許可を得た上で，長町キャンパス事務室または八木山キャンパス学務課に提出してください。

⑶　他大学開講科目

他大学で開講される科目の履修を希望する場合は，本学での審査および受け入れ大学・学部での審査がありますので，他の科目よりも早い時期に申込みをする必要があります。申込方法，申込期限，修得単位の取扱い等の詳細については，本シラバス21ページを参照してください。

掲示

授業時間割の変更や教室変更など，大学からの連絡事項は，全て掲示によって行いますので，毎日必ず掲示板（該当学年および全学年共通一般掲示板）を見る習慣をつけてください。掲示を見落としたために何らかの不利益が生じたとしても，その責任は自分自身が負わなければなりません。

なお、掲示情報のうち、休講・補講・時間割変更・教室変更等の情報については、本学ポータルサイトにも掲載されます。

CAP 制について（平成 22（2010）年度以降の入学生に適用）

CAP制の目的

平成22年度入学生から，履修登録することのできる単位数に上限が定められています（これを「CAP制」といいます）。大学での学習には，講義などの授業時間だけでなく，空き時間や自宅で，１回の授業あたり２時間の予習・復習が求められるため，時間割に余裕を持って履修し理解を十分に深めることを目的としています。

履修登録することのできる上限単位数は，入学年度により以下の通り設定されていますので，その単位を超えないよう十分注意して計画的に履修登録を行ってください。

なお，これには教職科目の単位数は含みません。詳しくはクラス担任やセミナー担当教員，または各学科教務委員の説明，履修指導にしたがってください。

履修登録上限単位数

【平成22（2010）年度～平成23（2011）年度入学生に適用】
「１年間」に履修登録することのできる単位数の上限は，「49単位」です。 ※前期履修登録後に配布される「履修登録確認通知書」は，後期の履修登録時に年間合計履修登録単位数の計算に必要となりますので，入学時に配布された『学びポートフォリオ』に入れて，大切に保管してください。
【平成24（2012）年度以降の入学生に適用】
「１セメスター毎」に履修登録することのできる単位数の上限は，「24単位」です。

万が一，上限を超えて履修登録してしまった場合には，強制的に履修削除されることがあります。

授業への出席について

	各自が履修登録した科目の，授業に出席します。
教室	授業の行われる教室の教室番号は時間割表に掲載されています。教室や開講時間が変更になる場合は掲示で周知されます。集中講義など，通常の時間割表に載らないものについても掲示で周知されます。
出席登録	授業が始まる前に教室の入口内側にあるカード読み取り装置に学生証をかざして出席登録をしてください。出欠の確認は各授業担当教員に問合せてください。
補講	授業が予定した学習範囲に達しなかった場合や，休講があった場合は，補講が行われます。学年暦で補講日が設けられていますが，通常の週の空き時間に補講を行う場合もあります。どちらの場合も時間と教室は掲示で周知されます。
欠席の限度	それぞれの科目について，総授業時間数の３分の１以上欠席した場合は，試験を受けることができないので，単位を取得することができません（学則第14条参照）。
欠席届	病気など止むを得ない理由で授業を欠席する場合は，欠席届を提出することができます。 １ヶ月以上の長期にわたって欠席する場合の長期欠席届には，医師の診断書が必要です。 届出用紙は長町キャンパス事務室と八木山キャンパス学務課にあります。
休学	病気またはやむを得ない理由で３か月以上修学できない場合は，休学を願い出ることができますが，休学期間は在学年数に算入しないので４年間で卒業することはできなくなります。休学期間中の授業料は不要です。

試験について（学則第 14 条参照）

試験に関する要項 (学則第14条参照)	試験に関する手続きは，長町キャンパス事務室または八木山キャンパス学務課で取り扱います。 １．試験には，各学期末に行われる試験の他に，定期試験，追試験，再試験があります。 ⑴　定期試験とは，前期及び後期の授業期間終了後の定められた時期に行う試験です。 ⑵　追試験とは，病気その他やむを得ない事由により試験を欠席した者に対し，本人の願い出により行う試験です。 ⑶　再試験とは，試験を受験して不合格だった者に対し行う試験です。再試験を実施するか否かは科目担当教員によるので，必ず実施されるものではありません。 ⑷　授業科目担当教員が必要と認めたときには，学期の途中において試験を行うこともあります。 ２．試験はすべて筆記試験が原則ですが，報告書，論文などの審査の結果をもって筆記試験にかえることがあります。 ３．各授業科目の成績の判定は，優（80点以上），良（65点以上），可（60点以上），不可（59点以下）をもって表され，可以上を合格とします。 ４．再試験の成績評価は，満点を60点とします。（ただし，平成23年度以前の入学生は，満点を70点とします。） ５．次のいずれかに該当する者は，試験を受けることはできません。従って，その科目の単位を修得することができません。 ⑴　当該授業科目の履修登録をしていない者。 ⑵　出席日数不足のため授業科目担当教員より受験を停止された者。 ⑶　当該学期の学費納入金未納の者（ただし延納願いを提出し許可された者を除く）。

	6．受験に際しては公正にしなければなりません。不正行為を行った者は，学則第53条に従って懲戒されるとともに，その学期における授業科目の一部または全部が無効となります。 7．成績は，前期及び後期の成績発表日に発表されるので，必ず本人が大学に来て確認してください。成績発表日はシラバスの「学年暦」の項に記載されています。受験した科目が不合格だった場合，科目によっては，所定の手続きの上，再試験を受験できることもあります。 8．追試験及び再試験を受験する場合は，当該試験日の２日前までに受験申し込みを行い，受験票の交付を受けてください。再試験の場合は受験手数料を添えて申し込みをする必要があります。 9．定期試験をやむを得ない事由により欠席した者が，追試験を願い出るときは，その理由を詳細に記載した試験欠席届を欠席日を含んで７日以内に提出し，受験について許可を得なければなりません。試験欠席届を提出する際は，以下に例示する証明書等を必ず添付する必要があります。 （例示） ① 病気及び怪我等により欠席した場合 ・医師の診断書または証明書 ・病院の領収書 ② 就職試験等により欠席した場合 ・受験票または試験通知書 ・就職課の証明書 ③ 電車等の遅延により欠席した場合 ・遅延証明書 ④ バイク等の故障及び事故により欠席した場合 ・修理した店の領収書 ・事故証明書 ⑤ 忌引きにより欠席した場合 ・会葬の礼状または死亡診断書（写） ・願い出の日数は，本人の父母の場合は７日以内，本人の祖父母及び兄弟姉妹の場合は３日以内です。
試験に際しての心得	1．試験において，同一試験時間に２科目または２科目以上の試験が重複した場合，原則として低学年開講の授業科目を受験し，他の科目は追試験で受験してください。この場合，「試験に関する要項」の８.に従って追試験を願い出ることになりますが，その事由は「重複」とし，重複した科目名と試験実施日，時間を明記してください。 2．試験を受ける際は必ず机上に学生証を提示してください。 ⑴ 学生証の不携行者は特別受験証明を監督者に願い出て，特別受験票の発行を受け，この特別受験票を机上に提示しなければなりません。ただし，学生証の紛失，汚損または破損にもかかわらず再発行の手続を怠っていた場合は，特別受験証明を申し出ても特別受験票を発行されない場合があります。 ⑵ 学生証不携行で受験した場合は，受験した日の翌日から数えて４日以内に特別受験票（学生用）に学生証を添えて長町キャンパス事務室または八木山キャンパス学務課に提出し検印（日付印）を受けなければなりません。この手続きを怠った場合は，学生証不携行で受験した授業科目の試験成績の取消しまたは保留の取扱いを受けます。それに伴い当該授業科目の単位の認定又は再試験の受験許可を受けられないことがあります。 3．受験者は，試験開始５分前までに所定の試験室に入室を完了してください。 4．受験者は，試験室において指定の座席に着席してください。ただし，座席が指

定されていない試験室は，試験監督者の指示に従ってください。
5．遅刻した者にはその科目の試験開始から25分以内に限り入室を認めますが，試験時間の延長は認められません。
6．受験者の退室は答案用紙の回収および部数確認作業が終了するまで，認められません。
7．受験者が机上に出すことを許可されるものは，学生証，筆記用具，および時計に限ります。
⑴　ただし，その試験科目担当教員が必要と認めたものはこの限りではありません。
⑵　上記以外の物品は，鞄に入れて自席の椅子の下に整理して置いてください。机の中には一切物品を入れることは禁止します。
⑶　携帯電話等は電源を切って鞄に入れてください。机上に出すことはできません。
8．試験中，受験者間の交渉は一切認めません。
9．試験中は試験室内外ともに静粛にするよう心掛けなければなりません。
10．試験室内で配布された答案紙は，持ち帰ってはいけません。
11．試験中，試験監督者に用件のある場合は，黙って挙手をして示してください。
12．答案紙に所属学科，学年，学生番号及び氏名の記入がないものは無効となる場合があります。
13．受験者は試験中厳正な態度でのぞみ，不正行為および不正と疑われるような行為をしてはなりません。不正行為は，試験室で指摘された場合に限らず，採点の際発見された場合も不正行為として取扱いを受けます。不正行為と認定される例を下記に示します。
⑴　代人に受験させた場合及び代人として受験した場合
⑵　他人のために答案，メモ等を書いたり，他人に答案，メモ等を書いてもらったりしている場合
⑶　他人の答案を見たり，または他人に自己の答案を見せたと認められる場合
⑷　あらかじめ用意した答案紙あるいは他人の答案紙でもってすり替えた場合
⑸　持ち込みを許可されていないものを見ている場合，または出している場合
⑹　持ち込みを許可された物品や机等に不正な書き込みをしている場合
⑺　持ち込みを許可された物品を監督者の許可を得ずに互いに貸借している場合
⑻　言語，動作をもって試験の内容について互いに連絡している場合
⑼　私語や態度不正なもので注意を受けても改めない場合
⑽　許可なく座席を離れた場合
⑾　答案紙を持ち帰った場合
⑿　その他監督者の指示に直ちに従わない場合

成績について

成績通知書は各学期末の成績発表日にクラス担任やセミナー等担当教員から配布されます。必ず本人が受け取り，履修指導を受けてください。成績通知書は保護者にも別途郵送されます。

成績通知書には，履修した全科目の成績が記載されます。また進級や卒業条件となる科目区分ごとの修得単位数や，『合格した科目の平均点』および『GPA』が記載されます。

GPAについて

『GPA（Grade Point Average)』とは，履修登録した各授業科目の成績を，それぞれ５段階で評価した値の平均値であり，学力を客観的に計る方法として，主に欧米

の大学などで一般的に用いられ，日本の大学でも急速に導入が進められている成績評価指標の一つです。
　GPAは，以下の計算式により，算出されます。

【成績５段階評価の区分】

成　績	Grade	Grade Point
90 ～ 100 点	A	4.00
80 ～ 89 点	B	3.00
70 ～ 79 点	C	2.00
60 ～ 69 点	D	1.00
不可・不適	F	0.00

【GPAの計算式】（小数第3位を四捨五入して第2位まで表示します）

$$\mathrm{GPA} = \frac{(4\times\text{Aの修得単位数}) + (3\times\text{Bの修得単位数}) + (2\times\text{Cの修得単位数}) + (1\times\text{Dの修得単位数})}{\text{履修登録科目の単位数（F（不可・不適）の科目の単位数を含む）の合計}}$$

　GPAには，不合格（不可・不適）の科目も算入されるので，不合格科目があるとGPA評価を下げることになります。(「不可」は期末試験などの成績評価で不合格となった科目，「不適」は出席日数不足や試験を受けない等により履修放棄となった科目です。)

　平成22年度以降に入学した学生には，大学院への推薦基準など成績の総合評価にGPAを用います。
　平成21年度以前に入学した学生には，従来通り平均点を総合評価に用いますが，GPAを意識した履修を心がけてください。

「東北工大高校・東北工業大学 連携講座」について

講座の内容

　平成19（2007）年４月から，次のような内容の東北工業大学高校（以下　東北工大高校）との連携講座を開設しています。
　この講座は，東北工大高校の生徒（以下　東北工大高生）が大学の授業を受講して合格すると，本学入学後に単位認定されるという制度です。授業は，本学学生諸君と同じ時間帯に実施されますが，大学としては本学学生諸君の受講および単位認定に不都合，不便がないように十分配慮して対応します。

１．開設目的
　・大学の講義を聴講させて，東北工大高生を啓発し，大学へスムーズに適応させること
　・東北工業大学への関心度を高め，進学や志望学科を明確化させること等

２．連携講座対象の科目
　・前期「現代科学総論A」（月曜日１講時目　8：50～10：20（90分）八木山キャンパス937教室）
　・後期「現代科学総論B」（月曜日１講時目　8：50～10：20（90分）八木山キャンパス937教室）

連携講座を実施するにあたって配慮をお願いしたい事項

　本学学生諸君は，通常の他の科目と同様に受講して構いませんが，以下の事項について了承してください。

１．東北工大高生は，別の方法で対象科目を履修登録する。

	2．東北工大高生は，授業の開始前にホームルームを受け，そこで出欠やレポート提出が確認される。 3．東北工大高生の座席は，概ね教室の西側，前部に着席するように指導している。 4．生徒の指導上，東北工大高校の教員が出席する場合もある。 5．東北工大高生は，授業終了後に東北工大高校に移動する。 6．受講する東北工大高生は，図書館等大学の施設を利用できる。
単位認定の申請手続きについて	【東北工大高校から本学へ進学した方へ】 東北工大高校在学中に上記講座を受講し，合格した方は，本学入学後に以下の手続きをすることで，本学の単位として認定されます。 単位認定希望者は，自己申請となりますので，所定の申請書に必要事項を記入し，以下のとおり提出してください。（申請書の用紙は，長町キャンパス事務室または八木山キャンパス学務課窓口にて受け取ってください。） 1．申請科目：⑴「現代科学総論Ａ」 ⑵「現代科学総論Ｂ」 2．申請期日：前期：７月末・後期：１月末 3．申請場所：長町キャンパス事務室または八木山キャンパス学務課 4．提出書類：⑴「工大連携特別講座」単位認定申請届 ⑵ 単位修得証明書 ⑶ 学生証の写し

平成24(2012)年度
入学生から適用

教養教育科目履修ガイダンス

（ライフデザイン学部　教養教育科目）

1．カリキュラムの特徴

専門的な知識や技術のみに偏ることのない広い視野，市民としての常識，豊かな人間性を身につけるために「生活と社会」「自然と技術」「言葉と表現」「心と体の健康」「学際」という多彩な科目群を設け，幅広く学習することによって，専門課程で修得した知識や技術を地域社会や国内外において正しく活かすことができるような人材の育成を目指す。

2．授業科目と学士力の対応表

教養教育　身につけるべき学士力	
①	コミュニケーション能力 （言語の読解力，言語による自己表現と相互理解の能力）
②	批判的思考力 （現代世界の諸問題を考えるための基礎的な視点や知識）
③	社会生活への適応力 （精神的・身体的に健全であるための実践能力と知識）
④	工学およびライフデザイン学を学ぶための基礎学力 （数学，自然科学，経済学，経営学等の基礎知識）

科目区分		授業科目名	教養教育学士力対応表 ①	②	③	④
教養教育科目	1	暮らしと経済学		○		○
	2	市民と法		○		
	3	暮らしと心理学		○		
	4	市民と政治		○		
	5	産業社会と心理学		○		
	6	日本近代史		○		
	7	日本国憲法		○		
	8	現代の哲学		○		
	9	現代の倫理		○		
	10	文化の諸相		○		
	11	現代社会論		○		
	12	情報リテラシー				○
	13	数学的思考法				○
	14	コンピュータ基礎				○
	15	生活とテクノロジー		○		
	16	命と生物学		○		
	17	地球環境とエコロジー		○		
	18	生活とサイエンス		○		
	19	現代科学総論A		○		○
	20	日本語表現Ⅰ	○		○	
	21	日本語表現Ⅱ	○		○	
	22	プレゼンテーション	○		○	
	23	ビジネスマナー	○		○	

科目区分		授業科目名	教養教育学士力対応表 ①	②	③	④
教養教育科目	24	英語ⅠA	○			
	25	英語ⅠB	○			
	26	英語ⅡA	○			
	27	英語ⅡB	○			
	28	英会話A	○			
	29	英会話B	○			
	30	資格英語A	○			
	31	資格英語B	○			
	32	フランス語A	○			
	33	ドイツ語A	○			
	34	韓国語A	○			
	35	中国語A	○			
	36	フランス語B	○			
	37	ドイツ語B	○			
	38	韓国語B	○			
	39	中国語B	○			
	40	スポーツ実技Ⅰ			○	
	41	スポーツ身体科学			○	
	42	スポーツ実技Ⅱ			○	
	43	健康論			○	
	44	特別課外活動Ⅰ			○	
	45	特別課外活動Ⅱ			○	
	46	他大学等教養科目群				

教養教育科目の履修の流れ
（ライフデザイン学部）

共通教育センター　学習・教育目標
1．自ら考えて行動できる市民として必要な素養を身につけること。 2．工学およびライフデザイン学を学ぶための基礎的知識を身につけること。 3．高等学校教育から大学教育に円滑に移行できるだけの基礎学力を身につけること。 4．高校教員免許状取得を目指す学生に必要な基礎的専門知識を身につけること。

科目群の学習・教育目標		1 年 次	
		前　期	後　期
生活と社会	現代の社会、および現代の生活の諸問題を考えるための基礎的な視点や知識を身につける。	暮らしと経済学	
自然と技術	自然科学系の基礎的知識と、専門分野の知識を有機的に関連づける能力を身につける。	情報リテラシー 数学的思考法	コンピュータ基礎
言葉と表現	専門課程において要求される言語の読解力、また社会に出てから要求される言語による自己表現と相互理解の能力を身につける。	日本語表現Ⅰ 英語ⅠA 英会話A フランス語A ドイツ語A 韓国語A 中国語A	英語ⅠB 英会話B フランス語B ドイツ語B 韓国語B 中国語B
心と体の健康	身体運動と心身の健康についての正しい知識と実践能力を修得する。またコミュニケーション、リーダーシップの向上に役立てる。	スポーツ実技Ⅰ	スポーツ身体科学

必修科目　選択科目

2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
市民と法	市民と政治	日本国憲法	現代の倫理	現代社会論	
暮らしと心理学	産業社会と心理学	現代の哲学	文化の諸相		
	日本近代史				
生活とテクノロジー	地球環境とエコロジー	生活とサイエンス			
命と生物学		現代科学総論A			
日本語表現Ⅱ	プレゼンテーション	ビジネスマナー			
英語ⅡA	英語ⅡB				
資格英語A ※MC学科のみ必修	資格英語B ※MC学科のみ必修				
スポーツ実技Ⅱ	健康論				

英語科目の履修要項（平成 24 (2012) 年度以降入学生に適用）

近年，日本の多くの高等教育機関で，教育の質の保証という観点から，客観的な成績評価の指標として，資格試験が利用されています。また，エントリーシートへの資格試験成績の記入や，入社後の受験を義務づけ，昇進条件として用いる大手企業なども増加しています。こうした状況に鑑みて，本学では，文系・理系の両分野において有用な資格である TOEIC（Test of English for International Communication）を念頭に置いた演習を，英語教育に取り入れています。資格試験対策としては継続的な学習が最も重要ですから，１年次から目的意識を持って履修計画を立ててください。

１．履修科目

〈必修科目〉（１・２年次）

英語科目は，「読む，書く，聞く，話す」の四技能の養成を目的とし，以下の必修科目が設定されています（なお，経営コミュニケーション学科では，下の〈選択科目〉にある「資格英語 A・B」も「必修科目」となっています。２年次の履修登録の際には注意してください）。

授業科目名	単位数	毎週の時間数			
		１年		２年	
		前期	後期	前期	後期
英語ＩＡ	2	2			
英語ＩＢ	2		2		
英語ⅡＡ	2			2	
英語ⅡＢ	2				2

「英語ＩＡ」及び「英語ＩＢ」は，基礎的文法項目の学習を中心とする科目です。

「英語ⅡＡ」及び「英語ⅡＢ」は，資格試験への導入を含む，より実践的内容を学習する科目です。

〈選択科目〉（１・２年次）

各自のニーズと目的に合った英語学習を行うため，以下の選択科目が設定されています。

授業科目名	単位数	毎週の時間数			
		１年		２年	
		前期	後期	前期	後期
英会話Ａ	1	2			
英会話Ｂ	1		2		
資格英語Ａ	1			2	
資格英語Ｂ	1				2

「英会話 A・B」では，少人数クラスで，外国人講師による speaking，listening を中心とした実践的英会話，および TOEIC リスニングセクション対策の基礎となる演習を行います。

「資格英語 A・B」では，TOEIC 対策に特化した 400 ～ 500 点レベルの演習を行います。受講者は，カレッジ TOEIC 受験が義務付けられます（経営コミュニケーション学科では，「資格英語 A・B」も「必修科目」となっています）。

また，３年次以降も TOEIC 受験対策の学習を希望する学生を対象に，申請により「特別課外活動」として単位認定される特別講座を開講する予定です。詳細は２年次後期の授業において連絡しますので，積極的に受講してください。

２．英語科目の再履修について	「英語ＩＡ」「英語ＩＢ」「英語ⅡＡ」「英語ⅡＢ」の単位未修得者は，５講時開講の再履修クラスを受講してください。それができない場合には，１～４講時開講の各学科の正規クラスで再履修してください。
３．英語科目の単位の振り替えについて	入学前及び入学後の各種英語検定試験合格者に対して，学生の申請に基づき１年次の英語科目の単位の振り替えを認めます。振り替え科目及び成績評価は以下の通りです。

英検１級 英検準１級 TOEIC 600 点以上	１年次の英語科目４単位 （英語ＩＡ ２単位，英語ＩＢ ２単位） 成績評価 90 点
英検２級 TOEIC 500 点以上	１年次の英語科目２単位 （英語ＩＡか英語ＩＢいずれか） 成績評価 90 点

スポーツ・健康系科目の履修要項

⑴　スポーツ・健康系科目の開講時期及び単位数は以下の通りである。

スポーツ実技Ⅰ	１年次前期	１単位
スポーツ身体科学	１年次後期	１単位
スポーツ実技Ⅱ	２年次前期	１単位（集中コースでも履修可能）
健康論	２年次後期	２単位

※各科目とも初回講義は長町キャンパス体育館でガイダンスと受講スポーツ種目もしくは受講講義の選択を行いますので，受講希望者は必ず出席し，担当教員の説明を受けること。なお，初回講義を欠席した場合，希望のスポーツ種目または講義を受講できない場合がある。

⑵　開講されている科目は全て卒業単位（教養教育科目）に認められる。

⑶　各学科とも教職免許の取得を希望する学生はスポーツ実技Ⅰもしくはスポーツ実技Ⅱの中から１科目と健康論を必ず履修すること。

⑷　スポーツ実技Ⅰ・Ⅱは，種目によっては希望者が多数の場合に，施設・用具の関係で人数制限を行っている。

⑸　スポーツ実技Ⅰ・Ⅱは履修票作成のため，初回講義時に顔写真（縦4.5cm，横3.5cm）を用意すること。

「特別課外活動Ⅰ・Ⅱ」（各２単位）について

科目設定の趣旨	大学における勉学は開講されている科目を履修する事だけではありません。芸術活動，クラブ活動，セミナー参加，インターンシップ参加などにより，文化・社会的活動を通して協調性やコミュニケーション能力を向上させ，人間形成を行う事が重要です。 これを奨励するため，本学では入学後に取得した資格や学内外での様々な活動を，教養教育科目「特別課外活動Ⅰ・Ⅱ」各２単位として認定しています。
単位認定の対象活動	本学在籍期間中になされた学生による自主的・能動的活動のうち，本学の教育目標にふさわしいと認められる特別な課外活動を対象に，審査の上，単位認定します。 その対象区分は当面，以下の(Ⅰ)～(Ⅷ)としますが，これらの項目に該当しないものについて申請があった場合も，教務委員会で審査して妥当性を判断し，場合によっては対象項目の拡張を検討します。 (Ⅰ) 資格取得または検定等の合格 例）ＦＥ試験，アマチュア無線技士，ソフトウェア開発技術者，トレース技能検定，環境計量士，基本情報技術者，技術士第一次試験，計算技術検定，公害防止管理者，工業英語，実用英語検定，珠算能力検定(日商)，初級システムアドミニストレータ，ITパスポート試験，情報技術検定，測量士，測量士補，宅地建物取引主任者，電気主任技術者，電気通信主任技術者，無線通信士(総合・海上)，陸上無線技術士，ボイラー技士，危険物取扱者(甲種・乙種)，色彩検定(文部科学省)，カラーコーディネーター検定(商工会議所)，商業施設士，商業施設士補，工事担任者(AI・DD)，広告製作スペシャリスト技能検定，CGクリエイター検定，Webデザイナー検定，CGエンジニア検定，画像処理エンジニア検定，マルチメディア検定，テクニカルエンジニア(エンベデッドシステム)，パソコン検定(P検)，公害防止管理者，品質管理(QC)検定，電気工事士，陸上特殊無線技士，ドイツ語技能検定，実用フランス語技能検定，福祉住環境コーディネーター検定，インテリアコーディネーター，インテリアプランナー，NSCA認定パーソナルトレーナー，日本体育協会公認スポーツプログラマー，ヘルス/フィットネスインストラクター（ACSMHFI)，高年齢者体力つくり支援士，障害者スポーツ指導員，C. R. P. ＋A. E. D.（国際救命救急協会)，赤十字救急法救急員(日本赤十字社)，簿記検定(日商)，建設業経理検定，映像音響処理技術者資格認定，ファイナンシャルプラニング技能士，金融窓口サービス技能士，税務会計能力検定，応用情報技術者，マイクロソフトオフィススペシャリスト（但し試験レベルにより判断する） ＊ 詳細は長町キャンパス事務室又は八木山キャンパス学務課に問い合わせのこと。 (Ⅱ) 体育，文化及び芸術活動における顕著な業績をもつ活動 (Ⅲ) 社会的に顕著な貢献の認められる活動（活動証明の得られるもの） (Ⅳ) インターンシップ制度による活動（実働10日間（80時間）以上の活動） (Ⅴ) 国際活動 ① 国際交流委員会が認めた国際交流活動，国際交流に関する研修・セミナーへの参加 ② 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う海外研修 (Ⅵ) 教務委員会指定の課外活動 ① 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う学外または学内研修，特別講座への参加 ② 教務委員会が認めた学外または学内活動への参加 (Ⅶ) 高大連携講座 本学と高等学校との協定により実施された「高大連携講座」を本学入学前に修

了（ただし，協定により他科目での単位認定が取り決められている講座を除く）

⑧　学科指定の課外活動

クリエイティブデザイン学科

⑴各種デザインコンペへの応募

⑵企業実習への参加

⑶学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究，各種ゼミへの参加

⑷自主的に行う国内・国外のデザイン見聞旅行の計画・実施

安全安心生活デザイン学科

下記の専門性の高いカテゴリーの活動は，専門科目「生活デザイン特別課外活動」でも認定されるので注意すること。(86ページ参照)

⑴学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究，各種ゼミへの参加

⑵企業実習などへの参加

⑶各種デザインコンペへの応募

⑷自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施

⑸学科が実施する対外活動への参加，大学祭での生活デザイン作品・企画の展示

単位認定および評価の方法

⑴　単位認定は学生による自己申請に基づくことを原則とします。

⑵　申請は毎学期末（７月末，１月末）とします。

⑶　単位認定希望者は所定の申請用紙（長町キャンパス事務室又は八木山キャンパス学務課に備付）に必要事項を記入して，次の書類を添付して長町キャンパス事務室又は八木山キャンパス学務課へ提出してください。

申請項目Ⅰの場合…資格取得，検定合格等を証明する書類
（但し，本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること）

申請項目Ⅱ，Ⅲの場合…

①　活動を証明するもの（但し，本人の名前が明示されているものの原本を提示すること）

②　課外活動における本人の位置付け，活動の内容，成果・業績等を記載したレポート（Ａ４判，1000字程度）

③　団体活動の場合は，個人の活動を証明する第三者（クラブ顧問，団体活動の指導者・担当教員等）の証明書類

申請項目Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ，Ⅷの場合…

①　活動を証明する書類（本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること。ただし，Ⅳの場合は写しでも可）

②　活動の動機，活動の内容，活動の成果，活動で得たこと等を記載したレポート（Ａ４判，1,000字程度）

申請項目Ⅶの場合…修了証

⑷　単位認定の審査は教務委員会で行い，教務部長が単位認定します。

⑸　評価の方法

評価は次の３つの観点から行います。

・活動における自主性，能動性の度合い

・活動内容の充実度

・活動の成果の大きさ

他大学等教養科目群（教養科目）・他大学開講科目群（専門科目）

本学は「学都仙台単位互換ネットワーク」に参加しているので，本学学生は「特別聴講学生」として，ネットワークに参加している他大学の開講科目を履修することができます。修得した単位は，所定の単位数まで，本学で履修した単位として認定できます。提供科目を開講している大学に通学して受講することになりますが，一部遠隔授業として提供される科目もあり，その科目は本学の教室で受講することができます。

学都仙台単位互換ネットワーク

「学都仙台単位互換ネットワーク」は，仙台圏の国・公・私立の大学・短期大学及び山形県の東北芸術工科大学の各大学間で，意欲ある学生に対し多様な学習機会を提供する事を目的として発足した制度です。各大学より文化，芸術，政治，経済，自然科学等，多くの学問分野にわたる科目が提供されています。

各大学の提供科目，シラバス等は本学の長町キャンパス事務室又は八木山キャンパス学務課で閲覧することができます。検定料，入学料，授業料（但，放送大学宮城学習センターを除く）を別途徴収されることはありません。

学都仙台単位互換ネットワーク協定に基づく特別聴講学生として他大学の提供科目を受講する場合は，本学で選考の上，受入大学に依頼を行い，受入大学から受入通知が来た時点で履修登録を行うことになるので，申し込みは通常の履修登録より早い時期に行われます。

学都仙台単位互換ネットワーク協定に基づく特別聴講学生として他大学開講科目の受講を希望する学生は，まず所属学科の教務委員やクラス担任（本シラバスのティーチングスタッフのページに教員名が記載されています）と相談の上，本学の授業に差し支えないことを確かめた上で，下記の要領に基づいて長町キャンパス事務室又は八木山キャンパス学務課で申請手続きを行ってください。

参加大学

１．学都仙台単位互換ネットワーク参加大学

石巻専修大学，尚絅学院大学，仙台白百合女子大学，仙台大学，東北学院大学，東北芸術工科大学，東北工業大学，東北生活文化大学，東北大学，東北福祉大学，東北文化学園大学，東北薬科大学，宮城学院女子大学，宮城教育大学，宮城大学，聖和学園短期大学，東北生活文化大学短期大学部，仙台電波工業高等専門学校，宮城工業高等専門学校，放送大学宮城学習センター，宮城誠真短期大学（なお，本年度の募集を行わない大学もあるので事前に確認してください）

科目と対象

２．他大学の提供科目，シラバス

長町キャンパス事務室又は八木山キャンパス学務課で閲覧することができます。窓口で申し出てください。

３．対象者

本学に在学する１年生(後期のみ)，２，３年生，４年生(前期のみ)

４．対象科目

基本的に，自分の学年より上級学年対象の科目の受講は認められません。

５．進級，卒業単位に算入できる単位数

「他大学等教養科目群」または「他大学開講科目群」として進級，卒業単位に算入できる単位数の上限は，学科によって異なるので，各学科の教育課程表を参照してください。

申込期限

６．申込期限

前期：平成２４年４月１６日（月）

後期：平成２４年９月２０日（木）

７．諸注意

出願において，本学または受け入れ大学で履修を許可しない場合もあるので，事前にクラス担任，学科の教務委員と相談してください。

	万一，途中で履修を取りやめるようなことがあると，相手の大学に多大な迷惑をかけます。無理の無い履修計画を立ててください。 ほとんどの大学で，自家用車での通学を認めていないので，通学にあたっては公共の交通機関を利用してください。
他学部教養科目の履修	本学の他学部において教養科目として開講している科目を履修することができます。修得した単位は，「他大学等教養科目群」として認定されます。ただし，進級，卒業単位に算入できる単位数の上限は，学科によって異なるので，各学科の教育課程表を参照してください。特別の届出用紙での履修登録が必要です（本シラバスの６ページを参照）。
学都仙台コンソーシアム復興大学について	被災地の復興のための人材育成を目的として，学都仙台コンソーシアム復興大学が開設されます。規定の科目，単位を修得すると，「復興人材育成教育コース」の修了が認定されます。また，本学では単位互換ネットワーク提供科目と同様に「他大学等教養科目群」，「他大学開講科目群」の科目として単位認定されますが，復興大学で開講される特定の科目に限り，各学科の教育課程表に定められている期間以外での履修や，進級，卒業単位への算入の上限を超えることもできますので，履修希望者は各学科の教務委員に相談してください。

《履修ガイダンス・教育課程表》

クリエイティブデザイン学科

理論と実践を通し，専門家として必要な知識・技能を身につける。
人々の生活を美しく便利にする製品や情報システムを創造的に作り上げることができる人材を育成する。そのため，工学をベースとした文理融合型の教育を行います。

1．カリキュラムの特徴

「クリエイティブデザイン」は，工業製品はもとより，広告，雑誌，映像など多くの業界で重要視されています。「デザイン」はある目的に向かって“情報を整理"すること。そして,「クリエイティブ」は“新しく創造"することです。この学科は，工学やデザイン領域の枠にとらわれず，芸術的な価値を創り出せるクリエイターの育成を目指します。

【プロダクトデザインコース】	【ビジュアルデザインコース】	【エクスペリエンスデザインコース】
家電製品や家具，自動車など，私たちの周りにはたくさんの道具があります。それらに美しく使いやすいかたちを与えるのが，プロダクトデザインです。プロダクトデザインコースでは，道具のデザインについて理論と実践の両面から総合的に学び，魅力的なモノづくりができる人材を育成します。実習では，コンセプトの設定から自分のアイデアを形にして相手に伝えるプレゼンテーションまでを，さまざまな課題に対して繰り返しながら，デザインのプロセスを身に付けます。それと同時に,「本当の意味で豊かな暮らし」のために必要なモノに対する考えを深めていきます。	情報やメッセージを的確に伝えるためには，目的やターゲットを明確にするなど，理論的なアプローチが欠かせません。ビジュアルデザインコースでは，ロゴやパッケージデザインなどのデザイン実習を通してビジュアルデザインの基礎を学ぶほか，グループで商品企画や広告展開などを行います。また，グラフィックデザインやイラストレーション，写真，立体造形など自由な手法で卒業制作に取り組めるのも魅力のひとつ。人の心を動かすモノづくりに必要なプロセスを学習し，オリジナリティあふれる視覚表現を生み出せる人材を育てます。	ユーザーの生活する場や道具を使う体験を考慮し，満足度の高い製品やサービスをデザインするのが，エクスペリエンスデザインの目的のひとつです。エクスペリエンスデザインコースでは，パソコンや携帯電話などを操作する際のユーザーの思考や行動を研究し,「楽しい」「うれしい」と感じてもらえるデザイン手法を追求します。例えば,ユーザーの声を聞くため，地域活動と連動したWEBサイトの制作やパソコンの講習会などを実施。社会に密接した実習が豊富です。また，アニメーションやゲームなど，生活を豊かにするコンテンツを生み出す技術も学ぶことができます。

２．キャリアガイダンス

職業としてのデザインに対する意識を高めるため，１・２年では「デザインセミナーⅠ」「デザインセミナーⅡ」「デザインセミナーⅢ」の科目の中でデザインを体験し，仕事の現場を見，発表することを学びます。特に１年次には少人数のセミナーに分かれグループでの調査・発表を行います。３年の「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」では，広い意味でのデザイナーの可能性を考え自分の適性を考え具体的な目標を設定し自分の能力を客観的に判断できることを学びます。

４年の「デザイン起業論」は起業の基礎や経営課題を学び社会が求める製品やサービスを考えます。

３．文理融合科目について

クリエイティブデザイン学科は専門科目も含めて文理融合型の教育を目指しています。教養教育の中から特に理数系の科目を２単位以上を履修することになっています。

４．卒業研修について

「クリエイティブデザイン研修Ⅰ」「クリエイティブデザイン研修Ⅱ」は４年間の総仕上げとなります。具体的には指導教員の研究室に所属し，個人もしくは共同で，特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて「目標設定→方法の検討→実行→結果の考察」という論理方法を修得します。また研究成果の学内発表会，学外発表会を実施し研究・制作の社会とのつながりを理解することをめざします。

５．環境教育について

本学科ではどの授業の中でも環境問題を考えていきます。特に１年の演習及び２・３年の実習においては制作時に扱う材料，道具，エネルギーなどと実体験を通して物と関わっていくことにより環境問題を考えていきます。

６．履修のためのガイド

本学科は各学年ごとに上位学年に進級するための「進級条件」があります。特に２年次からは３つのコースに分かれ，より専門的な知識と技術を身につける実習を行っています。１年次後期の「デザイン基礎演習」は各コースごとのテーマに沿ったデザイン手法を修得し，取り組みを通して各自の適正にあったコースを選択することを目的としています。コースを選択するための基礎的なスキルとしての「デザイン基礎演習」を未修得の場合には２年への進級はできません。専門科目の必修科目はその学年で確実に修得するようにしないと事実上進級が困難です。

◎学年ごとの開講単位数と進級・卒業条件

		１年次		２年次		３年次		４年次		計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養教育科目	必修科目単位数	6	4	2	2					14
	選択科目単位数	14	10	12	13	10	4	2		65
	進級・卒業条件			18単位以上		24単位以上		30単位以上		
専門科目	必修科目単位数	11	17	11	9	9	9	3	3	72
	選択科目単位数	0	0	4	4	8	8	10	4	38
	進級・卒業条件	デザイン基礎演習		49単位以上		82単位以上		94単位以上		
全科目	進級・卒業条件	19単位以上		67単位以上		106単位以上		124単位以上		

７．教職課程について

クリエイティブデザイン学科では，高等学校の「工業」教育教員免許状を取得するための科目を履修することができます。集中講義などもありますので履修登録の際には登録もれの無いよう注意してください。

クリエイティブデザイン学科　専門科目の履修の流れ

クリエイティブデザイン学科　学習・教育目標
人々の生活を美しく便利にする製品や情報システムを創造的に作り上げることができる人材を育成する。そのため、工学をベースとし文理融合型の教育を行う。

科目群の学習・教育目標		1年次 前期	1年次 後期
社会・コミュニケーション	①実社会における市民生活や組織の有り方が理解できる。 ②会社組織や流通経済におけるデザインの役割を理解できる。 ③グループワークにおける自分の役割を理解できる。	デザインセミナーⅠ	デザインセミナーⅡ
理論	①現代社会におけるデザインの現状と課題を分析できる。 ②現代社会におけるデザインの役割を理解できる。 ③デザインと関連する分野の知識を幅広く習得する。	デザイン史	プロダクトデザイン論Ⅰ エクスペリエンスデザイン論 ビジュアルデザイン論
技術	①与えられた課題内容を理解し、制作を通じて具現化できる工作技術と造形センスを身につける。 ②制作した作品の価値を自己分析でき、さらに工夫を加えることができる。	造形基礎論 造形演習Ⅰ モデリング演習	造形演習Ⅱ デッサン演習 デザイン基礎演習
コース別演習・実習・研修			
応用・統合	①社会のニーズを理解し、対象を抽出してデザインすることができる。 ②デザインした作品の価値を自己評価し、さらにクオリティを上げることができる。 ③制作した作品を理論的にプレゼンテーションできる。		

必修科目　選択科目

※２年次からコースに分かれる

２年次		３年次		４年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期

デザインセミナーⅢ

キャリアデザインⅠ

キャリアデザインⅡ

知的財産権
デザイン起業論
クリエイティブデザイン特別講義

情報デザイン論

プロダクトデザイン論Ⅱ

材料学・生産技術

エルゴノミクス

エディトリアルデザイン論

メカニズム基礎論

メディア論
映像論

工芸学
印刷技術

色彩論

ＣＡＤ演習
インタラクションデザイン論

マルチメディア論
デザインプログラミング

デザイン実習Ⅰ

デザイン実習Ⅱ

デザイン実習Ⅲ

ユーザーリサーチ論
広告論

デザイン実習Ⅳ

データ分析
デザインマーケティング論
ディスプレイデザイン

クリエイティブデザイン研修Ⅰ

クリエイティブデザイン研修Ⅱ

インフォグラフィックス

新教育課程表における進級・卒業条件

クリエイティブデザイン学科

◎２年次への進級条件

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目		
専門教育科目	「デザイン基礎演習」を修得のこと	
計	全体として 19 単位以上	

◎３年次への進級条件

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	18 単位以上 必修 12 単位以上を含むこと	
専門教育科目	49 単位以上 「デザイン実習Ⅰ」「デザイン実習Ⅱ」を含むこと	
計	全体として 67 単位以上	

◎４年次への進級条件

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	24 単位以上 必修 12 単位以上を含むこと	
専門教育科目	82 単位以上 ３年次までの必修 66 単位を全て修得のこと	
計	全体として 106 単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	30 単位 必修 14 単位を含むこと	
専門教育科目	94 単位 必修 72 単位を含むこと	
計	124 単位	

新 教 育 課 程 表

クリエイティブデザイン学科

（教養教育科目）

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
教養教育科目	生活と社会	1	暮らしと経済学		2	2								
		2	市民と法		2			2						
		3	暮らしと心理学		2			2						
		4	市民と政治		2				2					
		5	産業社会と心理学		2				2					
		6	日本近代史		2				2					
		7	日本国憲法		2					2				
		8	現代の哲学		2					2				
		9	現代の倫理		2						2			
		10	文化の諸相		2						2			
		11	現代社会論		2							2		
	自然と技術	12	情報リテラシー	2		2								
		13	数学的思考法		2	2								文理融合科目
		14	コンピュータ基礎	2			2							文理融合科目
		15	生活とテクノロジー		2			2						文理融合科目
		16	命と生物学		2			2						
		17	地球環境とエコロジー		2				2					
		18	生活とサイエンス		2					2				文理融合科目
		19	現代科学総論A		2					2				
	言葉と表現	20	日本語表現Ⅰ	2		2								
		21	日本語表現Ⅱ		2			2						
		22	プレゼンテーション		2				2					
		23	ビジネスマナー		2					2				
		24	英語ⅠA	2		2								
		25	英語ⅠB	2			2							
		26	英語ⅡA	2				2						
		27	英語ⅡB	2					2					
		28	英会話A		1	2								
		29	英会話B		1		2							
		30	資格英語A		1			2						
		31	資格英語B		1				2					
		32	フランス語A		2	2								
		33	ドイツ語A		2	2								
		34	韓国語A		2	2								
		35	中国語A		2	2								
		36	フランス語B		2		2							
		37	ドイツ語B		2		2							
		38	韓国語B		2		2							
		39	中国語B		2		2							

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
教養教育科目	心と体の健康	40	スポーツ実技Ⅰ		1	2								
		41	スポーツ身体科学		1		2							
		42	スポーツ実技Ⅱ		1			2						
		43	健康論		2				2					
	学際	44	特別課外活動Ⅰ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	
		45	特別課外活動Ⅱ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	
		46	他大学等教養科目群		4		…	…	…	…	…	…		※1
	小計（46科目）			14	73	22	16	16	16	10	4	2	0	

※1　他大学等教養科目群については、4単位までを進級および卒業に要する単位に算入する。

新 教 育 課 程 表

クリエイティブデザイン学科

（専門教育科目）

区分		授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
専門教育科目	1	デザインセミナーⅠ	1		2								
	2	造形基礎論	2		2								
	3	造形演習Ⅰ	3		4								
	4	モデリング演習	3		4								
	5	デザイン史	2		2								
	6	プロダクトデザイン論Ⅰ	2			2							
	7	エクスペリエンスデザイン論	2			2							
	8	ビジュアルデザイン論	2			2							
	9	デザインセミナーⅡ	1			2							
	10	デッサン演習	3			4							
	11	造形演習Ⅱ	3			4							
	12	デザイン基礎演習	4			6							
	13	デザインセミナーⅢ	1				2						
	14	デザイン実習Ⅰ	4				6						
	15	情報デザイン論	2				2						
	16	色彩論	2				2						
	17	材料学・生産技術	2				2						
	18	デザイン実習Ⅱ	4					6					
	19	CAD演習	3					4					
	20	エディトリアルデザイン論	2					2					
	21	デザイン実習Ⅲ	8						12				
	22	キャリアデザインⅠ	1						2				
	23	デザイン実習Ⅳ	8							12			
	24	キャリアデザインⅡ	1							2			
	25	クリエイティブデザイン研修Ⅰ	3								6		
	26	クリエイティブデザイン研修Ⅱ	3									6	
	27	エルゴノミクス		2			2						
	28	インフォグラフィックス		2			2						
	29	インタラクションデザイン論		2				2					
	30	プロダクトデザイン論Ⅱ		2				2					
	31	マルチメディア論		2					2				
	32	デザインプログラミング		2					2				
	33	広告論		2					2				
	34	ユーザーリサーチ論		2					2				
	35	ディスプレイデザイン		2						2			

区分		授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
専門教育科目	36	データ分析		2						2			
	37	デザインマーケティング論		2						2			
	38	メカニズム基礎論		2						2			
	39	知的財産権		2							2		
	40	クリエイティブデザイン特別講義		2							2		
	41	デザイン起業論		2							2		
	42	映像論		2							2		
	43	メディア論		2							2		
	44	工芸学		2								2	
	45	印刷技術		2								2	
	46	クリエイティブデザイン特別課外活動		4	…	…	…	…	…	…	…	…	
	47	他学科開講科目群		8		…	…	…	…	…	…	…	※1
	48	他大学開講科目群		4		…	…	…	…	…	…		
	小計（48科目）		72	54	14	22	18	16	22	22	16	10	

授業科目と学士力の対応表

クリエイティブデザイン学科

（専門教育科目）

クリエイティブデザイン学科　身につけるべき学士力	
①	デザインを理論的に組み立てる考え方と知識を身に付ける。
②	デザインを実践するための基礎的な技術とセンスを身につけ，形に表現できる。
③	デザインを実践するための技術と理論を統合して，より創造的な提案ができる。
④	実社会との関わりの視点からデザインの役割を理解する。

科目区分		授業科目名	クリエイティブデザイン学科学士力対応表			
			①	②	③	④
専門教育科目	1	デザインセミナーⅠ				○
	2	造形基礎論		○		
	3	造形演習Ⅰ		○		
	4	モデリング演習		○		
	5	デザイン史	○			
	6	プロダクトデザイン論Ⅰ	○			
	7	エクスペリエンスデザイン論	○			
	8	ビジュアルデザイン論	○			
	9	デザインセミナーⅡ				○
	10	デッサン演習		○		
	11	造形演習Ⅱ		○		
	12	デザイン基礎演習		○		
	13	デザインセミナーⅢ				○
	14	デザイン実習Ⅰ		○		
	15	情報デザイン論	○			
	16	色彩論		○		
	17	材料学・生産技術	○			
	18	デザイン実習Ⅱ		○		
	19	CAD演習		○		
	20	エディトリアルデザイン論	○			
	21	デザイン実習Ⅲ			○	
	22	キャリアデザインⅠ				○
	23	デザイン実習Ⅳ			○	
	24	キャリアデザインⅡ				○
	25	クリエイティブデザイン研修Ⅰ			○	
	26	クリエイティブデザイン研修Ⅱ			○	
	27	エルゴノミクス	○			
	28	インフォグラフィックス				○
	29	インタラクションデザイン論	○			
	30	プロダクトデザイン論Ⅱ	○			

科目区分		授業科目名	クリエイティブデザイン学科学士力対応表			
			①	②	③	④
専門教育科目	31	マルチメディア論		○		
	32	デザインプログラミング		○		
	33	広告論			○	
	34	ユーザーリサーチ論	○			
	35	ディスプレイデザイン			○	
	36	データ分析				○
	37	デザインマーケティング論			○	
	38	メカニズム基礎論			○	
	39	知的財産権	○			
	40	クリエイティブデザイン特別講義				○
	41	デザイン起業論				○
	42	映像論				○
	43	メディア論			○	
	44	工芸学			○	
	45	印刷技術	○			
	46	クリエイティブデザイン特別課外活動				○
	47	他学科開講科目群				
	48	他大学開講科目群				

《履修ガイダンス・教育課程表》

安全安心生活デザイン学科

1．カリキュラムの特徴

本学科の専門教育科目は，住まい，地域，心身といった３つの領域（系）を柱として構成されています。それらは，特に次のような２つのカテゴリーに分けられます。

（1）生活デザインを支える理論：専門教育科目における講義科目。

（2）生活デザインを実践するための技術や研究方法の基礎と応用：専門教育科目における演習，実習，研修などの実践的な科目。

１年次～２年次前期	２年次後期～４年次
専門領域へ進むまでの学際的な学び	専門的な学びと，さらなる学際的な学び
講義科目では３つの領域（系）に関わる諸理論について，演習科目では基礎的な技術や研究方法について幅広く学びます。専門的な学びに入る前の基礎的，導入的な時期であり，領域を問わず全ての学びが重要です。	「住まいのコース」,「地域のコース」,「心身のコース」のいずれかのコースを専攻し，演習，実習，研修を通じて段階的に専門的な内容を学ぶとともに，引き続き講義科目で各領域（系）に関わる諸理論を幅広く学び，専門能力の向上と視野の拡大を目指します。

2．キャリアガイダンス

科目名：「生活デザインセミナーⅠ～Ⅵ」（１年前期～３年後期：必修）

少人数教育を基調に，大学生活全般はもとより，就業意識の向上と就職活動へ向けて段階的にきめ細かな指導・支援等を行います。

・「生活デザインセミナーⅠ」（１年前期）：大学生活の基礎。専門基礎力の育成。

・「生活デザインセミナーⅡ」（１年後期）：
専門基礎力，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力の育成。進路に関わる適性の自己確認。

・「生活デザインセミナーⅢ・Ⅳ」（２年前・後期）：
各種業界の基礎知識の習得。情報処理能力の育成。進路に関わる適性の自己確認。

・「生活デザインセミナーⅤ・Ⅵ」（３年前・後期）：
各種業界研究の推進。コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力，就職活動へ向けた実践力の育成。

３．文理融合科目

本学科は，文理融合を主な特徴の一つとしており，もとより専門科目の設定が文理融合型となっています。さらにこの種の能力を高めるべく，教養科目における文理融合科目ならびに学科指定科目各々から２科目以上の履修を課します。

４．卒業研修

本学科では次のような流れ（計画）に沿って卒業研修を進めます。

・「研修テーマ届（仮）」　：６月下旬から７月初旬
・「研修計画発表会」　：７月下旬から８月上旬（夏休み前）
・「中間報告書提出」　：９月中旬
・「中間発表会」　：９月下旬（３年生も参加）
・「研修テーマ届（最終）」　：11 月下旬
・「研修締め切り・成果の提出」：１月中旬
・「梗概集原稿締め切り」　：１月下旬
・「学内発表会」　：２月初旬から中旬
・「学外発表会」　：２月下旬

５．環境教育

・「生活デザインセミナーⅠ」（１年前期必修）：ＩＳＯに関する説明会を実施します。
・「生活デザイン演習Ⅰ・Ⅱ」（２年必修）および「生活デザイン実習Ⅰ・Ⅱ」（３年必修）：
　サスティナブルデザインやエコデザインについて学びます。
・「住まいの環境工学Ⅰ・Ⅱ」（１年後期必修・２年前期選択）：
　省エネやパッシブデザインについて学びます。
・他に「地域環境の保全とエネルギー」（３年前期選択）および「住環境の制御と設備」（３年後期選択）が，環境教育の一環となる主な科目です。

６．履修のためのガイド

２年次から３年次，３年次から４年次へ進級するときに進級条件があり，これを充足しないと進級できません。しかし，この進級条件は進級のための必要最小限の条件であり，実際に修得できる単位数より低めに設定されています。従って，これを目標にしていては，４年間で卒業することは事実上不可能です。

単位修得に関しては，次の「学年毎の目標単位数」を参考にして履修計画を立ててください。「各学年の合計（単位数）」は履修上限制度の範囲内にあります。

【学年毎の目標単位数】

	教養教育科目		専門教育科目		各学年の合計	1年次からの累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	10	9	22	4	45	45
2年次	4	15	14	12	45	90
3年次	0	6	10	16	32	122
4年次	0	2	6	6	14	136
卒業までの総計	14	32以上	52	38以上		
	46以上		90以上			

なお，２級建築士の受験を目指す諸君は，指定された建築関係の科目をバランスよく履修する必要があります。詳しくは，後述の『卒業後の取得資格』237ページに記してあります。必ず確認してください。

不明な点があれば，学科教務委員に問い合わせてください。

７．教職課程について

安全安心生活デザイン学科では，高等学校の「工業」教育教員免許状を取得するための科目を履修することができます。

［教科に関する科目］については，工業の関係科目を36単位以上，そのうち必修20単位以上，加えて職業指導の関係科目（下表の「職業指導」以下の科目）を７単位取得することが必要です。下表の通り，本学科の工業の関係科目は，必修27単位，選択22単位，合計49単位ですから，必修に加え選択９単位以上を取得することが求められます。

［教職に関する科目］および［その他の関連科目］については，本シラバスの教育職員課程に記載してある内容を参照してください。

【教科に関する科目（SD学科）】

授業科目	必修	選択
現代科学総論Ａ	2	
安全安心生活デザイン概論	2	
生活デザインセミナーⅠ	1	
都市防災論	2	
住まいの計画	2	
表現技法演習	2	
地域の産業デザイン論Ⅰ	2	
住まいの文化史	2	
インテリアデザイン論Ⅰ	2	
住まいの環境工学Ⅰ	2	
生活デザイン演習Ⅰ	4	
生活デザイン演習Ⅱ	4	
生活デザインＣＡＤⅠ		2
生活デザインＣＡＤⅡ		2
防災コミュニケーション		2

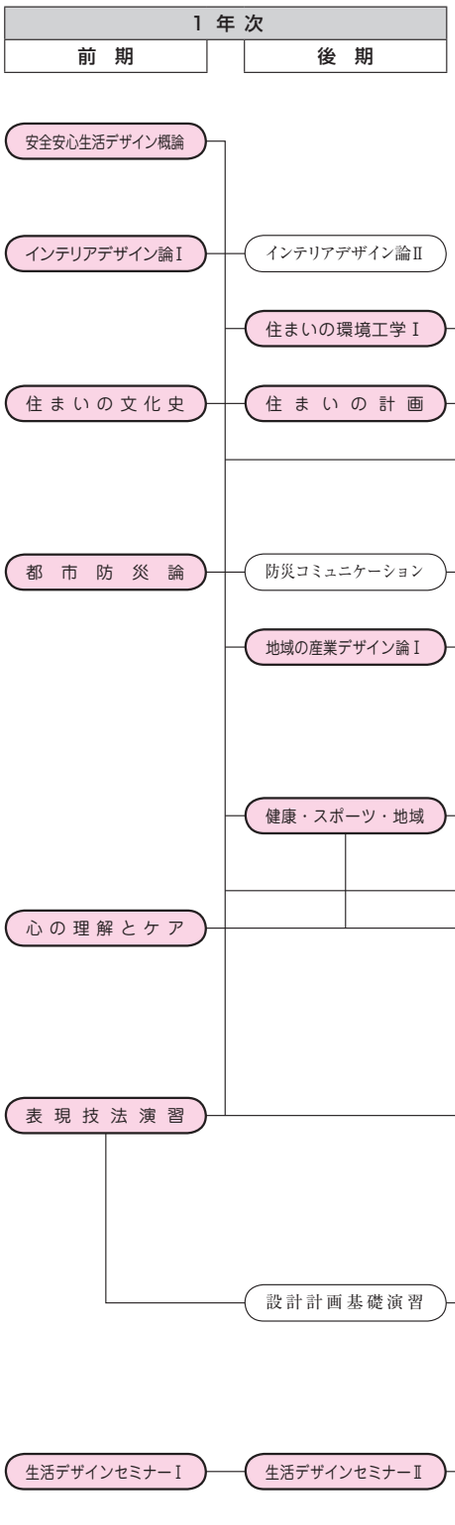
授業科目	必修	選択
地域の産業デザイン論Ⅱ		2
インテリアデザイン論Ⅱ		2
高齢者の生活と住まい		2
住まいの環境工学Ⅱ		2
住まいの構造と材料		2
地域環境の保全とエネルギー		2
バリアフリーとユニバーサルデザイン		2
住まいの施工と積算		2
職業指導	2	
生活デザインセミナーⅡ	1	
生活デザインセミナーⅢ	1	
生活デザインセミナーⅣ	1	
生活デザインセミナーⅤ	1	
生活デザインセミナーⅥ	1	

※上表（教職の教科に関する科目）の必修・選択の区別は，進級・卒業条件とは異なる場合があります。

安全安心生活デザイン学科　専門科目の履修の流れ

安全安心生活デザイン学科　学習・教育目標
健康で文化的な生活を守り、住まいや地域社会などの基本的な生活手段を守りながら、安全で安心な暮らしと豊かな生活環境を創造することのできる人材を育成する。そのために、工学をベースとし、家政学や保健衛生学などを取り入れた文理融合型の教育を行う。

科目群の学習・教育目標	
住まい系	住まいに関わる主要な知識（①～④）と技を身につける。 ①住まいを計画する上で必要な生活文化・インテリア・設計計画の知識 ②住まいの環境や設備についての知識 ③高齢者や障碍を持つ人に対する住まい計画についての知識 ④住まいを安全に作るための構造・材料などの技術的知識
地域系	安全で安心な地域の生産や暮らしの創出と緊急時対応可能な姿の在り様等を探る。具体的には、有形無形の地域資源の協働による活用能力、ならびに緊急時に対応可能な行動計画やコミュニケーション能力を身につける。
心身系	現代人の健やかで豊かな生活をデザイン・支援し得る能力を身につけるべく、心と身体そのものを理解するとともに、心身一如の観点から健康をめぐる今日的な問題とその解決の仕方、健康づくりに資する運動・スポーツの諸相、それに福祉や事故防止の基本的なあり方等について学際的に学ぶ。
演習・実習	実践的な課題を通して、安全で安心な生活の仕方や環境づくりを考えるために必要な知恵と技を身につける。
資格	２級建築士等のライセンスを取得するために必要な設計計画に関わる知識と技を身につける。
キャリア支援	安全安心に関する調査研究、各種業界の専門家の講話、また本学の就職支援事業等への積極的な参画等を通して、就業に対するモチベーションを高める。



必修科目　選択科目

2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
	住まいの構造と材料	住まいのための力学	住まいの材料実験	住まいのための法規	
住まいの環境工学Ⅱ			住環境の制御と設備	住まいの施工と積算	
高齢者の生活と住まい			バリアフリーとユニバーサルデザイン		
	看護学入門	地域看護論			
			都市と地域の計画		
地域の産業デザイン論Ⅱ	ランドスケープデザイン	地域環境の保全とエネルギー			
		障害者福祉・スポーツ論入門	公衆衛生学		
健康生理学概論	身体の健康支援と医科学	身体運動文化の諸相			
			心の発達	安全心理学	
生活デザイン演習Ⅰ	生活デザイン演習Ⅱ	生活デザイン実習Ⅰ	生活デザイン実習Ⅱ	生活デザイン研修Ⅰ	生活デザイン研修Ⅱ
生活デザインCADⅠ	生活デザインCADⅡ	設計計画演習Ⅰ	設計計画演習Ⅱ		
生活デザインセミナーⅢ	生活デザインセミナーⅣ	生活デザインセミナーⅤ	生活デザインセミナーⅥ	生活デザイン総合科目Ⅰ 生活デザイン総合科目Ⅱ	

新教育課程表における進級・卒業条件

安全安心生活デザイン学科

◎３年次への進級条件

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	20 単位以上 必修 12 単位以上を含むこと	
専門教育科目	38 単位以上 表現技法演習， 生活デザイン演習Ⅰ・Ⅱを含む 必修 32 単位以上修得のこと	
計	全体として 62 単位以上	

◎４年次への進級条件

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	30 単位以上 必修 14 単位を含むこと	
専門教育科目	70 単位以上 生活デザイン実習Ⅰ・Ⅱを含む 必修 40 単位以上修得のこと	
計	全体として 100 単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	36 単位 必修 14 単位を含むこと	教養教育科目の文理融合科目の中から２科目４単位以上，学科指定科目の中から２科目４単位以上を，それぞれ必ず修得すること。
専門教育科目	88 単位 必修 52 単位を含むこと	
計	124 単位	

新 教 育 課 程 表

安全安心生活デザイン学科

（教養教育科目）

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
教養教育科目	生活と社会	1	暮らしと経済学		2	2								※1 学科指定科目
		2	市民と法		2			2						
		3	暮らしと心理学		2			2						
		4	市民と政治		2				2					
		5	産業社会と心理学		2				2					
		6	日本近代史		2				2					
		7	日本国憲法		2					2				
		8	現代の哲学		2					2				
		9	現代の倫理		2						2			
		10	文化の諸相		2						2			
		11	現代社会論		2							2		
	自然と技術	12	情報リテラシー	2		2								
		13	数学的思考法		2	2								※2文理融合科目
		14	コンピュータ基礎	2			2							
		15	生活とテクノロジー		2			2						※2文理融合科目
		16	命と生物学		2			2						※2文理融合科目
		17	地球環境とエコロジー		2				2					※2文理融合科目
		18	生活とサイエンス		2					2				※2文理融合科目
		19	現代科学総論A		2					2				※2文理融合科目
	言葉と表現	20	日本語表現Ⅰ	2		2								
		21	日本語表現Ⅱ		2			2						
		22	プレゼンテーション		2				2					
		23	ビジネスマナー		2					2				
		24	英語ⅠA	2		2								
		25	英語ⅠB	2			2							
		26	英語ⅡA	2				2						
		27	英語ⅡB	2					2					
		28	英会話A		1	2								
		29	英会話B		1		2							
		30	資格英語A		1			2						
		31	資格英語B		1				2					
		32	フランス語A		2	2								
		33	ドイツ語A		2	2								
		34	韓国語A		2	2								
		35	中国語A		2	2								
		36	フランス語B		2		2							
		37	ドイツ語B		2		2							
		38	韓国語B		2		2							
		39	中国語B		2		2							

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
教養教育科目	心と体の健康	40	スポーツ実技Ⅰ		1	2								
		41	スポーツ身体科学		1		2							
		42	スポーツ実技Ⅱ		1			2						
		43	健康論		2				2					
	学際	44	特別課外活動Ⅰ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	
		45	特別課外活動Ⅱ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	
		46	他大学等教養科目群		4		…	…	…	…	…	…		※3
	小計（46科目）			14	73	22	16	16	16	10	4	2	0	

※1　教養教育科目の学科指定科目の中から，２科目４単位以上を必ず修得すること。

※2　教養教育科目の文理融合科目の中から，２科目４単位以上を必ず修得すること。

※3　他大学等教養科目群については，４単位までを進級および卒業に要する単位に算入する。

新 教 育 課 程 表

安全安心生活デザイン学科

（専門教育科目）

区分		授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
専門教育科目	1	安全安心生活デザイン概論	2		2								
	2	生活デザインセミナーⅠ	1		2								
	3	インテリアデザイン論Ⅰ	2		2								
	4	住まいの文化史	2		2								
	5	都市防災論	2		2								
	6	心の理解とケア	2		2								
	7	表現技法演習	2		4								
	8	生活デザインセミナーⅡ	1			2							
	9	住まいの計画	2			2							
	10	住まいの環境工学Ⅰ	2			2							
	11	地域の産業デザイン論Ⅰ	2			2							
	12	健康・スポーツ・地域	2			2							
	13	生活デザインセミナーⅢ	1				2						
	14	健康生理学概論	2				2						
	15	生活デザイン演習Ⅰ	4				6						
	16	生活デザインセミナーⅣ	1					2					
	17	看護学入門	2					2					
	18	生活デザイン演習Ⅱ	4					6					
	19	生活デザインセミナーⅤ	1						2				
	20	生活デザイン実習Ⅰ	4						6				
	21	生活デザインセミナーⅥ	1							2			
	22	生活デザイン実習Ⅱ	4							6			
	23	生活デザイン研修Ⅰ	3								6		
	24	生活デザイン研修Ⅱ	3									6	
	25	インテリアデザイン論Ⅱ		2		2							
	26	防災コミュニケーション		2		2							
	27	設計計画基礎演習		2		4							
	28	高齢者の生活と住まい		2			2						
	29	住まいの環境工学Ⅱ		2			2						
	30	地域の産業デザイン論Ⅱ		2			2						
	31	生活デザインCADⅠ		2			4						
	32	住まいの構造と材料		2				2					
	33	ランドスケープデザイン		2				2					
	34	身体の健康支援と医科学		2				2					
	35	生活デザインCADⅡ		2				4					
	36	住まいのための力学		2					2				
	37	地域看護論		2					2				
	38	地域環境の保全とエネルギー		2					2				
	39	障害者福祉・スポーツ論入門		2					2				
	40	身体運動文化の諸相		2					2				
	41	設計計画演習Ⅰ		2					4				
	42	住まいの材料実験		2						4			
	43	住環境の制御と設備		2						2			
	44	バリアフリーとユニバーサルデザイン		2						2			
	45	都市と地域の計画		2						2			
	46	公衆衛生学		2						2			
	47	心の発達		2						2			
	48	設計計画演習Ⅱ		2						4			
	49	住まいのための法規		2							2		
	50	住まいの施工と積算		2							2		
	51	安全心理学		2							2		
	52	生活デザイン総合科目Ⅰ		2							2		
	53	生活デザイン総合科目Ⅱ		2							2		
	54	生活デザイン特別課外活動		4	…	…	…	…	…	…	…	…	
	55	他学科開講科目群		8		…	…	…	…	…	…	…	
	56	他大学開講科目群		4		…	…	…	…	…	…		
	小計（56科目）		52	74	16	18	20	20	22	26	16	6	

授業科目と学士力の対応表

安全安心生活デザイン学科

（専門教育科目）

安全安心生活デザイン学科　身につけるべき学士力	
①	安全・安心に関する幅広い基礎知識を獲得し，個から集合体までの生活を正確に把握する力。
②	把握した生活を，専門的な知識を基に評価・分析し，問題や課題を見出す力。
③	より豊かなＱＯＬを目指した目標と企画を構想する力。
④	生活者の視点に立ってデザインした「人，モノ，コト，場」を，他者とのやりとりを通して実践する力。
⑤	実践した内容を評価し，再提案を継続的に繰り返す力。

科目区分		授業科目名	安全安心生活デザイン学科学士力対応表				
			①	②	③	④	⑤
専門教育科目	1	安全安心生活デザイン概論	○				
	2	生活デザインセミナーⅠ	○	○	○	○	
	3	インテリアデザイン論Ⅰ	○	○			
	4	住まいの文化史	○		○		
	5	都市防災論	○	○			
	6	心の理解とケア	○	○	○		
	7	表現技法演習	○	○	○		
	8	生活デザインセミナーⅡ	○	○	○	○	
	9	住まいの計画	○	○			
	10	住まいの環境工学Ⅰ	○	○	○		
	11	地域の産業デザイン論Ⅰ	○	○			
	12	健康・スポーツ・地域	○	○			
	13	生活デザインセミナーⅢ	○	○	○	○	
	14	健康生理学概論	○	○			
	15	生活デザイン演習Ⅰ	○	○	○	○	○
	16	生活デザインセミナーⅣ	○	○	○	○	
	17	看護学入門	○	○	○	○	
	18	生活デザイン演習Ⅱ	○	○	○	○	○
	19	生活デザインセミナーⅤ	○	○	○	○	○
	20	生活デザイン実習Ⅰ	○	○	○	○	○
	21	生活デザインセミナーⅥ	○	○	○	○	○
	22	生活デザイン実習Ⅱ	○	○	○	○	○
	23	生活デザイン研修Ⅰ	○	○	○	○	○
	24	生活デザイン研修Ⅱ	○	○	○	○	○
	25	インテリアデザイン論Ⅱ	○	○			
	26	防災コミュニケーション	○	○			
	27	設計計画基礎演習	○	○			○
	28	高齢者の生活と住まい		○	○		

科目区分		授業科目名	安全安心生活デザイン学科学士力対応表				
			①	②	③	④	⑤
専門教育科目	29	住まいの環境工学Ⅱ	○	○	○		
	30	地域の産業デザイン論Ⅱ	○	○			
	31	生活デザインＣＡＤⅠ	○	○			○
	32	住まいの構造と材料	○	○	○		
	33	ランドスケープデザイン	○	○			
	34	身体の健康支援と医科学	○	○			
	35	生活デザインＣＡＤⅡ	○	○			○
	36	住まいのための力学	○	○			
	37	地域看護論	○	○	○	○	
	38	地域環境の保全とエネルギー	○	○	○		
	39	障害者福祉･スポーツ論入門	○	○			
	40	身体運動文化の諸相	○	○			
	41	設計計画演習Ⅰ	○	○	○	○	○
	42	住まいの材料実験	○	○	○		
	43	住環境の制御と設備	○	○	○		
	44	バリアフリーとユニバーサルデザイン	○	○			
	45	都市と地域の計画	○	○	○		
	46	公衆衛生学	○	○			
	47	心の発達	○	○	○		
	48	設計計画演習Ⅱ	○	○	○	○	○
	49	住まいのための法規	○	○			
	50	住まいの施工と積算	○	○			
	51	安全心理学	○	○			
	52	生活デザイン総合科目Ⅰ	○	○	○		
	53	生活デザイン総合科目Ⅱ	○	○	○		
	54	生活デザイン特別課外活動	○	○	○	○	○
	55	他学科開講科目群					
	56	他大学開講科目群					

《履修ガイダンス・教育課程表》

経営コミュニケーション学科

1．カリキュラムの特徴

<table>
<tr><td colspan="2">情報に関する基本的な素養を身につけた上で，経営学およびコミュニケーションの知識とスキルを学びます。本学科は，経営学についての学びを深める経営コースと，コミュニケーションについての学びを深めるコミュニケーションコースの２コースを設けています。１年次には両コース共通の基盤となる情報，経営，コミュニケーションの入門科目を学習し，２年次に各コースに分かれます。</td></tr>
<tr><td>経営コース</td><td>コミュニケーションコース</td></tr>
<tr><td>事業に対する経営力と構想力に加え，経営目標達成のための判断力と情報調査・処理能力を養成するカリキュラムとなっています。</td><td>経営目標達成のための判断力と情報調査・処理能力に加え，組織と環境をマネジメントできるコミュニケーション能力を養成するカリキュラムとなっています。</td></tr>
</table>

2．キャリアガイダンス

本学科では，生きるための力を涵養する目的で，職業教育や就職支援を中心としたキャリアガイダンスを行います。具体的には，全体セミナー及び少人数セミナーで，しっかりした職業観，豊かな人間性，コミュニケーション能力を養います。

キャリアガイダンスの体系は以下の通りです。

・経営コミュニケーションセミナーⅠ～Ⅱ：大学生活の基礎力，学習スキル

・経営コミュニケーションセミナーⅢ～Ⅳ：自己理解，将来のイメージ

・経営コミュニケーション概論Ⅰ～Ⅱ：具体的な進路指導，就職試験対策

・経営コミュニケーション研修Ⅰ～Ⅱ：大学で学んできたことの集大成，卒業後のキャリアの準備

3．文理融合科目について

本学科は教養教育科目と専門教育科目に以下の「文理融合科目」を設定しています。

教養教育科目における文理融合科目：情報リテラシー，数学的思考法，コンピュータ基礎

（これらの科目の中から２科目４単位以上を修得すること）

専門教育科目における文理融合科目：工業経営学入門，技術マネジメント論，地域中小企業論

（これらの科目の中から経営コースは２科目４単位以上，コミュニケーションコースは１科目２単位以上を修得すること）

４．卒業研修について

本学科は卒業研修として，４年次前期に「経営コミュニケーション研修Ⅰ」，後期に「経営コミュニケーション研修Ⅱ」を設けています。「経営コミュニケーション研修Ⅰ」ではそれぞれの問題意識に従い，卒業研修の題目，目的，方法等の構想をまとめ，中間的な発表を行います。「経営コミュニケーション研修Ⅱ」では「経営コミュニケーション研修Ⅰ」でまとめた構想に基づき，研究を進め，中間発表および最終的な成果を発表会で報告します。

５．環境教育

１年次前期の「経営コミュニケーションセミナーⅠ」の中で，ISO に関する説明の他，学科における ISO14001 に関する取り組みや専門分野との関わり等を講義します。

６．履修のためのガイド

２年次から３年次，３年次から４年次へ進級するときに進級条件があり，これを充足しないと進級できません。しかし，この進級条件は進級するための必要最小限の条件で，実際に修得できる単位数より低めに設定されているので，少し余裕を持った単位修得をするよう心がける必要があります。単位修得に関しては，以下の「学年毎の目標単位数」を参考にして履修計画を立ててください。なお，２年次で経営コースかコミュニケーションコースのいずれかのコースを選択し，３年次からは各コースの必修科目・選択科目を履修することになります。

学年毎の目標単位数

<table>
<tr><td rowspan="2">学年</td><td colspan="2">教養教育科目</td><td colspan="2">専門教育科目</td><td rowspan="2">各学年の合計</td><td rowspan="2">１年次からの累計</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>選択</td><td>必修</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>１年次</td><td>10</td><td>６以上</td><td>24</td><td>４以上</td><td>44</td><td>44</td></tr>
<tr><td>２年次</td><td>6</td><td>８以上</td><td>18</td><td>16 以上</td><td>48</td><td>92</td></tr>
<tr><td>３年次</td><td>0</td><td>４以上</td><td>14</td><td>16 以上</td><td>34</td><td>126</td></tr>
<tr><td>４年次</td><td>0</td><td>0</td><td>6</td><td>４以上</td><td>10</td><td>136</td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業までの合計</td><td>16</td><td>18 以上</td><td>62</td><td>40 以上</td><td colspan="2" rowspan="2">136 以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">34 以上</td><td colspan="2">102 以上</td></tr>
</table>

７．教職課程について

経営コミュニケーション学科では，高等学校の「商業」の教育職員免許状を修得するための科目を履修することができます。

経営コミュニケーション学科　専門科目の履修の流れ
（経営コース）

経営コミュニケーション学科　学習・教育目標
新しい経営スタイルを身につけた経営者や起業家等を目指し、経営、ICT（経営コミュニケーション技術）、コミュニケーションの各側面から実践的な知識とスキルを養う。

経営コース　学習・教育目標
事業に対する経営力と構想力に加え、経営目標達成のための判断力と情報調査・処理能力を養成する。

科目群の学習・教育目標			1年次 前期	1年次 後期
経営・経済科目群	経営	経営についての基本的な知識に始まり、組織を動かす人間の心理や組織をマネジメントするための体系的な知識を学ぶ。さらにこれらを踏まえて、組織論やマーケティング、戦略論といった、より専門的な科目について理解を深め、実践的な経験も積んでいく。	経営学入門	組織心理学 工業経営学入門
	会計	組織をマネジメントする上で不可欠の会計学の概念について学ぶ。基本的な知識に続き、帳簿を作成するための技術を学んだ上で、それらを実際の企業経営に生かすための方法を体系的に習得し、同時に日商簿記の資格取得も目指す。	会計学入門	
	経済	経済学の理論面と実証分析面をバランスよく学ぶ。必要な数学的知識は数学基確によりカバーするとともに、導入科目として経済学入門を開講し、各専門分野の学習に入りやすくした。社会現象を論理的に分析できるようになることが目標である。	数学基礎	経済学入門
コミュニケーション・心理科目群	ヒューマンコミュニケーション	より日常的で個人の行動に近いコミュニケーション領域についての知識とスキルを学ぶ。	心理学入門 コミュニケーション入門	対人コミュニケーション
	メディアコミュニケーション	メディアを通して伝わりやすいメッセージの作成と的確に伝える方法を学ぶ。	現代メディア論	
	ビジネスコミュニケーション	ビジネス環境における日本語と英語による効果的なメッセージの作成と伝え方を学ぶ。		英文法基礎
ICT・社会情報科目群	ICT	ビジネスで必要な情報処理についての知識とスキルを学び、ICTを用いたコミュニケーション態力を高める。同時にICパスポートの資格取得も目指す。		コンピュータ概論
	社会情報	経営コースとコミュニケーションコースに共通する課題発見とその解決能力、経営目標達成のための情報調査・情報処理能力を涵養することを目的としている。		統計学
セミナー・研修科目群	セミナー・研修	個別の研修室でのセミナーおよび全体セミナーでの指導を通して、学生生活の充実、キャリア形成、就職活動等の支援を行う。さらに、勉学の集大成としての卒業研修を行う。	経営コミュニケーションセミナーⅠ	経営コミュニケーションセミナーⅡ
その他	チャレンジアブロードプログラム	事前研修と現地研修を通し、異文化理解を深め、コミュニケーション能力の向上をはかる。		

必修科目　選択科目

2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
経営管理論	経営組織論	経営実践			
	マーケティング論	経営戦略論	人的資源管理論	ベンチャービジネス論	
	技術マネジメント論		地域中小企業論		
簿記論	財務諸表論	原価計算論	管理会計論		
ミクロ経済学	マクロ経済学	日本経済論	国際経済論		
キャリアカウンセリング	メンタルヘルスケア		身体表現研究		
		異文化コミュニケーション		交渉学	
	イメージメディア論	映像メディアA	映像メディアB		
文書コミュニケーション		ビジネス英語	パブリックスピーチ		
表計算					
データベース					
ネットワーク					
論理的思考法	社会調査法	社会科学各論	情報科学研修Ⅰ	情報科学研修Ⅱ	
経営コミュニケーションセミナーⅢ	経営コミュニケーションセミナーⅣ	経営コミュニケーション概論Ⅰ	経営コミュニケーション概論Ⅱ	経営コミュニケーション研修Ⅰ	経営コミュニケーション研修Ⅱ
チャレンジ　アブロード　プログラム					

経営コミュニケーション学科　専門科目の履修の流れ
（コミュニケーションコース）

経営コミュニケーション学科　学習・教育目標
新しい経営スタイルを身につけた経営者や起業家等を目指し、経営、ICT（経営コミュニケーション技術）、コミュニケーションの各側面から実践的な知識とスキルを養う。

コミュニケーションコース　学習・教育目標
経営目標達成のための判断力と情報調査・処理能力に加え、組織と環境をマネジメントできるコミュニケーション能力を養成する。

科目群の学習・教育目標			1年次 前期	1年次 後期
経営・経済科目群	経営	経営についての基本的な知識に始まり、組織を動かす人間の心理や組織をマネジメントするための体系的な知識を学ぶ。さらにこれらを踏まえて、組織論やマーケティング、戦略論といった、より専門的な科目について理解を深め、実践的な経験も積んでいく。	経営学入門 工業経営学入門	組織心理学
	会計	組織をマネジメントする上で不可欠の会計学の概念について学ぶ。基本的な知識に続き、帳簿を作成するための技術を学んだ上で、それらを実際の企業経営に生かすための方法を体系的に習得し、同時に日商簿記の資格取得も目指す。	会計学入門	
	経済	経済学の理論面と実証分析面をバランスよく学ぶ。必要な数学的知識は数学基確によりカバーするとともに、導入科目として経済学入門を開講し、各専門分野の学習に入りやすくした。社会現象を論理的に分析できるようになることが目標である。	数学基礎	経済学入門
コミュニケーション・心理科目群	ヒューマンコミュニケーション	より日常的で個人の行動に近いコミュニケーション領域についての知識とスキルを学ぶ。	心理学入門 コミュニケーション入門	対人コミュニケーション
	メディアコミュニケーション	メディアを通して伝わりやすいメッセージの作成と的確に伝える方法を学ぶ。	現代メディア論	
	ビジネスコミュニケーション	ビジネス環境における日本語と英語による効果的なメッセージの作成と伝え方を学ぶ。		英文法基礎
ICT・社会情報科目群	ICT	ビジネスで必要な情報処理についての知識とスキルを学び、ICT を用いたコミュニケーション態力を高める。同時に IC パスポートの資格取得も目指す。		コンピュータ概論
	社会情報	経営コースとコミュニケーションコースに共通する課題発見とその解決能力、経営目標達成のための情報調査・情報処理能力を涵養することを目的としている。		統計学
セミナー・研修科目群	セミナー・研修	個別の研修室でのセミナーおよび全体セミナーでの指導を通して、学生生活の充実、キャリア形成、就職活動等の支援を行う。さらに、勉学の集大成としての卒業研修を行う。	経営コミュニケーションセミナーⅠ	経営コミュニケーションセミナーⅡ
その他	チャレンジアブロードプログラム	事前研修と現地研修を通し、異文化理解を深め、コミュニケーション能力の向上をはかる。		

必修科目　選択科目

2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
経営管理論	経営組織論	経営実践			
	マーケティング論	経営戦略論	人的資源管理論	ベンチャービジネス論	
	技術マネジメント論		地域中小企業論		
簿記論	財務諸表論	原価計算論	管理会計論		
ミクロ経済学	マクロ経済学	日本経済論	国際経済論		
キャリアカウンセリング	メンタルヘルスケア		身体表現研究		
		異文化コミュニケーション		交渉学	
	イメージメディア論	映像メディアA	映像メディアB		
文書コミュニケーション		ビジネス英語	パブリックスピーチ		
表計算					
データベース					
ネットワーク					
論理的思考法	社会調査法	社会科学各論	情報科学研修Ⅰ	情報科学研修Ⅱ	
経営コミュニケーションセミナーⅢ	経営コミュニケーションセミナーⅣ	経営コミュニケーション概論Ⅰ	経営コミュニケーション概論Ⅱ	経営コミュニケーション研修Ⅰ	経営コミュニケーション研修Ⅱ
チャレンジ　アブロード　プログラム					

新教育課程表における進級・卒業条件

経営コミュニケーション学科

◎３年次への進級条件

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	22 単位以上 必修 12 単位以上を含むこと	
専門教育科目	40 単位以上 必修 30 単位以上を含むこと	
計	全体として 62 単位以上	

◎４年次への進級条件

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	24 単位以上 必修 14 単位以上を含むこと	
専門教育科目	76 単位以上 必修 43 単位以上を含むこと	
計	全体として 100 単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	28 単位 必修 16 単位を含むこと	
専門教育科目	96 単位 必修 62 単位を含むこと	
計	124 単位	

新 教 育 課 程 表

経営コミュニケーション学科

（教養教育科目）

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
教養教育科目	生活と社会	1	暮らしと経済学		2	2								
		2	市民と法		2			2						
		3	暮らしと心理学		2			2						
		4	市民と政治		2				2					
		5	産業社会と心理学		2				2					
		6	日本近代史		2				2					
		7	日本国憲法		2					2				
		8	現代の哲学		2					2				
		9	現代の倫理		2						2			
		10	文化の諸相		2						2			
		11	現代社会論		2							2		
	自然と技術	12	情報リテラシー	2		2								文理融合科目
		13	数学的思考法		2	2								文理融合科目
		14	コンピュータ基礎	2			2							文理融合科目
		15	生活とテクノロジー		2			2						
		16	命と生物学		2			2						
		17	地球環境とエコロジー		2				2					
		18	生活とサイエンス		2					2				
		19	現代科学総論A		2					2				
	言葉と表現	20	日本語表現Ⅰ	2		2								
		21	日本語表現Ⅱ		2			2						
		22	プレゼンテーション		2				2					
		23	ビジネスマナー		2					2				
		24	英語ⅠA	2		2								
		25	英語ⅠB	2			2							
		26	英語ⅡA	2				2						
		27	英語ⅡB	2					2					
		28	英会話A		1	2								
		29	英会話B		1		2							
		30	資格英語A	1				2						
		31	資格英語B	1					2					
		32	フランス語A		2	2								
		33	ドイツ語A		2	2								
		34	韓国語A		2	2								
		35	中国語A		2	2								
		36	フランス語B		2		2							
		37	ドイツ語B		2		2							
		38	韓国語B		2		2							
		39	中国語B		2		2							

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
教養教育科目	心と体の健康	40	スポーツ実技Ⅰ		1	2								
		41	スポーツ身体科学		1		2							
		42	スポーツ実技Ⅱ		1			2						
		43	健康論		2				2					
	学際	44	特別課外活動Ⅰ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	
		45	特別課外活動Ⅱ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	
		46	他大学等教養科目群		4		…	…	…	…	…	…		※1
	小計（47科目）			16	71	22	16	16	16	10	4	2	0	

※1　他大学等教養科目群については，4単位までを進級および卒業に要する単位に算入する。

新 教 育 課 程 表

経営コミュニケーション学科

（専門教育科目）

科目区分		授業科目名	単位（※1）				各期の毎週時間数								備考
			Mコース		Cコース		1年		2年		3年		4年		
			必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	1	経営学入門	2		2		2								
	2	会計学入門	2		2		2								
	3	心理学入門	2		2		2								
	4	コミュニケーション入門	2		2		2								
	5	現代メディア論	2		2		2								
	6	経営コミュニケーションセミナーⅠ	1		1		2								
	7	数学基礎		2		2	2								
	8	組織心理学	2		2			2							
	9	工業経営学入門	2		2			2							文理融合科目
	10	経済学入門	2		2			2							
	11	対人コミュニケーション	2		2			2							
	12	コンピュータ概論	2		2			2							
	13	統計学	2		2			2							
	14	経営コミュニケーションセミナーⅡ	1		1			2							
	15	英文法基礎		2		2		2							
	16	経営管理論	2		2				2						
	17	簿記論	2		2				2						
	18	キャリアカウンセリング	2		2				2						
	19	文書コミュニケーション	2		2				2						
	20	論理的思考法	2		2				2						
	21	経営コミュニケーションセミナーⅢ	1		1				2						
	22	ミクロ経済学		2		2			2						
	23	表計算		2		2			2						
	24	データベース		2		2			2						
	25	ネットワーク		2		2			2						
	26	経営組織論	2		2					2					
	27	マーケティング論	2		2					2					
	28	イメージメディア論	2		2					2					
	29	経営コミュニケーションセミナーⅣ	1		1					2					
	30	技術マネジメント論		2		2				2					文理融合科目
	31	財務諸表論		2		2				2					
	32	マクロ経済学		2		2				2					
	33	メンタルヘルスケア		2		2				2					
	34	社会調査法		2		2				2					
	35	経営実践	2		2						2				
	36	ビジネス英語	2		2						2				
	37	経営コミュニケーション概論Ⅰ	2		2						2				
	38	経営戦略論	2			2					2				
	39	日本経済論	2			2					2				
	40	異文化コミュニケーション		2	2						2				
	41	原価計算論		2		2					2				
	42	映像メディアA		2		2					2				
	43	社会科学各論		2		2					2				
	44	経営コミュニケーション概論Ⅱ	2		2							2			
	45	地域中小企業論	2			2						2			文理融合科目
	46	身体表現研究		2	2							2			
	47	パブリックスピーチ		2	2							2			
	48	人的資源管理論		2		2						2			
	49	管理会計論		2		2						2			
	50	国際経済論		2		2						2			
	51	映像メディアB		2		2						2			
	52	情報科学研修Ⅰ		2		2						2			
	53	経営コミュニケーション研修Ⅰ	2		2								4		
	54	ベンチャービジネス論		2		2							2		
	55	交渉学		2		2							2		
	56	情報科学研修Ⅱ		2		2							2		
	57	経営コミュニケーション研修Ⅱ	4		4									8	
	58	チャレンジアブロードプログラム		4		4	…	…	…	…	…	…	…	…	
	59	経営コミュニケーション特別課外活動		4		4	…	…	…	…	…	…	…	…	
	60	他学科開講科目群		8		8		…	…	…	…	…	…	…	
	61	他大学開講科目群		4		4		…	…	…	…	…	…	…	
	小計（61科目）		62	70	62	70	14	16	20	18	18	18	10	8	

※1・Mコース＝経営コース
　・Cコース＝コミュニケーションコース

授業科目と学士力の対応表

経営コミュニケーション学科

（専門教育科目）

経営コミュニケーション学科　身につけるべき学士力	
①	事業に対する経営力と構想力
②	経営目標達成のための判断力と情報調査・処理能力
③	組織と環境をマネジメントできるコミュニケーション能力

科目区分		授業科目名	経営コミュニケーション学科 学士力対応表 ①	②	③
専門教育科目	1	経営学入門	○		
	2	会計学入門		○	
	3	心理学入門			○
	4	コミュニケーション入門			○
	5	現代メディア論			○
	6	経営コミュニケーションセミナーⅠ			○
	7	数学基礎	○		
	8	組織心理学	○		
	9	工業経営学入門	○		
	10	経済学入門	○		
	11	対人コミュニケーション			○
	12	コンピュータ概論		○	
	13	統計学		○	
	14	経営コミュニケーションセミナーⅡ			○
	15	英文法基礎			○
	16	経営管理論	○	○	
	17	簿記論		○	
	18	キャリアカウンセリング			○
	19	文書コミュニケーション			○
	20	論理的思考法		○	
	21	経営コミュニケーションセミナーⅢ			○
	22	ミクロ経済学	○		
	23	表計算		○	
	24	データベース		○	
	25	ネットワーク		○	
	26	経営組織論	○	○	
	27	マーケティング論	○	○	
	28	イメージメディア論			○
	29	経営コミュニケーションセミナーⅣ			○
	30	技術マネジメント論	○		
	31	財務諸表論		○	

科目区分		授業科目名	経営コミュニケーション学科 学士力対応表 ①	②	③
専門教育科目	32	マクロ経済学	○		
	33	メンタルヘルスケア			○
	34	社会調査法		○	
	35	経営実践	○	○	○
	36	ビジネス英語			○
	37	経営コミュニケーション概論Ⅰ	○		○
	38	経営戦略論	○	○	
	39	日本経済論	○		
	40	異文化コミュニケーション			○
	41	原価計算論		○	
	42	映像メディアA			○
	43	社会科学各論		○	
	44	経営コミュニケーション概論Ⅱ	○		○
	45	地域中小企業論	○		
	46	身体表現研究			○
	47	パブリックスピーチ			○
	48	人的資源管理論	○		○
	49	管理会計論	○		
	50	国際経済論		○	
	51	映像メディアB			○
	52	情報科学研修Ⅰ		○	
	53	経営コミュニケーション研修Ⅰ	○	○	○
	54	ベンチャービジネス論	○		
	55	交渉学		○	
	56	情報科学研修II		○	
	57	経営コミュニケーション研修Ⅱ	○	○	○
	58	チャレンジアブロードプログラム	○		○
	59	経営コミュニケーション特別課外活動			○
	60	他学科開講科目群	○		
	61	他大学開講科目群	○		

科目解説

教養教育科目

（学科共通）

1 暮らしと経済学　Economics at Work

選択　２単位　前期

全学科１年全組　非常勤講師　伊藤　雅行

〔授業の達成目標〕
経済学は人間の選択行動に関する学問であることを理解し，経済をとらえるいくつかの「めがね」（経済的思考）を習得する。それらを用いて豊かさと幸福をつくり出そうとする社会の仕組みを考える。

〔授業の概要〕
経済学的なもののとらえ方，考え方を多様な事例を通じて紹介する。とくに個人や家計の行動，企業の行動，国家の行動に焦点をあて,私たちの暮らしとの関わりを考える。ゲーム理論，行動経済学など，研究の新しい展開にも触れる。ディスカッションを中心にした学び合いの場にしたい。

〔授業計画〕
モジュール１（基礎）
第１回：オリエンテーション，講義の進め方
第２回：経済とは何か？
第３回：世界の中の日本経済
第４回：経済学の考え方（機会費用）
第５回：価格の決まり方（需要と供給）
第６回：価格の決まり方（企業の行動）
第７回：価格の決まり方（ゲーム理論）
モジュール２（応用）
第８回：価値の創造（“コンビニは何を売っているか”）
第９回：産業分析の方法（価値連鎖）
第10回：環境分析の方法（“恐竜にならないために”）
第11回：グローバル経済（比較優位）
第12回：心の会計（行動経済学）
第13回：豊かさと幸せ（幸福の経済学）
第14回：お金のつくりかた（“あせらずゆっくり豊かになる”）
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
講義資料（パワーポイント）を毎回配布する。

〔準備学習等〕
一日一回新聞の一面をながめ，出ている記事が自分の暮らしにとどのように影響しそうか考えてみよう。

〔成績評価方法・基準〕
教室での発言 40％，演習（ワークシート）20％，期末試験 40％を目安に評価する。

12 情報リテラシー　Information Literacy

必修　２単位　前期

ＣＤ・ＳＤ１年全組　非常勤講師　成田　雄太
ＭＣ１年全組　教　　授　小島　正美

〔授業の達成目標〕
インターネット社会における情報倫理を意識した情報リテラシーを修得する。

〔授業の概要〕
本講義は，インターネットで利用する情報リテラシーの基本である電子メールの基本操作や Web ページの作成方法について主に学ぶ。そのとき考慮しなければならない重要な情報倫理および情報に関する知的所有権についても同時に学習する。

〔授業計画〕
第１回：ネットワーク社会と情報
第２回：コンピュータの歴史
第３回：コンピュータの仕組み
第４回：ネットワーク上での作法
第５回：知的財産権・著作権
第６回：個人情報保護
第７回：コンピュータウィルス対策
第８回：情報セキュリティ対策
第９回：電子メールの仕組みと情報倫理
第10回：Webページの作成方法
第11回：Webページの作成－トップページの作成－
第12回：Webページの作成－Info，Profileの作成－
第13回：Webページの作成－Diary，Reportの作成－
第14回：Webページの作成－Reportファイルの作成－
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書「インターネット社会の情報リテラシー－情報倫理を学ぶ－」小島正美著　ムイスリ出版

〔準備学習等〕
講義のなかで行なう小テストの内容を復習すること。インターネット利用のマナー，著作権，個人情報保護に関して，それぞれの講義前までに予習してくること。

〔成績評価方法・基準〕
成績評価は，小テスト 40％，実習課題レポート提出 60％と総合して行なう。

13 数学的思考法　Mathematical Thinking

選択　２単位　前期

ＣＤ・ＳＤ１年全組　非常勤講師　今井　秀雄
ＭＣ１年全組　教　　授　小川　淑人
教　　授　島田　　勉

〔授業の達成目標〕
基礎が確実であること。応用する力があること。

〔授業の概要〕
数学の基礎固めをしながら，本や新聞やインターネットで集めた話を題材として考える力を養う。

〔授業計画〕
第１回：授業の概要説明
第２回：多項式
第３回：因数分解
第４回：連立方程式
第５回：高次方程式
第６回：不等式
第７回：２次関数のグラフ
第８回：２次関数の応用
第９回：不等式と領域
第10回：指数法則
第11回：指数関数
第12回：等差数列
第13回：等比数列
第14回：数学的帰納法
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：「大学数学の基礎」東北工業大学数学教室編，工大生協

〔準備学習等〕
毎回問題演習を行うので積極的な取り組みに期待する。

〔成績評価方法・基準〕
試験が 60 点以上の者を合格とする。

14 コンピュータ基礎　Introduction to Computer Operation

必修　２単位　後期　　全学科１年全組　未　　定

〔授業の達成目標〕
コンピュータを使用してレポート作成，データ整理，プレゼンテーション資料の作成が出来るようになる事。

〔授業の概要〕
レポート作成，データ整理，プレゼンテーション等に今や欠かせないものとなったMicrosoft Officeの操作方法について学ぶ。Wordによる文章作成，Excelによる表計算とグラフ作成，Power Pointによるプレゼンテーション資料の作成について，それらソフトの操作方法について習得する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス，Word，Excel，Power Pointで出来ること。
第２回：共通，文字入力の仕方。
第３回：共通，文字の編集。
第４回：Word，ページ設定。
第５回：Word，文章入力。
第６回：Word，図形の入力。
第７回：Excel，表の作成。
第８回：Excel，表の編集。
第９回：Excel，表計算。
第10回：Excel，グラフ作成。
第11回：Excel，グラフの編集。
第12回：Power Point，スライドの作成。
第13回：Power Point，スライドの編集。
第14回：共通，ファイルの貼り付け，ExcelからWord。
第15回：共通，ファイルの貼り付け，Excel，WordからPower Point。

〔教科書・参考書等〕
教科書　自作資料
参考書　市販のMicrosoft Officeに関する書籍，及びHELPを参照のこと。

〔準備学習等〕
前期履修科目である「情報リテラシー」の内容を復習しておくこと。復習として，今後レポートや報告書，プレゼンテーション資料などを作成する時は，手書きではなく出来るだけMicrosoft Officeを使用すること。

〔成績評価方法・基準〕
全課題提出を評価対象とする。課題の完成度により評価する。

20 日本語表現Ⅰ　Japanese Representation Ⅰ

必修　２単位　前期　　全学科１年全組　講　師　高橋秀太郎

〔授業の達成目標〕
大学在学中に，また社会に出てから必要となる表現能力の基礎を身に付けることを達成目標とする。

〔授業の概要〕
本講義では以下の３点を中心に，「正しく分かりやすい」表現をするために必要な力を身に付けていく。
（１）文章添削力　（２）文章構成力　（３）敬語力

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：「添削力を身に付ける」①「語句」の添削
第３回：　〃　②「語句」・「文」の添削
第４回：　〃　③「文」の添削
第５回：　〃　④「文」・「文章」の添削
第６回：「文章構成力を身に付ける」Ⅰ
「分析と考察」①表・グラフを作成する
第７回：　〃　「分析と考察」②分析と考察の書き方
第８回：　〃　「分析と考察」③テスト
第９回：「文章構成力を身に付ける」Ⅱ
「自己ＰＲ文」の基本を学ぶ
第10回：　〃　「自己ＰＲ文」の構成を考える
第11回：　〃　「自己ＰＲ文」を書き上げる
第12回：「敬語を学ぶ」①　敬語の基礎を学ぶ
第13回：　〃　②　応用力を身に付ける
第14回：語彙力を身に付ける
第15回：まとめとテスト

〔教科書・参考書等〕
教科書　『大学生のための日本語表現実践ノート　改訂版』風間書房

〔準備学習等〕
高校在学時に学んだ漢字・四字熟語・ことわざ等を教科書・問題集を使い復習しておくこと。また講義時にほぼ毎回宿題を出すので，自宅学習をしっかり行うこと。

〔成績評価方法・基準〕
「提出課題（２つ）」と「テスト（２回）」と受講態度により評価する。

24 英語Ⅰ A　English Ⅰ A

必修　２単位　前期

ＣＤ１年全組　非常勤講師　設樂　宏二
ＳＤ１年全組　非常勤講師　野口　元康
ＭＣ１年１組　非常勤講師　Ｊ・ローン・スプライ

〔授業の達成目標〕
１．品詞，文の種類，文型，時制などの基礎的な英文法を理解できる。
２．基礎的英文法の理解に基づいて，speaking, listening, writing, reading の四分野において，日常的場面でのコミュニケーションを行うことができる。

〔授業の概要〕
speaking, listening, writing, reading の四分野に関わる総合的英語学習を行うが，特に，英文法の基本的事項に関する理解に基づいて情報の送受信を行うための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は，品詞，文の種類，五文型，時制である。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業内容，計画，教材，学習方法，成績評価法など）
第２回：品詞の種類と用法：解説
第３回：品詞の種類と用法：演習問題
第４回：英文の基本構成と文の種類：解説
第５回：英文の基本構成と文の種類：演習問題
第６回：文型（第１～３文型）：解説
第７回：文型（第１～３文型）：演習問題
第８回：文型（第４～５文型，その他の文型）：解説
第９回：文型（第４～５文型，その他の文型）：演習問題
第10回：時制（現在，過去，未来時制の諸用法）：解説
第11回：時制（現在，過去，未来時制の諸用法）：演習問題
第12回：時制（進行形，完了形の諸用法）：解説
第13回：時制（進行形，完了形の諸用法）：演習問題
第14回：まとめと試験
第15回：前期学習内容の確認

〔教科書・参考書等〕
ＣＤ１－１，２：New Reading Matters 2（Mary Lee Whdey 他著）センゲージラーニング　1,890円
ＳＤ１－１，２：「ブラッドリーのハッピィライフ－生活で役立つ英文法」（Terry O' Brien他著）南雲堂　2,100円
ＭＣ１－１：Focus on Grammar-1（I. E. Schoenberg著）（Pearson/Longman）3,717円

〔準備学習等〕
未知の英単語を辞書で調べ，講義時に実施する練習問題等には事前に取り組んでおくこと。また，教材となる英文を音読し，発音，アクセントを確認しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
成績は定期試験によって評価する。

25 英語Ⅰ B　English Ⅰ B

必修　２単位　後期

ＣＤ１年全組　非常勤講師　設樂　宏二
ＳＤ１年全組　非常勤講師　野口　元康
ＭＣ１年１組　非常勤講師　Ｊ・ローン・スプライ

〔授業の達成目標〕
１．主語と動詞の一致，助動詞，前置詞，接続詞，比較などのより複雑な英文の理解に必要な文法項目を理解できる。
２．上の文法項目の理解に基づいて，speaking, listening, writing, reading の四分野において，日常的場面でのコミュニケーションを行うことができる。

〔授業の概要〕
speaking, listening, writing, reading の四分野に関わる総合的英語学習を行うが，特に，英文法の基本的事項に関する理解に基づいて，長文読解のための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は，主語と動詞の一致，助動詞，前置詞，接続詞，比較である。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業内容，計画，教材，学習方法，成績評価法など）
第２回：英文の形式と特徴：解説
第３回：英文の形式と特徴：演習問題
第４回：主語と動詞の一致：解説
第５回：主語と動詞の一致：演習問題
第６回：前置詞の諸用法：解説
第７回：前置詞の諸用法：演習問題
第８回：接続詞の諸用法：解説
第９回：接続詞の諸用法：演習問題
第10回：比較の表現：解説
第11回：比較の表現：演習問題
第12回：助動詞の諸用法：解説
第13回：助動詞の諸用法：演習問題
第14回：まとめと試験
第15回：後期学習内容の確認

〔教科書・参考書等〕
ＣＤ１－１，２：前期と同じ。
ＳＤ１－１，２：前期と同じ。
ＭＣ１－１：Check It Out！, Book 2（Broukal）Thompson/Heinle）

〔準備学習等〕
未知の英単語を辞書で調べ，講義時に実施する練習問題等には事前に取り組んでおくこと。また，教材となる英文を音読し，発音，アクセントを確認しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
成績は定期試験によって評価する。

28 英会話 A　English Conversation A

選択　1単位　前期

全学科1年全組　非常勤講師　マーク・ジェイブッシュ

〔授業の達成目標〕
The objective of this course is to provide a foundation for conversation skills in students. Students will be encouraged to experiment by making rudimentary communication the goal as opposed to Linguistic perfection.

〔授業の概要〕
Themes such as friendship, the arts, business, famous people, family, and money bring students up-to-date with life's realities using English as the medium language. This course is supplemented by personalized pronunciation assistance, grammar and vocabulary exercises. Students' creativity is expressed in story making and telling.

〔授業計画〕
Week one: Orientation
Week two: Let's Meet
Week three: Food
Week four: Friends
Week five: Clothes
Week six: Health
Week seven: Personality
Week eight: Environment
Week nine: Habits & Obsessions
Week ten: Personal Goals（1）
Week eleven: Personal Goals Exercises
Week twelve: Role Models（1）
Week thirteen: Role Models Exercises
Week fourteen: Review
Week fifteen: Review and Semester Test

〔教科書・参考書等〕
Impact Conversation 1（K. Sullivan 他，著）Pearson Longman

〔準備学習等〕
Preparation: Looking up unfamiliar words and Reading a textbook loudly. Review: Putting unfamiliar words in memory and learning some important sentences by heart.
All students must bring a dictionary and pens and note paper to every class. Cell phones are not acceptable.

〔成績評価方法・基準〕
The students are evaluated through their activities and a semester test.

29 英会話 B　English Conversation B

選択　1単位　後期

全学科1年全組　非常勤講師　マーク・ジェイブッシュ

〔授業の達成目標〕
The objective of this course is to provide a foundation for conversation skills in students. Students will be encouraged to experiment by making rudimentary communication the goal as opposed to Linguistic perfection.

〔授業の概要〕
Themes such as friendship, the arts, business, famous people, family, and money bring students up-to-date with life's realities using English as the medium language. This course is supplemented by personalized pronunciation assistance, grammar and vocabulary exercises. Students' creativity is expressed in story making and telling.

〔授業計画〕
Week one: Orientation
Week two: Something Cool
Week three: My Humble Abode
Week four: Food Cravings
Week five: Who We Are
Week six: Corporate Ladder
Week seven: Another World
Week eight: Big Worry
Week nine: Unplugged
Week ten: The Remote
Week eleven: Clean Freak
Week twelve: Hang In There（1）
Week thirteen: Hang In There Exercises
Week fourteen: Review
Week fifteen: Review and Semester Test

〔教科書・参考書等〕
Impact Conversation 2（K. Sullivan 他，著）Pearson Longman

〔準備学習等〕
Preparation: Looking up unfamiliar words and Reading a textbook loudly. Review: Putting unfamiliar words in memory and learning some important sentences by heart.
All students must bring a dictionary and pens and note paper to every class. Cell phones（けいたい）are not acceptable.

〔成績評価方法・基準〕
The students are evaluated through their activities and a semester test.

32 フランス語 A　French A

選択　２単位　前期

全学科１年全組　非常勤講師　岩瀬　広明

〔授業の達成目標〕
フランス語を発音できること，フランス文を理解できること，フランス語を聴いて理解できることを目指します。

〔授業の概要〕
フランス語の基礎としての発音，つづり字，音声の特徴を学び，フランス語の仕組み（文法）を学習し，フランス文を理解し，フランス語で自己表現できるようになることを目指します。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：フランス語のつづり字と発音
第３回：フランス語の冠詞
第４回：フランス語の形容詞と副詞
第５回：être と avoirの活用変化
第６回：規則動詞について
第７回：フランス語の疑問文と否定文
第８回：フランス語の疑問代名詞と数詞
第９回：フランス語の比較級と最上級
第10回：フランス語の中性代名詞
第11回：フランス語の命令形
第12回：不規則動詞
第13回：中性代名詞
第14回：フランス語の所有代名詞
第15回：まとめとテスト

〔教科書・参考書等〕
参考書・辞書はオリエンテーションで指示。

〔準備学習等〕
学習するレッスンの単語の発音と意味を調べておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
試験 60 点以上。

33 ドイツ語 A　German A

選択　２単位　前期

全学科１年全組　准教授　丹治　道彦

〔授業の達成目標〕
ドイツ語の基礎の習得。ドイツ語の発音と語形変化になれることを目標とする。

〔授業の概要〕
ドイツ語の理解に最も重要な動詞の現在人称変化と冠詞類，人称代名詞の格変化を中心に発音，訳読，作文の演習を行なう。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：発音
第３回：動詞の基本的な現在人称変化
第４回：定動詞第二位
第５回：名詞の文法上の性と定冠詞，不定冠詞の格変化
第６回：seinとhabenの現在人称変化
第７回：幹母音が変化する動詞
第８回：従属接続詞（定動詞後置）
第９回：定冠詞類，不定冠詞類の格変化と名詞の複数形
第10回：話法の助動詞と助動詞構文
第11回：人称代名詞の格変化
第12回：分離動詞と非分離動詞
第13回：zu不定詞句
第14回：非人称のes
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
大岩信太郎「新正書法による快速ドイツ文法（14 課）」朝日出版社（2100 円＋税）　独和辞典としては「アポロン独和辞典第三版」(同学社)「エクセル独和辞典」(郁文堂)「アクセス独和辞典」(三修社)「初級者に優しい独和辞典」(朝日出版社）などを推薦する。

〔準備学習等〕
既習項目の復習を重視する。

〔成績評価方法・基準〕
百点満点で六十点以上を合格とする。

34 韓国語 A　Korean A

選択　２単位　前期

ＣＤ・ＳＤ１年全組　非常勤講師　権　　来順
ＭＣ１年全組　非常勤講師　金　　情浩

〔授業の達成目標〕
韓国語の読み書きができることをめざす。

〔授業の概要〕
ハングル文字と発音を始め，ハングルの仕組みの理解のために基本文法，文型などを教えて簡単な読み書きができることをめざす。韓国語学習の入り口として韓国語に対する全体像を身につけてもらうことで，韓国語への興味を持たせることを目的とする。韓国の映画や歌などの視聴覚教材を使い，韓国の風俗，文化に関する知識を深める。

〔授業計画〕
第１回：イントロダクション
第２回：基本母音（単母音）と子音の原理
第３回：初声，半母音（ｊ）＋単母音
第４回：初声，半母音（ｗ）＋単母音
第５回：合成母音（二重母音）
第６回：１文字終声→連音化，流音化，有声音化
第７回：２文字終声→激音，濃音，鼻音化
第８回：日本語のハングル文字表記練習
第９回：あらたまった言い方の「です・ます」現在形
第10回：自己紹介文などの練習
第11回：漢数詞と固有数詞の練習
第12回：あらたまった言い方の「です・ます」否定形
第13回：名詞の否定形
第14回：総合表現の練習
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
「改訂版・韓国語の世界へ（入門編）」（朝日出版社）
著者：李潤玉（外４人）

〔準備学習等〕
ハングルの基本子母音の暗記

〔成績評価方法・基準〕
筆記試験・小テスト及び授業態度・平常点などを総合して評価

35 中国語 A　Chinese A

選択　２単位　前期　　全学科１年全組　非常勤講師　高　　燕平

〔授業の達成目標〕
この授業は初めて中国語を履修する学生を対象とする。まず中国語の発音とその表記方法であるピンインを習熟することを目指す。それから基本的な文の構造と文法事項を理解し覚えること。更に中国語の挨拶や日常生活会話を覚え，聞く力と話す力を身につけることを目標とする。

〔授業の概要〕
基本的にはテキストにそって進む。「楽しく学ぼう初級中国語」というテキストを使う。発音編に続き各課は会話文，単語，文法と例文，練習問題の４項目となっている。中国語Ｂを合わせて修める教材である。中国語を習得するために基本的な訓練を段階的に行い，「読む，聞く，話す，書く」の四つの表現能力を訓練する。

〔授業計画〕
第１回：発音Ⅰ　基本母音（単母音，子音，声調）
第２回：発音Ⅱ　二重母音，声調の付け方，軽声
第３回：発音Ⅲ　三重母音，変調，短い言葉
第４回：発音Ⅳ　鼻母音，ル音
第５回：発音Ⅳ　隔音記号，簡体字
第６回：（第１課）私は留学生です（名詞述語文の表現）
第７回：（第１課）応用コーナー（挨拶や自己紹介など常用会話表現）
第８回：（第２課）これは何ですか（指示代名詞の表現）第３課
第９回：（第２課）応用コーナー（授業用語とヒヤリングなど）
第10回：（第３課）ここは教室ですか（方位詞の表現）
第11回：（第１・２・３課）総合復習
第12回：（第４課）私の誕生日（年，月，日の言い方）
第13回：（第４課）私の誕生日（文法と例文，時間の言い方）
第14回：（第４課）私の誕生日（本文と会話練習）
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　「楽しく学ぼう初級中国語」高燕平著　隆美出版

〔準備学習等〕
１　シラバスに従い何を勉強するか学習内容を知っておく。
２　前週学習した内容を復習し，分からないところをメモをしておき，翌週の授業前，担任教員に提出する。

〔成績評価方法・基準〕
授業による平常点，練習問題の完成度および小テストと期末試験を総合して評価する。

36 フランス語 B　French B

選択　２単位　後期　　全学科１年全組　非常勤講師　岩瀬　広明

〔授業の達成目標〕
フランス語が発音できること，フランス文が理解できること，フランス語を聴いて理解できることを目指します

〔授業の概要〕
前期に引きつづいてフランス語の基礎の徹底をはかり，文法の新しい項目を学び，フランス語の実力を養う

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：フランス語の人称代名詞
第３回：フランス語の強勢形人称代名詞
第４回：フランス語の複合過去（être の場合）
第５回：フランス語の複合過去（avoir の場合）
第６回：フランス語の代名動詞
第７回：フランス語の単純未来
第８回：フランス語の関係代名詞
第９回：フランス語の大過去
第10回：フランス語の序数
第11回：フランス語の単純未来と前未来
第12回：フランス語の時刻の表現
第13回：フランス語の天候の表現
第14回：フランス語の条件法
第15回：まとめとテスト

〔教科書・参考書等〕
教室で指示（オリエンテーションの折）

〔準備学習等〕
毎回学習するレッスンの単語の発音と意味を辞書で調べておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
試験 60 点以上

37 ドイツ語 B　German B

選択　２単位　後期　　全学科１年全組　准教授　丹治　道彦

〔授業の達成目標〕
前期に習得した学力を基礎にして，さらなる読解力，作文力の向上を目指す。

〔授業の概要〕
ドイツ語Ａで学習したことを基にして，発音，訳読，作文の演習を継続する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：動詞の三基本形
第３回：過去人称変化
第４回：完了の構文
第５回：前置詞
第６回：再帰代名詞
第７回：形容詞の格変化
第８回：形容詞の名詞化
第９回：比較級と最上級
第10回：命令文
第11回：関係代名詞の格変化
第12回：先行詞を必要とせぬ関係代名詞
第13回：受動態
第14回：受動的表現
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
ドイツ語Ａのものを継続して用いる。

〔準備学習等〕
既習項目の復習を重視する。ドイツ語Ａを履修済み，またはそれと同等以上の学力を有することが望ましい。

〔成績評価方法・基準〕
ドイツ語Ａに同じ。前期にも増して積極的な授業への参加を期待する。

38 韓国語 B　Korean B

選択　２単位　後期　　全学科１年全組　非常勤講師　権　　来順

〔授業の達成目標〕
韓国の全般的な知識を深めて，日常生活に必要な表現など，簡単な生活会話を学ぶ。

〔授業の概要〕
韓国文化の紹介など，韓国の総合的な資料を使用し，読解力と表現力を高める。

〔授業計画〕
第１回：漢数詞を用いた助数詞の練習
第２回：固有数詞を用いた助数詞の練習
第３回：曜日・日・月の言い方の練習
第４回：時間の言い方の練習
第５回：用言活用に関して（動詞の現在形）
第６回：用言活用に関して（形容詞の現在形）
第７回：用言活用に関して（存在詞・指定詞の現在形）
第８回：うちとけた言い方の「です・ます」現在形
第９回：うちとけた言い方の「です・ます」形の母音縮約型
第10回：あらたまった言い方の「です・ます」過去形
第11回：うちとけた言い方の「です・ます」過去形
第12回：用言活用に関して（動詞の過去形）
第13回：用言活用に関して（形容詞の過去形）
第14回：用言活用に関して（存在詞・指定詞の過去形）
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
「改訂版・韓国語の世界へ（入門編）」（朝日出版社）
著者：李潤玉（外４人）

〔準備学習等〕
韓国語Ａを履修済み，またはそれと同等の学力を有することが望ましい。
ハングルの読みをマスターすること。

〔成績評価方法・基準〕
筆記試験・小テスト及び授業態度・平常点などを総合して評価

39 中国語 B　Chinese B

選択　２単位　後期　　全学科１年全組　非常勤講師　高　　燕平

〔授業の達成目標〕
まず中国語Ａで学習した中国語の発音とその表記方法であるピンインを復習する。それから単語の学習や挨拶の言葉，初歩的な日常会話など初級段階の学習を復習した上，更に一歩進み，文法的理解を深めて会話表現の向上をはかる。また中国語で年賀状や手紙の書き方を勉強することによって中国語をより確実に自分のものをしてゆく。

〔授業の概要〕
中国語Ａと同じ「楽しく学ぼう初級中国語」というテキストを使い，その続きを学ぶ。新しい文法の要点を丁寧に説明し，声を出して本文を繰り返し発音する。より中国語らしい表現を理解し，言えるように訓練する。更に中国の文化に触れるために唐詩を読む，音楽鑑賞，また年賀状や手紙の書き方も習得する。

〔授業計画〕
第１回：中国語の表記方法ピンインと基本表現の復習
第２回：中国語Ａの最終試験問題の解答と中国語での自己紹介
第３回：（第５課）　今日は暑いですね（形容詞の文法表現）
第４回：（第５課）　今日は暑いですね（本文と会話練習）
第５回：（第６課）　これはそれより高い（文法と例文：形容詞の比較表現）
第６回：（第６課）　これはそれより高い（本文と会話練習）
第７回：（第７課）　あなたの家族は何人ですか（動詞文の文法と例文）
第８回：（第７課）　あなたの家族は何人ですか（本文と会話練習）
第９回：（第５・６・７課）　形容詞と動詞文の表現の総合練習
第10回：（第８課）　劉さんの家で（文法と例文）
第11回：（第８課）　劉さんの家で（本文と会話練習）
第12回：年賀状の書き方と手紙の書き方
第13回：唐詩を読むと音楽鑑賞
第14回：最終総合復習
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
「教科書」「楽しく学ぼう初級中国語」高燕平著　隆美出版

〔準備学習等〕
１　シラバスに従い何を勉強するか学習内容を知っておく。
２　前週学習した内容を復習し，分からないところをメモをしておき，翌週の授業前，担任教員に提出する。

〔成績評価方法・基準〕
授業による平常点，練習問題の完成度および小テストと期末試験を総合して評価する。

40 スポーツ実技Ⅰ（基礎ゴルフ）　Physical Training Ⅰ（Basic Golf）

選択　１単位　前期　　ＳＤ１年全組　非常勤講師　高田　潤一

〔授業の達成目標〕
ハンディキャップ制スポーツというゴルフの特徴を理解し，お互いが協力したり助言しながら技術の向上を目指すが，大切なのはルールとマナーを尊守し他のプレーヤーに迷惑をかけない精神と行動である。創意工夫し合ってゲームを楽しく運営しながら個人の技能と人格が向上できることを目標とする。（身体と精神の両面追求を課題とする。）

〔授業の概要〕
学内の限られた施設の中で，ゴルフというスポーツの全てを学ぶことは出来ないが，スウィングとショットの基本を体験し，芝のコースラウンドは不可能でも，ゲームを工夫しマナーを守り，創造的で楽しい運動学習となる授業にしたい。

〔授業計画〕
第１回：静止ボールを打ってみる
第２回：静止ボールを打つ時の課題
第３回：スウィング運動とクラブ軌道の関係を調べる
第４回：スウィング運動とクラブヘッド軌道の自己管理
第５回：飛球弾道と飛距離を調節できるか
第６回：飛距離と方向のコントロール方法
第７回：スウィングのリズムとインパクト時のクラブフェースの管理
第８回：コントロールショットの正確性とパターの練習
第９回：ゴルフゲームの特性とルール，マナーの重要性
第10回：ミニコースの設定とラウンドの試み（パー３の仮コース）
第11回：ゲームの実際とラウンドマナーの実践（４ホール）
第12回：ゲームの実践とスコアー記録提出（６ホール）
第13回：９ホールミニコースのラウンド実践とスコアー記録の提出
第14回：ゲームの実践とスコアー記録の提出（９ホール・ハンディ戦）
第15回：総括と試験

〔教科書・参考書等〕
教材はプリント・ＯＨＰ・ＶＴＲ等を使い参考書は授業の中で指示する。

〔準備学習等〕
前週の課題の達成度を反省し，次の授業の自己課題を明確にしておくこと。身体コンディションを整え，運動イメージを意識して授業に参加すること。

〔成績評価方法・基準〕
受講姿勢，実技点，技能向上の度合で総合評価する。

40 スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） Physical Training Ⅰ（Badminton）

選択　１単位　前期

ＣＤ・ＭＣ１年全組　准教授　坂本　　譲

〔授業の達成目標〕
バドミントンを通じて瞬発力，敏捷性，持久力等，個人の運動能力の向上を図る。また，生涯スポーツとしてバドミントンの楽しみ方や運営方法等を身につける。

〔授業の概要〕
基本技術やルールを理解し，受講者のレベルに応じて特設ルールを設定することでできるだけ個々の運動量を確保し，バドミントンの豊富な運動量を利用した健康運動の実践を行う。なお各回の授業はリーグ戦によるゲームを中心に行い，その試合数，勝敗を集計し授業に取り組む姿勢を評価する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業内容と進め方の理解）
第２回：バドミントンの基本動作の確認１（ショット）
第３回：バドミントンの基本動作の確認２（レシーブ）
第４回：（ダブルス）ルールと基本動作の確認，ゲーム準備
第５回：リーグ戦１
第６回：リーグ戦２
第７回：（シングルス）基本動作の理解（ショット,レシーブ）
第８回：ルールと基本動作の確認，ゲーム準備
第９回：リーグ戦１
第10回：リーグ戦２
第11回：（ダブルス）パートナー・特設ルールの設定
第12回：レベル別リーグ戦１
第13回：レベル別リーグ戦２
第14回：レベル別リーグ戦３
第15回：まとめとレポートの書き方

〔教科書・参考書等〕
必要に応じて適時授業中に資料を配付する。

〔準備学習等〕
ルールについて高校時代の教科書等を参考に予習しておく．また運動強度が比較的高い種目であるので体調管理を十分にしておく。

〔成績評価方法・基準〕
リーグ戦での成績と授業に取り組む姿勢を総合的に評価する。

40 スポーツ実技Ⅰ（バスケットボール） Physical Training Ⅰ（Basketball）

選択　１単位　前期

ＳＤ１年全組　准教授　坂本　　譲

〔授業の達成目標〕
ゲームを行える最低限の基本技術の習得，特にシュートを成功させるということについて重点をおく。またバスケットボールの運動特性，ルールを理解する．さらに，生涯スポーツとして楽しめるようバスケットボールの正しい知識と運営方法を身につけること。

〔授業の概要〕
各回の授業はリーグ戦によるゲームを中心に行い，その勝敗，得点を集計し授業に取り組む姿勢を評価する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業内容と進め方の理解）
第２回：準備運動の理解とバスケットボールのルール確認
第３回：基本技術（パス）
第４回：基本技術（シュート）
第５回：基本技術（ドリブル）
第６回：基本技術（リバウンド，ディフェンス）
第７回：到達度チェック１
第８回：ゲームを行うための戦術確認，リーグ戦１
第９回：ゲームを行うための戦術確認，リーグ戦２
第10回：ゲームを行うための戦術確認，リーグ戦３
第11回：到達度チェック２
第12回：リーグ戦４
第13回：リーグ戦５
第14回：リーグ戦６
第15回：まとめとレポートの書き方

〔教科書・参考書等〕
適時授業時に参考資料を配布する。また受講者各自で事前にルール等を参照すること。

〔準備学習等〕
審判が出来る程度のルールを高校体育の教科書や HP 等を参考に各自確認しておく。

〔成績評価方法・基準〕
授業に取り組む姿勢とリーグ戦の成績を総合的に評価する。

40 スポーツ実技Ⅰ（サッカー） Physical Training Ⅰ（Soccer）

選択　１単位　前期

全学科１年全組　講　師　本田　春彦

〔授業の達成目標〕
ゲームの中で充実感や楽しさを味わえるようになる。
基本戦術を理解すること。
集団の中での自分の行動や役割を客観的に見つめることができること。
QOL の向上に資するスポーツへの取り組み方の要点を把握する。

〔授業の概要〕
本授業では，サッカーの要素である技術・戦術・体力・精神力・ルールを教材に，ゲーム形式で授業を展開する。同時に，スポーツの生活化，QOL（生活の質）の向上に資するスポーツへの取り組み方の学習，また生涯にわたってスポーツを正しく実践していく態度の養成を目指す。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション授業概要の説明
第２回：チーム編成と試しのゲーム
第３回：主に足を使ったボール遊び＋各種ミニゲーム
第４回：ボールコントロールの練習＋各種ミニゲーム
第５回：種々のシュート練習＋各種ミニゲーム
第６回：リーグ戦のチーム編成，オープン戦
第７回：チーム内練習とリーグ戦第１節
（目標：チーム内での役割を把握すること）
第８回：チーム内練習とリーグ戦第２節
（目標：チーム毎に戦術をたてて実践すること）
第９回：チーム内練習とカップ戦（１回戦）
（目標：新たなチーム内での目標の設定）
第10回：チーム内練習とリーグ戦第３節
（目標：チームの課題の理解とその対応を考えること）
第11回：チーム内練習とリーグ戦第４節
（目標：チーム課題への取り組みとその評価）
第12回：チーム内練習とカップ戦（２回戦）
（目標：他のチームの戦術評価）
第13回：順位決定戦
第14回：最終順位決定戦
第15回：まとめとチームミーティング

〔教科書・参考書等〕
適宜，資料を配布する。

〔準備学習等〕
サッカーのルールについてルールブックやインターネットを活用して予習する。TV 等でのサッカーの試合を見る。コンディション維持のため，規則正しい生活習慣を心がける。

〔成績評価方法・基準〕
課題レポート 20%，技術の習得状況 30%，ミニゲームやリーグ戦の成績・パフォーマンス 50%，および学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

40 スポーツ実技Ⅰ（マルチスポーツ） Physical Training Ⅰ（Multi Sports）

選択　１単位　前期

ＣＤ・ＭＣ１年全組　准教授　諏訪　雅貴

〔授業の達成目標〕
様々なスポーツ種目（個人競技，団体競技）を題材として身体を動かすことの楽しさや快適さを知り，スポーツの実践に必要となる基礎的技能やルール，コミュニケーションスキルを習得し，生涯スポーツ参加のきっかけとなることを目標としている。

〔授業の概要〕
オリエンテーリングとバレーボールを主な教材とする。これらのスポーツ種目の基本技術やルールの学習の後，実際にゲームを行う。また，雨天時などを利用してニュースポーツ（インディアカなど）や弾性バンドを用いた筋力トレーニング，様々なストレッチ法なども体験する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：オリエンテーリングの説明，とルールの理解
第３回：オリエンテーリングの基本技術習得
第４回：グループOL
第５回：フリーポイントOL
第６回：インディアカの説明，基本技術習得
第７回：インディアカのゲーム
第８回：筋力トレーニング，スティックリレー
第９回：ストレッチ法，ドッジビー
第10回：バレーボールの説明，基本技術習得
第11回：バレーボールのルールと審判法
第12回：実践練習，ミニゲーム
第13回：バレーボールゲーム１
第14回：バレーボールゲーム２
第15回：バレーボールゲーム３

〔教科書・参考書等〕
適宜配布する

〔準備学習等〕
各種目のルールや歴史などについて事前に調べておくこと。授業内で学んだトレーニング法やストレッチなどは自宅でも復習して覚えること。

〔成績評価方法・基準〕
実技点により評価するが，参加態度や取り組む姿勢も加味する。

40 スポーツ実技Ⅰ（ソフトテニス） Physical Training Ⅰ（Soft tennis）

選択　１単位　前期

全学科１年全組　助　教　中島千恵子

〔授業の達成目標〕
ソフトテニスは，老若男女容易に参加できるスポーツ種目である。ソフトテニスの基本技術と理論を習得するとともに，ルールやマナーを身につける。将来，「生涯スポーツ」として日常生活に取り入れソフトテニスの楽しさと実践できる能力を養う。

〔授業の概要〕
ソフトテニスで必要とされる身体運動と専門的技術や戦術を学習し，各自の健康・体力づくりや生涯スポーツへの導入を考える。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：ソフトテニスの歴史・ルール・ボール遊び
第３回：基本技術（ストローク・サービス・レシーブ）
第４回：基本技術（ボレー・スマッシュ）
第５回：基本技術の統合的練習
第６回：試合方法，ダブルス・シングルスのルールと審判法
第７回：ダブルスのマッチと基本戦術とポジション
第８回：グループ戦の実施
第９回：グループ戦の実施とまとめ
第10回：前衛・後衛に分かれての基本練習
第11回：前衛・後衛に分かれての基本練習とまとめ
第12回：サービスからのフォーメーション
第13回：レシーブからのフォーメーション
第14回：実戦形式
第15回：実技試験

〔教科書・参考書等〕
参考書　「ソフトテニス指導教本」日本テニス連盟著。
雨天時には，ビデオを使用する時がある。技術レベルや性別は問いません。やる気のある初心者大歓迎。テニスシューズを履くこと。屋外で行う授業のため，天候により授業計画が多少変更される場合もある。

〔準備学習等〕
受講者各自が審判等を出来る程度のルールや競技特性について高校体育の教科書，HP 等で情報収集しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
個人記録，カード提出，データー，授業意欲，態度，修得度等を評価する。

40 スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） Physical Training Ⅰ（Badminton）

選択　１単位　前期

ＳＤ１年全組　非常勤講師　植木　章三

〔授業の達成目標〕
生涯スポーツの一つとしてバドミントンの魅力と競技特性を体得し，競い合いの中にも，楽しさと運動量の確保を目指して集中したプレイができるようにする。

〔授業の概要〕
リーグ戦によるゲームを中心に，シングルスとダブルスを行い，その勝敗，得失点を集計し順位をつける。なお，勝敗はあくまでゲームに集中するためのきっかけであり，この授業では，バドミントンのルールを理解し，臨機応変に特設ルールを利用して楽しく実践できることと，バドミントンの豊富な運動量を利用した健康運動の実践を行うことが主目的である。

〔授業計画〕
第１回：授業内容と進め方の理解（生涯スポーツとしてのバドミントンの意義）
第２回：傷害予防のための準備運動の理解とバドミントンの基本動作の確認
第３回：シングルスの予選グループの組み合わせと特設ルールの説明
第４回：予選グループによるリーグ戦（基本的プレーを意識して）
第５回：予選グループによるリーグ戦（戦略的プレーを意識して）
第６回：２次リーグ戦（基本を守り積極的な攻撃を意識して）
第７回：２次リーグ戦（応用的な動きを重視した攻撃を意識して）
第８回：ダブルスのパート決定，特設ルールの説明
第９回：予選グループによるリーグ戦（ダブルスの基本的フォーメーションの確認）
第10回：予選グループによるリーグ戦（フットワークとフォーメーションを意識して）
第11回：２次リーグ戦（ペアの特性を確認した攻撃を意識して）
第12回：２次リーグ戦（ペアとのコミュニケーションを重視しながら積極的な攻撃を意識して）
第13回：２次リーグ戦（ミスの原因を確認しながら失点を少なく攻撃することを意識して）
第14回：シングルスによるリーグ戦（再組み合わせ）
第15回：ダブルスによるリーグ戦（再組み合わせ）

〔教科書・参考書等〕
高校時代の実技副読本を各自参照すること。

〔準備学習等〕
基本的なルールやラケットの扱い方などを理解しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
リーグ戦の成績と授業に取り組む姿勢を総合的に評価する。

40 スポーツ実技Ⅰ（バレーボール） Physical Training Ⅰ（Volleyball）

選択　１単位　前期

ＳＤ１年全組　非常勤講師　池田　晃一

〔授業の達成目標〕
バレーボールの特性を理解し，バレーボールの楽しさ，試合の運営方法等を理解できるようにする。

〔授業の概要〕
リーグ戦によるゲームを中心に進めて行く。そのなかで，経験の有無や，技術レベルに関わらず，チームプレイの重要性を理解しながらゲームを楽しめるように進めて行く。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業の進め方等）
第２回：基礎練習（主にアンダーハンドパス，オーバーハンドパス）
第３回：基礎練習（主にスパイク・コンビネーション）
第４回：基礎練習（主にサーブ・コンビネーション）
第５回：チーム練習及び試しの試合１
第６回：試しの試合２
第７回：リーグ戦１
第８回：リーグ戦２
第９回：リーグ戦３
第10回：リーグ戦４
第11回：リーグ戦５
第12回：チーム替え　リーグ戦（２）１
第13回：　リーグ戦（２）２
第14回：　リーグ戦（２）３
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
必要に応じて資料を配布する。

〔準備学習等〕
バレーボールの基本技術のポイント，ルールと試合の進行の方法などは各自で理解を深めておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
授業態度，リーグ戦の成績等で総合評価する。

40 スポーツ実技Ⅰ（バスケットボール） Physical Training Ⅰ（Basketball）

選択　１単位　前期

ＣＤ・ＭＣ１年全組　非常勤講師　犬塚　　剛

〔授業の達成目標〕
バスケットボールのルール及び技術を身につけ，バスケットボールの楽しさを理解する。

〔授業の概要〕
バスケットボールは，走・跳・投の基本的な運動要素および敏捷性，巧緻性，判断力などが要求されるスポーツである。バスケットボールに必要な身体能力・スキルを身に付けるとともに，ゲームを通じて攻防におけるチームワークの大切さを身に付ける。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業の進め方）
第２回：ゲーム（技能水準の確認）
第３回：基本技能の習得「シュート（レイアップ，ジャンプ，セット」・ゲーム
第４回：基本技能「シュート・走（３メン→２on１）」・ゲーム
第５回：基本技能（走・パス・シュート）・オール速攻を想定した３on２→３on３・ゲーム
第６回：基本技能（走・パス・シュート）・オール３on２→３on３・ゲーム
第７回：基本技能（走・パス・シュート）・５メン→３on２・１on１・Ｐ＋３on３・ゲーム
第８回：基本技能（走・パス・シュート）・５メン→３on２・３on３・Ｐ＋３on３・ゲーム
第９回：基本技能（走・パス・シュート）・ハーフ３on３・Ｐ＋３on３・４on４・ゲーム
第10回：アップ・リーグ戦１（時間制）
第11回：アップ・リーグ戦２（得点制）
第12回：アップ・リーグ戦３（時間制or得点制）
第13回：アップ・リーグ戦４（ブロック別）→順位決定トーナメント戦
第14回：アップ・リーグ戦５（ブロック別）→順位決定トーナメント戦。
第15回：アップ・リーグ戦６（ブロック別）→順位決定トーナメント戦。

〔教科書・参考書等〕
高校時代の実技副読本を各自参照すること。

〔準備学習等〕
バスケットボールの試合を数試合連続でこなせる体力水準を維持しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
授業に取り組む姿勢を特に重視し，出席状況およびリーグ戦での戦績等を総合的に評価する。

40 スポーツ実技Ⅰ（ソフトボール） Physical TrainingI（Softball）

選択　１単位　前期

ＣＤ・ＭＣ１年全組　非常勤講師　門間　陽樹

〔授業の達成目標〕
ソフトボールを通じて，受講者全員を，身体を動かす楽しさを理解し，健康・体力づくりに関心を抱き，将来的に自他共の健康維持・増進に励んでいける人材に成長させること。また，自分の役割を理解し実践し，他者とのコミュニケーションを自ら進んで実施できる人材に成長させること。

〔授業の概要〕
ソフトボール実技・対抗試合を通して受講者の運動能力及び体力の向上を図るとともに，チームメンバー間でのチームワークやコミュニケーションを図りつつ社会人として必要な協調性およびコミュニケーション能力等を磨いていけるよう，ゲーム主体で授業を展開する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：ソフトボールのルール解説とトレーニング
第３回：経験者・未経験者，各個人の技能を考慮し，チーム編成
第４回：基本練習（キャッチボール）＋練習試合
第５回：基本練習（トスバッティング）＋練習試合
第６回：基本練習（守備練習）＋練習試合
第７回：基本練習（打撃練習）＋練習試合
第８回：チーム再編成＋練習試合
第９回：実戦練習（守備）＋練習試合
第10回：実戦練習（攻撃）＋練習
第11回：リーグ戦①（テーマ：恥ずかしがらず声を出す）
第12回：リーグ戦②（テーマ：取れるアウトは全部取る）
第13回：リーグ戦③（テーマ：ボールをよく見て思いっきり打つ）
第14回：リーグ戦④（テーマ：チームメイトと声を掛け合う）
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
特になし

〔準備学習等〕
ソフトボールのルールに関して必ず予習・復習しておくこと。特に，野球との相違点に注意すること。

〔成績評価方法・基準〕
練習及びゲームへの取り組む姿勢，ゲーム成績および個人の能力評価等を総合的に評価する。

41 スポーツ身体科学　Sport and Physical Science

選択　１単位　後期

全学科１年全組　准教授　坂本　　譲

〔授業の達成目標〕
１．日常生活において身体活動量を確保する態度を身につける。
２．実施種目の運動特性を理解し，技術面での向上をはかる。
３．スポーツ活動の功罪を理解し健康と運動についての知識を養う。

〔授業の概要〕
適切な身体活動量を確保することにより，運動不足と生活習慣関連疾患の予防をはかり，将来にわたって健康な生活を営むために必要な知識と態度を身につけることと実施種目の運動特性の理解を目的とする。具体的には講義，種目理論，実技を組み合わせ以下の内容で授業を展開する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業概要・成績評価の説明）
第２回：講義：健康と運動の科学１
第３回：演習：バドミントン１（理論）
第３回：実技：バドミントン２（ダブルス）
第４回：実技：バドミントン３（シングルス）
第６回：演習：ソフトボール１（理論）
第７回：実技：ソフトボール２（ゲーム）
第８回：講義：運動が身体に及ぼす影響，体力測定
第９回：体力測定（筋力・筋持久力・瞬発筋力・敏捷性・柔軟性）
第10回：体力測定（全身持久性・その他）
第11回：演習：バスケットボール１（理論）
第12回：実技：バスケットボール２（基礎）
第13回：実技：バスケットボール３（実践）
第14回：講義：運動習慣と健康
第15回：まとめとレポートの書き方

〔教科書・参考書等〕
適宜，資料を配布する。

〔準備学習等〕
事前に実施予定の実技種目については各自が審判を行える程度のルールについての予習を行っておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
課題レポート，授業中に実施する小テスト，実技の技能および学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

41 スポーツ身体科学　Sport and Physical Science

選択　１単位　後期

全学科１年全組　講　師　本田　春彦

〔授業の達成目標〕
ストレスや生活習慣病，感染症などの健康問題や，長寿社会での健康管理における運動（スポーツ）の役割と効果について理解する。

〔授業の概要〕
本授業では，講義において健康維持と体力の保持・増進のための運動処方作成に関する基礎理論を学習しながら，その実践方法を各スポーツ種目の実技を通して理解を深める。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション授業概要の説明
第２回：運動とスポーツの実践（１）アルティメット
第３回：運動とスポーツの実践（２）キックベースボール
第４回：健康の概念・生活習慣と健康（講義）
第５回：運動とスポーツの実践（３）ソフトボール（基本技術の練習，ルールの確認，ミニゲーム）
第６回：運動とスポーツの実践（４）ソフトボール（チーム編成およびゲーム）
第７回：体力測定（筋力・筋持久力・瞬発筋力・敏捷性・柔軟性）
第８回：体力測定（全身持久性・その他）
第９回：心の健康と休養（講義）
第10回：感染症の理解（講義）
第11回：体力測定の自己分析
第12回：運動とスポーツの実践（５）バスケットボール（基礎技術の練習とミニゲーム・チーム編成）
第13回：運動とスポーツの実践（６）バスケットボール（応用技術の練習とミニゲーム）
第14回：運動とスポーツの実践（７）バスケットボール（試合および戦術の紹介）
第15回：まとめとレポート作成

〔教科書・参考書等〕
適宜，資料を配布する。

〔準備学習等〕
事前に実施種目について運動特性やルール等予習しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
課題レポート 40％，授業中に実施する小テスト 30％，実技の技能 30％および学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

41 スポーツ身体科学　Sport and Physical Science

選択　１単位　後期

ＣＤ・ＭＣ１年全組　講　師　諏訪　雅貴

〔授業の達成目標〕
現代社会における健康問題を特に運動や体力との関連性から学び，現在の自己の状況を評価し，今後の生活にどのように生かすかを考える。これらを基にして，スポーツの継続や生涯にわたる自分自身や家族の健康に生かすことを目標とする。

〔授業の概要〕
形態（肥満・やせ），持久力・筋力・柔軟性などの測定法を実習により学び，自己の現状を把握する。また，これらの測定結果が将来の疾病や老化現象とどのように関連しているのかを講義する。これらの結果を参考にして，スポーツ活動や体力トレーニング方法を経験する。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：現代社会の健康問題，肥満とやせ（講義）
第３回：形態測定（実習）
第４回：筋力測定（実習）
第５回：持久力測定（実習）
第６回：体力トレーニング方法論（講義）
第７回：筋力向上法（実習）
第８回：持久力向上法（実習）
第９回：測定結果のまとめ（講義）
第10回：体力と疾病・死率との関係（講義）
第11回：身体活動量と疾病・死亡率との関連（講義）
第12回：屋外スポーツ（実習）
第13回：室内スポーツ（実習）
第14回：スポーツと運動強度（実習）
第15回：まとめとレポート作成について（講義）

〔教科書・参考書等〕
実習ノートや参考資料を適宜配布する。

〔準備学習等〕
生活習慣（運動や食事など）を振り返り考察するので，常に注意をはらっておくこと。授業内の測定で得られた結果を実習ノートにまとめておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
測定結果のまとめとレポートにより評価するが，参加態度や取り組む姿勢も加味する。

41 スポーツ身体科学　Sport and Physical Science

選択　１単位　後期

全学科１年全組　助　教　中島千恵子

〔授業の達成目標〕
体力や運動は現代社会における健康問題と密接に関連している。本授業では，自己の体力の現状を把握し，さらにスポーツや身体トレーニングといった運動を経験することにより，生涯スポーツや体力作りの基礎を学び，今後の生活に役立てることを目的とする。

〔授業の概要〕
様々なスポーツ活動や体力トレーニング方法を経験する。また，肥満ややせなどの身体特性や，筋力・持久力・柔軟性・俊敏性などの体力特性を測定し評価することにより，これまでの生活習慣の見直しや今後の体力作りの目標設定を行う。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：屋外球技スポーツの特徴（実技：テニス）
第３回：屋外球技スポーツの実践（実技：バレーボール）
第４回：室内球技スポーツの特徴（実技：ソフトバレーボール）
第５回：室内球技スポーツの実践（実技：バドミントン）
第６回：健康作り体操（実習）
第７回：形態・身体組成と健康（実習）
第８回：筋力測定（実習）
第９回：柔軟性・敏捷性測定（実習）
第10回：持久力測定（実習）
第11回：測定結果のまとめ（講義）
第12回：肥満ややせと健康の関係（講義）
第13回：体力と健康の関係（講義）
第14回：身体活動と健康の関係（講義）
第15回：全体のまとめ（講義）

〔教科書・参考書等〕
適宜配布する。

〔準備学習等〕
授業中に体温，心拍数の測定を行うので，これらの意義や測定法について HP 等で情報収集しておくこと。また１日１万歩を目標にウォーキングに取り組む習慣をつけるようにする。

〔成績評価方法・基準〕
レポートにより評価するが，授業に取り組む姿勢や参加態度も考慮する。

41 スポーツ身体科学　Sport and Physical Science

選択　１単位　後期

ＳＤ１年全組　非常勤講師　高田　潤一

〔授業の達成目標〕
自分の身体の諸機能の理解を深め，自己の体力レベルを把握した上で，日常生活のコンディションを維持したり健康につながる運動実践能力を養う。

〔授業の概要〕
この授業は，運動に関する身体諸機能と自己の体力を見直し，いくつかの目的別運動の合理化を試みる理論と実技融合型で進めたい。教場と受講者数との関係から制約されることもあり受講者数を限定するかもしれない。

〔授業計画〕
第１回：合理的で効率のよい運動のガイダンス（講義・実技）
第２回：打つ動作の合理化（静止しているボールを打ってみよう・ゴルフ）
第３回：からだの諸機能を知る（骨格・筋肉）（講義）
第４回：打つ動作の合理化（動くボールを打ってみよう・テニスのサーブとレシーブ）
第５回：打つ動作の合理化（テニスの基本技術と応用）
第６回：からだの諸機能を知る（筋肉動作と呼吸・循環）（講義）
第７回：体力論と体力測定方法（講義）
第８回：体力測定の実施（筋力・筋持久力・瞬発筋力・敏捷性・柔軟性）
第９回：体力測定の実施（全身持久力・その他）
第10回：体力値の比較と自己診断レポートのまとめ方（講義）
第11回：打つ動作のコントロールを考える（講義）
第12回：打つ動作の合理化（シャトルコックを打ってみよう）（実技）
第13回：打つ動作の合理化（バドミントンの基本技術と応用）
第14回：スポーツや身体運動の効用（講義）
第15回：まとめと総合評価

〔教科書・参考書等〕
参考書　講義で提示する。OHP や資料を教材とする予定。

〔準備学習等〕
前回授業の要点を復習し，次の授業内容とのつながりを考えて受講すること。

〔成績評価方法・基準〕
受講姿勢といくつかの小テストと体力自己診断レポートの割合で総合評価する。

41 スポーツ身体科学　Sport and Physical Science

選択　１単位　後期

ＳＤ１年全組　非常勤講師　植木　章三

〔授業の達成目標〕
１．日常生活において身体活動量を確保する態度を身につける。
２．好みのスポーツ活動の運動強度を理解し健康運動として利用できる知識を養う。
３．生活習慣病予防のために肥満を予防するための知識を養う。

〔授業の概要〕
この授業は，日常の身体活動量を確保することによって，将来にわたり生活習慣病を予防するとともに介護予防につなげるために必要な知識と態度を身につけることを目的としている。具体的には，実技と講義を組み合わせ以下の内容で授業を展開する。なお，実技の際には，スポーツ用ジャージや体育館用シューズを必ず準備すること。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション（授業概要・成績評価の説明）
第２回：スポーツを利用した身体活動量の確保１（実技：バドミントン・基本技術とルールの確認）
第３回：スポーツを利用した身体活動量の確保２（実技：バドミントン・シングルスのリーグ戦）
第４回：スポーツを利用した身体活動量の確保３（実技：バドミントン・ダブルスのリーグ戦）
第５回：スポーツを利用した身体活動量の確保４（実技：バスケットボール・基本技術とルールの確認）
第６回：スポーツを利用した身体活動量の確保５（実技：バスケットボール・時間制のリーグ戦）
第７回：スポーツを利用した身体活動量の確保６（実技：バスケットボール・正規ルールのリーグ戦）
第８回：体力測定（筋力・柔軟性・敏捷性等の測定）
第９回：体力測定（心肺持久力の測定・総合評価）
第10回：肥満予防のための知識（講義：脂質代謝の概要と生活習慣病の理解）
第11回：肥満予防のための知識（講義：肥満のメカニズムと太りやすい体質の理解）
第12回：生活体育の発想について（講義：運動基準2006の理解と日常生活に根ざした健康運動実践の方法）
第13回：肥満度を測る（講義：肥満度の評価方法の理解）
第14回：日常活動量を把握する（講義：タイムスタディ法の理解）
第15回：まとめとレポートの書き方

〔教科書・参考書等〕
必要に応じて資料を配布し，参考書を紹介する。
液晶プロジェクターと PC を使用して講義する。

〔準備学習等〕
「生活習慣病，介護予防，肥満，ダイエット，運動療法」といったキーワードを新聞や雑誌，書籍，インターネットなどで検索し，興味を持った内容を一つ紹介できるようにしておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
レポート 60％，授業中の身体活動量 40％，および学習に取り組む姿勢も含め総合的に評価する。

41 スポーツ身体科学　Sport and Physical Science

選択　１単位　後期

ＳＤ１年全組　非常勤講師　池田　晃一

〔授業の達成目標〕
運動しているときに，身体の中ではどのようなことが起こっているのかを理解するとともに，自分の体力の現状を知り健康づくりについての基礎知識を得る。

〔授業の概要〕
講義において，身体運動のメカニズムや健康づくりの方法について理解を深め，実際に体力測定を行うことで自分自身の体力の現状を知り，学生生活をよりよく送るための生活習慣の改善等の理解を深める。実技においては，実際に身体を動かすことで，身体運動のメカニズムを体験し，生理学の基礎的理解を深める。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業の進め方等）
第２回：実技　バレーボール（チーム分けと基本練習）
第３回：実技　バレーボール（基本練習とチーム練習）
第４回：実技　バレーボール（試合）
第５回：実技　硬式テニス（基本練習）
第６回：実技　硬式テニス（基本練習および試しの試合）
第７回：実技　硬式テニス（ダブルスの試合）
第８回：実技　バドミントン（基本練習）
第９回：実技　バドミントン（基本練習および試しの試合）
第10回：実技　バドミントン（ダブルスの試合）
第11回：体力測定（筋力・筋持久力・瞬発筋力・敏捷性・柔軟性）
第12回：体力測定（全身持久性・その他）
第13回：講義　運動と健康
第14回：講義　運動の効果
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
必要に応じて資料を配布する。

〔準備学習等〕
スポーツ種目においては基本技術の理解とポイント，ルールと試合の進行の方法などは各自で理解を深めておくこと。また，講義においては資料を配布するので毎時間の内容を理解しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
授業態度，成績等で総合評価する。

41 スポーツ身体科学　Sport and Physical Science

選択　１単位　後期

ＣＤ・ＭＣ１年全組　非常勤講師　犬塚　　剛

〔授業の達成目標〕
１．加齢変化による身体諸機能の低下を理解する。
２．スポーツの動作に合ったフィジカル面の機能を高めるための方法等を理解する。
３．メッツを活用したエネルギー消費量の算出方法の習得

〔授業の概要〕
この講義は，実技と講義を組み合わせて行う科目である。実技を通じて，現代生活では不足しがちな身体活動量の確保や心身のリフレッシュ効果を高めるなど，運動による様々な効能を体験することを目的としている。講義では，年齢とともに落ちゆく身体諸機能や筋の特性，エクササイズガイドに則ったエネルギー消費量の算出方法などを理解し，運動習慣確保の大切さや消費カロリーからみる身体活動量の目標設定などを理解する。

〔授業計画〕
第１回：授業の進め方
第２回：実技：バスケットボール１（ゲームを中心とした展開）
第３回：実技：バスケットボール２（複数のシュート練習からゲームへ）
第４回：講義：加齢変化による身体機能低下への影響
第５回：実技：バスケットボール３（走力強化練習からゲームへ）
第６回：実技：バスケットボール４（ディフェンス強化練習からゲームへ）
第７回：講義：現代社会と生活習慣病（運動の必要性）
第８回：実技：体力測定評価（新体力テスト）
第９回：実技：体力測定評価（シャトルラン）
第10回：実技：バスケットボール５（リーグ戦）
第11回：実技：フィジカルフィットネス（レジスタンストレーニング）
第12回：講義：METSを活用したエネルギー消費量の算出など
第13回：実技：フィジカルフィットネス（有酸素運動）
第14回：講義：NBAのVTR鑑賞
第15回：課題，課題とまとめ

〔教科書・参考書等〕
適宜指示する。

〔準備学習等〕
講義全体では，実技の比率が高いため体力水準を維持しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
レポート課題および実技での戦績を総合的に評価する。

41 スポーツ身体科学　Sport and Physical Science

選択　１単位　後期

ＣＤ・ＭＣ１年全組　非常勤講師　門間　陽樹

〔授業の達成目標〕
１．身体活動の意義を学び，日常生活において身体活動量を確保する態度を身につける。
２．実施種目の運動特性を理解するとともにその種目に慣れ，技術の向上を図る。
３．身体活動，運動およびスポーツが健康によいとされる理由（エビデンス）について理解を深める。

〔授業の概要〕
本授業は，体力測定及びスポーツ実技を通して身体活動の意義を学び，将来にわたって運動を実施するのに必要な知識と態度を身につけることを目指す。さらに，運動がなぜ健康によいとされているのかについての知識を養い，世の中に溢れている健康情報の“確かさ”についてある程度判断できるようになることを目指す。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション（授業概要及び成績評価の説明）
第２回：【実技】体力測定（テーマ：自分の体力レベルを知ろう）
第３回：【スポーツ実技】ラケットベースボール（ルールの確認と基本練習）
第４回：【スポーツ実技】ラケットベースボール（試合）
第５回：【スポーツ実技】ソフトボール（ルールの確認と基本練習）
第６回：【スポーツ実技】ソフトボール（実践練習）
第７回：【スポーツ実技】ソフトボール（試合）
第８回：【講義】運動と健康に関する基礎知識
第９回：【スポーツ実技】バスケットボール（ルールの確認と基本練習）
第10回：【スポーツ実技】バスケットボール（実践練習）
第11回：【スポーツ実技】バスケットボール（試合）
第12回：【実技】体力測定（テーマ：前回の体力レベルを上回ろう）
第13回：【講義】なぜ運動は健康によいのか？
第14回：【講義】なぜ運動は健康によいと言えるのか？
第15回：まとめとレポート課題

〔教科書・参考書等〕
必要に応じて資料を配付する。

〔準備学習等〕
実技種目のルールや基本動作に関して，書籍やインターネット等で情報を収集し，理解しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
実技や講義での活動内容，レポート課題を総合的に評価する。

44 特別課外活動Ⅰ

Off-class Practice Ⅰ

選択　２単位　１年前期～４年後期

詳細については，シラバスの『特別課外活動Ⅰ・Ⅱ』（各２単位）についてのページを参照のこと。

45 特別課外活動Ⅱ

Off-class Practice Ⅱ

選択　２単位　１年前期～４年後期

詳細については，シラバスの『特別課外活動Ⅰ・Ⅱ』（各２単位）についてのページを参照のこと。

46 他大学教養科目群

Subjects offered other universities

選択　４単位　１年後期～４年前期

詳細については，シラバスの「他大学開講科目」，学生生活の「学都仙台単位互換ネットワークに基づく特別聴講学生取扱要項」を参照のこと。

クリエイティブデザイン学科

(Department of Creative Design)

(専門教育科目)

CD

１デザインセミナーⅠ

Introduction to Design studies Ⅰ

必修　１単位　前期

１年全組　教　授　荒井　俊也　教　授　梨原　宏
教　授　原田　一　教　授　両角　清隆
准教授　中居　尚彦　准教授　梅田　弘樹
准教授　篠原　良太　准教授　堀江　政広
准教授　盧　慶美　講　師　古川　哲哉

〔授業の達成目標〕
資料を収集し，整理し，グループで検討して，その結果をまとめプレゼンテーションする。その過程をとおしてデザインすることの意味を考えられるようになること。

〔授業の概要〕
少人数のセミナーに分かれ，共通課題を通してデザイン行為の魅力を理解して，その後の学習意欲を高める。そして“デザインとは何か”，“デザインすることはどのような行為か”を自分自身で考えるようにする。また，適性検査を実施し自分の適性を客観的に考え職業としてのデザインに対する意識を高める。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス，適性検査（全体）（全担当教員）
第２回：学内見学（各セミナー）（全担当教員）
第３回：デザイン見学ツアー計画A①・企画（各セミナー）（全担当教員）
第４回：デザイン見学ツアー計画A②・調査（各セミナー）（全担当教員）
第５回：デザイン見学ツアー計画A③・タイムテーブル（各セミナー）（全担当教員）
第６回：進路支援講演①（全体）（全教員担当）
第７回～第10回：デザイン見学ツアーA実施（各セミナー）（全担当教員）
第11回：プレゼンテーション準備①・整理（各セミナー）（全担当教員）
第12回：プレゼンテーション準備②・発表資料作成（各セミナー）（全担当教員）
第13回：プレゼンテーション準備③・練習（各セミナー）（全担当教員）
第14回：プレゼンテーション①・発表（全体)(全担当教員)
第15回：プレゼンテーション②・発表，総括（全体)(全担当教員)
＊デザイン見学ツアー計画Aの対象地域は，仙台及び仙台近郊とする

〔教科書・参考書等〕
なし

〔準備学習等〕
デザインツアー計画検討のための事前調査，プレゼンテーションのための資料の事前準備および発表の練習等を行うこと。

〔成績評価方法・基準〕
グループ作業・プレゼンテーションの内容に基づき評価する。

２造形基礎論

Basic From Science

必修　２単位　前期

１年全組　教　授　荒井　俊也

〔授業の達成目標〕
造形に関する用語を理解し，それらを使い造形についての自分の考えを伝えることができる。

〔授業の概要〕
デザイン作品や美術作品のスライドを使い，バランスやシンメトリー，コントラストやアクセントといった造形を構成する基礎的な要素について解説する。造形に関する用語を理解し，造形に関する基礎知識を身につける。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション，芸術とデザイン
第２回：黄金比と紙の寸法
第３回：抽象とピクトグラム
第４回：ダダとオートマチズム形態
第５回：錯視とアイディア
第６回：写真とカメラマン
第７回：前半のまとめと試験①
第８回：シンメトリーと模様
第９回：造形と色彩①　色彩と絵本
第10回：造形と色彩②　印象派からポップアート，インスタレーションまで
第11回：立体造形①　イスムノグチからディスプレイまで
第12回：立体造形② 野外彫刻とカルダー
第13回：パッケージと看板
第14回：後半のまとめと試験②
第15回：映画と芝居，総括

〔教科書・参考書等〕
参考書「デザイン小辞典」ダヴィット社　編集　福井晃一

〔準備学習等〕
中学校の美術の教科書を読み返しておくこと。復習として，授業で紹介された作品等を図書館の画集で確認しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
小テスト２回分の成績を用いて評価する。

３造形演習Ⅰ

Form Exercises Ⅰ

必修　３単位　前期

１年全組　教　授　荒井　俊也

〔授業の達成目標〕
平面構成の方法の理解と技術の習得。実際に色彩や形を使って平面作品が制作できるようになること。

〔授業の概要〕
線を使った平面構成から色彩を使った平面構成，ユニットパターン等の演習課題の制作を通して，グラフィックデザインに必要な基礎的な技術と平面構成の方法の理解を目的とする。実際に色彩や形を使って平面作品が制作できるようになることが到達目標である。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション，紙の種類を学ぶ演習
第２回：フリーハンドの線を用いた構成
第３回：線を用いたグレースケールの作成
第４回：平行線を用いた構成
第５回：平行線を用いたユニットによる構成
第６回：タングラムの作成と構成
第７回：正方形の分割を用いたユニットの構成
第８回：アルファベットを用いた構成
第９回：ポスターカラーを用いたグレースケールの作成
第10回：暖色系を使った色面構成
第11回：寒色系を使った色面構成
第12回：暖色系を使ったコラージュ
第13回：寒色系を使ったコラージュ
第14回：課題の整理と復習
第15回：総括

〔教科書・参考書等〕
なし

〔準備学習等〕
毎回，次に行なう課題の概要を説明するので家で一度制作してみること。また，授業中にできなかった課題は練習してマスターすること。

〔成績評価方法・基準〕
提出作品の完成度で評価する。

４モデリング演習　Moddelling Exercises

必修　３単位　前期　　１年全組　非常勤講師　ヴィクトル・ウーゴ・ナガヌマ

〔授業の達成目標〕
立体物を粘土で表現できるようになること。石膏による型取りを理解すること。図面から立体模型を起こすことが出来るようになる事。精度のある模型が作れる基礎を身につけること。

〔授業の概要〕
プロダクトデザインに必要な立体の把握と表現の基礎を学ぶ。演習を通して図面と立体物の関係を理解し，粘土や石膏の扱いに慣れ，模型に必要な精度を知る。精度のある立体の表現，石膏による型取りを理解すること，図面から立体模型を起こすことが出来るようになる事を目標とする。

〔授業計画〕
第１回：〈オリエンテーション〉模刻のためのデッサン
第２回：ピーマンの模刻①（粗付け）
第３回：ピーマンの模刻②（形の追求）
第４回：ピーマンの模刻③（仕上げ）
第５回：合評①，石膏による立方体①（粗付け）
第６回：石膏による立方体②（形の追求）
第７回：石膏による立方体③（仕上げ）
第８回：石膏についてと扱い方
第９回：石膏による立方体④（石膏の型取り）
第10回：石膏による立方体⑤（石膏の流し込み）
第11回：石膏による立方体⑥（割り出し）
第12回：石膏による立方体⑦（仕上げ）
第13回：合評②，図面から立体を起こす①（粗付け）
第14回：図面から立体を起こす②（形の追求）
第15回：図面から立体を起こす③（仕上げ）と道具の整理，〈総括〉

〔教科書・参考書等〕
なし

〔準備学習等〕
必要な道具の作り方を授業中に説明するので製作して持参すること。日常的にスケッチの練習をすること。

〔成績評価方法・基準〕
提出作品によって総合的に評価する。

５デザイン史　History of Design

必修　２単位　前期　　１年全組　准教授　梅田　弘樹

〔授業の達成目標〕
デザインを行う上で最低限必要な教養としてのデザインの歴史を学ぶ。すなわち，歴史の延長である今現在においてデザインを行う際の指針となるような知識を，各時代のデザイン思想とその成果の中から見出し，学び取る。

〔授業の概要〕
19世紀から現在に至るデザイン史の流れを，人物とムーブメントを軸に，概ね時系列順に紹介する。題材はヨーロッパのプロダクトデザインを中心に，時にアメリカや日本の，また空間デザインやグラフィックデザインまでを含む。各時代のデザインムーブメントを当時の社会背景と対比することと，それぞれの様式が今日のデザインに影響を与えている例を確認することで，現代あるいはこれからの社会に対して行うデザインに活用できる生きた知識としての歴史の習得を目指す。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス：デザイン史を学ぶ意義
第２回：予備知識：ヨーロッパの地理・歴史・文化の概観
第３回：アーツ・アンド・クラフツ運動
第４回：アール・ヌーヴォー
第５回：バウハウス
第６回：モダニズム・機能主義・合理主義
第７回：構成主義・アール・デコ
第８回：インターナショナル・スタイル
第９回：アメリカ：コマーシャリズムとデザイン
第10回：日本：工芸と大企業のデザイン
第11回：ポストモダン
第12回：スカンジナビアン・モダン
第13回：現代：デザインビジネス・デザイン見本市
第14回：これから：エコロジー・情報化社会
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
参考書
世界デザイン史カラー版　阿部公正ほか著　美術出版社
デザイン史を学ぶクリティカル・ワーズ橋本優子ほか編　フィルムアート社

〔準備学習等〕
予習として，参考書の中で，各回のテーマに関連する記事を一読しておくことが望ましい。復習として，授業中に示されたキーワードに関連する人物・団体・事物等を自分なりに調査し，ノートにまとめること。

〔成績評価方法・基準〕
毎回の講義後に課されるレポートの内容と，期末試験の点数および学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

６プロダクトデザイン論Ⅰ　Theory of Product Design Ⅰ

必修　２単位　後期　　１年全組　准教授　梅田　弘樹
教　授　梨原　　宏
教　授　原田　　一

〔授業の達成目標〕
・プロダクトデザインの対象の多様性を学ぶ
・工業製品の開発過程におけるデザインの位置づけとその意義について概観をつかむ

〔授業の概要〕
プロダクトデザインの対象の多様性を実例を通して学びながら，さまざまな工業製品がどのような社会的な背景・要求のもとで作られているのかを考える。また，工業製品の開発プロセスにおける「デザイン」という概念の位置づけ，意義について学ぶ。具体的には，パッケージ，玩具，家電，情報機器，公共交通を含む移動空間に関わる機器，照明，家具，設備などのデザインを題材として進める。

〔授業計画〕
第１回：プロダクトデザインとは何か（梨原）
第２回：デザインプロセス（梨原）
第３回：製品の構成と形態（梨原）
第４回：ものづくりの仕組み（梨原）
第５回：製品の造形と美的構成条件（梅田）
第６回：素材，生産技術とデザイン（梅田）
第７回：デザインの実際１－機能･形態直結タイプとブラックボックスタイプ（梅田）
第８回：デザインの実際２－空間を構成するもの（梅田）
第９回：デザインの実際３－移動手段と周辺環境（梅田）
第10回：エルゴノミクスとデザイン（原田）
第11回：ヒューマンスケールとデザイン（原田）
第12回：人間の行為とデザイン（原田）
第13回：安全性とデザイン（原田）
第14回：現在そしてこれからの社会とデザイン（梅田）
第15回：まとめと試験（梅田，梨原，原田）

〔教科書・参考書等〕
参考書：プロダクトデザイン　ガイドブック　逸身健二郎著　美術出版社
工業デザイン全集　製品計画２，設計方法３　日本出版サービス

〔準備学習等〕
予習として，日常から身のまわりの工業製品を「デザイン」の意識のもとによく観察すること。復習として，主にレポート課題を通し，講義内容がさまざまな工業製品のデザインにどう表れているかを考察すること。

〔成績評価方法・基準〕
課題として提出を課す宿題レポート，定期試験を用いて総合的に評価する。

７エクスペリエンスデザイン論　Theory of Experience Design

必修　２単位　後期

１年全組　准教授　堀江　政広
教　授　両角　清隆

〔授業の達成目標〕
新しいデザイン分野である「エクスペリエンスデザイン」の重要性と魅力を，日常生活で触れている製品やシステムを通じて理解する。また，製品やシステムを生み出すためのデザインプロセスおよびデザイン技術の概要を理解する。

〔授業の概要〕
エクスペリエンスデザインの対象であるモバイルアプリケーションやWebアプリケーション，Webサービス，コミュニティ支援サイト，ビデオゲームなどの具体例を挙げながら，製品・サービスの特徴やユーザー・社会に対する役割，製品・サービスの特性から導かれる開発プロセスなどを紹介することによって，この分野を理解できるようにする。さらに，開発の中でデザインがどのような役割を果たすのか，ビジネスサイド，エンジニアリグサイドとの比較やユーザーとの係わりを示しながら習得できるようにする。

〔授業計画〕
第１回：エクスペリエンスデザインとは　（堀江）
第２回：エクスペリエンスデザインの対象（１）モノからコトへ　（両角）
第３回：エクスペリエンスデザインの対象（２）コトのデザイン（両角）
第４回：エクスペリエンスデザインの目的（堀江）
第５回：エクスペリエンスデザインの体験（１）キャンパスレポート基礎編　（堀江）
第６回：エクスペリエンスデザインの体験の省察（１）キャンパスレポート基礎編　（堀江）
第７回：エクスペリエンスデザインの実践　（堀江）
第８回：エクスペリエンスデザインの体験（２）キャンパスレポート応用編　（堀江）
第９回：エクスペリエンスデザインの体験の省察（２）キャンパスレポート応用編　（堀江）
第10回：エクスペリエンスデザインのデザイン領域　（堀江）
第11回：エクスペリエンスデザインのデザインプロセス（堀江）
第12回：情報分類法（LATCH）　（堀江）
第13回：サイバースペースの発展　（堀江）
第14回：総括　（堀江）
第15回：まとめと試験　（堀江）

〔教科書・参考書等〕
なし

〔準備学習等〕
授業後に復習し，レポートを提出すること。

〔成績評価方法・基準〕
提出レポート（50％）と試験（50％）で評価する。

８ビジュアルデザイン論　Theory of Visual Design

必修　２単位　後期

１年全組　准教授　篠原　良太

〔授業の達成目標〕
ビジュアルデザインに関する成り立ちや考え方，用語を理解すること。

〔授業の概要〕
ビジュアルデザインの基礎的事項について，作品事例を交えながら分野別に解説します。また，ビジュアルデザインにおける各分野の特性や仕事の進め方を理解し，自分の適性について考えます。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：タイポグラフィー
第３回：エディトリアルデザイン
第４回：フライヤー
第５回：ポスター
第６回：イラストレーション１〈概論〉
第７回：イラストレーション２〈画材と画法〉
第８回：コンピュータグラフィクス１〈概論〉
第９回：コンピュータグラフィクス２〈３ＤＣＧ〉
第10回：ロゴマーク・ロゴタイプ
第11回：キャラクターデザイン
第12回：映像・アニメーション
第13回：WEBデザイン
第14回：コンピュータの進化とデザイン
第15回：総括

〔教科書・参考書等〕
必要に応じて講義内で指示する。

〔準備学習等〕
次回講義で紹介する内容について，実際に世の中に出回っている作品事例を観察・確認しておく。（内容は問わない）

〔成績評価方法・基準〕
課題レポート及び学習に取り組む姿勢も含めて総合的に評価する。

９デザインセミナーⅡ　Introduction to Design studies Ⅱ

必修　１単位　後期

１年全組　教　授　荒井　俊也　　教　授　梨原　宏
教　授　原田　一　　教　授　両角　清隆
准教授　中居　尚彦　　准教授　梅田　弘樹
准教授　篠原　良太　　准教授　堀江　政広
准教授　盧　慶美　　講　師　古川　哲哉

〔授業の達成目標〕
資料を収集し，整理し，グループで検討して，その結果をまとめプレゼンテーションする。その過程をとおしてデザインすることの意味と自分の適性を考えられるようになること。

〔授業の概要〕
デザインセミナー１に引き続き，グループ課題を通して資料を収集し，整理し，グループ内で検討し，その結果をまとめて全体の前で発表する。その過程を通して日常見過ごしてきた“デザインされたもの”，“デザインすること”に注意を振り向け，自分自身でデザインすることの意味を考えられるようになることを目標とする。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス，デザイン見学ツアー計画Ｂ①（各セミナー）（全担当教員）
第２回：デザイン見学ツアー計画Ｂ②・企画（各セミナー）
第３回：デザイン見学ツアー計画Ｂ③・調査（各セミナー）
第４回：デザイン見学ツアー計画Ｂ④・タイムテーブル（各セミナー）（全担当教員）
第５回：進路支援講演②（全体）（全担当教員）
第６回～第９回：デザイン見学ツアーＢ実施（各セミナー）（全担当教員）
第10回：プレゼンテーション準備①（各セミナー）（全担当教員）
第11回：プレゼンテーション準備②・整理（各セミナー）
第12回：プレゼンテーション準備③・プレゼン資料作成，練習（各セミナー）（全担当教員）
第13回：プレゼンテーション①・発表（全体）（全担当教員）
第14回：プレゼンテーション②・コース別け説明会（全体）（全担当教員）
第15回：進路支援講演③，総括（全体）（全担当教員）
＊デザイン見学ツアー計画Ｂの対象地域は，東京及び東京近郊とする

〔教科書・参考書等〕
なし

〔準備学習等〕
デザインツアー計画検討のための事前調査，プレゼンテーションのための資料の事前準備および発表の練習等を行うこと。

〔成績評価方法・基準〕
グループ作業・プレゼンテーションの内容に基づき評価する。

10 デッサン演習　Drawing Exercises

必修　３単位　後期　　１年全組　非常勤講師　ヴィクトル・ウーゴ・ナガヌマ

〔授業の達成目標〕
水張りの方法，質感の描き分け，形を把握する技術を身につける。

〔授業の概要〕
モチーフを見て描く行為（鉛筆デッサン）を通して観察力と表現力を鍛え，すべての造形の基礎となるデッサン力を身につける。モチーフの違いによる質感の描き分け，形を正確に把握するモノの見方，正確な形を表現する技術の向上を目標とする。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション，パネルの水張り
第２回：静物デッサン（ガラス瓶と靴）①　あたりと構図
第３回：静物デッサン（ガラス瓶と靴）②　鉛筆による表現
第４回：静物デッサン（ガラス瓶と靴）③　陰影と形
第５回：合評会①，パネルの水張り
第６回：石膏デッサン（メディチ）①　あたりと構図
第７回：石膏デッサン（メディチ）②　鉛筆による表現
第８回：石膏デッサン（メディチ）③　陰影と形
第９回：合評会②，パネルの水張り
第10回：石膏デッサン（マルス）①　あたりと構図
第11回：石膏デッサン（マルス）②　鉛筆による表現
第12回：石膏デッサン（マルス）③　陰影と形
第13回：合評会③，片付け
第14回：クロッキー（学生同士）①
第15回：クロッキー（ヌード）②〈総括〉

〔教科書・参考書等〕
なし

〔準備学習等〕
日常的にスケッチブックを持ち歩き，スケッチやデッサンの練習をすること。

〔成績評価方法・基準〕
提出作品により総合的に評価する。

11 造形演習Ⅱ　Form Exercises Ⅱ

必修　３単位　後期　　１年全組　教　授　荒井　俊也

〔授業の達成目標〕
各種素材の加工方法を身につけること。空間と立体物の関係性を理解できるようになること。

〔授業の概要〕
立体構成課題の制作を通して空間の理解を深める。紙，木材，金属，発泡材といった素材の特質を理解し，材料や道具の扱い方や工作技術を身につけることを到達目標とする。また，研磨作業をとおして作品の完成度を理解できるようになる。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション，立方体のアウトラインによる立体構成①　図面と材料の切断
第２回：立方体のアウトラインによる立体構成②　組み立て
第３回：カップの断面による立体構成①　図面と部材の切り出し
第４回：カップの断面による立体構成②　組み立て
第５回：バターナイフ（金属加工）①　削りと接着
第６回：バターナイフ（金属加工）②　削りと研磨
第７回：バターナイフ（金属加工）③　研磨と仕上げ
第８回：ハンドスカルプチャー（木材加工）①　切断と荒削り
第９回：ハンドスカルプチャー（木材加工）②　削りと研磨
第10回：ハンドスカルプチャー（木材加工）③　研磨と仕上げ
第11回：スピードシェープ（発泡材加工）①　切断と荒削り
第12回：スピードシェープ（発泡材加工）②　削りと研磨
第13回：スピードシェープ（発泡材加工）③　研磨と仕上げ
第14回：課題の整理と修正
第15回：立体作品の撮影と総括

〔教科書・参考書等〕
なし

〔準備学習等〕
家で描いたアイディアスケッチを持参して演習にのぞむこと。また，反省点をノートにまとめ次回の制作に生かすこと。日常的にアイディアスケッチの練習をすること。

〔成績評価方法・基準〕
提出作品の完成度で評価する。

12 デザイン基礎演習　Basic Exercises in Design Planning

必修　４単位　後期　　１年全組　教　　授　原田　一　　准教授　梅田　弘樹
准　教　授　篠原　良太　　准教授　堀江　政広
非常勤講師　椋尾　倫己

〔授業の達成目標〕
各コース別のテーマに取り組み，各々のデザイン手法の習得と，デザイン行動意欲を高めることを目指す。

〔授業の概要〕
デザイン基礎演習では，クリエイティブデザイン学科の専門領域である，プロダクトデザイン（PD），エクスペリエンスデザイン（XD），ビジュアルデザイン（VD）の３コースのデザインテーマに取り組み，そのデザイン手法の習得を目指す。具体的な内容は，PDコースは「立体の表現」，XDコースは「体験のイラストマップの制作」，VDコースは「フリップブックの制作」である。そしてそれぞれの取り組みを通して，各自の適正にあった領域にある一つのコースを授業終了時に選択させ，２年次のデザイン実習につなげる。

〔授業計画〕
全体を３グループに分け，学生は並列に開かれるPD・XD・VD　各コースの演習を１/３の期間ずつ，全てを受講する。
第１回：ガイダンス（梅田，篠原，堀江，椋尾）
第２回：PD-立体の表現（１）ペーパー立体モデルの制作（原田）
第３回：PD-立体の表現（２）単純な立体のスケッチ（梅田）
第４回：PD-立体の表現（３）アルファベット立体のスケッチ（梅田）
第５回：PD-立体の表現（４）プレゼンテーション（原田，梅田）
第６回：XD-体験のイラストマップの制作（１）コンセプト立案とカンプ制作（堀江）
第７回：XD-体験のイラストマップの制作（２）コンセプト発表とカラーペーパーのカット（堀江）
第８回：XD-体験のイラストマップの制作（３）カラーペーパーのカットと貼付け（堀江）
第９回：XD-体験のイラストマップの制作（４）プレゼンテーション（堀江）
第10回：VD-フリップブックの制作（１）コンセプト立案（椋尾）
第11回：VD-フリップブックの制作（２）アイデア展開（椋尾）
第12回：VD-フリップブックの制作（３）作品制作（椋尾）
第13回：VD-フリップブックの制作（４）プレゼンテーション（篠原，椋尾）
第14回：講評（梅田，篠原，堀江）
第15回：まとめ（梅田，篠原，堀江）

〔教科書・参考書等〕
なし

〔準備学習等〕
予習として，デッサン力を向上すること，次の課題のための調査をしておくこと。復習として課題内容を更に追求し，良い作品へと結びつけること。

〔成績評価方法・基準〕
提出作品と，それの発表内容，および取り組み姿勢に基づき総合的に評価する。

46 クリエイティブデザイン特別課外活動　Off-class Practice Design

選択　１～４単位　１年前期～４年後期

本学科の専門に関連の深い資格の取得や検定等の合格，学科が指定する課外活動などに対して，本人の申請に基づいて学科で審査の上，専門選択科目の単位として合計４単位までを認める。
申請した課外活動の内容により１単位あるいは２単位を認定する。

◎資格の取得による単位認定

本学科の専門に関連の深い資格を取得した場合，あるいは検定に合格した場合は，「クリエイティブデザイン特別課外活動」か教養教育科目の「特別課外活動」のいずれかに申請できる。
どのような資格や検定が「クリエイティブデザイン特別課外活動」の対象になるかは学科が判断するが，15ページの説明を参照されたい。

◎学科が指定する課外活動は次のようなものである。

（１）学科内の研究室が単独または合同で実施する調査研究や 各種ゼミへの参加
（２）企業実習への参加
（３）インターンシップへの参加
（４）各種デザインコンペへの応募
（５）自主的に行なう国内・国外のデザイン見聞旅行の計画・実施など

◎単位の申請および認定

単位認定を希望する者は，学科事務室に申し出て，「クリエイティブデザイン特別課外活動単位認定申請書」を受け取り，必要事項を記入して学科事務室へ提出する。
申請は毎年度の１月末日までとする。
単位認定および評価の方法は，20ページの方法に準じて行なうのでそれらを参照されたい。

47 他学科開講科目群　Subjects offered other department

選択　８単位　１年後期～４年後期（他学科開講科目については，１セメスターに２単位まで受講可能とする。）

各科目のシラバスを参照のこと。

48 他大学開講科目群　Subjects offered other universities

選択　４単位　１年後期～４年前期

詳細についてはシラバスの「他大学開講科目群」，学生生活の「学都仙台単位互換ネットワーク協定に基づく東北工業大学特別聴講学生取扱要項」を参照のこと。

安全安心生活デザイン学科

(Department of Life Design for Safety and Amenity)

(専門教育科目)

S D

１安全安心生活デザイン概論　Introduction to Life Design Studies

必修　２単位　前期　　１年全組　全教員

〔授業の達成目標〕
安全安心生活デザイン学科での教育目標と内容を具体的に理解し，学習の動機付けを高める。

〔授業の概要〕
人間の幸福の基本であり，生活の基盤となる安全・安心実現のための科学的な態度や考え方を学ぶ。学科所属教員全員が各専門の立場から講義を行う。３つのコース「心身の健康づくり」,「住まいの安全と快適性」,「安全で安心できるまち作り」を学び本学科が目的とする人材作りの指針を示す。

〔授業計画〕
第１回　安全安心生活デザイン概論ガイダンス
（心身の安全安心づくり）
第２回　安全・安心の心理学（太田）
第３回　スポーツと健康・地域（吉田）
第４回　高齢者の健康づくり（諏訪）
第５回　理解度チェック
（住まいの安全安心づくり）
第６回　住まいと健康（石川）
第７回　これからの住環境計画（小杉）
第８回　生活と空間（小山）
第９回　安全安心な暮らしかた～看護学をとおして～（伊藤）
第10回　理解度チェック
（地域の安全安心づくり）
第11回　地域のくらしと生産（菊地）
第12回　まちづくり・まちおこし（大沼）
第13回　震災と復興（福留）
第14回　理解度チェック
第15回　まとめと課題レポート

〔教科書・参考書等〕
教科書　なし
参考書　自作資料

〔準備学習等〕
予習としては，これから学ぶ分野に関連する書籍などを読んでおくこと。復習として，講義資料などをよく見直すこと。

〔成績評価方法・基準〕
授業中に行う実習レポートや試験を用いて評価する。

２生活デザインセミナーⅠ　SD Seminar for Freshman Ⅰ

必修　１単位　前期　　１年全組　全教員

〔授業の達成目標〕
資料を収集・整理し，ゼミのグループでその結果をまとめ，学年全員の前で発表するための作業を行う。その過程を通して，大学における主体的な学習の仕方，生活デザインの基本的課題について認識できるようになることを目標とする。

〔授業の概要〕
各教員がそれぞれ数人の学生を担当する少人数ゼミナールである。学生は，週一度のセミナーに出席して，担当教員から，大学における主体的な学習の仕方や自律的な生活の仕方を始めとするキャンパスライフ全般についてアドバイスを受けるとともに，担当教員の専門に応じて，安心で安全な生活デザインの入門的な課題について学習する。その上で，学科共通の課題および個々の教員の課題に沿った生活デザインツアーを実施するために，グループでディスカッションやプレゼンテーションを行い，企画を練り上げ，実行する。

〔授業計画〕
第１回：全体セミナー（大学生活ガイダンス・モデルカリキュラム）
第２回：全体セミナー（キャリアガイダンス）
第３回：個別セミナー（ゼミ毎の課題ガイダンス）
第４回：個別セミナー（課題研究）
第５回：個別セミナー（課題検討）
第６回：個別セミナー（課題設定）
第７回：個別セミナー（課題の調査）
第８回：個別セミナー（課題の分析）
第９回：個別セミナー（課題の調査分析のまとめ）
第10回：個別セミナー（生活デザインツアー計画）
第11回：個別セミナー（生活デザインツアー企画書作成）
第12回：個別セミナー（企画書のシミュレーション）
第13回：生活デザインツアー実行１
第14回：生活デザインツアー実行２と調査結果のまとめ
第15回：前期総括

〔教科書・参考書等〕
教科書　なし
参考書　自作資料

〔準備学習等〕
「学生生活」を熟読しておくこと。各ゼミの教員が指定するツアーの課題に関する資料収集や文献調査等の準備を進めておくこと。ツアー後は，後期の生活デザインセミナーⅡに向けて，得られた結果をまとめておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
グループ課題，個人課題の内容点，プレゼンテーションや発表会の内容を総合して評価を行う。

３インテリアデザイン論Ⅰ　Theory of Interior Design Ⅰ

必修　２単位　前期　　１年全組　教　　授　菊地　良覺
非常勤講師　加藤喜久男

〔授業の達成目標〕
①インテリア空間のかたちを決める大きな要素を列挙できること。
②ある条件のもとで，要素組み立てかたちづくる手法のいくつかを習得すること。
③かたちの良し悪しの評価が，歴史的存在である具体的な建築や空間をものさしにして相応にできること

〔授業の概要〕
現代の生活環境では，常に変化するライフスタイルに応じた「もの」・「空間（場）」等の創造が課題となる。ここでは特にインテリアデザインに関して「人―もの―場の関係性」と背景となる場の「色・形・テクスチャー」・「道具の在り様」・「空間量の把握」・「空間計画手法」などに関して講義を行う。
学生の修得目標は，「インテリアの諸要素が把握できる」・「いくつかの計画手法とデザイン条件の設定ができる」等とする。

〔授業計画〕
第１回：「インテリアデザインとは？」のガイダンス（菊地・加藤）
第２回：インテリア計画のアプローチの方法（菊地）
第３回：インテリア空間の表現（菊地）
第４回：生活と空間量をとらえる→動作と単位空間（１）（菊地）
第５回：生活と空間量をとらえる→動作と単位空間（２）（菊地）
第６回：インテリア空間づくりの手法（１）→形・色・テクスチャーの総論（菊地）
第７回：インテリア空間づくりの手法（２）その1（床・壁・天井）（菊地）
第８回：インテリア空間づくりの手法（３）その２（モノ）（菊地）
第９回：インテリア空間づくりの手法（４）→（モジュールその１－西洋）（菊地）
第10回：インテリア空間づくりの手法（５）→（モジュールその２－日本）（菊地）
第11回：インテリア空間づくりの手法（６）→エレメントのデザイン（椅子）（加藤）
第12回：インテリア空間づくりの手法（７）→エレメントのデザイン（家具）（加藤）
第13回：インテリア空間づくりの手法（８）→エレメントのデザイン（テキスタイル）（加藤）
第14回：インテリア空間づくりの手法（７）→エレメントのデザイン（照明）（加藤）
第15回：まとめとしての試験

〔教科書・参考書等〕
教科書「インテリアデザイン教科書」インテリアデザイン教科書研究会編著・自作制作の資料
参考書「インテリアデザインの基礎」カール・クリスチィアン・ホイザー著
「コンパクト設計資料集成」日本建築学会編
「建築製図」朝倉書店
「日本建築の空間」井上充夫著
「日本のデザイン」伊藤ていじ著
「素材と造詣の歴史」山本学治著

〔準備学習等〕
教科書に事前に眼を通す。また，配布資料・講義ノート（参考書も含め）と照らし合わせファイル整理を行う。

〔成績評価方法・基準〕
授業で行うミニ演習と試験による。

4 住まいの文化史

History and Culture of Dwelling Houses

必修　２単位　前期

１年全組　准教授　小山　祐司

〔授業の達成目標〕
居住空間を中心とした空間造形及び空間概念の変容について，そのバックグラウンドとともに理解できること。居住空間に関わる諸現象・諸概念を基礎的専門用語を用いて記述できること。

〔授業の概要〕
日本における住まいを中心に，その生活様式や空間に対する感性の変遷を，古代から現代までについて概説する。更に，西欧の住まいとの比較も行う。
これらを通して，住まいにおける，より質の高いアメニティーの在り方を考える。
具体的には，まず，古代から近代そして現代までの居住空間がどのように変容してきたのかを学び，現代の住まいの在り様を考える。更に，空間概念の変遷を，①主体と客体の空間構成の変化，②ハレとケの分節と「しつらい」による場の転換，③上位・下位，表・奥などの空間序列や空間概念，④モダニズム以後の空間概念，などを中心にして考える。

〔授業計画〕
１．プロローグ
第１回：住宅の今日的な問題点について
第２回：住宅における空間デザイン手法について
２．居住空間の変遷
第３回：原始時代から奈良時代
第４回：平安時代における寝殿造の完成
第５回：平安時代における寝殿造の変容
第６回：平安時代における空間概念　ハレとケ，礼について
第７回：中世における主殿造について
第８回：中世における主殿造から書院造への変容
第９回：中世から近世における空間概念　上と下について
第10回：中世から近世における空間概念　表と奥について
第11回：草庵茶室と数寄屋造について
第12回：近世における様々な階層の居住空間の様態　農民と町人の住まい
第13回：近世における様々な階層の居住空間の様態　侍の住まい
第14回：近代における西欧化から住宅改良へ
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　特に指定しない。適時，教員自作資料を配付する。
参考書　「日本デザイン論」伊藤ていじ著　SD選書
「日本建築の空間」井上充夫著　SD選書
「日本デザイン論」伊藤ていじ著　SD選書
「図説・近代日本住宅史」内田青蔵　他著　鹿島出版会

〔準備学習等〕
教員自作の講義要録を最初に配布します。この資料を手がかりに，参考書として挙げてある書物などを読むこと。また，建築事例の図録などを眺めること。

〔成績評価方法・基準〕
まとめの試験（定期試験），および学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

5 都市防災論

Antidisaster Theory for City-Life

必修　２単位　前期

１年全組　准教授　福留　邦洋

〔授業の達成目標〕
都市防災について学び，その知識を社会貢献に活用できるように指導することを目標とする。

〔授業の概要〕
これまでの災害について学び，その教訓を教える。都市で起こる人工的災害について教え，それに対処する方法について教える。

〔授業計画〕
下記の授業により進める。授業は教室で講義方式で行う。
第１回　都市防災とは
第２回　災害の総論
第３回　災害の各論
第４回　災害の種類
第５回　災害への対策
第６回　都市とは
第７回　都市の構成
第８回　都市と災害
第９回　都市防災と生活
第10回　都市防災と経済
第11回　都市防災と行政
第12回　都市防災と市民活動
第13回　都市防災と医療
第14回　都市防災と若者
第15回　都市防災の総括

〔教科書・参考書等〕
教科書・参考書は特に設定しない。

〔準備学習等〕
防災に関する種々の本を読んでおくこと。

〔成績評価方法・基準〕
試験により評価する。

６心の理解とケア

Personality and Mental Health

必修　２単位　前期

１年全組　教　授　太田　博雄

〔授業の達成目標〕
安全安心生活デザイン学科での教育目標と内容を具体的に理解し，学習の動機付けを高める。

〔授業の概要〕
意識と無意識の世界について学び，神経症や心身症の原因や予防法を理解する。さらに様々な心理検査の実習を通して自己理解を深めていく。具体的には，ロールシャッハテストなどの性格診断テストを行いながら潜在意識についての理解を深め，心の病の原因と予防・治療法を学ぶ。いじめやニートなど，現代社会における心の病は，その原因を理解することによってはじめて解決可能となる。さまざまな心理検査の実習を通して自己理解を図り，心の安定と健康の基礎作りを学んでいく。

〔授業計画〕
第１回　序章（講義内容紹介）
第２回　心理学の諸領域
第３回　性格の理解（ビッグファイブ理論）
第４回　性格の理解（ロールシャッハテスト）
第５回　性格の理解　ゲスフーテスト
第６回　アイデンティティ
第７回　エゴグラム実習
第８回　人間関係とストローク欲求と葛藤
第９回　欲求不満と防衛機制
第10回　欲求不満と防衛機制
第11回　ストレスコーピング
第12回　心身症とは何か
第13回　心身症の原因
第14回　心身症の予防と治療
第15回　理解のまとめ

〔教科書・参考書等〕
自作による教科書使用

〔準備学習等〕
前回行った講義内容について，次回講義当初に小テストとして知識の確認を行いながら進めていくので，ノート整理などによる復習を行うこと

〔成績評価方法・基準〕
授業中のレポート課題と試験の成績により評価する

7 表現技法演習

Exercises Drawing Fundamentals

必修　２単位　前期

１年１組　教　　授　菊地　良覺
非常勤講師　北川　貴子
２組　教　　授　菊地　良覺
非常勤講師　加藤喜久男

〔授業の達成目標〕
①モノや空間を理解し，忠実に再現することを体験すること。
②図面の意味が理解でき，正確に線を使い分けて表現できること。
③与えられた図面のかたちを，等測投象（アイソメトリック）・透視図（パースペクティブ）で表現できること。
④着色の方法を経験すること。

〔授業の概要〕
住まいや地域を考える手段として，更に，表現伝達する手段としてのスケッチ・パースペクティブ・図面等の技法を習得する。具体的には，①視・聴・味・嗅・触の五感を使って観察した上での精密描写を目的とする，道具や車，室内や樹木，街並みのスケッチ，②生産のための図面としての3面図　③対話をするための等角投象図（アイソメトリック），④完成の様子を示す透視図（パースペクティブ），以上の習得を目指す。

〔授業計画〕
思考および伝達のための表現技法の習得を，以下のＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄの順序に沿った作業で行う。
第１回：全体ガイダンス
Ａ）観察と計測－１（「人物」）
第２回：　観察と計測－２（「車・自転車」）
第３回：　観察と計測－３（「樹木とその周辺の学部空間要素」）
第４回：　観察と計測－４（「室内空間」）
第５回：　観察と計測－５（「室内空間の道具」）
第６回：Ｂ）製図－１（室内空間の製図－平面図：アウトラインまで描く）
第７回：　製図－２（室内空間の製図－平面図：仕上げる）
第８回：　製図－３（室内空間の製図－断面展開図：アウトラインまで描く）
第９回：　製図－４（室内空間の製図－断面展開図：仕上げる）
第10回：Ｃ）室内空間のアイソメトリックパースを理解し，描く－下図を描く
第11回：　室内空間のアイソメトリックパースを理解し，描く－仕上げる
第12回：　室内空間のパースペクティブ〔透視図〕を理解し，描く－下図を描く
第13回：　室内空間のパースペクティブ〔透視図〕を理解し，描く－仕上げる
第14回：Ｄ）パースペクティブ〔透視図〕を画用紙にコピーし着彩をおこなう－下図を描く
第15回：　パースペクティブ〔透視図〕を画用紙にコピーし，着彩をおこなう－仕上げる

〔教科書・参考書等〕
教科書　「建築製図」朝倉書店
参考書　「コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編

〔準備学習等〕
日常不断にモノや空間をよく観察し，スケッチする。モノや空間の大きさの確認と素材や色彩などにも気を配る。
併せて，使用しつつ評価し，問題点も探るように努める。

〔成績評価方法・基準〕
出題課題作品全てによる評価

8 生活デザインセミナーⅡ

SD Seminar for Freshman Ⅱ

必修　１単位　後期

１年全組　全教員

〔授業の達成目標〕
資料を収集・整理し，ゼミのグループでその結果をまとめ，学年全員の前で発表する。その過程を通して，大学における主体的な学習の仕方，生活デザインの基本的課題について認識できるようになることを目標とする。併せて，学生は，それぞれ自己の将来の進路を考える。

〔授業の概要〕
少人数ゼミナールである生活デザインセミナーⅠに引き続き，ここでは，学科共通の課題および個々の教員の課題に沿った生活デザインツアーの結果について，グループでディスカッションやプレゼンテーションを行いながら，安全で安心な生活デザインのさまざまな課題に対する眼を養う。また，学生は，検査結果の分析と学生自身の将来像に関するレポート作成を行う。これらを通して，分析力と構想力を養うことを狙いとする。そして，今後の学習の方法と内容および将来の進路や職業を展望する。

〔授業計画〕
第１回：全体セミナー（ガイダンス，生活指導など）
第２回：個別セミナー（生活デザインツアー資料のまとめ）
第３回：個別セミナー（生活デザインツアー報告書作成）
第４回：全体セミナー（発表会）
第５回：全体セミナー（プレゼンテーションの評価）
第６回：全体セミナー（地域系キャリアガイダンス）
第７回：全体セミナー（住まい系キャリアガイダンス）
第８回：全体セミナー（心身系キャリアガイダンス）
第９回：個別セミナー（「自分史」ガイダンス）
第10回：個別セミナー（自分の過去）
第11回：個別セミナー（自分の現在）
第12回：個別セミナー（自分史の未来）
第13回：個別セミナー（自分史のまとめ）
第14回：個別セミナー（自分史の発表）
第15回：個別セミナー（総括）

〔教科書・参考書等〕
教科書　なし
参考書　自作資料

〔準備学習等〕
各ゼミの教員が指定するツアー成果の発表準備や自分史作成のための資料収集を進めておくこと。セミナー終了後は，自分の進路（コース選択・就職）についての考えをまとめておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
グループ課題，個人課題の内容点，プレゼンテーションや発表会の内容を総合して評価を行う。

9 住まいの計画

Planning of Housing

必修　２単位　後期

１年全組　准教授　小杉　　学

〔授業の達成目標〕
①住まいづくりに関わる仕事が有意義で，やりがいのあることを知ること。
②生活者の視点に立って，住まい及び住環境に対する人々の要求を把握できるようになること。
③住まいの計画，監理，改善に関する基礎的な考え方や技術を身につけて，２年次以降に積み上げる専門知識が吸収できる基盤を作ること。

〔授業の概要〕
この授業では，現代の日本の住まいや住環境を対象にして，
①それはどんな特徴を持っているのか
②そこに住む人の生活や社会とどう関係しているのか
③現在，それはどんな技術で作られているのか
④今，そこはどんな問題を抱えているのか
⑤これから，どんなことに配慮してつくっていくべきか，
を講義する。

〔授業計画〕
第１回：講義の内容と進め方について
第２回：我が国にはどんな住まいがどれくらいあり，どんな水準か
第３回：大昔から現代まで，住まいはどう変化してきたのか
第４回：現代の都市の住まいは，どんな形態をしているのか
第５回：住まいの形態は，生活の変化とどう関係しているのか
第６回：少子高齢化の時代，住まいはどんな問題をもっているのか
第７回：住まいはどう作られ，取得者の要求はどう入れられるのか
第８回：住まいを取得するための資金は，どうしたらよいのか
第９回：都市計画や法規は，住まいづくりにどう関係しているのか
第10回：住まいはどんな材料を使って，どう作られているのか
第11回：住まいの間取りを決めるには，何を考えたらよいのか
第12回：都市に集まって住むときに，生活にはどんな問題が
第13回：都市に住むときに，住まいの形態はどんなものになるのか
第14回：これからの社会では，住まいの形態はどう変わるか
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
テキスト：講義の時間に毎回プリントを配布する

〔準備学習等〕
日頃から新聞やテレビで取り上げる住まいの問題を関心をもって見ること。
次週の学習について配布するプリントに目を通してくること。

〔成績評価方法・基準〕
毎回の授業内容をどの程度理解したかを知るレポートの評価点と，期末の講義全体の理解度を見る試験の２つによって評価する。

10 住まいの環境工学Ⅰ　Environmental Engineering for Dwelling,Part Ⅰ

必修　２単位　後期　　１年全組　教　授　石川　善美

〔授業の達成目標〕
省エネルギーと居住環境の質の向上を前提として，室内環境と外部環境の関係を理解できるようになること。熱負荷の推定や結露防止，室内空気汚染防止の意義を理解できるようになること。以上の結果と具体的な室内環境のデザインがどこで結びついているかについて説明できるようになること。

〔授業の概要〕
本講は，住まいと人間をとりまくさまざまな物理的環境を取り扱うもので，住まいの環境がどのようにしてつくられるか，どのようにして制御できるかについて学び，人間の生活空間を健康的で快適かつ作業能率の高い環境につくりあげるための基礎事項を習得することを目的とする。ここでは，主として，暖かくて涼しい住まい，湿気のない住まい，空気のきれいな住まい，に焦点を当てて学習し，安全で安心な住まいを成り立たせるための，暖冷房と換気の計画の重要性，省エネルギー計画の必要性などを考察する。

〔授業計画〕
第１回：序論，ガイダンス
第２回：自然環境の利用と制御（１）気候要素と生活
第３回：自然環境の利用と制御（２）太陽エネルギーと太陽位置
第４回：自然環境の利用と制御（３）日照と日影
第５回：自然環境の利用と制御（４）日照調整計画とブリーズソレイユ
第６回：暖かくて涼しい住まい（１）熱環境と生活
第７回：暖かくて涼しい住まい（２）伝熱の三つのプロセス
第８回：暖かくて涼しい住まい（３）熱伝達と熱貫流
第９回：暖かくて涼しい住まい（４）熱負荷
第10回：暖かくて涼しい住まい（５）暖冷房計画とパッシブデザイン
第11回：湿気のない住まい（１）相対湿度と絶対湿度
第12回：湿気のない住まい（２）結露防止
第13回：空気のきれいな住まい（１）室内空気汚染とシックハウス
第14回：空気のきれいな住まい（２）換気計画の重要性
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
参考書　石川善美，垂水弘夫ほか：熱と空気のデザイン，井上書院，2,500 円
日本建築学会編：雪と寒さと生活Ⅰ，発想編，彰国社，3,000 円

〔準備学習等〕
日常的に，自らの生活と住まいの環境（熱環境や空気環境）との関係およびその問題点などに注意をはらっておくこと。予習として，あらかじめ配布してある次回講義分の目次および講義ノートをよくみておくこと。復習として，前回講義分のノートや配布資料などを自分なりに整理しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
宿題レポート提出 20％，試験 80％の配分で総合的に評価する。

11 地域の産業デザイン論Ⅰ　Advancement of Regional Industry Ⅰ

必修　２単位　後期　　１年全組　准教授　大沼　正寛

〔授業の達成目標〕
仙台・宮城・東北の歴史地理と，生活・生業・産業について，基礎知識を修得すること。

〔授業の概要〕
地域と産業とは，本来，互いに育成される関係にある。かつては南から北まで，あるいは海から山まで，地の利を生かした産業が栄え，そこに多様な文化が育まれた。しかし近代以降は，大きなグローバリゼーションの波が押し寄せ，現代に至っている。そしていま，両者をともに受け入れつつ，相克するデザインが必要となっている。
本講では，それらを考えるうえでの基礎知識を涵養するため，「東北の歴史地理」「生活･生業･産業」の２つのテーマについて概説する。前編では仙台・宮城・東北の具体的な風景を観察し，後編ではそこに息づく多様な生活空間とそれを支える生業･産業のあゆみをみつめる。それらを「地域の産業デザイン論Ⅱ」の準備的考察としたい。

〔授業計画〕
第１回：序論・産業と歴史地理
第２回：仙台・宮城・東北論１：東北の古代中世
第３回：仙台・宮城・東北論２：仙台領48館－武家地と屋敷構え
第４回：仙台・宮城・東北論３：まちなみ文化財に学ぶ
第５回：仙台・宮城・東北論４：城下町仙台の構成と痕跡
第６回：仙台・宮城・東北論５：東北の近代化遺産
第７回：仙台・宮城・東北論６：災害と復興
第８回：ミニテスト＆レポート：仙台・宮城・東北論
第９回：生活・生業・産業史１：農村のくらしと近代
第10回：生活・生業・産業史２：町場のくらしと近代
第11回：生活・生業・産業史３：山村のくらしと近代
第12回：生活・生業・産業史４：漁村のくらしと近代
第13回：生活・生業・産業史５：港湾・電源と東北開発史
第14回：生活・生業・産業史６：３・11前夜の東北
第15回：ミニテスト＆レポート：生活・生業・産業史

〔教科書・参考書等〕
教科書　適宜資料を配布する
参考書　適宜紹介する

〔準備学習等〕
教科書に事前に眼を通す。また，配布資料・講義ノート（参考書も含め）と照らし合わせファイル整理を行う。

〔成績評価方法・基準〕
授業で行うミニ演習と試験による。

12 健康・スポーツ・地域　Health,sport,and Community

必修　２単位　後期　　１年全組　准教授　吉田　　毅

〔授業の達成目標〕
健康の基礎知識，スポーツと健康との関係性，スポーツそれ自体の基礎知識，地域の健康問題および地域とスポーツとの関係性について理解する。

〔授業の概要〕
本授業では，まず心身の安全安心とは健康を意味するものと捉える。その上で，近現代の健康の捉え方と現代の主な健康問題，また，健康づくりのために重要視されるスポーツの諸側面について論じる。さらに，わが国の再生の鍵を握る地域に着目し，地域がこれまでどのように変容してきたのかと，主な地域的健康問題，そして相互規定的な関係にあるとも言える地域振興とスポーツ振興の問題について議論を展開する。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：健康概念の変容
第３回：健康の現代的な捉え方
第４回：現代の健康問題①－主に身体をめぐって－
第５回：現代の健康問題②－主に精神をめぐって－
第６回：ライフステージと健康
第７回：スポーツの概念と現代スポーツの基礎理論
第８回：スポーツと健康との関連性
第９回：生涯スポーツ論
第10回：わが国における地域の変容
第11回：地域の健康問題①－主に都市化をめぐって－
第12回：地域の健康問題②－主に高齢化をめぐって－
第13回：地域スポーツ論①－大衆化路線－
第14回：地域スポーツ論②－高度化路線－
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
自作資料

〔準備学習等〕
健康，スポーツ，地域に関する情報に日頃から留意する。特に新聞やインターネットでこれらの情報を読むことに努める。

〔成績評価方法・基準〕
基本的に中間テスト40％，期末テスト60％。ただし，授業に取り組む姿勢も加味する。

25 インテリアデザイン論Ⅱ　Theory of Interior Design Ⅱ

選択　２単位　後期

１年全組　教　　授　菊地　良覺
非常勤講師　加藤喜久男

〔授業の達成目標〕
学生は，講話で紹介した内容をもとに，可能な限り実物に触れた内部空間の観察のもと，評価・分析を行い，問題点と課題の抽出ができる能力を身につけることとする。

〔授業の概要〕
インテリアデザインⅠで修得した内容をもとに，ここでは具体的な内部空間を持つ「乗り物・住まい・公共施設・商業施設・戸外空間」等の事例を通して，「空間構成要素とその関連性」･「作り手（デザイナーやアーキテクチャー）の意図や手法を読み取る」等を講話する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業の進め方の解説）…（菊地･加藤）
第２回：プライベートスペースのインテリア計画－１（収納方式）……（加藤）
第３回：プライベートスペースのインテリア計画－２（サニタリー）……（加藤）
第４回：プライベートスペースのインテリア計画－３（地下空間）……（菊地）
第５回：プライベートスペースのインテリア計画－４（高齢者の空間）……（菊地）
第６回：パブリックスペースのインテリア計画－１（オフィス）……（加藤）
第７回：パブリックスペースのインテリア計画－２（宿泊施設）……（加藤）
第８回：パブリックスペースのインテリア計画－３（大型店と小売店舗）……（菊地）
第９回：パブリックスペースのインテリア計画－４（外部空間のカラー）……（菊地）
第10回：パブリックスペースのインテリア計画－５（外部空間のモノ）……（菊地）
第11回：パブリックスペースのインテリア計画－６（外部空間とサスティナブルデザイン）……（菊地）
第12回：パブリックスペースのインテリア計画－７（乗物内のインテリア）……（加藤）
第13回：パブリックスペースのインテリア計画－８（サインデザイン）……（菊地）
第14回：パブリックスペースのインテリア計画－９（樹木）……（菊地）
第15回：まとめとしての試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　インテリアデザイン教科書」インテリアデザイン教科書研究会編著
参考書　「コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編
「建築製図」朝倉書店
他その都度紹介する

〔準備学習等〕
教科書に事前に眼を通す。また，配布資料・講義ノート（参考書も含め）と照らし合わせファイル整理を行う。

〔成績評価方法・基準〕
授業で行うミニ演習と試験による。

26 防災コミュニケーション　Communication for Antidisaster

選択　２単位　後期

１年全組　准教授　福留　邦洋

〔授業の達成目標〕
防災時のコミュニケーションがどのようでなければならないかを学び，その知識を地域において活用できるように指導する。

〔授業の概要〕
都市防災論では都市の防災のあり方を学んだ。都市は人間が住むために構築されているものであるから，都市の防災を考える場合，そこには住んでいる人々の生活を無視しては論じられない。人間の生活は人々相互のコミュニケーションから成り立っていると言っても過言ではない。防災には非日常的なコミュニケーションが要求される。非日常的なコミュニケーションを日常生活の中でどのように構築すべきかを学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：防災コミュニケーションとは
第２回：災害と防災と復旧
第３回：防災のいろいろ
第４回：復旧のいろいろ
第５回：日常のコミュニケーションと非日常のコミュニケーション
第６回：コミュニケーションの日常から非日常への変換
第７回：世代とコミュニケーション
第８回：世代間のコミュニケーション
第９回：コミュニケーションの世代継続
第10回：コミュニケーション教育
第11回：学校教育
第12回：家庭教育
第13回：社会教育
第14回：コミュニケーションと行政
第15回：コミュニケーションと社会

〔教科書・参考書等〕
なし

〔準備学習等〕
防災およびコミュニケーションに関する本を事前に沢山読んでおくこと。

〔成績評価方法・基準〕
定期試験によって評価する。

27 設計計画基礎演習　Primary Planning Design Exercises

選択　２単位　後期

１年１組　非常勤講師　渡邉　武海
２組　非常勤講師　佐藤　　充

〔授業の達成目標〕
安全で安心な住まいのデザイン手法とデザインプロセスの基礎を修得する。先ず，製図用具の正しく合理的な使用方法を習得し，製図方法や製図記号の意味を理解する。次に各種図面の役割を理解し，二次元の図面から立体をイメージし，更に，立体を二次元図面として表現する技術を身につける。

〔授業の概要〕
安全で安心な住まいの計画と設計製図について，デザイン手法の基礎関わる講義を受け，製図作業に取り組みながら空間を表現する基本を学ぶ。課題に関する講義に始まり，事例の参考図書の研究や取材を行い，平面図などの各種図面描きを作品として提出し，最後にプレゼンテーションを行って講評を受ける。具体的には，日本の名住宅建築の図面や写真を基に，コピー製図を行いながら学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンスと課題１の説明と製図の基礎
第２回：課題１　都市型木造小住宅の理解と製図
配置と平面計画の説明
第３回：　平面図の作成　基準線から躯体まで
第４回：　平面図の作成
間仕切り・建具から床仕上げ　記号と文字
第５回：　断面図の作成
第６回：　正面図の作成
第７回：　側面図の作成
第８回：課題１　作品提出と講評
第９回：課題２　都市型ＲＣ壁式構造住宅の理解と製図
配置と平面計画の説明
第10回：　平面図の作成　基準線から躯体まで
第11回：　平面図の作成
間仕切り・建具から床仕上げ　記号と文字
第12回：　断面図の作成
第13回：　正面図の作成
第14回：　側面図の作成
第15回：課題２　作品提出と講評

〔教科書・参考書等〕
参考書　コンパクト建築設計資料集成　日本建築学会編／清家清，吉村順三，宮脇壇，安藤忠雄などの作品集

〔準備学習等〕
配布された課題要旨や関係資料の他，関係する参考となる資料を読み込み，ファイルに整理すること。
制作作品等はポートフォリオとしてまとめ，常に内容・質を高めるようにすること。

〔成績評価方法・基準〕
提出物（作品・レポート）とその発表の内容をもとに評価を行う。

54 生活デザイン特別課外活動　Off-class Practice in Life Design

選択　１～４単位　１年前期～４年後期

全学年全組　教　授　菊地　良覺

本学科の専門に関連深い資格取得，検定等の合格，及び学科が指定する課外活動（ボランティア活動も含む），各種デザインコンペへの応募に対して本人が単位申請を行った場合，学科で審査の上，上限４単位で専門科目としての単位認定を行う。

１．資格取得による単位認定

本学科の専門に関連のある資格を取得した場合，あるいは検定に合格した場合は，専門教育科目の「生活デザイン特別課外活動」か，教養教育科目の「特別課外活動」のいずれかに申請できる。どちらの科目に申請するかは本人が選択する。
どのような資格や検定が「生活デザイン特別課外活動」の対象となるかは，学科が判断するが，シラバスの説明（19 ページ）を参照すること。

２．学科が指定する課外活動による単位認定

１）シラバスで指定されている学科指定の活動に対する評価は，次のポイント加算を行う。
１単位は5pt以上，２単位は 10pt 以上，３単位は 15pt 以上，４単位は 20pt 以上とする。

（１）学科内の各研究室が単独または，合同で実施する調査研究・各種ゼミへの参加。１pt ／日
（２）企業実習などへの参加。１pt ／日
（３）自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施。１pt ／日
（４）学科が実施する対外活動への参加，大学祭での生活デザイン作品・企画の展示。１pt ／日
（５）学科が認定するボランティア活動への参加。１pt ／日
（６）その他，学科で認めた活動。１pt から２pt ／日

２）前項で指定された活動についてポイント取得を申請する場合には，「活動報告書（Ａ４用紙で 10 枚程度の報告書）」と「参加を証明する資料」を揃えて教務委員に申請すること。
３）発行されたポイント証明書と返却された資料は，学生が自分で保管すること。
４）５pt 以上取得した学生は，所定の資料とポイント証明書を揃えた上で，シラバス 20 ページの手順に従い，単位認定を申請できる。

３．各種デザインコンペへの応募による単位認定

各種デザインコンペへの応募に対する評価は，顕彰の程度を適正に考慮し行う。

４．申請について

１）単位認定を希望する学生は，学科事務室に申し出て「生活デザイン特別課外活動単位認定申請書」を受取，必要事項を記入の上，必要書類（上記「２の２），４）」，及びシラバス参照）ともに，学科事務室に提出すること。
２）申請時期は，学期末の７月末日と１月末日とする。
３）単位認定及び評価の方法は，シラバス 20 ページに示されている方法に準じて行われるので参照すること。

55 他学科開講科目群　Interdisciplinary Topics

選択　８単位　１年後期～４年後期

学生が本学科における専門知識をより深く理解するため，他学科の開講科目を履修する機会を設けている。他学科の専門科目として開講されている講義等を履修することにより，単位が認定される。受講に際しては，長町キャンパス事務室（八木山キャンパス・学生サポートオフィス）から，専用の申込用紙を受け取ること。先ず，科目担当教員の了解を得て，本学科教務委員に提出すること。

詳細は，当該科目のシラバスを参照のこと。

56 他大学開講科目群　Subjects offered other universities

選択　４単位　１年後期～４年前期

詳細についてはシラバスの「他大学開講科目」，学生生活の「学都仙台単位互換ネットワークに基づく特別聴講学生取扱要項」を参照のこと。

経営コミュニケーション学科

MC

(Department of Management and Communication)

(専門教育科目)

MC

１経営学入門　Introduction to Management

必修　２単位　前期　　１年１組　教　授　阿部　敏哉

〔授業の達成目標〕
企業の仕組みと働きを理解し，企業が直面する問題についても自分なりに考えられるようになること。

〔授業の概要〕
本講義では主として企業という組織に焦点を当てる。現代の社会に与える企業の影響力が非常に大きいことはもちろん，我々はさまざまな形で企業と関係を持っており，企業の仕組みと働きを学ぶことは，重要な意味を持つと思われるからである。具体的には，企業の仕組みや働きに加えて，企業と環境との関わりの問題や，企業の社会的責任（CSR）の問題など，企業の抱える現代的課題にも着目し，企業の全体像を幅広い視点から把握できる能力の獲得を目指す。

〔授業計画〕
第１回：なぜ経営学を学ぶのか
第２回：企業とは何か
第３回：企業と環境の関わり
第４回：経営戦略　その１　戦略の基本的考え方
第５回：経営戦略　その２　成長戦略
第６回：経営戦略　その３　競争戦略
第７回：前半のまとめと試験
第８回：企業とマネジメント　その１　経営管理とは何か
第９回：企業とマネジメント　その２　組織と経営管理
第10回：組織形態　その１　組織の構造原理
第11回：組織形態　その２　組織構造の類型
第12回：企業の社会的責任
第13回：ケーススタディ　その１　企業と環境
第14回：ケーススタディ　その２　企業と戦略
第15回：後半のまとめと試験

〔教科書・参考書等〕
本講義はテキストを使用しない。なお随時自主制作資料を配付する。

〔準備学習等〕
特に予習は必要としないが，毎回講義後に必ずノートを整理し直し，重要なポイントを復習しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
定期試験の結果及び講義に取り組む姿勢等を総合的に評価する。

２会計学入門　Introduction to Accounting

必修　２単位　前期　　１年１組　教　授　土田　義憲

〔授業の達成目標〕
簿記・会計の基本的な知識を身につける。

〔授業の概要〕
簿記に特有な考え方を理解し，簿記一巡の流れを体系的に学び，帳簿への記帳や計算表の作成を行う。その上で，財務諸表を理解し，財務諸表分析を行い，企業活動に役立てることを学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：会計の必要性と機能,および簿記の役割
第２回：複式簿記の構造（仕訳と勘定科目）
第３回：複式簿記の成果物（貸借対照表と損益計算書）
第４回：会社設立と利益計算の原則
第５回：資本金と借入金の記録
第６回：売上の記録
第７回：代金回収の記録
第８回：仕入の記録
第９回：代金支払の記録
第10回：たな卸資産と売上原価の記録
第11回：営業経費の記録
第12回：固定資産と減価償却費の記録
第13回：財務諸表，連結財務諸表
第14回：財務分析
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
テキスト：毎回レジュメを配布する。
参考書・参考資料：日商簿記３級テキスト

〔準備学習等〕
基本的に次回のレジュメを事前に配布するので，予習としてレジュメを読んでおく，復習として講義内容の理解を深める。講義では練習問題の答練を，適宜，取り入れる。

〔成績評価方法・基準〕
小テストおよびレポート50％＋期末テスト50％で評価する。

３心理学入門　Introduction to Psychology

必修　２単位　前期　　１年１組　准教授　二瀬　由理

〔授業の達成目標〕
以下の４点を理解することを目標とする。
①人間がどのようにして外界を理解しているのか
②自分をよりよく理解するためにはどうすればいいのか
③他人を理解し，良い関係を保つためにはどうすればよいのか
④多くの人々の行動や嗜好を調べるためにはどうすればよいのか

〔授業の概要〕
本講義では,心理学のさまざまな分野の研究を概説する。特に，“人間の情報処理的側面の理解”，“自己理解”，“他者理解と対人認知”，“心理測定”という４つの項目に焦点を当て，講義を進める。

〔授業計画〕
第１回：心理学とは何か
第２回：感覚・知覚
第３回：認知
第４回：記憶と学習
第５回：欲求と動機付け
第６回：社会的行動
第７回：対人行動
第８回：集団心理
第９回：ストレスとフラストレーション
第10回：臨床心理学
第11回：精神的疾患および精神的治療
第12回：心理テスト
第13回：心理測定
第14回：心理統計
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
「図説心理学入門」　齊藤勇著　誠信書房

〔準備学習等〕

〔成績評価方法・基準〕
随時授業中に行う確認テストおよび授業中に提示する課題（20％）と学期末テスト（80％）の成績に基づいて評価する。

４コミュニケーション入門 Introduction to Communication

必修　２単位　前期　　１年１組　教　授　宮曽根美香

〔授業の達成目標〕
コミュニケーションについての諸理論および特徴について学び，効果的にコミュニケーションを行う方法を学習する。

〔授業の概要〕
最初に自分のコミュニケーションについて振り返り，コミュニケーションとは何か，何故行うのかを考えてみる。続いてコミュニケーションの定義とレベル，特徴および幾つかのコミュニケーションモデルを学ぶ。さらに，言語および非言語メッセージについても触れ，それぞれの特徴と重要性を認識する。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：コミュニケーションの定義・特徴・レベル
第３回：コミュニケーションモデル
第４回：対人コミュニケーションの定義・特徴・構成要素
第５回：言語の特徴とインパクト
第６回：言語メッセージ
第７回：まとめと試験
第８回：非言語コミュニケーションの特徴と機能
第９回：非言語コミュニケーションのタイプ
第10回：非言語メッセージ
第11回：自己概念
第12回：コミュニケーションと自己概念
第13回：自己表現：アイデンティティー・マネジメント
第14回：アイデンティティー・マネジメントとしてのコミュニケーション
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：『人間とコミュニケーション』原岡一馬編　ナカニシヤ出版　2,400円＋税　その他ハンドアウトを配布する。

〔準備学習等〕
教科書および資料の関連箇所を読んでくる。

〔成績評価方法・基準〕
試験（90%）と課題（10%）で総合的に評価する。

５現代メディア論 Modern Media Studies

必修　２単位　前期　　１年１組　准教授　猿渡　　学

〔授業の達成目標〕
映像（写真と動画）について概論をおこなう。映像は常に私たちの視覚を刺激し，自由な表現のひとつとして認知されているのである。また，映像には様々なメッセージが込められている。では，映像は言語と同じような体系化されたコミュニケーションの一つであるといえるのだろうか？この疑問に対して，写真や映画など，様々な映像原理を検証することで，「映像＝コミュニケーション」を証明することを目標とする。

〔授業の概要〕
映像技術についての歴史的経緯を理解し，また動画について原理的な側面をテキスト等で示す。また写真技術とその周辺領域を示す。それを前提として，映像表現についての技術的または表象文化論的言説の理解の上に，現在の映像について受講者が観察し，解釈することができることを目指す。（Walter Benjamin，Roland Barthes などのテキストを援用する）

〔授業計画〕
第１回：現代メディアと技術の融合（オリエンテーション）
第２回：世界のコマーシャルと日本のコマーシャル（映像紹介）
第３回：動画の原理（１）－映像技術の発達史－
第４回：動画の原理（２）－動画の原理を理解する－
第５回：動画の原理（３）－「視覚」についての理解－
第６回：世界の写真，日本の写真（映像紹介）
第７回：写真論（１）－写真の誕生－
第８回：写真論（２）－写真の展開・ストレート写真－
第９回：写真論（３）－写真の展開・ピクトリアリズム－
第10回：作品解釈と理解（１）－Roland Barthes『L'obvie et l'obutus』より－
第11回：作品解釈と理解（２）－Roland Barthes『L'obvie et l'obutus』より－
第12回：作品解釈と理解（３）－Roland Barthes『La Chambre Claire Note sur la photographie』より－
第13回：作品解釈と理解（４）－Walter Benjamin『The Work of Art in the Age of Mechanical Reproduction』より－
第14回：作品解釈と理解（５）－Walter Benjamin『The Work of Art in the Age of Mechanical Reproduction』より－
第15回：総論と試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　指定しない。講義ではプリントを用いる。
参考書　講義中に適宜指示する。

〔準備学習等〕
講義開始前に配布された資料を熟読し，課題をおこなってくること（詳細は掲示などで確認すること）

〔成績評価方法・基準〕
講義中の小テスト，課題ならびにまとめの試験によって総合的に評価する。

６経営コミュニケーションセミナーⅠ Management and Communication Seminar Ⅰ

必修　１単位　前期　　１年１組　全教員

〔授業の達成目標〕
本授業の達成目標は以下の３項目である。
①経営コミュニケーション学科での学生生活を送る心構えをする
②大学での講義・演習の履修に必要な学習スキルを獲得する
③基礎学力を向上させる

〔授業の概要〕
大学での学習，生活一般についての概説と指導から始まり，さまざまな課題を通して，これから４年間経営コミュニケーション学科で学ぶために必要な学習スキルを獲得する。さらに，今後の専門科目の習得および，就職試験も視野にいれた基礎学力の向上のための課題やテストなども実施する。

〔授業計画〕
第１回：個別セミナー
第２回：全体セミナー
第３回：全体セミナー
第４回：全体セミナー
第５回：全体セミナー
第６回：全体セミナー
第７回：全体セミナー
第８回：個別セミナー
第９回：全体セミナー
第10回：全体セミナー
第11回：全体セミナー
第12回：全体セミナー
第13回：全体セミナー
第14回：全体セミナー
第15回：個別セミナー

〔教科書・参考書等〕
特になし。必要に応じて知らせる。

〔準備学習等〕

〔成績評価方法・基準〕
以下の評価項目に従って単位認定を行う。
積極性（参加の姿勢），成果の質の高さ（課題の内容）

７数学基礎　Basic Mathmatics

選択　２単位　前期　　１年１組　講　師　佐藤　文雄

〔授業の達成目標〕
経営学・経済学・就職試験に必要な数学の知識と計算力を身につける。

〔授業の概要〕
高等学校の数学Ⅰ，数学Ａ，数学Ⅱ，数学Ｂに含まれる内容を復習し，経営学・経済学・就職試験における利用例なども紹介する。

〔授業計画〕
第１回：基本的な計算
第２回：式の計算
第３回：方程式
第４回：数列
第５回：１次関数
第６回：２次関数
第７回：２次関数の応用
第８回：これまでのまとめ
第９回：多項式の割り算・剰余の定理
第10回：因数定理・高次方程式
第11回：導関数
第12回：整関数の微分
第13回：増減表
第14回：微分の応用
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：自作の講義プリントを配布する。

〔準備学習等〕
高等学校の数学Ⅰの内容を復習しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
小テスト及び宿題（40％）＋試験（60％）で評価する。

８組織心理学　Organization Phycology

必修　２単位　後期　　１年１組　教　授　阿部　敏哉

〔授業の達成目標〕
組織に関わる個人の心理を理解し，それを日常生活や組織経営に役立てられるようになること。

〔授業の概要〕
本講義では，我々が様々な組織の一員としてよりよく生きるために必要な心理学的知識について解説を行う。具体的には，個人のモチベーション，リーダーシップ，集団力学等を取り上げ，具体的な例を交えながらそれらの概念を学んでいく。それにより，組織内での様々な問題に対し，心理学的見地から自分の言葉で説明できるようになることを目指す。

〔授業計画〕
第１回：組織心理学とは何か
第２回：人間の行動と知覚
第３回：態度と組織
第４回：モティベーション　その１　内容理論
第５回：モティベーション　その２　過程理論
第６回：個人の意思決定
第７回：前半のまとめと試験
第８回：集団力学
第９回：コミュニケーション
第10回：役割と規範
第11回：権力と政治
第12回：リーダーシップ
第13回：集団的意思決定
第14回：組織変革
第15回：後半のまとめと試験

〔教科書・参考書等〕
本講義はテキストを使用しない。なお随時自主制作資料を配付する。

〔準備学習等〕
履修にあたり「経営学概論」の内容をきちんと理解していること。また予習は不要であるが，毎回講義後は必ずノートを整理し直し，重要なポイントをきちんと理解しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
定期試験の結果及び講義への取り組み等を総合的に評価する。

９工業経営学入門　Introduction to Industrial Management

必修　２単位　後期　　１組１組　教　授　渡部　順一

〔授業の達成目標〕
事業に対する経営能力と構想力を身につけるための導入支援科目である。
①工業経営，あるいは，技術マネジメントとは何かについて理解すること
②イノベーション（技術革新）について，基礎知識を身につけること
③当該分野についてどのような活動が行われているか学ぶことを到達目標としている。

〔授業の概要〕
日本の国際競争力の源泉である「ものづくり」について，経営学の視点から学習するものである。
日本の産業構造，イノベーションの原理を学ぶことにより，企業を取り巻く外部環境については競争戦略論の立場から，企業の内部資源については資源管理論の立場から基礎的な学習能力を醸成する。

〔授業計画〕
第１回：イントロダクション（授業の進め方，レポートの書き方）
第２回：工業経営，あるいは，技術マネジメント
第３回：産業分類，並びに，日本の産業構造
第４回：産業集積
第５回：イノベーション
第６回：競争戦略
第７回：技術開発，並びに，製品開発
第８回：ビジネス・システム，並びに，価値連鎖
第９回：生産管理
第10回：先行研究・事例研究その１（国の産業政策）
第11回：先行研究・事例研究その２（県の産業政策）
第12回：先行研究・事例研究その３（市の産業政策）
第13回：先行研究・事例研究その４（業界の技術戦略）
第14回：先行研究・事例研究その５（企業の技術戦略）
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
教科書　配布資料。
参考書　「今がわかる時代がわかる　日本地図　2012年版」　正井泰夫監修　成美堂出版

〔準備学習等〕
各回ごとに，次回の講義内容を説明するので，事前に教科書，参考書その他指定された内容を十分に学習して授業に臨むこと。また，合わせて復習すべきポイントを説明するので，自ら復習した内容を授業ノートに記載してきちんとしたノートの作成を行うこと。

〔成績評価方法・基準〕
レポート50％（先行研究，事例研究について），並びに定期試験50％の配分で評価する。レポートについては，授業に出席しないと作成できないことがあるので，留意すること。また，レポートは，必要に応じて外部に公表する場合があるので留意すること。企業見学等の都合等により，若干授業計画に変更があることがある。

10 経済学入門　Introduction to Economics

必修　２単位　後期　　１年１組　教　授　金井　辰郎

〔授業の達成目標〕
ミクロ経済学，マクロ経済学の基礎部分を理解する。

〔授業の概要〕
ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎部分を扱う。上級学年で開講される「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」が本科目の続編となっており，本科目に加えて上級学年で両科目を履修することにより，学部レヴェルのミクロ・マクロ経済学の標準的内容が網羅される。

〔授業計画〕
第１回：経済学とは何か
第２回：効用・無差別曲線
第３回：予算制約式
第４回：効用極大化
第５回：需要関数・需要の価格弾力性
第６回：生産関数・等量曲線・技術的限界代替率
第７回：費用関数
第８回：国民所得とは何か
第９回：消費・貯蓄・投資
第10回：消費関数と総需要関数
第11回：45度線図の意味
第12回：貯蓄関数と投資関数
第13回：経済政策の効果
第14回：問題演習
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：自作の講義ノートを配付する。
参考書：

〔準備学習等〕
高校数学の数Ⅱレベルの内容を復習しておくこと。予習として，次回講義分の講義ノートの記述をよく読んでおくこと。復習として，授業時に配布される練習問題を解くこと。

〔成績評価方法・基準〕
小テスト・レポート（40%）＋試験（60%）で評価する。

11 対人コミュニケーション　Interpersonal Communication

必修　２単位　後期　　１年１組　教　授　宮曽根美香

〔授業の達成目標〕
対人コミュニケーションに関する理論的学習を行い，実生活に応用できるコミュニケーション能力を養う。

〔授業の概要〕
対人コミュニケーションについての基本的理論の他，自他を尊重するコミュニケーションの方法についての理論的学習と演習を行なう。そして聴き方，話し方についても学ぶ。さらに，異文化，職場を想定したコミュニケーションについて理解を深める。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：対人コミュニケーションの定義・特徴・構成要素
第３回：共生のためのコミュニケーション
第４回：アサーティブ・コミュニケーション
第５回：聴く目的と聴き方の種類
第６回：聴き手による反応の仕方
第７回：聴く演習
第８回：まとめと試験
第９回：話すこと
第10回：話す演習
第11回：グループ・ディスカッション（意見の聴き方，述べ方，質問の仕方等）
第12回：感情とコンフリクト
第13回：文化とコミュニケーション
第14回：職場でのコミュニケーション
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：『人間とコミュニケーション』厚岡一馬編　ナカニシヤ出版　2,400 円＋税
必要に応じてハンドアウトも配布する。

〔準備学習等〕
教科書および資料の関連箇所を読んでくる。

〔成績評価方法・基準〕
試験（90%）と課題（10%）で評価する。

12 コンピュータ概論　Introduction to Computer

必修　２単位　後期　　１年１組　教　授　小島　正美

〔授業の達成目標〕
コンピュータを道具として活用できるように，コンピュータの基本構成について理解する。

〔授業の概要〕
本講義は，コンピュータはどのような機械なのか，どのような機能を持っているのか，どのようなところに応用されているのかを学習する。コンピュータをハードウェアおよびソフトウェアの両面から理解することにより，コンピュータを道具として活用する知識を身につける。

〔授業計画〕
第１回：コンピュータとその応用
第２回：ビジネスと情報システム
第３回：ビジネスモデル事例
第４回：インターネットビジネス
第５回：コンピュータの歴史
第６回：コンピュータネットワークと社会
第７回：情報の表現
第８回：数値データの表現
第９回：画像データの表現
第10回：ハードウェアの仕組み
第11回：計算のできる仕組み
第12回：ソフトウェアの役割
第13回：プログラミングをするために
第14回：ネットワークと情報システム
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　「コンピュータ概論　－情報システム入門－」魚田編著，渥美，植竹，大曽根，森本，綿貫著，共立出版

〔準備学習等〕
コンピュータが社会でどのように活用されているかを調べておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
課題レポート（３回）30%，まとめと試験 70%と総合的に評価する。

13 統計学　Statistics

必修　２単位　後期　　１年１組　非常勤講師　塩谷　芳也

〔授業の達成目標〕
本授業は，統計的データをまとめたり分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識を習得することを目標とする。「社会調査において役立つこと」を念頭に，授業は組み立てられている。

〔授業の概要〕
講義形式である。統計学的知識の習得のために，演習問題を解いてもらう。公式の理解，基礎的な計算能力の習得とともに，社会調査（特に無作為抽出法による標本調査）において，それらの公式，計算がどのような意味を持つのか，どのように使われるのかの理解をめざす。そのため本授業は，計算能力だけではなく，社会調査の場における計算能力の運用能力の教育でもある。
社会調査士資格認定科目【D】に相当する科目である。

〔授業計画〕
第１回：社会調査と統計学（量的調査における統計学の役割）
第２回：社会調査と統計学（社会調査データに対する統計分析の実際）
第３回：確率論の基礎１（確率変数）
第４回：確率論の基礎２（正規分布）
第５回：基本統計量１（代表値）
第６回：基本統計量２（分散，標準偏差，変動係数など）
第７回：検定・推定理論とその応用（平均・比率の差，独立性の検定など）
第８回：抽出法の理論１（ランダムサンプリングとその理論的基礎）
第９回：抽出法の理論２（ランダムサンプリングと統計的検定）
第10回：属性相関係数（クロス表の統計量）
第11回：相関係数１（散布図と相関係数）
第12回：相関係数２（相関係数の応用）
第13回：変数のコントロールと偏相関係数
第14回：回帰分析の基礎
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
教科書：なし（適宜，資料・課題を配布する）
参考書：田中勝人「統計学」新世社　1998 年
吉田寿夫「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房　1998 年
縄田和満「Excel による統計入門（第2版）」朝倉出版　2000 年
宮川公男「基本統計学（第３版）」有斐閣　1999 年

〔準備学習等〕
社会調査データなどを紹介した新聞や雑誌をよく読み，どのような分析･解釈がなされているかを知っておくこと。高校程度の数学の知識を持っていることが望ましい。講義は毎回連続した内容を扱っていくため，しっかり復習を行うこと。その復習が，次の講義の予習にもなる。講義には，計算機（ルート計算ができるもの）と定規を持参すること。

〔成績評価方法・基準〕
授業へ取り組む姿勢・課題 40%，試験 60%で評価する。

14 経営コミュニケーションセミナーⅡ　Management and Communication Seminar Ⅱ

必修　１単位　後期　　１年１組　全教員

〔授業の達成目標〕
本授業の達成目標は以下の３項目である。
①将来のキャリアを意識し，自分なりに目標を設定する。
②社会人としての最低限のマナーを身につける
③今後の学習および就職活動に必要となる基礎学力を向上させる。

〔授業の概要〕
外部講師による講演や経営コミュニケーション学科に関わるさまざまな課題を通して，将来のキャリアを意識した学習と生活指導を行う。また，経営コミュニケーションセミナーⅠの内容を踏襲し，今後の大学での単位の習得および就職活動の際に必要となる基礎学力の向上をはかるために，演習を行う。

〔授業計画〕
第１回：個別セミナー
第２回：全体セミナー
第３回：全体セミナー
第４回：全体セミナー
第５回：全体セミナー
第６回：全体セミナー
第７回：全体セミナー
第８回：個別セミナー
第９回：全体セミナー
第10回：全体セミナー
第11回：全体セミナー
第12回：全体セミナー
第13回：全体セミナー
第14回：全体セミナー
第15回：個別セミナー

〔教科書・参考書等〕
特になし。必要に応じて知らせる。

〔準備学習等〕

〔成績評価方法・基準〕
以下の評価項目に従って単位認定を行う。
積極性（参加の姿勢），成果の質の高さ（課題の内容）

15 英文法基礎　Basic English Grammar

選択　２単位　後期　　１年１組　准　教　授　佐藤　夏子
非常勤講師　柴田　尚子

〔授業の達成目標〕
高校卒業程度の英文法を身につける。

〔授業の概要〕
選択科目であるが，事前に行う実力テストの結果が基準以下の学生は，受講しなくてはならない。毎回，前の授業の内容の小テストを行う。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーションおよび実力テスト
第２回：動詞と文型
第３回：動詞と時制
第４回：完了形
第５回：助動詞
第６回：助動詞を含む慣用表現
第７回：受動態と能動態
第８回：中間テスト
第９回：不定詞
第10回：動名詞
第11回：分詞
第12回：比較
第13回：関係詞
第14回：仮定法
第15回：総復習とまとめテスト

〔教科書・参考書等〕
授業開始までに指示する。

〔準備学習等〕
毎回，小テストがあるので必ず復習をしてくること。

〔成績評価方法・基準〕
期末試験の結果 70%，小テストの結果 30%

58 チャレンジアブロードプログラム

Challenge Abroad Program

選択　４単位　１年前期～４年後期

全学年全組　教　授　宮曽根美香
准教授　佐藤　夏子
准教授　二瀬　由理
講　師　佐藤　飛鳥
未　定

〔授業の達成目標〕
１．事前研修において海外で研修をするために必要な基本的知識とスキルを身につける。２．海外研修で異文化理解を深め，コミュニケーション能力の向上を図る。経営とコミュニケーションの知識を活かしたプロジェクトを実施する。

〔授業の概要〕
１．事前研修－海外での生活，ホームステイ，英会話，プロジェクト・ワークについての事前指導と準備。２．海外研修－海外の大学の付属語学学校での語学研修に参加し，英語レッスンに加えて，プロジェクト・ワークとプロジェクトワークについてのプレゼンテーションをする。帰国後は報告書の提出が必須。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション（後期）
第２回：滞在する国および地域について
第３回：英語で自己紹介
第４回：「ホームステイ」の英会話
第５回：「食事」の英会話
第６回：「道を尋ねる」の英会話
第７回：「買い物」の英会話
第８回：プロジェクトワークグループ分け・説明
第９回：理論の学習と企画
第10回：企画についてのプレゼンテーション
第11回：企画の修正及び準備
第12回：最終確認
第13回：現地研修での諸問題と対応
第14回：最終準備
第15回：出発前の最終打ち合わせ

〔教科書・参考書等〕
ハンドアウトを配布する。

〔準備学習等〕
指示された課題をこなす。自分でも関心のある部分を調べておく。

〔成績評価方法・基準〕
参加姿勢，海外研修の報告書，およびプロジェクト･ワークの評価で総合的に評価する。

59 経営コミュニケーション特別課外活動

Extracurricular Activities in Management and Communication

選択　１～４単位　１年前期～４年後期

全学年全組　教　授　渡部　順一

本学科の専門に関連の深い資格取得，検定等の合格，および学科が指定する課外活動に対して本人が単位申請を行った場合，学科で審査の上，専門科目（経営コミュニケーション特別課外活動）」もしくは教養教育科目（特別課外活動Ⅰ・Ⅱ）として最大４単位の範囲内で単位認定を行う。

１．資格の取得による単位認定

本学科の専門に関連のある資格を取得した場合，あるいは検定に合格した場合は「経営コミュニケーション特別課外活動」か，教養教育科目の「特別課外活動」のいずれかに申請できる。どちらの科目に申請するかは本人が選択することとする。どのような資格や検定が「経営コミュニケーション特別課外活動」の対象となるかは学科が個別に判断するが，代表的なものとしてシラバスの該当箇所の説明を参考にすること。

２．集中講義や学外講演会などへの参加による単位認定

認定対象となる集中講義や講演会，オープンカレッジなどがある場合は，開催日時および申請方法を事前にガイダンスするので，申請希望者は随時申し込むこと。

３．単位認定の申請および認定

単位認定を希望する学生は，学科事務室に申し出て「経営コミュニケーション特別課外活動単位認定申請書」を受け取り，必要事項を記入して学科事務室へ提出すること。申請は毎学期末（７月末，１月末）とする。
なお単位認定及び評価の方法はシラバス該当箇所の方法に準じて行う。

60 他学科開講科目群

Subjects offered by other departments

選択　８単位　１年後期～４年後期

他学科開講科目の受講を希望する学生は，長町キャンパス事務室または学務課にその旨を申し出て「他学科開講科目履修届」を受理し，所属学科の教務委員と科目担当者の許可を得た上で履修届を提出すること。
なお，上級学年の科目は履修できないので注意すること。

評価は点数ではなく「認定」とし，平均点には参入されない。

61 他大学開講科目群　Subjects offered by other universities

選択　４単位　１年後期～４年後期

詳細についてはシラバスの「他大学開講科目」, 学生生活の「学都仙台単位互換ネットワークに基づく特別聴講学生取扱要項」を参照のこと。

平成20(2008)年度から
平成23(2011)年度
入学生に適用

英語科目の履修要項（平成 20 (2008) 年度以降入学生に適用）

1．履修科目

〈必修科目〉（１・２年次）

授業科目名	単位数	毎週の時間数			
		１年		２年	
		前期	後期	前期	後期
英語ⅠA	2	2			
英語ⅠB	2		2		
英語ⅡA	2			2	
英語ⅡB	2				2

英語科目は，「読む，書く，聞く，話す」の四技能の養成を目的とし，以下の必修科目が設定されています。

「英語ⅠA」及び「英語ⅠB」は，基礎的文法項目の学習を中心とする科目です。

「英語ⅡA」及び「英語ⅡB」は，資格試験への導入を含む，より実践的内容を学習する科目です。

〈選択科目〉（３年次）

各自のニーズと目的に合った英語学習を行うため，以下の選択科目が設定されています。

授業科目名	単位数	毎週の時間数	
		３年	
		前期	後期
英会話 A	1	2	
英会話 B	1		2
資格英語 A	1	2	
資格英語 B	1		2

「英会話」では，少人数クラスで，外国人教師による speaking，listening を中心とした実践的英会話，および TOEIC リスニングセクション対策の基礎となる演習を行います。

「資格英語」では，TOEIC 対策に特化した 400 ～ 500 点レベルの演習を行います。受講者はカレッジ TOEIC 受験が義務付けられます。

2．再履修について

「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」の単位未修得者は，５講時開講の再履修クラスを受講してください。それが出来ない場合には，１～４講時開講の各学科の正規クラスで再履修してください。

3．英語科目の単位の振り替え

入学前及び入学後の各種英語検定試験合格者に対して，学生の申請に基づき１年次の英語科目の単位の振り替えを認めます。振り替え科目及び成績評価は以下の通りです。

英検１級 英検準１級 TOEIC 600 点以上	１年次の英語科目４単位 （英語ⅠA ２単位，英語ⅠB ２単位） 成績評価 90 点
英検２級 TOEIC 500 点以上	１年次の英語科目２単位 （英語ⅠA か英語ⅠB いずれか） 成績評価 90 点

保健体育科目の履修要項

⑴　保健体育の履修科目と開講時期，単位数は以下の通り。

スポーツ実技Ⅰ	１年次前期	１単位
スポーツ・身体科学	１年次後期	１単位
健康論	２年次後期	２単位
スポーツ実技Ⅱ	２年次前期	１単位（集中コースでも履修可能）

※各授業とも第１回目に長町キャンパス体育館でガイダンスと授業の履修選択を行うので，受講希望者は必ず出席のこと。

⑵　開講されている科目はすべて卒業単位（教養教育科目）に認められる。

⑶　各学科とも教職を希望する学生はスポーツ実技Ⅰ，スポーツ・身体科学を必ず履修すること。

⑷　スポーツ実技Ⅰ・Ⅱは，種目によって希望者が多数の場合に，施設・用具の関係で人数制限をしている。

⑸　スポーツ実技Ⅰ・Ⅱは種目履修票作成のため，顔写真（縦4.5cm，横3.5cm）を用意すること。

⑹　経営コミュニケーション学科の学生は，「スポーツ実技Ⅰ」が必修科目です。

「特別課外活動Ⅰ・Ⅱ」（各２単位）について

科目設定の趣旨	大学における勉学は開講されている科目を履修する事だけではありません。芸術活動，クラブ活動，セミナー参加，インターンシップ参加などにより，文化・社会的活動を通して協調性やコミュニケーション能力を向上させ，人間形成を行う事が重要です。 これを奨励するため，本学では入学後に取得した資格や学内外での様々な活動を，教養教育科目「特別課外活動Ⅰ・Ⅱ」各２単位として認定しています。
単位認定の対象活動	本学在籍期間中になされた学生による自主的・能動的活動のうち，本学の教育目標にふさわしいと認められる特別な課外活動を対象に，審査の上，単位認定します。 その対象区分は当面，以下の(Ⅰ)～(Ⅷ)としますが，これらの項目に該当しないものについて申請があった場合も，教務委員会で審査して妥当性を判断し，場合によっては対象項目の拡張を検討します。 (Ⅰ) 資格取得または検定等の合格 例）ＦＥ試験，アマチュア無線技士，ソフトウェア開発技術者，トレース技能検定，環境計量士，基本情報技術者，技術士第一次試験，計算技術検定，公害防止管理者，工業英語，実用英語検定，珠算能力検定(日商)，初級システムアドミニストレータ，ITパスポート試験，情報技術検定，測量士，測量士補，宅地建物取引主任者，電気主任技術者，電気通信主任技術者，無線通信士(総合・海上)，陸上無線技術士，ボイラー技士，危険物取扱者(甲種・乙種)，色彩検定(文部科学省)，カラーコーディネーター検定(商工会議所)，商業施設士，商業施設士補，工事担任者(AI・DD)，広告製作スペシャリスト技能検定，CGクリエイター検定，Webデザイナー検定，CGエンジニア検定，画像処理エンジニア検定，マルチメディア検定，テクニカルエンジニア(エンベデッドシステム)，パソコン検定(P検)，公害防止管理者，品質管理(QC)検定，電気工事士，陸上特殊無線技士，ドイツ語技能検定，実用フランス語技能検定，福祉住環境コーディネーター検定，インテリアコーディネーター，インテリアプランナー，NSCA認定パーソナルトレーナー，日本体育協会公認スポーツプログラマー，ヘルス/フィットネスインストラクター（ACSMHFI)，高年齢者体力つくり支援士，障害者スポーツ指導員，C. R. P. ＋A. E. D.（国際救命救急協会)，赤十字救急法救急員(日本赤十字社)，簿記検定(日商)，建設業経理検定，映像音響処理技術者資格認定，ファイナンシャルプラニング技能士，金融窓口サービス技能士，税務会計能力検定，応用情報技術者，マイクロソフトオフィススペシャリスト（但し試験レベルにより判断する） ＊ 詳細は長町キャンパス事務室又は八木山キャンパス学務課に問い合わせのこと。 (Ⅱ) 体育，文化及び芸術活動における顕著な業績をもつ活動 (Ⅲ) 社会的に顕著な貢献の認められる活動（活動証明の得られるもの） (Ⅳ) インターンシップ制度による活動（実働10日間（80時間）以上の活動） (Ⅴ) 国際活動 ① 国際交流委員会が認めた国際交流活動，国際交流に関する研修・セミナーへの参加 ② 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う海外研修 (Ⅵ) 教務委員会指定の課外活動 ① 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う学外または学内研修，特別講座への参加 ② 教務委員会が認めた学外または学内活動への参加 (Ⅶ) 高大連携講座 本学と高等学校との協定により実施された「高大連携講座」を本学入学前に修

了（ただし，協定により他科目での単位認定が取り決められている講座を除く）

⑧　学科指定の課外活動

クリエイティブデザイン学科

⑴各種デザインコンペへの応募

⑵企業実習への参加

⑶学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究，各種ゼミへの参加

⑷自主的に行う国内・国外のデザイン見聞旅行の計画・実施

安全安心生活デザイン学科

下記の専門性の高いカテゴリーの活動は，専門科目「生活デザイン特別課外活動」でも認定されるので注意すること。（186ページ参照）

⑴学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究，各種ゼミへの参加

⑵企業実習などへの参加

⑶各種デザインコンペへの応募

⑷自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施

⑸学科が実施する対外活動への参加，大学祭での生活デザイン作品・企画の展示

単位認定および評価の方法

⑴　単位認定は学生による自己申請に基づくことを原則とします。

⑵　申請は毎学期末（７月末，１月末）とします。

⑶　単位認定希望者は所定の申請用紙（長町キャンパス事務室又は八木山キャンパス学務課に備付）に必要事項を記入して，次の書類を添付して長町キャンパス事務室又は八木山キャンパス学務課へ提出してください。

申請項目Ⅰの場合…資格取得，検定合格等を証明する書類
（但し，本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること）

申請項目Ⅱ，Ⅲの場合…

①　活動を証明するもの（但し，本人の名前が明示されているものの原本を提示すること）

②　課外活動における本人の位置付け，活動の内容，成果・業績等を記載したレポート（Ａ４判，1000字程度）

③　団体活動の場合は，個人の活動を証明する第三者（クラブ顧問，団体活動の指導者・担当教員等）の証明書類

申請項目Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ，Ⅷの場合…

①　活動を証明する書類（本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること。ただし，Ⅳの場合は写しでも可）

②　活動の動機，活動の内容，活動の成果，活動で得たこと等を記載したレポート（Ａ４判，1,000字程度）

申請項目Ⅶの場合…修了証

⑷　単位認定の審査は教務委員会で行い，教務部長が単位認定します。

⑸　評価の方法

評価は次の３つの観点から行います。

・活動における自主性，能動性の度合い

・活動内容の充実度

・活動の成果の大きさ

他大学等教養科目群（教養科目）・他大学開講科目群（専門科目）

本学は「学都仙台単位互換ネットワーク」に参加しているので，本学学生は「特別聴講学生」として，ネットワークに参加している他大学の開講科目を履修することができます。修得した単位は，所定の単位数まで，本学で履修した単位として認定できます。提供科目を開講している大学に通学して受講することになりますが，一部遠隔授業として提供される科目もあり，その科目は本学の教室で受講することができます。

学都仙台単位互換ネットワーク

「学都仙台単位互換ネットワーク」は，仙台圏の国・公・私立の大学・短期大学及び山形県の東北芸術工科大学の各大学間で，意欲ある学生に対し多様な学習機会を提供する事を目的として発足した制度です。各大学より文化，芸術，政治，経済，自然科学等，多くの学問分野にわたる科目が提供されています。

各大学の提供科目，シラバス等は本学の長町キャンパス事務室又は八木山キャンパス学務課で閲覧することができます。検定料，入学料，授業料（但，放送大学宮城学習センターを除く）を別途徴収されることはありません。

学都仙台単位互換ネットワーク協定に基づく特別聴講学生として他大学の提供科目を受講する場合は，本学で選考の上，受入大学に依頼を行い，受入大学から受入通知が来た時点で履修登録を行うことになるので，申し込みは通常の履修登録より早い時期に行われます。

学都仙台単位互換ネットワーク協定に基づく特別聴講学生として他大学開講科目の受講を希望する学生は，まず所属学科の教務委員やクラス担任（本シラバスのティーチングスタッフのページに教員名が記載されています）と相談の上，本学の授業に差し支えないことを確かめた上で，下記の要領に基づいて長町キャンパス事務室又は八木山キャンパス学務課で申請手続きを行ってください。

参加大学

１．学都仙台単位互換ネットワーク参加大学

石巻専修大学，尚絅学院大学，仙台白百合女子大学，仙台大学，東北学院大学，東北芸術工科大学，東北工業大学，東北生活文化大学，東北大学，東北福祉大学，東北文化学園大学，東北薬科大学，宮城学院女子大学，宮城教育大学，宮城大学，聖和学園短期大学，東北生活文化大学短期大学部，仙台電波工業高等専門学校，宮城工業高等専門学校，放送大学宮城学習センター，宮城誠真短期大学（なお，本年度の募集を行わない大学もあるので事前に確認してください）

科目と対象

２．他大学の提供科目，シラバス

長町キャンパス事務室又は八木山キャンパス学務課で閲覧することができます。窓口で申し出てください。

３．対象者

本学に在学する１年生(後期のみ)，２，３年生，４年生(前期のみ)

４．対象科目

基本的に，自分の学年より上級学年対象の科目の受講は認められません。

５．進級，卒業単位に算入できる単位数

「他大学等教養科目群」または「他大学開講科目群」として進級，卒業単位に算入できる単位数の上限は，学科によって異なるので，各学科の教育課程表を参照してください。

申込期限

６．申込期限

前期：平成２４年４月１６日（月）

後期：平成２４年９月２０日（木）

７．諸注意

出願において，本学または受け入れ大学で履修を許可しない場合もあるので，事前にクラス担任，学科の教務委員と相談してください。

	万一，途中で履修を取りやめるようなことがあると，相手の大学に多大な迷惑をかけます。無理の無い履修計画を立ててください。 ほとんどの大学で，自家用車での通学を認めていないので，通学にあたっては公共の交通機関を利用してください。
他学部教養科目の履修	本学の他学部において教養科目として開講している科目を履修することができます。修得した単位は，「他大学等教養科目群」として認定されます。ただし，進級，卒業単位に算入できる単位数の上限は，学科によって異なるので，各学科の教育課程表を参照してください。特別の届出用紙での履修登録が必要です（本シラバスの６ページを参照）。
学都仙台コンソーシアム復興大学について	被災地の復興のための人材育成を目的として，学都仙台コンソーシアム復興大学が開設されます。規定の科目，単位を修得すると，「復興人材育成教育コース」の修了が認定されます。また，本学では単位互換ネットワーク提供科目と同様に「他大学等教養科目群」，「他大学開講科目群」の科目として単位認定されますが，復興大学で開講される特定の科目に限り，各学科の教育課程表に定められている期間以外での履修や，進級，卒業単位への参入の上限を超えることもできますので，履修希望者は各学科の教務委員に相談してください。

再履修の受講案内

《読替対応科目一覧表》

平成20(2008)年度から平成23(2011)年度入学者適用

再履修科目の履修に関し、不明な点は学科教務委員に相談し、間違いの無いように履修すること。

◇ライフデザイン学部　教養教育科目

旧教育課程科目			読替対応科目（新教育課程科目）			
科目名	開講期	単位数	新科目名	開講期	単位数	備考
地域社会論	１年前期	２				読替対応科目無し 別途対応する
暮らしと経済学	１年前期	２	暮らしと経済学	１年前期	２	
メンタルヘルスとケア	１年後期	２	暮らしと心理学	２年前期	２	25 年度より適用
社会心理学	２年前期	２	産業社会と心理学	２年後期	２	25 年度より適用
市民と法	２年前期	２	市民と法	２年前期	２	25 年度より適用
日本近代史	２年後期	２	日本近代史	２年後期	２	25 年度より適用
日本の政治と国際社会	２年後期	２	市民と政治	２年後期	２	25 年度より適用
現代の倫理	３年前期	２	現代の倫理	３年前期	２	26 年度より適用
現代の哲学	３年後期	２	現代の哲学	３年後期	２	26 年度より適用
文化人類学	３年後期	２	文化の諸相	３年後期	２	26 年度より適用
情報リテラシー	１年前期	２	情報リテラシー	１年前期	２	
コンピュータ基礎	１年後期	２	コンピュータ基礎	１年後期	２	
数学的思考法	１年前期	２	数学的思考法	１年前期	２	
生活とサイエンス	１年前期	２	生活とサイエンス	３年前期	２	26 年度より適用 25 年度までは別途対応
生活とテクノロジー	１年前期	２	生活とテクノロジー	２年前期	２	25 年度より適用
命と生物学	２年前期	２	命と生物学	２年前期	２	25 年度より適用
地球環境とエコロジー	２年後期	２	地球環境とエコロジー	２年後期	２	25 年度より適用
ばらつきと規則	２年後期	２				読替対応科目無し 別途対応する
現代科学総論Ａ	３年前期	２	現代科学総論Ａ	３年前期	２	26 年度より適用
日本語表現Ａ	１年前期	２	日本語表現Ⅰ	１年前期	２	
日本語表現Ｂ	１年後期	２	日本語表現Ⅱ	２年前期	２	25 年度より適用
英語ＩＡ	１年前期	２	英語ＩＡ	１年前期	２	

旧教育課程科目			読替対応科目（新教育課程科目）			
科目名	開講期	単位数	新科目名	開講期	単位数	備考
英語ＩＢ	１年後期	2	英語ＩＢ	１年後期	2	
英語ⅡＡ	２年前期	2	英語ⅡＡ	２年前期	2	25 年度より適用
英語ⅡＢ	２年後期	2	英語ⅡＢ	２年後期	2	25 年度より適用
英会話Ａ	３年前期	1	英会話Ａ	１年前期	1	26 年度より適用
英会話Ｂ	３年後期	1	英会話Ｂ	１年後期	1	26 年度より適用
資格英語Ａ	３年前期	1	資格英語Ａ	２年前期	1	26 年度より適用
資格英語Ｂ	３年後期	1	資格英語Ｂ	２年後期	1	26 年度より適用
フランス語Ａ	１年前期	2	フランス語Ａ	１年前期	2	
フランス語Ｂ	１年後期	2	フランス語Ｂ	１年後期	2	
ドイツ語Ａ	１年前期	2	ドイツ語Ａ	１年前期	2	
ドイツ語Ｂ	１年後期	2	ドイツ語Ｂ	１年後期	2	
韓国語Ａ	１年前期	2	韓国語Ａ	１年前期	2	
韓国語Ｂ	１年後期	2	韓国語Ｂ	１年後期	2	
中国語Ａ	１年前期	2	中国語Ａ	１年前期	2	
中国語Ｂ	１年後期	2	中国語Ｂ	１年後期	2	
プレゼンテーション	２年後期	2	プレゼンテーション	２年後期	2	25 年度より適用
ビジネスマナー	３年前期	2	ビジネスマナー	３年前期	2	26 年度より適用
スポーツ実技Ⅰ	１年前期	1	スポーツ実技Ⅰ	１年前期	1	
スポーツ・身体科学	１年後期	1	スポーツ身体科学	１年後期	1	
スポーツ実技Ⅱ	２年前期	1	スポーツ実技Ⅱ	２年前期	1	25 年度より適用
健康論	２年後期	2	健康論	２年後期	2	25 年度より適用
特別課外活動Ⅰ	１年前期～４年後期	2	特別課外活動Ⅰ	１年前期～４年後期	2	
特別課外活動Ⅱ	１年前期～４年後期	2	特別課外活動Ⅱ	１年前期～４年後期	2	
他大学等教養科目群	１年後期～４年前期	4	他大学等教養科目群	１年前期～４年後期	4	

◇クリエイティブデザイン学科　専門教育科目

旧教育課程科目			読替対応科目（新教育課程科目）			
科目名	開講期	単位数	新科目名	開講期	単位数	備考
デザインセミナーⅠ	１年前期	1	デザインセミナーⅠ	１年前期	1	
造形基礎論	１年前期	2	造形基礎論	１年前期	2	
造形演習Ⅰ	１年前期	3	造形演習Ⅰ	１年前期	3	
モデリング演習	１年前期	3	モデリング演習	１年前期	3	
プロダクトデザイン論Ⅰ	１年後期	2	プロダクトデザイン論Ⅰ	１年後期	2	
エクスペリエンスデザイン論	１年後期	2	エクスペリエンスデザイン論	１年後期	2	
ビジュアルデザイン論	１年後期	2	ビジュアルデザイン論	１年後期	2	
デザインセミナーⅡ	１年後期	1	デザインセミナーⅡ	１年後期	1	
デッサン演習	１年後期	3	デッサン演習	１年後期	3	
造形演習Ⅱ	１年後期	3	造形演習Ⅱ	１年後期	3	
デザイン基礎演習	１年後期	4	デザイン基礎演習	１年後期	4	
デザインセミナーⅢ	２年前期	1	デザインセミナーⅢ	２年前期	1	25年度より適用
デザイン実習Ⅰ	２年前期	4	デザイン実習Ⅰ	２年前期	4	25年度より適用
デザイン実習Ⅱ	２年後期	4	デザイン実習Ⅱ	２年後期	4	25年度より適用
ＣＡＤ演習	２年後期	3	ＣＡＤ演習	２年後期	3	25年度より適用
デザイン実習Ⅲ	３年前期	8	デザイン実習Ⅲ	３年前期	8	26年度より適用
キャリアデザイン	３年後期	1	キャリアデザインⅠ	３年前期	1	26年度より適用
デザイン実習Ⅳ	３年後期	8	デザイン実習Ⅳ	３年後期	8	26年度より適用
クリエイティブデザイン研修Ⅰ	４年前期	3	クリエイティブデザイン研修Ⅰ	４年前期	3	27年度より適用
クリエイティブデザイン研修Ⅱ	４年後期	3	クリエイティブデザイン研修Ⅱ	４年後期	3	27年度より適用
生産技術	２年前期	2	材料学・生産技術	２年前期	2	25年度より適用
エルゴノミクス	２年前期	2	エルゴノミクス	２年前期	2	25年度より適用
材料学	２年前期	2				読替対応科目無し 別途対応する
色彩論	２年前期	2	色彩論	２年前期	2	25年度より適用
映像・メディア論	２年前期	2	映像論	４年前期	2	27年度から適用 （25 ～ 26年度は別途対応）
広告論	２年前期	2	広告論	３年前期	2	26年度から適用 （25年度は別途対応）

旧教育課程科目			読替対応科目（新教育課程科目）			
科目名	開講期	単位数	新科目名	開講期	単位数	備考
エディトリアルデザイン	２年後期	2	エディトリアルデザイン論	２年後期	2	25年度より適用
プロダクトデザイン論Ⅱ	２年後期	2	プロダクトデザイン論Ⅱ	２年後期	2	25年度より適用
道具と空間	２年後期	2				読替対応科目無し 別途対応する
情報デザイン論Ⅰ	２年後期	2	情報デザイン論	２年前期	2	25年度より適用
デザインプログラミング	３年前期	2	デザインプログラミング	３年前期	2	26年度より適用
インタラクションデザイン論	３年前期	2	インタラクションデザイン論	２年後期	2	26年度より適用
情報デザイン論Ⅱ	３年前期	2	マルチメディア論	３年前期	2	26年度より適用
ユーザリサーチ論	３年前期	2	ユーザリサーチ論	３年前期	2	26年度より適用
工芸学	３年前期	2	工芸学	４年後期	2	27年度から適用 （26年度は別途対応）
デザイン史	３年後期	2	デザイン史	１年前期	2	26年度より適用
データ分析	３年後期	2	データ分析	３年後期	2	26年度より適用
デザインマーケティング論	３年後期	2	デザインマーケティング論	３年後期	2	26年度より適用
知的財産権	４年前期	2	知的財産権	４年前期	2	27年度より適用
クリエイティブデザイン特別講義	４年前期	2	クリエイティブデザイン特別講義	４年前期	2	27年度より適用
デザイン起業論	４年前期	2	デザイン起業論	４年前期	2	27年度より適用
クリエイティブデザイン特別課外活動	１年前期～ ４年後期	4	クリエイティブデザイン特別課外活動	１年前期～ ４年後期	4	
他学科開講科目群	１年後期～ ４年後期	8	他学科開講科目群	１年後期～ ４年後期	8	
他大学開講科目群	１年後期～ ４年前期	4	他大学開講科目群	１年後期～ ４年前期	4	

◇安全安心生活デザイン学科　専門教育科目

旧教育課程科目			読替対応科目（新教育課程科目）			
科目名	開講期	単位数	新科目名	開講期	単位数	備考
安全安心生活デザイン概論	１年前期	2	安全安心生活デザイン概論	１年前期	2	
生活デザインセミナーⅠ	１年前期	1	生活デザインセミナーⅠ	１年前期	1	
都市防災論	１年後期	2	都市防災論	１年前期	2	
住まいの計画	１年前期	2	住まいの計画	１年後期	2	
自己理解とメンタルヘルス	１年前期	2	心の理解とケア	１年前期	2	
表現技法演習	１年前期	2	表現技法演習	１年前期	2	

旧教育課程科目			読替対応科目（新教育課程科目）			
科目名	開講期	単位数	新科目名	開講期	単位数	備考
生活デザインセミナーⅡ	１年後期	1	生活デザインセミナーⅡ	１年後期	1	
地域の産業デザイン論Ⅰ	１年後期	2	地域の産業デザイン論Ⅰ	１年後期	2	
住まいの文化史	１年後期	2	住まいの文化史	１年前期	2	
インテリアデザイン論Ⅰ	１年後期	2	インテリアデザイン論Ⅰ	１年前期	2	
ライフサイクルと健康	１年後期	2	健康・スポーツ・地域	１年後期	2	
生活デザインＣＡＤⅠ	１年後期	2	生活デザインＣＡＤⅠ	２年前期	2	25年度より適用 （24年度は再履修クラス）
生活デザインセミナーⅢ	２年前期	1	生活デザインセミナーⅢ	２年前期	1	25年度より適用
住まいの環境工学Ⅰ	２年前期	2	住まいの環境工学Ⅰ	１年後期	2	25年度より適用
健康生理学概論	２年前期	2	健康生理学概論	２年前期	2	25年度より適用
生活デザイン演習Ⅰ	２年前期	4	生活デザイン演習Ⅰ	２年前期	4	25年度より適用
生活デザインセミナーⅣ	２年後期	1	生活デザインセミナーⅣ	２年後期	1	25年度より適用
看護学入門	２年後期	2	看護学入門	２年後期	2	25年度より適用
生活デザイン演習Ⅱ	２年後期	4	生活デザイン演習Ⅱ	２年後期	4	25年度より適用
地域のデザイン実習Ⅰ	３年前期	4	生活デザイン実習Ⅰ	３年前期	4	26年度より適用
住まいのデザイン実習Ⅰ	３年前期	4	同上	３年前期	4	26年度より適用
心身のデザイン実習Ⅰ	３年前期	4	同上	３年前期	4	26年度より適用
地域のデザイン実習Ⅱ	３年後期	4	生活デザイン実習Ⅱ	３年後期	4	26年度より適用
住まいのデザイン実習Ⅱ	３年後期	4	同上	３年後期	4	26年度より適用
心身のデザイン実習Ⅱ	３年後期	4	同上	３年後期	4	26年度より適用
生活デザイン研修Ⅰ	４年前期	3	生活デザイン研修Ⅰ	４年前期	3	27年度より適用
生活デザイン研修Ⅱ	４年後期	3	生活デザイン研修Ⅱ	４年後期	3	27年度より適用
防災コミュニケーション	２年前期	2	防災コミュニケーション	１年後期	2	25年度より適用
地域の産業デザイン論Ⅱ	２年前期	2	地域の産業デザイン論Ⅱ	２年前期	2	25年度より適用
インテリアデザイン論Ⅱ	２年前期	2	インテリアデザイン論Ⅱ	１年後期	2	25年度より適用
生活デザインＣＡＤⅡ	２年前期	2	生活デザインＣＡＤⅡ	２年後期	2	25年度より適用
地域のくらしと生産	２年後期	2	ランドスケープデザイン	２年後期	2	25年度より適用
高齢者の生活と住まい	２年後期	2	高齢者の生活と住まい	２年前期	2	25年度より適用

旧教育課程科目			読替対応科目（新教育課程科目）			
科目名	開講期	単位数	新科目名	開講期	単位数	備考
住まいの環境工学Ⅱ	２年後期	2	住まいの環境工学Ⅱ	２年前期	2	25年度より適用
健康体医学論	２年後期	2	身体の健康支援と医科学	２年後期	2	25年度より適用
住まいの構造と材料	２年後期	2	住まいの構造と材料	２年後期	2	25年度より適用
地域環境の保全とエネルギー	３年前期	2	地域環境の保全とエネルギー	３年前期	2	26年度より適用
都市と地域の計画	３年後期	2	都市と地域の計画	３年後期	2	26年度より適用
在宅看護論	３年前期	2	地域看護論	３年前期	2	26年度より適用
住まいのための力学	３年前期	2	住まいのための力学	３年前期	2	26年度より適用
環境心理学	３年前期	2	安全心理学	４年前期	2	27年度より適用
障害者生活論	３年前期	2	障害者福祉・スポーツ論入門	３年前期	2	26年度より適用
現代スポーツ文化論	３年前期	2	身体運動文化の諸相	３年前期	2	26年度より適用
バリアフリーとユニバーサルデザイン	３年後期	2	バリアフリーとユニバーサルデザイン	３年後期	2	26年度より適用
住環境の制御と設備	３年後期	2	住環境の制御と設備	３年後期	2	26年度より適用
心の発達	３年後期	2	心の発達	３年後期	2	26年度より適用
生活習慣病と健康支援	３年後期	2	公衆衛生学	３年後期	2	26年度より適用
住まいの材料実験	３年後期	2	住まいの材料実験	３年後期	2	26年度より適用
生活デザイン総合科目Ⅰ	４年前期	2	生活デザイン総合科目Ⅰ	４年前期	2	27年度より適用
生活デザイン総合科目Ⅱ	４年前期	2	生活デザイン総合科目Ⅱ	４年前期	2	27年度より適用
住まいのための法規	４年前期	2	住まいのための法規	４年前期	2	27年度より適用
住まいの施工と積算	４年前期	2	住まいの施工と積算	４年前期	2	27年度より適用
生活デザイン特別講義	４年後期	2				読替対応科目無し 別途対応する
生活デザイン特別課外活動	１年前期～ ４年後期	4	生活デザイン特別課外活動	１年前期～ ４年後期	4	
他学科開講科目群	１年前期～ ４年後期	8	他学科開講科目群	１年前期～ ４年後期	8	
他大学開講科目群	１年前期～ ４年後期	2	他大学開講科目群	１年前期～ ４年後期	2	

◇経営コミュニケーション学科　専門教育科目

旧教育課程科目			読替対応科目（新教育課程科目）			
科目名	開講期	単位数	新科目名	開講期	単位数	備考
経営学概論	１年前期	2	経営学入門	１年前期	2	

旧教育課程科目			読替対応科目（新教育課程科目）			
科目名	開講期	単位数	新科目名	開講期	単位数	備考
現代メディア論	１年前期	２	現代メディア論	１年前期	２	
スピーチコミュニケーションＡ	１年前期	２				読替対応科目無し 別途対応する
経営コミュニケーションセミナーＩ	１年前期	２	経営コミュニケーションセミナーＩ	１年前期	２	
工業経営学入門	１年後期	２	工業経営学入門	１年後期	２	
技術系企業倫理論	１年後期	２				読替対応科目無し 別途対応する
経営心理学	１年後期	２	組織心理学	１年後期	２	
イメージメディア論	１年後期	２	イメージメディア論	２年後期	２	25年度より適用 （24年度は別途対応）
スピーチコミュニケーションＢ	１年後期	２				読替対応科目無し 別途対応する
コンピュータ基礎	１年後期	２	コンピュータ概論	１年後期	２	
ミクロ経済学	２年前期	２	ミクロ経済学	２年前期	２	25年度より適用
経営管理論	２年前期	２	経営管理論	２年前期	２	25年度より適用
論理的思考法	２年前期	２	論理的思考法	２年前期	２	25年度より適用
対人コミュニケーションＡ	２年前期	２	コミュニケーション入門	１年前期	２	25年度より適用
表計算Ｉ	２年前期	２	表計算	２年前期	２	25年度より適用
ネットワークＩ	２年前期	２	ネットワーク	２年前期	２	25年度より適用
データベースＩ	２年前期	２	データベース	２年前期	２	25年度より適用
社会調査法	２年前期	２	社会調査法	２年後期	２	25年度より適用
文書コミュニケーションＡ	２年前期	２	文書コミュニケーション	２年前期	２	文書コミュニケーションＡまたはＢのいずれか一方に読み替える（両方再履修の場合もう一方の科目は別途対応）
文書コミュニケーションＢ	２年後期	２				
異文化コミュニケーションＡ	２年前期	２	異文化コミュニケーション	２年前期	２	異文化コミュニケーションＡまたはＢのいずれか一方に読み替える（両方再履修の場合もう一方の科目は別途対応）
異文化コミュニケーションＢ	２年後期	２				
マーケティング論	２年後期	２	マーケティング論	２年後期	２	25年度より適用
工業生産管理論	２年後期	２	技術マネジメント論	２年後期	２	25年度より適用
経営組織論	２年後期	２	経営組織論	２年後期	２	25年度より適用
経営統計学	２年後期	２	統計学	１年後期	２	25年度より適用
キャリア・カウンセリング理論	２年後期	２	キャリアカウンセリング	２年前期	２	25年度より適用
対人コミュニケーションＢ	２年後期	２	対人コミュニケーション	１年後期	２	25年度より適用

旧教育課程科目			読替対応科目（新教育課程科目）			
科目名	開講期	単位数	新科目名	開講期	単位数	備考
統計学	２年後期	2				読替対応科目無し 別途対応する
経営実践	３年前期	2	経営実践	３年前期	2	26年度より適用
技術系中小企業論	３年前期	2	地域中小企業論	３年後期	2	26年度より適用
経営戦略論	３年前期	2	経営戦略論	３年前期	2	26年度より適用
マクロ経済学	３年前期	2	マクロ経済学	２年後期	2	26年度より適用
簿記・財務諸表論	３年前期	2	簿記論	２年前期	2	26年度より適用
実践マネジメント研修	３年前期	2				読替対応科目無し 別途対応する
表計算Ⅱ	３年前期	1				読替対応科目無し 別途対応する
データベースⅡ	３年前期	1				読替対応科目無し 別途対応する
ネットワークⅡ	３年前期	1				読替対応科目無し 別途対応する
社会科学各論	３年前期	2	社会科学各論	３年前期	2	26年度より適用
映像表現Ⅰ	３年前期	2	映像メディアA	３年前期	2	26年度より適用
メディアプロデュースA	３年前期	2				読替対応科目無し 別途対応する
ビジネス英語A	３年前期	2	ビジネス英語	３年前期	2	ビジネス英語ＡまたはＢの いずれか一方に読み替える （両方再履修の場合もう一方 の科目は別途対応）
ビジネス英語B	３年後期	2				
技術系事業計画論	３年後期	2				読替対応科目無し 別途対応する
ビジネス法	３年後期	2				読替対応科目無し 別途対応する
環境経営論	３年後期	2				読替対応科目無し 別途対応する
ソーシャル・アントレプレナー論	３年後期	2				読替対応科目無し 別途対応する
地域技術系企業論	３年後期	2				読替対応科目無し 別途対応する
技術マネジメント論	３年後期	2				読替対応科目無し 別途対応する
情報科学研修A	３年後期	2	情報科学研修Ⅰ	３年後期	2	26年度より適用
情報化と経営	３年後期	2				読替対応科目無し 別途対応する
経営コミュニケーションセミナーⅡ	３年後期	2	経営コミュニケーション概論Ⅰ	３年前期	2	26年度より適用
経営コミュニケーション特別講義	３年後期	2				読替対応科目無し 別途対応する
国際経済論	３年後期	2	国際経済論	３年後期	2	26年度より適用
財務管理・管理会計論	３年後期	2	原価計算論	３年前期	2	26年度より適用

旧教育課程科目			読替対応科目（新教育課程科目）			
科目名	開講期	単位数	新科目名	開講期	単位数	備考
身体表現研究	３年後期	2	身体表現研究	３年後期	2	26年度より適用
映像表現Ⅱ	３年後期	1				読替対応科目無し 別途対応する
メディアプロデュースB	３年後期	2				読替対応科目無し 別途対応する
人材マネジメント	４年前期	2	人的資源管理論	３年後期	2	27年度より適用
ベンチャービジネス論	４年前期	2	ベンチャービジネス論	４年前期	2	27年度より適用
知的財産論	４年前期	2				読替対応科目無し 別途対応する
交渉学	４年前期	2	交渉学	４年前期	2	27年度より適用
情報科学研修B	４年前期	2	情報科学研修Ⅱ	４年前期	2	27年度より適用
経営コミュニケーション研修A	４年前期	2	経営コミュニケーション研修Ⅰ	４年前期	2	27年度より適用
経営コミュニケーション研修B	４年後期	4	経営コミュニケーション研修Ⅱ	４年後期	4	27年度より適用
海外語学研修	2年前期～ ４年後期	4	チャレンジアブロードプログラム	1年前期～ ４年後期	4	25年度より適用
経営コミュニケーション特別課外活動	1年前期～ ４年後期	4	経営コミュニケーション特別課外活動	1年前期～ ４年後期	4	
他学科開講科目群	1年後期～ ４年後期	8	他学科開講科目群	1年後期～ ４年後期	8	
他大学開講科目群	1年後期～ ４年前期	4	他大学開講科目群	1年後期～ ４年前期	4	

教育課程表

クリエイティブデザイン学科

理論と実践を通し，専門家として必要な知識･技術･技能を身につける

１．カリキュラムの特徴

本学科のカリキュラムは，学生一人ひとりのデザインに対する興味と問題意識を育てながら，デザインのプロ（専門家）としての知識･技術･技能を身につけていけるよう，理論と実践を融合した構成になっています。

【教養教育科目】

社会の一員として求められる豊かな人間性を形成することを目的に，その基礎となる幅広い知識を身につけられるよう設けられた科目です。各科目は，「生活と社会」「自然と技術」「言葉と表現」「心と体の健康」というカテゴリーに分かれているので，これを参考に偏りなく履修してください。

【専門教育科目】

自発的に考える力を身につけるために，実体験の機会を重視した，実習中心の構成になっています。数多くの実践を通して，デザインをする上で必要な問題把握力，論理展開力，表現力等を体得していきます。

履修した科目で得た知識，技術を次の科目に生かしていくという「積み上げ型」の構成になっているのが特徴です。１年次には，後述のコース分けを控え，各コース共通の基礎を身につけるための科目が用意されています。ここでの基礎を踏まえ，２，３年次の実習系科目および４年次の研修では，「プロダクトデザイン」「エクスペリエンスデザイン」「ビジュアルデザイン」の３コースに分かれ，それぞれの分野ごとに独自の専門性を深めていきます。

また，理論系の科目は，３つのコースいずれの分野でも力となる理論と知識を身につけられるよう構成されています。

２．履修のためのガイド

２年次から３年次，３年次から４年次へ進級するために必要な単位数を定めた「進級条件」があり，これを満たさないと進級できません。特に専門科目については，必修科目は精選されているため，開講されている科目の単位はその学年で確実に取得するようにしないと，事実上進級が困難です。単位の修得に関しては，次の「学年ごとの目標単位数」を参考にして履修計画を立ててください。

学年ごとの目標単位数

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="2">教養教育科目</td><td colspan="2">専門教育科目</td><td rowspan="2">各学年の
合　計</td><td rowspan="2">１年次からの
累　計</td></tr>
<tr><td>必修</td><td>選択</td><td>必修</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>１年次</td><td>12</td><td>８以上</td><td>26</td><td>0</td><td>46以上</td><td>46以上</td></tr>
<tr><td>２年次</td><td>4</td><td>10以上</td><td>12</td><td>16以上</td><td>42以上</td><td>88以上</td></tr>
<tr><td>３年次</td><td>0</td><td>４以上</td><td>17</td><td>14以上</td><td>35以上</td><td>123以上</td></tr>
<tr><td>４年次</td><td>0</td><td>０以上</td><td>6</td><td>２以上</td><td>８以上</td><td>131以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業までの
総合計</td><td>16</td><td>22以上</td><td>61</td><td>32以上</td><td colspan="2" rowspan="2">131以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">38以上</td><td colspan="2">93以上</td></tr>
</table>

クリエイティブデザイン学科　教養教育科目の履修の流れ

必修科目　選択科目

	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
生活と社会	地域社会論 暮らしと経済学	メンタルヘルスとケア	社会心理学 市民と法	日本近代史 日本の政治と国際社会	現代の倫理	現代の哲学 文化人類学		
自然と技術	情報リテラシー 数学的思考法 生活とサイエンス 生活とテクノロジー	コンピュータ基礎	命と生物学	地球環境とエコロジー ばらつきと規則	現代科学総論A			
言葉と表現	日本語表現A 英語ⅠA フランス語A ドイツ語A 韓国語A 中国語A	日本語表現B 英語ⅠB フランス語B ドイツ語B 韓国語B 中国語B	英語ⅡA	英語ⅡB プレゼンテーション	英会話A 資格英語A ビジネスマナー	英会話B 資格英語B		
心と体の健康	スポーツ実技Ⅰ	スポーツ・身体科学	スポーツ実技Ⅱ	健康論				
学際	特別課外活動Ⅰ・特別課外活動Ⅱ							
		他大学等教養科目群						

クリエイティブデザイン学科　専門科目の履修の流れ

必修科目　選択科目

1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
デザインセミナーⅠ	デザインセミナーⅡ	デザインセミナーⅢ			キャリアデザイン		
	プロダクトデザイン論Ⅰ		プロダクトデザイン論Ⅱ				
		生産技術					
		材料学					
		エルゴノミクス	道具と空間				
	エクスペリエンスデザイン論			インタラクションデザイン論			
			情報デザイン論Ⅰ	情報デザイン論Ⅱ			
	ビジュアルデザイン論	映像・メディア論					
		広告論	エディトリアルデザイン				
造形基礎論		色彩論		工芸学	デザイン史		
造形演習Ⅰ	造形演習Ⅱ			ユーザリサーチ論	データ分析	知的財産権	
モデリング演習	デッサン演習				デザインマーケティング論	デザイン起業論	
						クリエイティブデザイン特別講義	
			ＣＡＤ演習	デザインプログラミング			
	デザイン基礎演習	デザイン実習Ⅰ	デザイン実習Ⅱ	デザイン実習Ⅲ	デザイン実習Ⅳ	クリエイティブデザイン研修Ⅰ	クリエイティブデザイン研修Ⅱ

クリエイティブデザイン特別課外活動

他学科開講科目群

他大学開講科目群

新教育課程表における進級・卒業条件

クリエイティブデザイン学科

◎３年次への進級条件

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	20 単位以上 必修 12 単位以上を含むこと	
専門教育科目	41 単位以上 CAD 演習を除く，２年次までの必修科目を全て修得のこと	
計	全体として 61 単位以上修得のこと	

◎４年次への進級条件

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	30 単位以上 必修 12 単位以上を含むこと	
専門教育科目	74 単位以上 CAD 演習，デザイン実習Ⅲ，Ⅳを含むこと	
計	全体として 104 単位以上修得のこと	

◎卒業に要する最低修得単位数

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	34 単位 必修 16 単位を含むこと	
専門教育科目	90 単位 必修 61 単位を含むこと	
計	124 単位	

新 教 育 課 程 表

クリエイティブデザイン学科

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
教養教育科目	生活と社会	1	地域社会論		2	2								
		2	暮らしと経済学		2	2								
		3	メンタルヘルスとケア		2		2							
		4	社会心理学		2			2						
		5	市民と法		2			2						
		6	日本近代史		2				2					
		7	日本の政治と国際社会		2				2					
		8	現代の倫理		2					2				
		9	現代の哲学		2						2			
		10	文化人類学		2						2			
	自然と技術	11	情報リテラシー	2		2								
		12	コンピュータ基礎	2			2							
		13	数学的思考法		2	2								
		14	生活とサイエンス		2	2								
		15	生活とテクノロジー		2	2								
		16	命と生物学		2			2						
		17	地球環境とエコロジー		2				2					
		18	ばらつきと規則		2				2					
		19	現代科学総論A		2					2				
	言葉と表現	20	日本語表現A	2		2								
		21	日本語表現B	2			2							
		22	英語ⅠA	2		2								
		23	英語ⅠB	2			2							
		24	英語ⅡA	2				2						
		25	英語ⅡB	2					2					
		26	英会話A		1					2				
		27	英会話B		1						2			
		28	資格英語A		1					2				
		29	資格英語B		1						2			
		30	フランス語A		2	2								
		31	フランス語B		2		2							
		32	ドイツ語A		2	2								
		33	ドイツ語B		2		2							
		34	韓国語A		2	2								
		35	韓国語B		2		2							
		36	中国語A		2	2								
		37	中国語B		2		2							
		38	プレゼンテーション		2				2					
		39	ビジネスマナー		2					2				

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
教養教育科目	心と体の健康	40	スポーツ実技Ⅰ		1	2								
		41	スポーツ・身体科学		1		2							
		42	スポーツ実技Ⅱ		1			2						
		43	健康論		2				2					
	学際	44	特別課外活動Ⅰ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	
		45	特別課外活動Ⅱ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	
		46	他大学等教養科目群		4		…	…	…	…	…	…		※1
	小計（46科目）			16	71									

※1　他大学等教養科目群については，４単位までを進級および卒業に要する単位に算入する。

区分		授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
専門教育科目	1	デザインセミナーⅠ	1		2								
	2	造形基礎論	2		2								
	3	造形演習Ⅰ	3		4								
	4	モデリング演習	3		4								
	5	プロダクトデザイン論Ⅰ	2			2							
	6	エクスペリエンスデザイン論	2			2							
	7	ビジュアルデザイン論	2			2							
	8	デザインセミナーⅡ	1			2							
	9	デッサン演習	3			4							
	10	造形演習Ⅱ	3			4							
	11	デザイン基礎演習	4			6							
	12	デザインセミナーⅢ	1				2						
	13	デザイン実習Ⅰ	4				6						
	14	デザイン実習Ⅱ	4					6					
	15	CAD演習	3					4					
	16	デザイン実習Ⅲ	8						12				
	17	キャリアデザイン	1							2			
	18	デザイン実習Ⅳ	8							12			
	19	クリエイティブデザイン研修Ⅰ	3								6		
	20	クリエイティブデザイン研修Ⅱ	3									6	
	21	生産技術		2			2						
	22	エルゴノミクス		2			2						
	23	材料学		2			2						
	24	色彩論		2			2						
	25	映像・メディア論		2			2						
	26	広告論		2			2						
	27	エディトリアルデザイン		2				2					
	28	プロダクトデザイン論Ⅱ		2				2					
	29	道具と空間		2				2					
	30	情報デザイン論Ⅰ		2				2					
	31	デザインプログラミング		2					2				
	32	インタラクションデザイン論		2					2				
	33	情報デザイン論Ⅱ		2					2				
	34	ユーザリサーチ論		2					2				
	35	工芸学		2					2				
	36	デザイン史		2						2			
	37	データ分析		2						2			
	38	デザインマーケティング論		2						2			
	39	知的財産権		2							2		
	40	クリエイティブデザイン特別講義		2							2		
	41	デザイン起業論		2							2		
	42	クリエイティブデザイン特別課外活動		4	…	…	…	…	…	…	…	…	
	43	他学科開講科目群		8		…	…	…	…	…	…	…	
	44	他大学開講科目群		4		…	…	…	…	…	…		
	小計（44科目）		61	58									

安全安心生活デザイン学科

あなたや家族そして地域のすこやかな生活を創る学び

安全安心に関わる３つの領域, 私たちが暮らす「住まい」を形作る技術, 質の高い暮らしのための「心身」の健康に関する知識･知恵, そして社会生活を送るための「地域」における様々なコミュニケーションについて総合的に学ぶことが出来ます。

そして，賢い生活者として，また，賢いデザイナーとして実社会で活躍できるように実践的課題を通してスキルアップを目指します。

１．カリキュラムの特徴

当学科の専門教育科目は,「住まい」,「心身」,「地域」という３つの領域を柱としてカリキュラムを構成しています。それらは，大きく２つのカテゴリーに分けられます。

⑴　**生活デザインを支える理論：**　専門教育科目における主要科目
主に１年次と２年次で広く学びます。

⑵　**生活デザインを実践するための技術の基礎と応用：**
専門教育科目における実践的な主要科目
１年次から３年次と段階的に専門的な内容を学びます。

２年次前期までは，３つの領域の基本となる基礎理論や技術を学び，２年次後期から，より専門的に学ぶために,「住まいのコース」,「心身のコース」,「地域のコース」のいずれかのコースを専攻し，４年次の生活デザイン研修に集約できるような効果的な流れになっています。

つぎに，教養教育科目は，ライフデザイン学部の３学科では，ほぼ共通な科目が開講されています。

⑶　**生活デザインのバックグラウンド：**教養教育科目
「生活と社会」,「自然と技術」,「言葉と表現」,「心と体の健康」という４つの分野を設け，幅広い素養を身につけます。

２．履修のためのガイド

２年次から３年次，３年次から４年次へ進級するときに，進級条件があり，これを充足しないと進級できません。しかし，この進級条件は進級のための必要最小限の条件であり，実際に修得できる単位数より低めに設定されています。従って，これを目標にしていては，４年間で卒業することは，事実上不可能です。

単位修得に関しては，次の「学年毎の目標単位数」を参考にして履修計画を立ててください。

学年毎の目標単位数

	教養教育科目		専門教育科目		各学年の合　計	1年次からの累　計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	12	11以上	22	0	45以上	45以上
2年次	4	11以上	16	14以上	45以上	90以上
3年次	0	8以上	8	14以上	30以上	120以上
4年次	0	0	6	10以上	16以上	136以上
卒業までの総合計	16	30以上	52	38以上	136以上	
	46以上		90以上			

尚，２級建築士の受験を目指す諸君は，指定された建築関係の科目をバランスよく履修する必要があります。詳しくは，後述の『卒業後の取得資格』169ページに記してあります。必ず確認してください。

不明な点があれば，学科教務委員に問い合わせてください。

３．教育課程の一部変更（授業開講時期の変更）

科 目 名	必・選の別	単位数	現　　行	変　　更	備　　考
環境心理学	選択	２単位	３年次 前期	３年次 後期	平成20年度以降入学者対象 平成22年度から実施
住まいの材料実験	選択	２単位	３年次 後期	３年次 前期	平成20年度以降入学者対象 平成22年度から実施

※『住まいの材料実験』の履修に関する注意事項

① 前期（毎週授業時間数２時限分）の科目ですが，実際の授業運営は，「前期（週１時限分），後期（週１時限分）」に分割して実施します。

② 履修登録は，必ず前期に行ってください。（後期に履修登録する必要はありません。）

③ 後期に入ってからの履修変更（追加登録または登録削除）はできません。

④ この科目を履修登録した学生は，必ず，前期に実施する「住まいの材料実験」と後期に実施する「住まいの材料実験」の両方を受講してください。

⑤ この科目を履修登録した学生は，後期の「住まいの材料実験」が行われる曜日・時間に，他の科目を履修登録することはできません。

⑥ 成績評価は，後期授業終了後に行います。

⑦ その他不明点は，安全安心生活デザイン学科の教務委員に問い合わせてください。

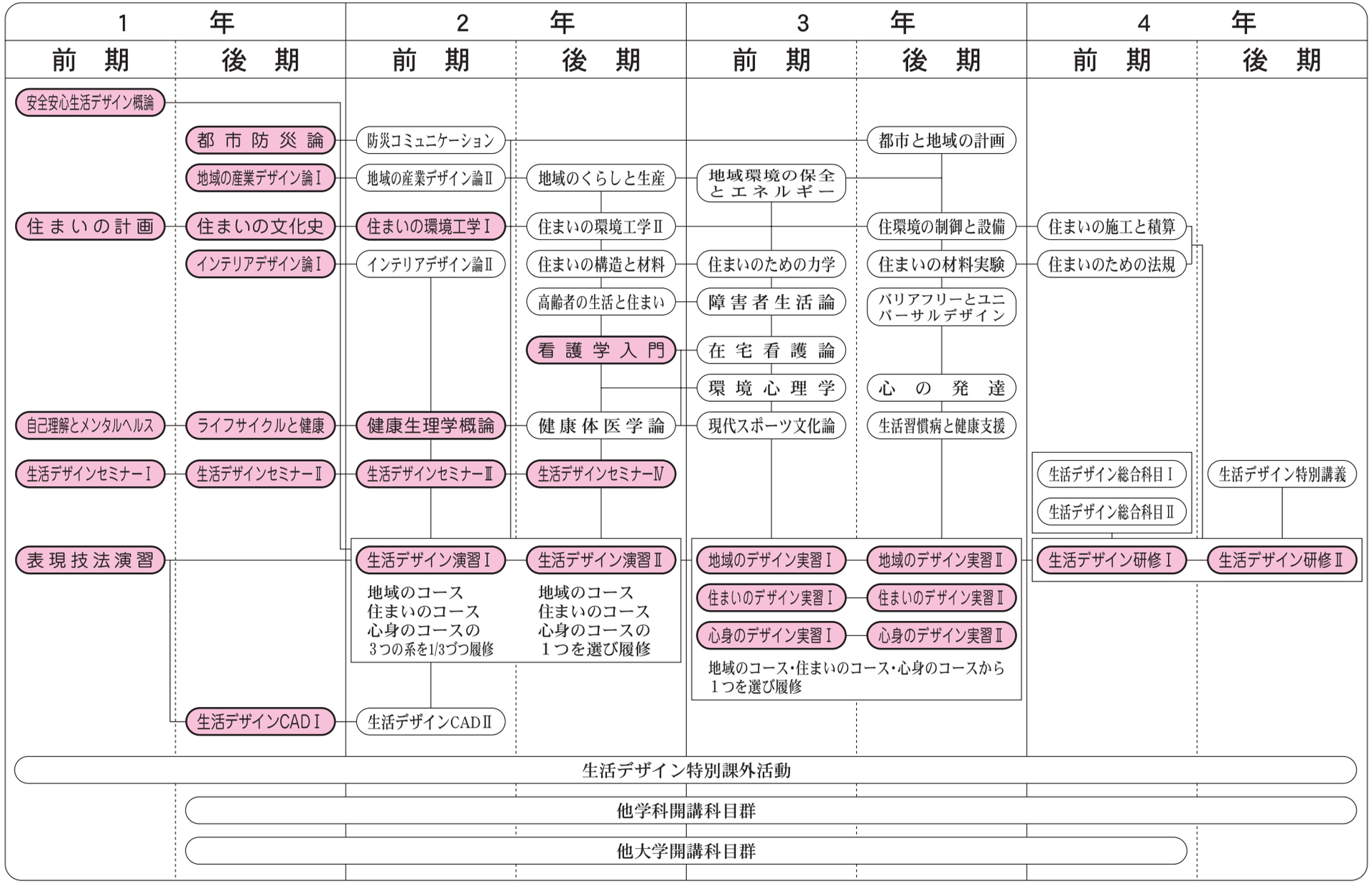
安全安心生活デザイン学科　教養教育科目の履修の流れ

必修科目　選択科目

	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
生活と社会	地域社会論 暮らしと経済学	メンタルヘルスとケア	社会心理学 市民と法	日本近代史 日本の政治と国際社会	現代の倫理	現代の哲学 文化人類学		
自然と技術	情報リテラシー 数学的思考法 生活とサイエンス 生活とテクノロジー	コンピュータ基礎	命と生物学	地球環境とエコロジー ばらつきと規則	現代科学総論A			
言葉と表現	日本語表現A 英語ⅠA フランス語A ドイツ語A 韓国語A 中国語A	日本語表現B 英語ⅠB フランス語B ドイツ語B 韓国語B 中国語B	英語ⅡA	英語ⅡB プレゼンテーション	英会話A 資格英語A ビジネスマナー	英会話B 資格英語B		
心と体の健康	スポーツ実技Ⅰ	スポーツ・身体科学	スポーツ実技Ⅱ	健康論				
学際	特別課外活動Ⅰ・特別課外活動Ⅱ							
		他大学等教養科目群						

安全安心生活デザイン学科　専門科目の履修の流れ

必修科目　選択科目



新教育課程表における進級・卒業条件

安全安心生活デザイン学科

◎３年次への進級条件

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	20 単位以上 必修 12 単位以上を含むこと	
専門教育科目	38 単位以上 表現技法演習，生活デザイン CAD Ⅰ， 生活デザイン演習Ⅰ・Ⅱを含む 必修 32 単位以上修得のこと	
計	全体として 62 単位以上修得のこと	

◎４年次への進級条件

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	30 単位以上 必修 14 単位以上を含むこと	
専門教育科目	70 単位以上 次の３コースから同一コースの実習Ⅰ・Ⅱを含む （地域のコース）　地域のデザイン実習Ⅰ・Ⅱ （住まいのコース）住まいのデザイン実習Ⅰ・Ⅱ （心身のコース）　心身のデザイン実習Ⅰ・Ⅱ 必修 40 単位以上修得のこと	
計	全体として 100 単位以上修得のこと	

◎卒業に要する最低修得単位数

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	36 単位 必修 16 単位を含むこと	
専門教育科目	88 単位 必修 52 単位を含むこと	
計	124 単位	

新 教 育 課 程 表

安全安心生活デザイン学科

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
教養教育科目	生活と社会	1	地域社会論		2	2								
		2	暮らしと経済学		2	2								
		3	メンタルヘルスとケア		2		2							
		4	社会心理学		2			2						
		5	市民と法		2			2						
		6	日本近代史		2				2					
		7	日本の政治と国際社会		2				2					
		8	現代の倫理		2					2				
		9	現代の哲学		2						2			
		10	文化人類学		2						2			
	自然と技術	11	情報リテラシー	2		2								
		12	コンピュータ基礎	2			2							
		13	数学的思考法		2	2								
		14	生活とサイエンス		2	2								
		15	生活とテクノロジー		2	2								
		16	命と生物学		2			2						
		17	地球環境とエコロジー		2				2					
		18	ばらつきと規則		2				2					
		19	現代科学総論A		2					2				
	言葉と表現	20	日本語表現A	2		2								
		21	日本語表現B	2			2							
		22	英語ⅠA	2		2								
		23	英語ⅠB	2			2							
		24	英語ⅡA	2				2						
		25	英語ⅡB	2					2					
		26	英会話A		1					2				
		27	英会話B		1						2			
		28	資格英語A		1					2				
		29	資格英語B		1						2			
		30	フランス語A		2	2								
		31	フランス語B		2		2							
		32	ドイツ語A		2	2								
		33	ドイツ語B		2		2							
		34	韓国語A		2	2								
		35	韓国語B		2		2							
		36	中国語A		2	2								
		37	中国語B		2		2							
		38	プレゼンテーション		2				2					
		39	ビジネスマナー		2					2				

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
教養教育科目	心と体の健康	40	スポーツ実技Ⅰ		1	2								
		41	スポーツ・身体科学		1		2							
		42	スポーツ実技Ⅱ		1			2						
		43	健康論		2				2					
	学際	44	特別課外活動Ⅰ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	
		45	特別課外活動Ⅱ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	
		46	他大学等教養科目群		4		…	…	…	…	…	…		※1
	小計（46科目）			16	71									

※1　他大学等教養科目群については，４単位までを進級および卒業に要する単位に算入する。

区分		授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
専門教育科目	1	安全安心生活デザイン概論	2		2								
	2	生活デザインセミナーⅠ	1		2								
	3	都市防災論	2			2							
	4	住まいの計画	2		2								
	5	自己理解とメンタルヘルス	2		2								
	6	表現技法演習	2		4								
	7	生活デザインセミナーⅡ	1			2							
	8	地域の産業デザイン論Ⅰ	2			2							
	9	住まいの文化史	2			2							
	10	インテリアデザイン論Ⅰ	2			2							
	11	ライフサイクルと健康	2			2							
	12	生活デザインCADⅠ	2			4							
	13	生活デザインセミナーⅢ	1				2						
	14	住まいの環境工学Ⅰ	2				2						
	15	健康生理学概論	2				2						
	16	生活デザイン演習Ⅰ	4				6						
	17	生活デザインセミナーⅣ	1					2					
	18	看護学入門	2					2					
	19	生活デザイン演習Ⅱ	4					6					
	20	地域のデザイン実習Ⅰ	4						6				※1
	21	住まいのデザイン実習Ⅰ	4						6				※1
	22	心身のデザイン実習Ⅰ	4						6				※1
	23	地域のデザイン実習Ⅱ	4							6			※1
	24	住まいのデザイン実習Ⅱ	4							6			※1
	25	心身のデザイン実習Ⅱ	4							6			※1
	26	生活デザイン研修Ⅰ	3								6		
	27	生活デザイン研修Ⅱ	3									6	
	28	防災コミュニケーション		2			2						
	29	地域の産業デザイン論Ⅱ		2			2						
	30	インテリアデザイン論Ⅱ		2			2						
	31	生活デザインCADⅡ		2			4						
	32	地域のくらしと生産		2				2					
	33	高齢者の生活と住まい		2				2					
	34	住まいの環境工学Ⅱ		2				2					
	35	健康体医学論		2				2					
専門教育科目	36	住まいの構造と材料		2				2					
	37	地域環境の保全とエネルギー		2					2				
	38	都市と地域の計画		2						2			
	39	在宅看護論		2					2				
	40	住まいのための力学		2					2				
	41	環境心理学		2					2				
	42	障害者生活論		2					2				
	43	現代スポーツ文化論		2					2				
	44	バリアフリーとユニバーサルデザイン		2						2			
	45	住環境の制御と設備		2						2			
	46	心の発達		2						2			
	47	生活習慣病と健康支援		2						2			
	48	住まいの材料実験		2						4			
	49	生活デザイン総合科目Ⅰ		2							2		
	50	生活デザイン総合科目Ⅱ		2							2		
	51	住まいのための法規		2							2		
	52	住まいの施工と積算		2							2		
	53	生活デザイン特別講義		2								2	
	54	生活デザイン特別課外活動		4	…	…	…	…	…	…	…	…	
	55	他学科開講科目群		8		…	…	…	…	…	…	…	
	56	他大学開講科目群		4		…	…	…	…	…	…		
		小計（56科目）	68	68									

※1　3科目から1科目必修選択

経営コミュニケーション学科

１．本学科の教育理念

「経営コミュニケーション学」とは個人が責任を持つ企業もしくはグループの組織とその環境をマネージメントするための知識，及びそれをスムーズに行うためのコミュニケーションの手法とあり方を解明する学問です。そのために，本学科は経営に必要な知識とＩＣＴ（情報コミュニケーション技術）を含むコミュニケーション手法を教育し，現代的経営者を志向する人物及び経営学の素養を持つ人材となるために幅広い専門教育を提供しています。

２．本学科のカリキュラムの特徴

専門教育科目は経営スキル・コミュニケーションスキル及び現場実践教育を重視した専門教育を編成しています。具体的には次の３項目を「経営能力」と考えています。

① 事業に対する経営力と構想力

② 経営目標達成のための判断力と情報調査・処理能力

③ 組織と環境をマネージメントできるコミュニケーション能力

それにあわせて専門科目は，

① を教育するための区分Ⅰ：経営・経済（基礎科目）と経営・経済（発展科目）

② を教育するための区分Ⅱ：ＩＣＴ（情報コミュニケーション技術）・社会情報

③ を教育するための区分Ⅲ：コミュニケーション・心理からなっています。

本学科は「経営コース」と「コミュニケーションコース」の二つのコースを設け，「経営コース」は区分Ⅰのうちの基礎科目のすべてと発展科目のほとんど，及び区分ⅡとⅢの必須科目および選択科目を学習します。

「コミュニケーションコース」は区分Ⅲのほとんどと区分Ⅰのうち基礎科目のすべておよび区分Ⅱの必須科目および選択科目を学習します。

コース毎の学年毎におけるカリキュラム体系を表１に示します。

表１　コース毎による学年毎カリキュラム体系

コース	１．２学年	３学年	４学年
経営	区分Ⅰ（基礎科目） 区分ⅡとⅢ	区分Ⅰ（発展科目およびコース別科目） 区分ⅡとⅢ	研修 区分Ⅰ*（コース別科目） 区分Ⅱ
コミュニケーション	区分Ⅲ 区分Ⅰ（基礎科目） 区分Ⅱ	区分Ⅲ（コース別科目）、 区分Ⅱ、 区分Ⅰ（発展科目）	研修 区分Ⅱ 区分Ⅲ*（コース別科目）

＊）区分Ⅰと区分Ⅲの発展科目である「交渉学」が該当しています。

カリキュラム編成の特徴として

1）学生のニーズに対応できるように,「経営コース」と「コミュニケーションコース」の二つのコースによる履修モデルを提供しています。

2）入学時からの「経営コミュニケーションセミナーⅠ」で学生のライフスタイルデザインを支援しています。

3）３年次開講の「経営実践」,「経営コミュニケーション特別講義」,「経営コミュニケーションセミナーⅡ」で動機付け学習および進路指導を支援しています。

また,「経営コース」はファイナンシャルプランナー，社会調査士，ＩＴパスポートなどの資格を目指す科目,「コミュニケーションコース」では語学，映像技術，ＩＣＴに関する資格取得，社会調査士などの資格を目指す科目が開講されています。

３．履修ガイダンス

１年次の「経営コミュニケーションセミナーⅠ」で，将来の進路にあわせてどのような科目を履修したらよいかを指導していきます。３年次での「経営コース」および「コミュニケーションコース」のコース選択は２年次後期の開始時に行います。３年次後期で企業の第１線で活躍している方々の講師による「経営コミュニケーション特別講義」を行います。夏休み, 春休み期間を利用した企業や学外組織が行っているインターンシップなどの参加案内をいたします。３年次後期の「経営コミュニケーションセミナーⅡ」で，４年次研修へ向けた取り組みを行います。４年次は，引き続き研究室に配属されて学習します。

１年次から４年次までの修得すべき単位数の経営コースの標準的な例を表２－１，コミュニケーションコースの標準的な例を表２－２に示します。コースごとによる開講科目の単位数（分母）に対する修得すべき標準的な単位数（分子）示しています。実際に，履修計画を立てるときは，くれぐれも，２年次から３年次および３年次から４年次への進級および卒業に必要とされる最低条件としての単位を目標にするのではなく，少し余裕を持った単位修得をするように心がける必要があります。

表２－１　経営コースの単位修得の標準例（標準修得単位数 / 開講単位数）

学年	教養教育科目		専門教育科目		各学年の合計	１年からの累計
	必須	選択	必須	選択		
１年次	11/11	8 /29	16/16	8 / 8	43/64	43/64
２年次	6 / 6	8 /14	22/22	4 /14	40/56	83/120
３年次	0 / 0	4 /16	19/19	24/41	47/76	130/196
４年次	0 / 0	0 / 0	6 / 6	10/10	16/16	146/212
卒業までの合計	17/17	20/59	63/63	46/73		146/212

表２－２　コミュニケーションコースの単位修得の標準例（標準修得単位数 / 開講単位数）

学年	教養教育科目		専門教育科目		各学年の合計	１年からの累計
	必須	選択	必須	選択		
１年次	11/11	8 /29	16/16	4 / 8	39/64	39/66
２年次	6 / 6	6 /14	22/22	14/14	48/56	87/120
３年次	0 / 0	8 /16	17/17	21/41	46/74	133/194
４年次	0 / 0	0 / 0	6 / 6	8 /12	14/18	147/212
卒業までの合計	17/17	22/59	61/61	47/75		147/212

４．教育課程の一部変更（授業開講時期の変更）

科 目 名	必・選の別	単位数	現　　行	変　　更	備　　考
現代の哲学	選択	２単位	３年次 前期	３年次 後期	平成 20 年度以降入学者対象 平成 22 年度から実施
ビジネス法	選択	２単位	３年次 後期	３年次 前期	平成 20 年度以降入学者対象 平成 22 年度から実施
ソーシャル・ アントレプレナー論	選択	２単位	３年次 後期	３年次 前期	平成 20 年度以降入学者対象 平成 22 年度から実施

経営コミュニケーション学科　教養教育科目の履修の流れ

必修科目　選択科目

	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
生活と社会	地域社会論 暮らしと経済学	メンタルヘルスとケア	社会心理学 市民と法	日本近代史 日本の政治と国際社会	現代の倫理	文化人類学 現代の哲学		
自然と技術	情報リテラシー 数学的思考法 生活とサイエンス 生活とテクノロジー		命と生物学	ばらつきと規則 地球環境とエコロジー				
言葉と表現	日本語表現A 英語ⅠA フランス語A ドイツ語A 韓国語A 中国語A	日本語表現B 英語ⅠB フランス語B ドイツ語B 韓国語B 中国語B	英語ⅡA	英語ⅡB プレゼンテーション	英会話A 資格英語A ビジネスマナー	英会話B 資格英語B		
心と体の健康	スポーツ実技Ⅰ	スポーツ・身体科学	スポーツ実技Ⅱ	健康論				
学際	特別課外活動Ⅰ・特別課外活動Ⅱ							
		他大学等教養科目群						

経営コミュニケーション学科（経営コース）　専門科目の履修の流れ

必修科目　選択科目

1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
経営コミュニケーションセミナーⅠ	工業経営学入門	ミクロ経済学		マクロ経済学	国際経済論	経営コミュニケーション研修A	経営コミュニケーション研修B
経営学概論	技術系企業倫理論	経営管理論	経営組織論	経営実践	財務管理・管理会計論	人材マネジメント	
	経営心理学		経営統計学	簿記・財務諸表論	経営コミュニケーションセミナーⅡ	ベンチャービジネス論	
		論理的思考法	マーケティング論	実践マネジメント研修	技術系事業計画論	知的財産論	
			工業生産管理論	経営戦略論	技術マネジメント論	交渉学	
				技術系中小企業論	映像表現Ⅱ		
現代メディア論	イメージメディア論			映像表現Ⅰ	メディア・プロデュースB		
		文書コミュニケーションA	文書コミュニケーションB	メディア・プロデュースA	ビジネス英語B		
スピーチコミュニケーションA	スピーチコミュニケーションB	異文化コミュニケーションA	異文化コミュニケーションB	ビジネス英語A	身体表現研究		
		対人コミュニケーションA	対人コミュニケーションB	ビジネス法	環境経営論		
			キャリア・カウンセリング理論	ソーシャル・アントレプレナー論	地域技術系企業論		
					経営コミュニケーション特別講義		
経営コミュニケーション特別課外活動（1－4年次）	コンピュータ基礎	表計算Ⅰ		表計算Ⅱ			
		データベースⅠ		データベースⅡ	情報化と経営		
		ネットワークⅠ		ネットワークⅡ			
		社会調査法	統計学	社会科学各論	情報科学研修A	情報科学研修B	
		海外語学研修					
経営コミュニケーション特別課外活動							
	他学科開講科目群						
	他大学開講科目群						

経営コミュニケーション学科（コミュニケーションコース）　専門科目の履修の流れ

必修科目　選択科目

1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
経営コミュニケーションセミナーⅠ	工業経営学入門	ミクロ経済学			国際経済論	人材マネジメント	
経営学概論	技術系企業倫理論	経営管理論	経営組織論	マクロ経済学	技術系事業計画論	ベンチャービジネス論	
	経営心理学		経営統計学	経営実践	技術マネジメント論	知的財産論	
		論理的思考法	マーケティング論	簿記・財務諸表論	環境経営論	交渉学	
			工業生産管理論	経営戦略論	財務管理・管理会計論		
				技術系中小企業論	地域技術系企業論		
				ビジネス法			
				ソーシャル・アントレプレナー論			
現代メディア論	イメージメディア論			映像表現Ⅰ	映像表現Ⅱ	経営コミュニケーション研修A	経営コミュニケーション研修B
		文書コミュニケーションA	文書コミュニケーションB	メディアプロデュースA	メディアプロデュースB		
				実践マネジメント研修	身体表現研究		
スピーチコミュニケーションA	スピーチコミュニケーションB	異文化コミュニケーションA	異文化コミュニケーションB		経営コミュニケーションセミナーⅡ		
		対人コミュニケーションA	対人コミュニケーションB	ビジネス英語A	ビジネス英語B		
			キャリア・カウンセリング理論		経営コミュニケーション特別講義		
	コンピュータ基礎	表計算Ⅰ		表計算Ⅱ			
		データベースⅠ		データベースⅡ	情報化と経営		
		ネットワークⅠ		ネットワークⅡ			
		社会調査法	統計学	社会科学各論	情報科学研修A	情報科学研修B	

海外語学研修

経営コミュニケーション特別課外活動

他学科開講科目群

他大学開講科目群

新教育課程表における進級・卒業条件

経営コミュニケーション学科

◎３年次への進級条件

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	22 単位以上 必修 12 単位以上を含むこと	
専門教育科目	40 単位以上 必修 30 単位以上を含むこと	
計	全体として 62 単位以上修得のこと	

◎４年次への進級条件

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	28 単位以上 必修 17 単位を含むこと	
専門教育科目	76 単位以上 必修 43 単位以上を含むこと	
計	全体として 104 単位以上修得のこと	

◎卒業に要する最低修得単位数

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	28 単位 必修 17 単位を含むこと	
専門教育科目	96 単位 経営コースは必修 63 単位を含むこと コミュニケーションコースは必修 61 単位を含むこと	
計	124 単位	

新 教 育 課 程 表

経営コミュニケーション学科（経営コース）

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
教養教育科目	生活と社会	1	地域社会論		2	2								
		2	暮らしと経済学		2	2								
		3	メンタルヘルスとケア		2		2							
		4	社会心理学		2			2						
		5	市民と法		2			2						
		6	日本近代史		2				2					
		7	日本の政治と国際社会		2				2					
		8	現代の倫理		2					2				
		9	現代の哲学		2					2				
		10	文化人類学		2						2			
	自然と技術	11	情報リテラシー	2		2								
		12	ばらつきと規則	2					2					
		13	数学的思考法		2	2								
		14	生活とサイエンス		2	2								
		15	生活とテクノロジー		2	2								
		16	命と生物学		2			2						
		17	地球環境とエコロジー		2				2					
	言葉と表現	18	日本語表現A	2		2								
		19	日本語表現B	2			2							
		20	英語ⅠA	2		2								
		21	英語ⅠB	2			2							
		22	英語ⅡA	2				2						
		23	英語ⅡB	2					2					
		24	英会話A		1					2				
		25	英会話B		1						2			
		26	資格英語A		1					2				
		27	資格英語B		1						2			
		28	フランス語A		2	2								
		29	フランス語B		2		2							
		30	ドイツ語A		2	2								
		31	ドイツ語B		2		2							
		32	韓国語A		2	2								
		33	韓国語B		2		2							
		34	中国語A		2	2								
		35	中国語B		2		2							
		36	プレゼンテーション		2				2					
		37	ビジネスマナー		2					2				

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
教養教育科目	心と体の健康	38	スポーツ実技Ⅰ	1		2								
		39	スポーツ・身体科学		1		2							
		40	スポーツ実技Ⅱ		1			2						
		41	健康論		2				2					
	学際	42	特別課外活動Ⅰ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	
		43	特別課外活動Ⅱ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	
		44	他大学等教養科目群		4		…	…	…	…	…	…		※1
	小計（44科目）			17	66									

※1　他大学等教養科目群については，４単位までを進級および卒業に要する単位に算入する。

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
専門教育科目	経営・経済〈基礎〉	1	経営学概論	2		2								
		2	工業経営学入門	2			2							
		3	技術系企業倫理論	2			2							
		4	経営心理学	2			2							
		5	ミクロ経済学	2				2						
		6	経営管理論	2				2						
		7	論理的思考法	2				2						
		8	マーケティング論	2					2					
		9	工業生産管理論	2					2					
		10	経営組織論	2					2					
		11	経営統計学	2					2					
	経営・経済〈発展〉	12	経営実践	2						2				
		13	技術系中小企業論		2					2				
		14	技術系事業計画論		2						2			
		15	経営戦略論		2					2				
		16	ビジネス法		2						2			
		17	環境経営論		2						2			
		18	ソーシャル・アントレプレナー論		2						2			
		19	地域技術系企業論		2						2			
		20	技術マネジメント論		2						2			
		21	人材マネジメント		2							2		
		22	ベンチャービジネス論		2							2		
		23	知的財産論		2							2		
		24	交渉学		2							2		
	コミュニケーション・心理	25	現代メディア論	2		2								
		26	イメージメディア論	2			2							
		27	文書コミュニケーションA	2				2						
		28	文書コミュニケーションB	2					2					
		29	スピーチコミュニケーションA		2	2								
		30	スピーチコミュニケーションB		2		2							
		31	キャリア・カウンセリング理論		2				2					
		32	異文化コミュニケーションA		2			2						
		33	異文化コミュニケーションB		2				2					
		34	対人コミュニケーションA		2			2						
		35	対人コミュニケーションB		2				2					
		36	ビジネス英語A		2					2				
		37	ビジネス英語B		2						2			
		38	海外語学研修		4			……	……	……	……	……	……	

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
専門教育科目	ICT・社会情報	39	コンピュータ基礎	2			2							
		40	表計算Ⅰ	2				2						
		41	ネットワークⅠ	2				2						
		42	データベースⅠ	2				2						
		43	情報科学研修A		2						2			
		44	情報科学研修B		2							2		
		45	情報化と経営		2						2			
		46	統計学		2				2					
		47	社会調査法		2			2						
専門教育科目〈共通〉	共通	48	経営コミュニケーションセミナーⅠ	2		2								
		49	経営コミュニケーションセミナーⅡ	2							2			
		50	経営コミュニケーション研修A	2								4		
		51	経営コミュニケーション研修B	4									8	
		52	経営コミュニケーション特別講義		2						2			
		53	経営コミュニケーション特別課外活動		4	……	……	……	……	……	……	……	……	
専門教育科目〈コース〉	経営	54	マクロ経済学	2						2				
		55	国際経済論	2							2			
		56	簿記・財務諸表論	2						2				
		57	財務管理・管理会計論	2							2			
		58	実践マネジメント研修	2						2				
		59	表計算Ⅱ	1						2				
		60	データベースⅡ	1						2				
		61	ネットワークⅡ	1						2				
	コミュニケーション	62	社会科学各論		2					2				
		63	身体表現研究		2						2			
		64	映像表現Ⅰ		2					2				
		65	映像表現Ⅱ		1						2			
		66	メディアプロデュースA		2					2				
		67	メディアプロデュースB		2						2			
		68	他学科開講科目群		8		……	……	……	……	……	……	……	
		69	他大学開講科目群		4		……	……	……	……	……	……		
小計（69科目）				63	85									

新 教 育 課 程 表

経営コミュニケーション学科（コミュニケーションコース）

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
教養教育科目	生活と社会	1	地域社会論		2	2								
		2	暮らしと経済学		2	2								
		3	メンタルヘルスとケア		2		2							
		4	社会心理学		2			2						
		5	市民と法		2			2						
		6	日本近代史		2				2					
		7	日本の政治と国際社会		2				2					
		8	現代の倫理		2					2				
		9	現代の哲学		2					2				
		10	文化人類学		2						2			
	自然と技術	11	情報リテラシー	2		2								
		12	ばらつきと規則	2					2					
		13	数学的思考法		2	2								
		14	生活とサイエンス		2	2								
		15	生活とテクノロジー		2	2								
		16	命と生物学		2			2						
		17	地球環境とエコロジー		2				2					
	言葉と表現	18	日本語表現A	2		2								
		19	日本語表現B	2			2							
		20	英語ⅠA	2		2								
		21	英語ⅠB	2			2							
		22	英語ⅡA	2				2						
		23	英語ⅡB	2					2					
		24	英会話A		1					2				
		25	英会話B		1						2			
		26	資格英語A		1					2				
		27	資格英語B		1						2			
		28	フランス語A		2	2								
		29	フランス語B		2		2							
		30	ドイツ語A		2	2								
		31	ドイツ語B		2		2							
		32	韓国語A		2	2								
		33	韓国語B		2		2							
		34	中国語A		2	2								
		35	中国語B		2		2							
		36	プレゼンテーション		2				2					
		37	ビジネスマナー		2					2				

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
教養教育科目	心と体の健康	38	スポーツ実技Ⅰ	1		2								
		39	スポーツ・身体科学		1		2							
		40	スポーツ実技Ⅱ		1			2						
		41	健康論		2				2					
	学際	42	特別課外活動Ⅰ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	
		43	特別課外活動Ⅱ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	
		44	他大学等教養科目群		4		…	…	…	…	…	…		※1
	小計（44科目）			17	66									

※1　他大学等教養科目群については，４単位までを進級および卒業に要する単位に算入する。

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
専門教育科目	経営・経済〈基礎〉	1	経営学概論	2		2								
		2	工業経営学入門	2			2							
		3	技術系企業倫理論	2			2							
		4	経営心理学	2			2							
		5	ミクロ経済学	2				2						
		6	経営管理論	2				2						
		7	論理的思考法	2				2						
		8	マーケティング論	2					2					
		9	工業生産管理論	2					2					
		10	経営組織論	2					2					
		11	経営統計学	2					2					
	経営・経済〈発展〉	12	経営実践	2						2				
		13	技術系中小企業論		2					2				
		14	技術系事業計画論		2						2			
		15	経営戦略論		2					2				
		16	ビジネス法		2						2			
		17	環境経営論		2						2			
		18	ソーシャル・アントレプレナー論		2						2			
		19	地域技術系企業論		2						2			
		20	技術マネジメント論		2						2			
		21	人材マネジメント		2							2		
		22	ベンチャービジネス論		2							2		
		23	知的財産論		2							2		
		24	交渉学		2							2		
	コミュニケーション・心理	25	現代メディア論	2		2								
		26	イメージメディア論	2			2							
		27	文書コミュニケーションA	2				2						
		28	文書コミュニケーションB	2					2					
		29	スピーチコミュニケーションA		2	2								
		30	スピーチコミュニケーションB		2		2							
		31	キャリア・カウンセリング理論		2				2					
		32	異文化コミュニケーションA		2			2						
		33	異文化コミュニケーションB		2				2					
		34	対人コミュニケーションA		2			2						
		35	対人コミュニケーションB		2				2					
		36	ビジネス英語A		2					2				
		37	ビジネス英語B		2						2			
		38	海外語学研修		4			…	…	…	…	…	…	

区分			授業科目	単位 必修	単位 選択	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	備考
専門教育科目	ICT・社会情報	39	コンピュータ基礎	2			2							
		40	表計算Ⅰ	2				2						
		41	ネットワークⅠ	2				2						
		42	データベースⅠ	2				2						
		43	情報科学研修A		2						2			
		44	情報科学研修B		2							2		
		45	情報化と経営		2						2			
		46	統計学		2				2					
		47	社会調査法		2			2						
専門教育科目〈共通〉	共通	48	経営コミュニケーションセミナーⅠ	2		2								
		49	経営コミュニケーションセミナーⅡ	2							2			
		50	経営コミュニケーション研修A	2								4		
		51	経営コミュニケーション研修B	4									8	
		52	経営コミュニケーション特別講義		2						2			
		53	経営コミュニケーション特別課外活動		4	…	…	…	…	…	…	…	…	
専門教育科目〈コース〉	経営	54	マクロ経済学		2					2				
		55	国際経済論		2						2			
		56	簿記・財務諸表論		2					2				
		57	財務管理・管理会計論		2						2			
		58	実践マネジメント研修		2					2				
		59	表計算Ⅱ		1					2				
		60	データベースⅡ		1					2				
		61	ネットワークⅡ		1					2				
	コミュニケーション	62	社会科学各論	2						2				
		63	身体表現研究	2							2			
		64	映像表現Ⅰ	2						2				
		65	映像表現Ⅱ	1							2			
		66	メディアプロデュースA	2						2				
		67	メディアプロデュースB	2							2			
		68	他学科開講科目群		8		…	…	…	…	…	…	…	
		69	他大学開講科目群		4		…	…	…	…	…	…		
小計（69科目）				61	87									

科 目 解 説

教 養 教 育 科 目

（学 科 共 通）

4 社会心理学　Social Psychology

選択　２単位　前期　　全学科２年全組　教　授　小川　和久

〔授業の達成目標〕
良好な人間関係をつくる力は，自己の精神的健康と集団の生産性向上を導く。そのためには適切なコミュニケーションスキルを身につけることが重要である。社会心理学の視点から人間関係の問題を理解し，日常生活に生かせる社会的スキルの習得を学習目標とする。

〔授業の概要〕
社会心理学を概観しながら，集団と自己，対人関係，産業社会の問題を考える。人間関係とコミュニケーションに焦点を当て，良好な人間関係をもつためのコミュニケーションのあり方を学ぶ。また，他者理解は，自己理解からはじまるという観点から，自己理解のための題材を積極的に取り入れていく。

〔授業計画〕
第１回：社会心理学とは何か
第２回：印象形成
第３回：説得と態度変容①：態度とは
第４回：説得と態度変容②：説得的コミュニケーション
第５回：説得と態度変容③：認知的不協和
第６回：攻撃的行動
第７回：援助行動
第８回：リーダーシップの諸理論①：特性理論
第９回：リーダーシップの諸理論②：行動理論
第10回：リーダーシップの諸理論③：状況即応理論
第11回：チームワーク
第12回：職場のコミュニケーション
第13回：パーソナルスペース
第14回：現代の産業社会と心理学
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
自作資料

〔準備学習等〕
社会心理学関連の資料や図書を事前に調べ，予備知識を得ておくこと。各回の授業テーマと関連する諸問題をWeb上での情報等で調べ予習すること。復習として，授業ノートおよび資料を整理し，要点をまとめて理解を深めること。

〔成績評価方法・基準〕
定期試験の結果（70％）とレポートの内容（30％）にもとづき総合的に評価する。

5 市民と法　Introduction to law

選択　２単位　前期　　全学科２年全組　准教授　片山　文雄

〔授業の達成目標〕
法・裁判の現状と考え方に触れ，基礎的な知識を修得すること。

〔授業の概要〕
社会が複雑化するなか，トラブル解決の手段としての法・裁判はますます重要になっている。裁判員制度のように，市民が法・裁判にいっそう深くかかわる機会もふえてきた。本講義では，法・裁判のしくみと法的な考え方について，具体的に，幅広く，かつ根本から考える。

〔授業計画〕
第１回：序
第２回：法とは何か
第３回：法の種類
第４回：裁判とは何か
第５回：裁判の種類
第６回：民事裁判　その実体（１）契約法
第７回：民事裁判　その実体（２）物権法，不法行為法
第８回：民事裁判　その手続
第９回：刑事裁判　その実体（１）犯罪
第10回：刑事裁判　その実体（２）刑罰
第11回：刑事裁判　その手続（１）捜査まで
第12回：刑事裁判　その手続（２）起訴から
第13回：裁判員制度
第14回：裁判所・裁判官
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
自作プリントによる。ほか教室でそのつど指示する。

〔準備学習等〕
高校程度の社会科（公民）の知識があることが望ましいが，必須ではない。配付するプリントを毎回よく読みなおしておくこと。
教職科目「憲法」「情報社会とモラル」を受講するものは本講義を履修することが望ましいが，必須ではない。

〔成績評価方法・基準〕
期末試験による。学習態度を加味する場合がある。

6 日本近代史　History of Modern Japan

選択　２単位　後期　　全学科２年全組　非常勤講師　吉原　健雄

〔授業の達成目標〕
近代に形成されていた，日本や日本人，日本の歴史や文化についての言説の「国民」的な基盤をあきらかにする。日本人が「自分たち」を説明する考え方が，近代のなかで変化していく過程を理解することを目標とする。

〔授業の概要〕
明治から昭和にかけて小学校で用いられた国語・歴史・修身（道徳）の教科書を読むことで，近代の日本人が幅広く共有していた「国民」すなわち「自分の国」や「自分たち」についての考え方を理解する。特に第二次世界大戦下の教科書と敗戦直後の言説の変化に着目し，あわせて自分たちが受けてきた平成の教科書についてもふまえながら，考え方つまり価値観の変化を考える。

〔授業計画〕
第１回：課題と方法
第２回：日本国家の起源（１）－神話
第３回：日本国家の起源（２）－国際関係
第４回：社会と身分（１）－貴族
第５回：社会と身分（２）－武士
第６回：社会と身分（３）－民衆
第７回：社会と身分（４）－「国民」
第８回：人間関係（１）－家族
第９回：人間関係（２）－友人
第10回：人間関係（３）－上・下
第11回：人間関係（４）－内・外
第12回：子ども（１）－子どもとしての成長
第13回：子ども（２）－社会における役割
第14回：まとめ
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書は指定しない。参考書は授業中に紹介する。毎回資料を配付する。

〔準備学習等〕
予習－事前に配布される資料を読む。
復習－自分なりに考え方やその変化を説明できるようにする。

〔成績評価方法・基準〕
授業終了時に毎回提出する意見・感想，まとめの試験，および学習に取り組む姿勢を総合して評価する。

7 日本の政治と国際社会　Japanese Politics and International Relations

選択　２単位　後期　　全学科２年全組　准教授　片山　文雄

〔授業の達成目標〕
日本政治の現状と考え方に触れ，基礎的な知識を修得すること。政治的判断力を養うこと。

〔授業の概要〕
政治はわれわれ全員の社会生活を規定し左右する。だから誰もが政治のしくみを理解し，正しい方向性について考えるべきである。本講義では，政治のしくみと政治的な考え方について，そして国際関係が国内政治に与える影響について，具体的に，幅広く，かつ根本から考える。

〔授業計画〕
第１回：序
第２回：政治とは何か
第３回：権力
第４回：国家
第５回：日本政治の枠組
第６回：政治家
第７回：政党
第８回：選挙制度
第９回：行政部
第10回：利益団体
第11回：マスメディア
第12回：国際関係の特質
第13回：安全保障の視角
第14回：経済の視角
第15回：価値意識の視角

〔教科書・参考書等〕
自作プリントによる。ほか教室でそのつど指示する。

〔準備学習等〕
高校程度の社会科（公民）の知識があることが望ましいが，必須ではない。配付するプリントを毎回よく読みなおしておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
期末試験による。学習姿勢を加味する場合がある。

8 現代の倫理　Modern Ethics

選択　２単位　前期　　全学科３年全組　教　授　野家　伸也

〔授業の達成目標〕
倫理学の基礎をなす基本的な諸概念（幸福，義務，功利，実存など）の意味を理解し，説明できるようになること。具体的な場面における倫理的な価値判断の根拠を示せるようになること。

〔授業の概要〕
倫理学の基礎をなす基本的な諸概念，主要な倫理学説の概要，および現代の倫理学的課題を学び，社会における人間のあり方，人間の本質や道徳の意義について問う姿勢を養う。

〔授業計画〕
第１回：倫理学の基本概念１－「倫理」について
第２回：倫理学の基本概念２－「人間」について
第３回：アリストテレスの倫理学１－行為の目的
第４回：アリストテレスの倫理学２－中庸と徳
第５回：カントの倫理学１－善なる意志
第６回：カントの倫理学２－道徳法則と自由
第７回：実存主義の倫理学１－サルトル
第８回：実存主義の倫理学２－ハイデガー
第９回：生命の倫理学１－生命の質
第10回：生命の倫理学２－自己決定権
第11回：環境の倫理学１－自然の生存権
第12回：環境の倫理学２－世代間倫理
第13回：技術の倫理学１－公共性
第14回：技術の倫理学２－社会と技術
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書は使用しない。参考書は適宜紹介する。

〔準備学習等〕
高校の公民を復習しておくことが望ましい。

〔成績評価方法・基準〕
試験および学習に取り組む姿勢を総合して評価する。

9 現代の哲学　Modern Philosophy

選択　２単位　後期（CD・SD科）
選択　２単位　前期（MC科）…（平成23年度は後期に開講します）　　全学科３年全組　教　授　野家　伸也

〔授業の達成目標〕
20 世紀の哲学の基礎をなす基本的な概念と用語を理解し，その意味を説明できるようになること。

〔授業の概要〕
20 世紀の哲学の展開を学ぶことによって，20 世紀が知的世界にもたらした変革の意味を検証し，あわせて 21 世紀の哲学の課題についても展望する。

〔授業計画〕
第１回：序論
第２回：哲学の20世紀
第３回：実体から機能へ１－現象学運動
第４回：実体から機能へ２－構造主義運動
第５回：哲学の方法１－言語分析的方法
第６回：哲学の方法２－プラグマティズム
第７回：哲学の方法３－解釈学的方法
第８回：哲学の方法４－存在への問い
第９回：近代と反近代１－批判理論
第10回：近代と反近代２－ポスト・モダンの思想
第11回：環境と人間１－システム哲学
第12回：環境と人間２－生命倫理学
第13回：環境と人間３－環境倫理学
第14回：21世紀の哲学
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書は使用しない。参考書は適宜紹介する。

〔準備学習等〕
高校レベルの近・現代史，ならびに公民を復習しておくことが望ましい。

〔成績評価方法・基準〕
試験および学習に取り組む姿勢を総合して評価する。

10 文化人類学　Ethnoligie

選択　２単位　後期

全学科３年全組　准教授　丹治　道彦

〔授業の達成目標〕
異文化を理解する態度，個々の文化の共通点や相違点を理解する力を養う。

〔授業の概要〕
文化人類学とはいかなる学問かを示した上で，グリム兄弟の業績を概観する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：文化人類学概観
第３回：フィールドワーク
第４回：マリノフスキーの業績
第５回：日本人ジャーナリストによるイヌイット取材
第６回：日本人ジャーナリストによる再度のイヌイット取材
第７回：グリム兄弟の活動した時代
第８回：グリム兄弟の業績
第９回：ドイツ語辞典とドイツ文法
第10回：書承文芸と口承文芸
第11回：民衆文芸－昔話・寓話・伝説・民謡
第12回：『子供と家庭の昔話集』
第13回：ペローの童話集
第14回：西洋の昔話と日本の昔話
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
教科書は特に用いない。必要な資料（日本語による）は随時配布する（欧米言語の読解力は前提としない）。参考文献は随時紹介する。

〔準備学習等〕
配布された資料は熟読し，授業の際は常に持参すること。

〔成績評価方法・基準〕
授業期間中の小テストまたはレポート，最終試験または最終レポートなどによって評価する。

16 命と生物学　Life and Biology

選択　２単位　前期

全学科２年全組　非常勤講師　柴﨑　　徹

〔授業の達成目標〕
生物がたどった道，生物界に培われてきた仕組みを理解し，自然や生物から，共生のあり方や生きることの本質を学ぶ。

〔授業の概要〕
生命とはいかなるものか，生命はどのように紡がれてきたか，など，生命の誕生から今日に至る生物の進化の過程をたどり，36 億年の生命の営みを眺めるとともに，その過程で生物社会が獲得してきた生物どうしの相互関係の仕組みを学び，私たちが地球環境，そして地域環境の中で生きることくらすことの意義を順次考察していく。

〔授業計画〕
第１回：地域環境と生命　生きとし生けるもの
第２回：生命の起源と動・植物　ドラマのはじまり
第３回：進化と多様性　命はどう紡がれたか
第４回：陸上へ向かう生物たち　大地を捉える
第５回：空へ向かう生物たち　大気を捉える
第６回：二足歩行の生物たち　ヒトに至る確かな道
第７回：Ageingの生物学　若いこと・老いるということ
第８回：生物社会の倫理学（１）生物相互の多様な関係
第９回：生物社会の倫理学（２）種と個体密度
第10回：生物社会の倫理学（３）食物連鎖と生物制御
第11回：生物社会の倫理学（４）適応と異質性
第12回：人と生命（１）生命を脅やかすもの
第13回：人と生命（２）いのちとくらしの生物学
第14回：人と生命（３）さまざまな民族の生命観
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　講義と併用する「命と生物学資料集」を配布する。
参考書　教室で指示する。

〔準備学習等〕
・高等学校で学習する生物Ⅰ・生物Ⅱに目を通す。
・新聞に掲載される環境や生きもの，そして生命にかかわる記事によく目を通す。

〔成績評価方法・基準〕
２回の課題レポートの提出内容（生物への関心度・理解度，思考の論理性・独創性）から評価する。

17 地球環境とエコロジー　Global Environment and Energy

選択　２単位　後期

全学科２年全組　非常勤講師　齋藤　武雄

〔授業の達成目標〕
人類の化石燃料多消費による二酸化炭素（CO_2）排出に起因する地球温暖化や気候変動の理解のため，地球システム（気圏・水圏・地域圏（都市を含む））を学び，人類活動の影響を考察する。また，エコロジーの本質を理解し，人類が地球と共生するための方策を学ぶ。

〔授業の概要〕
ここ 100 年の人類の莫大なエネルギー消費による地球温暖化が顕著となり，このままでいくと，地球生態系の壊滅的な破壊が予想されるまでになっている。本講では，まず，地球システムを理解するとともに，化石燃料の燃焼により排出される CO_2 に替わる太陽エネルギーなどの再生可能エネルギーの導入方法や CO_2 を出さないスーパー省エネルギー自動車などを紹介するなど，21 世紀に生活するためのエコライフの実例を通して環境共生の思想を学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：地球と環境（オリエンテーション）
第２回：地球大気圏
第３回：地球のエネルギーバランス
第４回：地球温暖化
第５回：地球温暖化の数値シミュレーション
第６回：2100年の地球
第７回：海洋大循環
第８回：都市圏（地圏）
第９回：ヒートアイランド
第10回：2031年の東京と仙台の未来予想
第11回：都市の環境デザイン
第12回：環境に適合するテクノロジー
第13回：究極のエコハウス：ハービマンハウスとSEEV（スーパー省エネ車）
第14回：21世紀のエコライフ生活デザイン
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　「ヒートアイランド」　齋藤武雄著　講談社

〔準備学習等〕
ライフデザイン学部に学ぶ学生として，新聞，テレビ等によるニュースおよびインターネットなどにより，常に，地球環境とエコロジーに関する最新の情報に注意をはらっておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
課題レポート（３回）30％，まとめの試験 50％，および学習に取り組む姿勢などを総合的に評価する。

18 ばらつきと規則　Dispersion and Regularity

18 選択　２単位　後期（CD・SD 科）
12 必修　２単位　後期（MC 科）

全学科２年全組　非常勤講師　塩谷　芳也

〔授業の達成目標〕
統計学の基本用語を理解した上で，社会現象を統計的に説明できるようになることを目標とする。

〔授業の概要〕
問題の構造を的確に把握し，適切な対処策を講じるためには統計学の知識が不可欠である。本講義は統計学の諸学者を対象とし，統計学で用いられる基本的用語や概念について解説する。特に，平均や分散，標準偏差といった基本的概念の解説に重点を置き，図表等を用いて直感的に理解できるように配慮する。

〔授業計画〕
第１回：統計学を学ぶ意義
第２回：度数分布とヒストグラム
第３回：平均値の役割
第４回：分散
第５回：標準偏差
第６回：正規分布の基礎
第７回：正規分布を用いた予測
第８回：仮説検定１（帰無仮説と対立仮説）
第９回：仮説検定２（第１種の過誤・第２種の過誤）
第10回：区間推定
第11回：母集団と統計的検定
第12回：標本平均
第13回：母平均の区間推定
第14回：カイ2乗分布
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：なし（適宜，資料・課題を配布する）

〔準備学習等〕
講義には，計算機（ルート計算ができるもの）を持参すること。

〔成績評価方法・基準〕
期末試験 100％で評価する。

19 現代科学総論Ａ　General Introduction of Modern Science A

選択　２単位　前期

CD・SD学科　3年全組　教　授（理事長）　岩崎　俊一
教　授　本多　直樹　　教　授　中川　朋子　　講　師　中島　夏子
教　授　稲村　肇　　教　授　江成敬次郎　　准教授　梅田　弘樹
教　授　菊地　良覺　　助　教　鈴木　博司

〔授業の達成目標〕
各専門分野の背景・基礎的内容・最先端の研究内容・学際領域および各教員の研究内容などを学び，その考え方や取り組み方に触れて，多種多様な視点を持つエンジニアの素地を養う。できれば新しい発想や発見につながればこの上ない。

〔授業の概要〕
各学科，部局より選ばれた７名の教員が，それぞれ各専門分野の基礎的内容と関連分野に関する最先端の研究内容やタイムリーな話題を紹介する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：電子工学総論Ａ１：「磁気と情報」…（岩崎）
第３回：電子工学総論Ａ２：「磁気と情報」…（本多）
第４回：情報通信工学総論Ａ１：
「宇宙空間と惑星磁気圏」…（中川）
第５回：情報通信工学総論Ａ２：
「宇宙空間と惑星磁気圏」…（中川）
第６回：科学総論Ａ１：「なぜ学ぶのか」……（中島）
第７回：科学総論Ａ２：「なぜ教えるのか」…（中島）
第８回：都市マネジメント学総論Ａ１：
「都市計画って何？－世界の大都市と仙台」…（稲村）
第９回：都市マネジメント学総論Ａ２：
「都市計画って何？－世界の大都市と仙台」…（稲村）
第10回：環境情報工学総論Ａ１：
「水と水環境を考える」…（江成）
第11回：環境情報工学総論Ａ２：
「水と水環境を考える」…（江成）
第12回：デザイン工学総論Ａ１：
「現代社会とデザイン」…（梅田）
第13回：デザイン工学総論Ａ２：
「地域の生産と暮らしから安全で安心な生活デザインを考える」…（菊地）
第14回：建築学総論Ａ１：「都市の音環境」…（鈴木）
第15回：建築学総論Ａ２：「建物の音環境」…（鈴木）

〔教科書・参考書等〕
自作資料

〔準備学習等〕

〔成績評価方法・基準〕
この科目では，７つのテーマについて，それぞれの担当教員が２回ずつ（１つのテーマを２名の教員で実施する場合には１回ずつ）計 14 回の講義を行うので，全ての講義に出席し，各テーマの課題レポートを提出すること。
各テーマの課題について提出されたレポートの中で，合格点（60 点以上）が得られたレポートが４つ以上の場合は「合格（単位認定）」とし，上位４つのレポート評価点の平均を成績とする。
合格点に達した課題レポートが４つ未満の場合は「不可」とする。また，提出した課題レポートの数が４つ未満の場合は「不適」とする。

英語Ⅱ A　English Ⅱ A

24 必修　２単位　前期（CD・SD 科）
22 必修　２単位　前期（MC 科）

ＣＤ２年１組	非常勤講師	鎌田　紀子	ＣＤ２年２組	非常勤講師	横山　竹己
ＳＤ２年１組	非常勤講師	野口　元康	ＳＤ２年２組	教　　授	高橋　克明
ＭＣ２年１組	教　　授	高橋　克明			

〔授業の達成目標〕
１．品詞，文型，時制，受動態，関係詞などの基礎的な英文法を理解できる。
２．英語圏での日常生活，およびビジネスの現場で用いられる TOEIC レベルの英文メール，手紙，広告などの，基本的，実践的内容の英文を理解できる。

〔授業の概要〕
speaking, listening, writing, reading の四分野に関わる総合的英語学習を行うが，特に，英文法の基本的事項に関する理解に基づき，TOEIC の適語補充問題レベルの英文に対応するための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は，品詞，文型，時制，受動態，関係詞である。

〔授業計画〕
第１回　ガイダンス（授業内容，計画，教材，学習方法，成績評価法など）
第２回　TOEICの出題形式と特徴：解説
第３回　TOEICの出題形式と特徴：模擬試験演習
第４回　文型の理解と品詞の判別：解説
第５回　文型の理解と品詞の判別：演習問題
第６回　可算名詞と不可算名詞：解説
第７回　可算名詞と不可算名詞：演習問題
第８回　動詞の変化と時制：解説
第９回　動詞の変化と時制：演習問題
第10回　受動態の諸用法：解説
第11回　受動態の諸用法：演習問題
第12回　関係詞の諸用法：解説
第13回　関係詞の諸用法：演習問題
第14回　まとめと試験
第15回　前期学習内容の確認

〔教科書・参考書等〕
ＣＤ１・２組　Practical Tips for the TOEIC Test　成美堂　2,000 円（税別）
ＳＤ１・２組　Welcome to the TOEIC Test　朝日出版　1,800 円（税別）
ＭＣ１組　① TOEIC Test：Down to Business　南雲堂　2,100 円
② Grammar Clinic　南雲堂　700 円（税別）

〔準備学習等〕
未知の英単語を辞書で調べ，講義時に実施する練習問題等には事前に取り組んでおくこと。また，教材となる英文を音読し，発音，アクセントを確認しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
成績は定期試験によって評価する。

英語Ⅱ B　English Ⅱ B

25 必修　２単位　後期（CD・SD 科）
23 必修　２単位　後期（MC 科）

ＣＤ２年１組	非常勤講師	鎌田　紀子	ＣＤ２年２組	非常勤講師	横山　竹己
ＳＤ２年１組	非常勤講師	野口　元康	ＳＤ２年２組	准　教　授	高橋　哲徳
ＭＣ２年１組	教　　授	高橋　克明			

〔授業の達成目標〕
１．分詞，不定詞，動名詞，仮定法などのより高度な英文法に関する知識を持つ。
２．英語圏での日常生活，およびビジネスの現場において用いられる TOEIC レベルの社内通知，表，アンケートなどを含む様々なフォームの英文を理解できる。

〔授業の概要〕
speaking, listening, writing, reading の四分野に関わる総合的英語学習を行うが，特に，英文法の基本的事項に関する理解に基づいて，TOEIC レベルの長文に対応するための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は，分詞，不定詞，動名詞，仮定法である。

〔授業計画〕
第１回　ガイダンス（授業内容，計画，教材，学習方法，成績評価法など）
第２回　TOEICの長文問題の形式と特徴：解説
第３回　TOEICの長文問題の形式と特徴：模擬試験演習
第４回　現在分詞の諸用法：解説
第５回　現在分詞の諸用法：演習問題
第６回　過去分詞の諸用法：解説
第７回　過去分詞の諸用法：演習問題
第８回　to不定詞の諸用法：解説
第９回　to不定詞の諸用法：演習問題
第10回　動名詞の諸用法：解説
第11回　動名詞の諸用法：演習問題
第12回　仮定法の表現：解説
第13回　仮定法の表現：演習問題
第14回　まとめと試験
第15回　後期学習内容の確認

〔教科書・参考書等〕
前期と同じ。

〔準備学習等〕
未知の英単語を辞書で調べ，講義時に実施する練習問題等には事前に取り組んでおくこと。また，教材となる英文を音読し，発音，アクセントを確認しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
成績は定期試験によって評価する。

英会話 A

English Conversation A

26 選択　1 単位　前期（CD・SD 科）
24 選択　1 単位　前期（MC 科）

全学科３年全組　非常勤講師　マーク・ジェイブッシュ

〔授業の達成目標〕
The objective of this course is to provide a foundation for conversation skills in students. Students will be encouraged to experiment by making rudimentary communication the goal as opposed to Linguistic perfection.

〔授業の概要〕
Themes such as friendship, the arts, business, famous people, family, and money bring students up-to-date with life's realities using English as the medium language. This course is supplemented by personalized pronunciation assistance, grammar and vocabulary exercises. Students' creativity is expressed in story making and telling.

〔授業計画〕
Week one: Orientation
Week two: Let's Meet
Week three: Food
Week four: Friends
Week five: Clothes
Week six: Health
Week seven: Personality
Week eight: Environment
Week nine: Habits & Obsessions
Week ten: Personal Goals
Week eleven: Personal Goals Exercises
Week twelve: Role Models（1）
Week thirteen: Roles Models Exercises
Week fourteen: Review
Week fifteen: Review and Semester Test

〔教科書・参考書等〕
Impact Conversation 1　Pearson Longman

〔準備学習等〕
Preparation: Looking up unfamiliar words and Reading a textbook loudly. Review: Putting unfamiliar words in memory and learning some important sentences by heart.
All students must bring a dictionary and pens and note paper to every class. Cell phones are not acceptable.

〔成績評価方法・基準〕
The students are evaluated through their activities and a semester test.

英会話 B

English Conversation B

27 選択　1 単位　後期（CD・SD 科）
25 選択　1 単位　後期（MC 科）

全学科３年全組　非常勤講師　マーク・ジェイブッシュ

〔授業の達成目標〕
The objective of this course is to provide a foundation for conversation skills in students. Students will be encouraged to experiment by making rudimentary communication the goal as opposed to Linguistic perfection.

〔授業の概要〕
Themes such as friendship, the arts, business, famous people, family, and money bring students up-to-date with life's realities using English as the medium language. This course is supplemented by personalized pronunciation assistance, grammar and vocabulary exercises. Students' creativity is expressed in story making and telling.

〔授業計画〕
Week one: Orientation
Week two: Something Cool
Week three: My Humble Abode
Week four: Food Cravings
Week five: Who We Are
Week six: Corporate Ladder
Week seven: Another World
Week eight: Big Worry
Week nine: Unplugged
Week ten: The Remote
Week eleven: Clean Freak
Week twelve: Hang In There
Week thirteen: Review
Week fourteen: Semester Test
Week fifteen: Review and Semester Test

〔教科書・参考書等〕
Impact Conversation 2　Pearson Longman

〔準備学習等〕
Preparation: Looking up unfamiliar words and Reading a textbook loudly. Review: Putting unfamiliar words in memory and learning some important sentences by heart.
All students must bring a dictionary and pens and note paper to every class. Cell phones are not acceptable.

〔成績評価方法・基準〕
The students are evaluated through their activities and a semester test.

資格英語 A

English for Specific Purposes A

28 選択　1 単位　前期（CD・SD 科）
26 選択　1 単位　前期（MC 科）

全学科３年全組　講　師　鈴木　　淳

〔授業の達成目標〕
１．品詞，文の種類，文型，時制，主語と動詞の一致などの英文法の基礎的事項が理解できる。２．英語の音韻体系の基本的事項が理解できる。３．TOEIC テストへの基礎的対応力を有する。

〔授業の概要〕
TOEIC 対策用のテキストや参考書などを用い，リスニングやリーディングの演習を通して，TOEIC テストへの基本的な知識と対応能力を身につける。取り上げる文法項目は品詞，文の種類（動詞），文型，時制，主語と動詞の一致などの基本的事項や，また前置詞を含む重要イディオムなどであり，リスニングに関しては，比較的短い文章を聞きとる方法を学ぶ。400 点を目標とした授業内容である。

〔授業計画〕
第１回　ガイダンス（授業内容，計画，教材，学習方法，成績評価法など）
第２回　リーディング・リスニング・文法問題（品詞）解説
第３回　リーディング・リスニング・文法問題（品詞）演習
第４回　リーディング・リスニング・文法問題（時制）解説
第５回　リーディング・リスニング・文法問題（時制）演習
第６回　リーディング・リスニング・文法問題（動詞の形）解説
第７回　リーディング・リスニング・文法問題（動詞の形）演習
第８回　リーディング・リスニング・文法問題（主語と動詞の一致）解説
第９回　リーディング・リスニング・文法問題（主語と動詞の一致）演習
第10回　リーディング・リスニング・文法問題（文型）解説
第11回　リーディング・リスニング・文法問題（文型）演習
第12回　リーディング・リスニング・文法問題（前置詞）解説
第13回　リーディング・リスニング・文法問題（前置詞）演習
第14回　まとめと試験
第15回　前期学習内容の確認

〔教科書・参考書等〕
First Time Trainer for the TOEIC TEST　Cengage Learning　2,100 円（税別）

〔準備学習等〕
未知の英単語を辞書で調べ，講義時に実施する練習問題等には事前に取り組んでおくこと。また，教材となる英文を音読し，発音，アクセントを確認しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
成績は定期試験によって評価する。ただし，受講者は，授業期間内に行われる「カレッジ TOEIC」を必ず受験すること。未受

資格英語 B

English for Specific Purposes B

29 選択　1 単位　後期（CD・SD 科）
27 選択　1 単位　後期（MC 科）

全学科３年全組　講　師　鈴木　　淳

〔授業の達成目標〕
１．受動態，準動詞，関係詞，仮定法などより複雑な構造の英文が理解できる。２．TOEIC リーディング・セクションの長文問題への対応力を有する。

〔授業の概要〕
TOEIC 対策用のテキストや参考書などを用い，リスニングやリーディングの演習を通して，より複雑な構造の英文を理解する。取り扱う文法事項は，受動態や不定詞，動名詞，分詞，関係詞，仮定法などである。また，重要イディオムや語彙問題の演習を通して，よりスコアに結び付く実践的な力をつける。450 ～ 500 点を目標とした授業内容である。

〔授業計画〕
第１回　ガイダンス（授業内容，計画，教材，学習方法，成績評価法など）
第２回　リーディング・リスニング・文法問題（受動態）演習・解説
第３回　リーディング・リスニング・文法問題（不定詞）解説
第４回　リーディング・リスニング・文法問題（不定詞）演習
第５回　リーディング・リスニング・文法問題（動名詞）解説
第６回　リーディング・リスニング・文法問題（動名詞）演習
第７回　リーディング・リスニング・文法問題（分詞）解説
第８回　リーディング・リスニング・文法問題（分詞）演習
第９回　リーディング・リスニング・文法問題（関係詞）解説
第10回　リーディング・リスニング・文法問題（関係詞）演習
第11回　リーディング・リスニング・文法問題（比較）解説
第12回　リーディング・リスニング・文法問題（比較）演習
第13回　リーディング・リスニング・文法問題（仮定法）演習・解説
第14回　まとめと試験
第15回　後期学習内容の確認

〔教科書・参考書等〕
前期と同じ。

〔準備学習等〕
未知の英単語を辞書で調べ，講義時に実施する練習問題等には事前に取り組んでおくこと。また，教材となる英文を音読し，発音，アクセントを確認しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
成績は定期試験によって評価する。ただし，受講者は，授業期間内に行われる「カレッジ TOEIC」を必ず受験すること。未受験の場合には，単位は認められない。

プレゼンテーション　Presentation

38 選択　２単位　後期（CD・SD 科）
36 選択　２単位　後期（MC 科）

全学科２年全組　非常勤講師　力丸　萠樹

〔授業の達成目標〕
本講義はプレゼンテーション技術の習得を目指し，原則的に毎回プレゼンテーション技術を紹介し，実際にそれを講義内で使ってみるという，講義と実習のセットですすめていきます。プレゼンテーションに必要な三つの要素を段階的に学ぶことで，苦手意識を克服したり，現在のスキルをさらにアップさせたりすることも可能です。開講中，外部発表者を招き，実際に社会で行なわれているプレゼンテーションに触れるチャンスも用意しています。

〔授業の概要〕
ある調査では，「プレゼンテーション」を仕事の必須スキルと考えているビジネスマンの約７割が，自分のプレゼンテーションに自信がなく，どうやってそのスキルを身につければいいか悩んでいるそうです。実は，プレゼンテーションのスキルは自分で意識し，能動的に学ぼうとしなければ，手に入れにくいコミュニケーション「技術」です。
来るべき就職活動や，その後の職業生活の必須スキルである「コミュニケーション＆プレゼンテーション」の技術。自分の考えやアイデアを他者に表現し，正しく理解してもらう，というコミュニケーションの基礎から，それを多くの人に伝える技法まで，理論で学び，実践で体系的に身に付け，コミュニケーションの達人を目指しましょう。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション〈プレゼンテーションとは〉
第２回：〈論理的に考えよう〉
第３回：〈論理的に表現しよう〉
第４回：〈「私」を表現してみよう〉
第５回：〈「私」のことを他者に知ってもらおう〉
第６回：〈自分で企画を立ててみよう〉
第７回：〈自分の企画をまとめてみよう〉
第８回：〈自分の企画を表現しよう〉
第９回：〈グループ企画を立ててみよう１（プレゼン大会課題発表）〉
第10回：〈グループ企画を立ててみよう２（プレゼン大会プチ発表）〉
第11回：〈グループ企画を具体化しよう〉
第12回：〈プレゼン大会直前準備〉
第13回：プレゼン大会－発表－
第14回：プレゼン大会－質疑・審査－
第15回：講義全体まとめ・大会講評
※講義内容は受講人数や受講生の進度，理解度により変わることもあります。

〔教科書・参考書等〕
基本的にレジュメ中心。教科書，参考書は随時紹介。

〔準備学習等〕
個人差もありますが講義内で出される課題を事前に準備しておくだけで自然に力は養われていきます。また，講義内で紹介されるテクニックを日常的に運用すれば基礎的コミュニケーション力も向上します。講義内ではほぼ毎回実技を実施するので，一回の欠席が技術取得を大きく左右することもあります。単位取得に際し，出席を重視するのはそのためです。

〔成績評価方法・基準〕
授業による平常点と，プレゼン大会の結果により確定する。

ビジネスマナー　Business manners

39 選択　２単位　前期（CD・SD 科）
37 選択　２単位　前期（MC 科）

全学科３年全組　非常勤講師　浅野　純子

〔授業の達成目標〕
人間力を磨き，社会で活躍するための基礎を学ぶ事により，信頼される人物として人や社会に愛され，自信をもって人生を生きる力を身につける。

〔授業の概要〕
自分自身を見つめ，社会性をもつ人間としての基本を学びます。また，仕事への取り組み方やより良い人間関係など，社会人として生きる上で大切な事を学習します。

〔授業計画〕
第１回：人生成功の極意・パフォーマンス力を磨く「目力・姿勢・歩き方・笑顔・挨拶訓練・名刺交換」
第２回：ファーストイメージUP「就職活動や社会人としての身だしなみ・洋服のマナー・カラーの知識」
第３回：社会人としての心構え「プロとして求められる資質と仕事の基本マナー」
第４回：仕事の進め方「できる仕事術・指示命令・報告連絡相談」
第５回：時間管理と目標設定・仕事の整理法・より良い人間関係の築き方
第６回：言葉遣いのマナー「ビジネス敬語と正しい言葉遣い」
第７回：コミュニケーション能力「発声法・聴く力・話す力」
第８回：電話応対のマナー「電話応対の基本・受け方伝言かけ方」
第９回：接遇のマナー「来客応対・案内・席次・お茶接待」
第10回：訪問のマナー「アポイントメント・初対面の対処法・紹介のマナー」
第11回：ビジネス文書「文書ツールの使い方・社内と社外と社交文書・メール・FAX」
第12回：就職面接必勝法・面接対応ロールプレイ
第13回：冠婚葬祭のマナー・食事のマナー「和・洋・中」
第14回：試験とアンケート
第15回：試験の解答・社会で成功するために大切な事

〔教科書・参考書等〕
教科書「ビジネスマナー完全版」高橋書店 1,000 円（商品コード ISBN 978-471-01125-3 ）

〔準備学習等〕
日頃から身だしなみ・態度・挨拶・表情・言葉遣いに気をつけること。講義で学んだ事は則実践し，習得する。将来の夢や仕事に就くためのビジョンを持って講義に望む。

〔成績評価方法・基準〕
試験 70%，面接実践 30%，及び学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

スポーツ実技Ⅱ（バレーボール）　Physical training Ⅱ（Volleyball）

42 選択　１単位　前期（CD 科）
40 選択　１単位　前期（MC 科）

ＣＤ・ＭＣ２年全組　非常勤講師　犬塚　　剛

〔授業の達成目標〕
バレーボールのルール及び技術を身につけ，バレーボールの楽しさを理解する。

〔授業の概要〕
バレーボールは，走・跳・打の基本的な運動要素および敏捷性，巧緻性，判断力などが要求されるスポーツである。バレーボールに必要な身体能力・スキルを身に付けるとともに，ゲームを通じて攻防におけるチームワークの大切さを身に付ける。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業の進め方）。
第２回：ゲーム（技能水準の確認）。
第３回：基本技能　パス（アンダー，オーバー）対人，円陣・ゲーム
第４回：基本技能　サーブ（アンダー，オーバー）＆レシーブ・ゲーム
第５回：基本技能　トス＆スパイク＆ブロック（レフト，ライト）・ゲーム
第６回：基本技能　コンビネーション（サーブ，レシーブ，トス，スパイク）
第７回：集団技能　コンビネーション（３段攻撃の習得）
第８回：集団技能　フォーメーションの確認
第９回：集団技能　攻撃・守備のフォーメーションの確認
第10回：集団技能　ゲームによる確認
第11回：リーグ戦１
第12回：リーグ戦２
第13回：リーグ戦（ブロック別）→順位決定トーナメント１
第14回：リーグ戦（ブロック別）→順位決定トーナメント２
第15回：リーグ戦（ブロック別）→順位決定トーナメント３

〔教科書・参考書等〕
高校時代の実技副読本を各自参照すること。

〔準備学習等〕
バレーボールの試合を数試合連続でこなせる体力水準を維持しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
授業に取り組む姿勢およびリーグ戦での戦績等を総合的に評価する。

スポーツ実技Ⅱ（エクササイズ） Physical training Ⅱ（Exercise）

42 選択　1 単位　前期（CD・SD 科）
40 選択　1 単位　前期（MC 科）

全学科１年全組　講　師　本田　春彦

〔授業の達成目標〕
エクササイズの意義と目的を充分理解し，自分の目標に向けて実践を通して達成度合を各自体験，評価できるようにすること。

〔授業の概要〕
エクササイズとは，特に健康の維持や心身の調和と健康増進のための各種身体運動を行うことである。男性は２人に１人，女性は５人に１人がメタボリックシンドロームと判定され，肥満や過体重が生活習慣病の誘因になると言われています。ただ痩身になるのではなく，生活習慣を改善しながら健康を維持するための，栄養・サプリメントの摂取の仕方や，エクササイズの様々な運動種目を行った時の運動量，消費カロリーなど概算することを学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：簡単な体力測定，身体測定
第３回：体脂肪，BMI，肥満度，インピーダンス
第４回：心拍数，脈拍などのデータ取り
第５回：データの説明，目標申告
第６回：ストレッチング，サーキットトレーニング
第７回：ウエイトトレーニング
第８回：トランポビクス
第９回：バウンドテニス
第10回：太極拳
第11回：エアロビックエクササイズ
第12回：再測定
第13回：測定結果を基にした課題設定
第14回：課題を基にしたエクササイズ実践
第15回：総評，データ，レポート提出

〔教科書・参考書等〕
随時，資料・ビデオを用意し，提供する。

〔準備学習等〕
授業中に体温，心拍数，体脂肪の測定，カロリー計算等を行うので，これらの意義や測定法について HP 等で情報収集しておく。また１日３食の食習慣を習慣化させておく。

〔成績評価方法・基準〕
個人記録，カード提出，データ，授業意欲，態度，修得度等を評価する。

スポーツ実技Ⅱ（ゴルフ） Physical Training Ⅱ（Golf）

42 選択　1 単位　前期・集中（CD・SD 科）
40 選択　1 単位　前期・集中（MC 科）

全学科２年全組　准　教　授　坂本　　譲
講　　師　本田　春彦
非常勤講師　高田　潤一

〔授業の達成目標〕
短期間で技能の向上は難しいスポーツではあるが基本的な技術練習とショートアプローチの応用を学び，ミニコースながらマナーとルールを守ってラウンドの実践を体験することを課題とする。

〔授業の概要〕
この集中コースは，ゴルフというスポーツに興味が湧く入門コースとして位置づける。夏期休業中に学内学外の施設を利用して行うが，ショートコースのラウンドまで体験する。有料打球練習場やミニゴルフ場も利用するので実習に要する経費は学生の自己負担となる。ルールやマナー重視のスポーツなので厳しく指導するが，全学科に開講するので新しい友人を得るチャンスでもある。

〔授業計画〕
学内授業
第１回：ガイダンス，ゴルフの基礎理論，「用具の活用，スウィング動作，ボールヒッティング」
学外授業第１日目
第２回：打球場での学習と練習「アプローチ基礎」
第３回：打球場での学習と練習「アプローチ応用」
第４回：打球場での学習と練習「ショートアイアン基礎」
第５回：打球場での学習と練習「ショートアイアン応用」
学外授業第２日目
第６回：打球場での学習と練習「ミドルアイアン基礎」
第７回：打球場での学習と練習「ミドルアイアン応用」
第８回：打球場での学習と練習「ドライバー，パター」
第９回：打球場での学習と練習「模擬ラウンド」
学外授業第３日目
第10回：ショートコースでのマナー学習と練習（バンカー，グリーン周り）
第11回：ショートコース（９ホール，パー27）を練習ラウンド
第12回：打球場での学習と練習「ラウンド実践に向けての調整」
学外授業第４日目
第13回：ショートコースローカルルール，マナー確認
第14回：ショートコース（９ホール，パー27）をラウンド実践
第15回：到達度チェック，最終実技試験

〔教科書・参考書等〕
プリントと VTR を予定している。

〔準備学習等〕
４日間の集中授業なので，身体コンディションを適正に維持して休まないこと。事前の準備に時間的余裕をもって行動し，全体行動を遅らせることのないように配慮すること。前日の課題達成度を分析し，次の授業の目標を立てること。

〔成績評価方法・基準〕
受講姿勢，基礎実技，応用実技で総合評価する。応用実技はラウンド結果と最終実技試験を参考にする。

スポーツ実技Ⅱ（スキー） Physical Training Ⅱ（Ski）

42 選択　1 単位　前期・集中（CD・SD 科）
40 選択　1 単位　前期・集中（MC 科）

全学科２年全組　准　教　授　坂本　　譲
講　　師　本田　春彦
非常勤講師　池田　晃一
助　　教　中島千恵子

〔授業の達成目標〕
スキーの基礎技術や応用技術を習得し，自分の技量に応じたスキースポーツの楽しみ方をみつける。スキーヤーとして必要な安全配慮やスキー場でのルールやマナーを身につける。

〔授業の概要〕
この集中コースは前期開講科目であるが冬季スポーツであるため後期に実施される３泊４日の実技実習を経て１単位が認定される。実習は技能に応じた班別指導が行われ，班別集団演技等によって技能の向上が図られるだけでなく，人間交流も含めた共同生活を通じてルールやマナーも学び，総合学習の機会として意義深い。ただしこの集中コースは，実習に要する経費は学生の自己負担となる。新しい友人を得るチャンスでもある。

〔授業計画〕
●学内授業　スキースポーツの特性とスキー技術論，スキーと安全，用具の知識とその活用，冬季実習のガイダンス。
●学外授業　３泊４日，山形蔵王スキー場を予定，各自の技能に応じた班分けと目標レベルの設定，班別に実技講師のもと雪上実習，技術レベルの自己分析，指導者助言（VTR 活用），実践力向上のためのゲレンデツーリング，班別集団演技でチームワーク表現。

学内授業
第１回：スキースポーツの特性とスキー技術論，スキーと安全，用具の知識とその活用，冬季実習のガイダンス
雪上実習第１日目
第２回：技能テスト１「班分け」
第３回：基礎技術「緩斜面での安全滑走」
第４回：基礎技術「緩斜面での制動・回転技術」
雪上実習第２日目
第５回：応用技術「緩斜面での大回り」
第６回：応用技術「緩斜面での小回り」
第７回：応用技術「中斜面滑走」
第８回：技能テスト２「到達レベルチェック，班再編」
雪上実習第３日目
第９回：発展技術「中斜面での大回り」
第10回：発展技術「中斜面での小回り」
第11回：発展技術「中・急斜面での大回り」
第12回：発展技術「中・急斜面での小回り」
雪上実習第４日目
第13回：基礎実技練習「制動・回転技術」
第14回：応用実技練習「班別団体演技」
第15回：技能テスト３「基礎実技，応用実技」

〔教科書・参考書等〕
参考書　SAJ 編　日本スキー教程　理論編　指導実技編　検定編

〔準備学習等〕
４日間の合宿授業なので，身体コンディションを整えて参加すること。
集団行動を乱したり遅らせることのないように時間の余裕をもって行動すること。
前日の達成度を反省し，次の授業に自己課題を明確にして参加すること。

〔成績評価方法・基準〕
学内・学外授業における受講姿勢，基礎実技，応用実技で総合評価する。応用実技は団体演技の滑走を参考にする。

スポーツ実技Ⅱ（ソフトボール）　Physical training Ⅱ（Softball）

42 選択　1 単位　前期（CD・SD 科）
40 選択　1 単位　前期（MC 科）

全学科２年全組　非常勤講師　土井　豊

〔授業の達成目標〕
受講者全員を，将来共に“自・他共の健康・体力づくり”に関心を抱き且つ励んでいけるだけの人材に成長させることを目標とする。

〔授業の概要〕
現代においては，運動不足を意図的に解消しなければ，これが原因で起きる疾病も多い。そこで本授業では，ソフトボール実技・対抗試合等を通じで受講者の運動能力及び体力の向上を図ると共に，チームメンバー間でのチームワークやコミュニケーションを図りつつ社会人として必要な協調性及びコミュニケーション能力等を磨いていけるよう，ゲーム形式主体で授業を展開する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：ソフトボールのためのトレーニング（受講者の理解）
第３回：経験者・未経験者，各個人の技能等を考慮し，チーム編成
第４回：ソフトボールゲーム（練習試合Ⅰ）
第５回：ソフトボールゲーム（練習試合Ⅱ）
第６回：ソフトボールゲーム（リーグ戦Ⅰ）
第７回：ソフトボールゲーム（リーグ戦Ⅱ）
第８回：チーム再編成，及び強化練習
第９回：ソフトボールゲーム（リーグ戦Ⅲ）
第10回：ソフトボールゲーム（リーグ戦Ⅳ）
第11回：戦術練習（役割分担の再確認）
第12回：ソフトボールゲーム（リーグ戦Ⅴ）
第13回：正式試合Ⅰ
第14回：正式試合Ⅱ
第15回：まとめとレポート課題

〔教科書・参考書等〕
特になし

〔準備学習等〕
ソフトボールと野球の相違点について復習しておくこと。復習・予習として，前回の授業での失敗や欠点等を反省（自己評価）し，次回授業での自己課題等を明確にしておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
ソフトボールゲームでの成績，個人の能力評価，及び実技に取り組む姿勢等を総合的に評価する。

スポーツ実技Ⅱ（テニス）　Physical Training Ⅱ（tennis）

42 選択　1 単位　前期（CD・SD 科）
40 選択　1 単位　前期（MC 科）

全学科２年全組　助　教　中島千恵子

〔授業の達成目標〕
テニスの基本技術を向上させ，ルールや審判法の理解を深め，自主的な試合運営能力を養う。ゲームを通じてフェアーなプレーや公正な判断，向上心も培いたい。

〔授業の概要〕
この授業は硬式テニスの基本技術からゲームの実践までをグループ学習で進める。技能別にコート分けしてレベルアップをはかり，後半はダブルスやシングルスのゲームを通じて応用技術や戦略の組み立てを学習する。

〔授業計画〕
第１回：テニスの運動特性・審判法
第２回：テニスのルール
第３回：テニスの基本技術（１）
グランドストローク
ボレー（ハーフボレー，ドロップ）
サーブ（フラット，スライス，スピン）
スマッシュ（グランドスマッシュ）
第４回：テニスの基本技術（２）
グランドストローク
ボレー（ハーフボレー，ドロップ）
サーブ（フラット，スライス，スピン）
スマッシュ（グランドスマッシュ）
第５回：テニスの応用技術（１）
サービス側フォーメーション，戦略
レシーブ側フォーメーション，戦略
アプローチショット，ロブ
第６回：テニスの応用技術（２）
サービス側フォーメーション，戦略
レシーブ側フォーメーション，戦略
アプローチショット，ロブ
第７回：ダブルスゲームの実践形式（サービス）
第８回：ダブルスゲームの実践形式（レシーブ）
第９回：ダブルスゲームの実践形式（ボレー）
第10回：ダブルスゲームの実践形式（スマッシュ）
第11回：シングルスゲームの実践形式（サービス）
第12回：シングルスゲームの実践形式（レシーブ）
第13回：シングルスゲームの実践形式（ボレー）
第14回：シングルスゲームの実践形式（スマッシュ）
第15回：総括と試験

〔教科書・参考書等〕
参考書「新　テニスの科学」日本テニス協会　テニスジャーナル
「ゲームに勝つ『硬式テニス』」荘原湘南スポセン
その他　VTR 教材を予定している。

〔準備学習等〕
前週の基本練習やゲームの結果を整理・分析し，自己の課題を明確にして授業に望むこと。実技運動に適した服装・シューズ・身体コンディションで授業に参加すること。

〔成績評価方法・基準〕
受講姿勢，実技点，実技向上の度合いで総合評価する。

スポーツ実技Ⅱ（バドミントン）　Physical training Ⅱ（Badminton）

42 選択　1 単位　前期（CD・SD 科）
40 選択　1 単位　前期（MC 科）

全学科２年全組　准教授　坂本　譲

〔授業の達成目標〕
生涯スポーツとしてバドミントンの楽しみ方や運営方法等を理解するため，運動の特性，基本技術，およびゲームの進め方について学習し，さらには対人コミュニケーション能力を養う。

〔授業の概要〕
運動を行う際に必要な心身の準備について解説するとともに，バドミントンの基本技術やルールを習得し，受講者全体のレベルに応じた特設ルールを設定することでできるだけ個々の運動量を確保出来るよう授業を進めていく。なお各回の授業はリーグ戦によるゲームを中心に行い，その試合数，勝敗を集計し授業に取り組む姿勢を評価する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業内容と進め方の理解）
第２回：（ダブルス）基本動作の理解（ショット，レシーブ，フォーメーション）
第３回：基本動作とルールの確認
第４回：リーグ戦準備（ショット，レシーブ，フォーメーション）
第５回：リーグ戦１
第６回：リーグ戦２
第７回：（シングルス）基本動作の理解（ショット，レシーブ）
第８回：基本動作とルールの確認
第９回：リーグ戦１
第10回：リーグ戦２
第11回：（ダブルス）パートナー・特設ルールの設定
第12回：レベル別リーグ戦１
第13回：レベル別リーグ戦２
第14回：レベル別リーグ戦３
第15回：まとめとレポートの書き方

〔教科書・参考書等〕
適時授業時に資料を配付する。

〔準備学習等〕
ルールについて高校時代の教科書等を参考に予習しておく。また次回講義までに前回をふまえて動作の達成目標を設定すること。さらに比較的運動強度が高い種目である事から体調管理を十分にしておく。

〔成績評価方法・基準〕
授業に取り組む姿勢とリーグ戦での成績を総合的に評価する。

スポーツ実技Ⅱ（バレーボール）　Physical training Ⅱ（Volleyball）

42 選択　１単位　前期（SD 科）

ＳＤ２年全組　非常勤講師　河西　敏幸

〔授業の達成目標〕
生涯スポーツや健康づくりの一つとしてバレーボールを実践し，本種目の競技特性，チームスポーツの楽しさ，ゲーム運営の方法等を理解・体得する。

〔授業の概要〕
バレーボールの基礎練習を取り入れながら，リーグ戦によるゲームを中心に行う。経験の有無や技術レベルにかかわらず全員がゲームを楽しめるよう，リーグ戦ごとに経験の有無，個人得点，チーム得点等を集計し，均等なチームづくりをしながら進めていく。

〔授業計画〕
第１回：授業の進め方，評価について（ガイダンス）
第２回：バレーボールを行うための準備運動，基礎トレーニング
第３回：バレーボールのルールの理解（試合形式での説明）
第４回：レシーブ，トス，スパイク～リーグ戦
第５回：サーブ，ブロック等～リーグ戦
第６回：〈チーム替え〉サーブカット等～リーグ戦
第７回：シート，スリーメン等～リーグ戦
第８回：〈チーム替え〉２段トス～リーグ戦
第９回：コンビネーション練習～リーグ戦
第10回：チャレンジリーグ（１）
第11回：〈チーム替え〉チャレンジリーグ（２）
第12回：トーナメント戦（１）
第13回：〈チーム替え〉トーナメント戦（２）
第14回：〈チーム替え〉トーナメント戦（３）
第15回：まとめ（最終順位決定戦・個人技等評価）

〔教科書・参考書等〕
必要に応じてルール，練習方法等に関する資料を授業中に配布する。

〔準備学習等〕
ルール，練習方法，戦術，戦績等に関する資料を配布し，毎回の授業内容及び次回内容の理解を促す。

〔成績評価方法・基準〕
リーグ戦，トーナメント戦のチーム成績，個人得点，授業態度を総合的に評価する。

健康論　Health Science

43 選択　２単位　後期（CD・SD 科）
41 選択　２単位　後期（MC 科）

全学科２年全組　准　教　授　坂本　　譲
非常勤講師　伊藤　常久
助　　教　中島千恵子

〔授業の達成目標〕
私達の健康を脅かす諸問題は，現代社会において複雑多岐にわたる。学生時代および生涯にわたっての健康意識を高め，それを実現するための知識・理論や方法を学ぶ。

〔授業の概要〕
自ら積極的に健康な社会生活を送るためには，私達のからだの働きについて理解を深めると共に疾病とその予防の基礎知識を学ぶことが重要である。この授業は複数教員別の講義となるので初回ガイダンスで授業解説を聞き，希望する職員の講義を選択履修する。共通するのは「健康を考える」「生活習慣」「運動」「栄養」「休養」「体の仕組み」「疾病とその予防」「健康管理」「加齢変化」といったキーワードである。下に示す授業計画は一例であり，講義の順番や展開の詳細は担当教員によって代わる場合もある。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：健康について
第３回：体のしくみ・はたらき
第４回：生活と健康
第５回：疾病１（成人病，生活習慣病，運動不足他）
第６回：疾病２（エイズ，性感染症他）
第７回：運動・体力と健康
第８回：健康を支える身体のしくみ
第９回：健康を支えるライフスタイル
第10回：加齢・老化と健康
第11回：ストレスと健康
第12回：環境と健康の諸問題
第13回：健康管理１（総論：運動・栄養・休養）
第14回：健康管理２（実践方法と事例他）
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
自作資料・映像資料を活用する。

〔準備学習等〕
前回授業の要点を整理・復習し，次の授業へのつながりを意識して受講すること。各教員の指示に従って学習の準備をすること。

〔成績評価方法・基準〕
授業中に小テストやレポートを課し，学習に取り組む姿勢と課題達成度から総合評価する。

特別課外活動Ⅰ　Off-class Practice Ⅰ

44 選択　２単位　１年前期～４年後期（CD・SD 科）
42 選択　２単位　１年前期～４年後期（MC 科）

詳細については，シラバスの『特別課外活動Ⅰ・Ⅱ』（各２単位）についてのページを参照のこと。

特別課外活動Ⅱ　Off-class Practice Ⅱ

45 選択　２単位　１年前期～４年後期（CD・SD 科）
43 選択　２単位　１年前期～４年後期（MC 科）

詳細については，シラバスの『特別課外活動Ⅰ・Ⅱ』（各２単位）についてのページを参照のこと。

他大学等教養科目群　Subjects offered other universities

46 選択　４単位　１年後期～４年前期（CD・SD 科）
44 選択　４単位　１年後期～４年前期（MC 科）

詳細についてはシラバスの「他大学開講科目」，学生生活の「学都仙台単位互換ネットワークに基づく特別聴講学生取扱要項」を参照のこと。

英語〈再〉　English

必修　２単位　前期

全学科２・３・４年全組　准教授　高橋　哲德

〔授業の達成目標〕
英文法の基本事項を復習し，英文内容の読解力，英作文力などを身につける。

〔授業の概要〕
これまで学習してきた英文法の基本事項，文型，時制，受動態，不定詞，動名詞，分詞，仮定法などを復習する。またそれを土台に読解や英作文，及びリスニングを講義と演習を通して学習する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業内容，計画，教材，学習方法，成績評価法など）
第２回：文型・時制：演習・解説
第３回：助動詞：演習・解説
第４回：受動態：演習・解説
第５回：品詞：演習・解説
第６回：完了時制：演習・解説
第７回：不定詞：演習・解説
第８回：分詞：演習・解説
第９回：動名詞：演習・解説
第10回：比較：演習・解説
第11回：仮定法：演習・解説
第12回：関係代名詞：演習・解説
第13回：関係副詞：演習・解説
第14回：まとめと試験
第15回：前期学習内容の確認

〔教科書・参考書等〕
Make It Clear　朝日出版　1,600 円（税別）

〔準備学習等〕
未知の英単語を辞書で調べ，講義時に実施する練習問題等には事前に取り組んでおくこと。また，教材となる英文を音読し，発音，アクセントを確認しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
成績は定期試験によって評価する。

英語〈再〉 English

必修　２単位　後期

全学科全学年全組　教　授　高橋　克明

〔授業の達成目標〕
英文法の基本事項を復習し，英文内容の読解力，英作文力などを身につける。

〔授業の概要〕
これまで学習してきた英文法の基本事項，文型，時制，受動態，不定詞，動名詞，分詞，仮定法などを復習する。またそれを土台に文の構造や英作文を講義と演習を通して学習する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業内容，計画，教材，学習方法，成績評価法など）
第２回：文型・時制：演習・解説
第３回：助動詞：演習・解説
第４回：受動態：演習・解説
第５回：品詞：演習・解説
第６回：完了時制：演習・解説
第７回：不定詞：演習・解説
第８回：分詞：演習・解説
第９回：動名詞：演習・解説
第10回：比較：演習・解説
第11回：仮定法：演習・解説
第12回：関係代名詞：演習・解説
第13回：関係副詞：演習・解説
第14回：まとめと試験
第15回：後期学習内容の確認

〔教科書・参考書等〕
First Primer　南雲堂　1,995 円

〔準備学習等〕
未知の英単語を辞書で調べ，講義時に実施する練習問題等には事前に取り組んでおくこと。また，教材となる英文を音読し，発音，アクセントを確認しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
成績は定期試験によって評価する。

14 生活とサイエンス〈再〉 Life and Science

選択　２単位　前期

全学科　非常勤講師　伊藤　　良

〔授業の達成目標〕
身の回りのありとあらゆるものが“サイエンス”と関わりをもっている。にもかかわらず，そのことを意識することはほとんど無い。
日常の食生活において，時折「どのようなサイエンスとどのようにかかわっているのか」を考えて，正しい知識を導き出す能力を培（つちか）うことを目標とする。

〔授業の概要〕
サイエンスには，自然科学，人文科学などが含まれている。その中の自然科学の，さらにその中の身近な事柄である食生活における動物食品のサイエンスに話題を絞って講義します。何気なく摂っている食品にも意外な働きがあったり，科学的に不明な機能が多くあります。これらについて解説し，考える。

〔授業計画〕
第１回：生活の中の科学　～科学的なこと　科学的らしいこと～
第２回：食生活の科学　「牛乳は何故白い？　鮭は何故ピンク？肉は何故赤い？」
第３回：食品の機能　「食品の機能とは？　特定機能食品とは？」
第４回：動物性食品の科学　乳の科学（その１）「醍醐味」はどんな味？
第５回：乳の科学（その２）「白い成分」のタンパク質の話
第６回：乳の科学（その３）「黄緑色の液体」のタンパク質の話
第７回：乳の科学（その４）「乳酸菌とヨーグルト」と「善玉菌？　悪玉菌？」の話
第８回：乳の科学（その５）「乳の機能性成分」で骨粗鬆症の予防など
第９回：肉の科学（その１）「筋肉から食肉へ」どんなことが起こる？
第10回：肉の科学（その２）「美味しさ」はどこから？
第11回：肉の科学（その３）「コラーゲン」副産物の医学的利用など
第12回：肉の科学（その４）「正しいダイエット」体温上昇と脂肪の分解の話
第13回：卵の科学（その１）「白味とろとろ温泉卵」どうすりゃ出来る？
第14回：卵の科学（その２）「卵のタンパク質」でガン予防！
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
１．日本を元気にする！　基礎科学，別冊宝島編集部編　宝島社．1,470円
２．食卓の生化学，三浦義彰・小野直美・橋本洋子，医歯薬出版株式会社　2,310円
３．「食べもの情報」ウソ・ホント，高橋久仁子，講談社ブルーバックス　945円
４．人体常在菌のはなし　美人は菌でつくられる，青木皐，集英社新書　714円
５．動物資源利用学　乳・肉・卵の科学，伊藤敞敏・渡辺乾二・伊藤　良，文永堂出版　4,410円

〔準備学習等〕
毎日の生活の中で，不思議に思う現象や事柄を直ぐに調べる姿勢をいつも持っておくこと。
高校理科の教科書に出てくる科学用語の定義（意味）を理解しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
数回の課題レポートまたは小テスト（20％），試験（60％）を総合して評価。

クリエイティブデザイン学科

(Department of Creative Design)

CD

(専門教育科目)

CD

12 デザインセミナーⅢ　Introduction to Design Studies Ⅲ

必修　１単位　前期

２年全組　教　授　荒井　俊也　教　授　梨原　宏
教　授　原田　一　教　授　両角　清隆
准教授　中居　尚彦　准教授　梅田　弘樹
准教授　篠原　良太　准教授　堀江　政広
准教授　盧　慶美　講　師　古川　哲哉

〔授業の達成目標〕
資料を収集し，整理し，グループで検討して，その結果をまとめプレゼンテーションする。その過程をとおしてデザインすることの意味と自分の適性を考えられるようになること。

〔授業の概要〕
デザインセミナーⅡに引き続き，グループ課題を通して資料を収集し，整理し，グループ内で検討し，その結果をまとめて全体の前で発表する。その過程を通して日常見過ごしてきた“デザインされたもの”，“デザインすること”に注意を振り向け，自分自身でデザインすることの意味を考えられるようになることを目標とする。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（全体）（全担当教員）
第２回：企業訪問計画①・企画（各セミナー）（全担当教員）
第３回：企業訪問計画②・調査（各セミナー）（全担当教員）
第４回：企業訪問計画③・調整（各セミナー）（全担当教員）
第５回：企業訪問計画④・タイムテーブル（各セミナー）（全担当教員）
第６回：進路支援講演④（全体）（全担当教員）
第７回：企業訪問実施（全体）（全担当教員）
第８回：プレゼンテーション準備①・整理（各セミナー）（全担当教員）
第９回：プレゼンテーション準備②・練習（各セミナー）（全担当教員）
第10回：企業訪問報告会①・PD発表（全体）(全担当教員)
第11回：企業訪問報告会②・VD発表（全体）(全担当教員)
第12回：企業訪問報告会③・XD発表（全体）(全担当教員)
第13回：進路支援講演⑤（全体）（全担当教員）
第14回：適性検査（全体）（全担当教員）
第15回：総括（各セミナー）（全担当教員）

〔教科書・参考書等〕
なし

〔準備学習等〕
企業訪問計画検討のための事前調査，プレゼンテーションのための資料の事前準備および発表の練習等を行うこと。

〔成績評評価方法・基準〕
グループ作業・プレゼンテーションの内容により評価する。

13 デザイン実習Ⅰ　Design Practice Ⅰ

必修　４単位　前期

２年全組　教　授　梨原　宏　教　授　原田　一
教　授　両角　清隆　准教授　中居　尚彦
准　教　授　梅田　弘樹　准教授　篠原　良太
准　教　授　堀江　政広　講　師　古川　哲哉
非常勤講師　永山　広樹

〔授業の達成目標〕
デザインプロセスの大まかな流れを理解し，デザインをするための基本技術（アイデア表現技術，プレゼンテーション技術，コンピュータ技術）を習得する。

〔授業の概要〕
プロダクトデザイン（PD），エクスペリエンスデザイン（XD），ビジュアルデザイン（VD）の各コースに分かれ，具体的なデザイン課題を通してデザインの初歩に触れる。課題の成果は各自のポートフォリオにまとめる。
PD：家電製品や食器を題材として，スケッチや製図などの表現手法を中心に，デザインプロセスの概観をつかむ。
XD：ソフト・ハードを含めたアプリケーションを題材として，アイデア展開の方法や表現方法を学ぶ。
VD：CDジャケットや紙面広告などを題材として，タイポグラフィー，マーク・ロゴ，印刷データの作成方法などを学ぶ。またコンピュータによる表現も平行して習得する。

〔授業計画〕
【プロダクトデザインコース】
第１回：ガイダンス（原田）
第２回：家電製品のデザイン(1)・課題説明（梅田）
第３回：家電製品のデザイン(2)・コンセプト立案（梅田）
第４回：家電製品のデザイン(3)・アイデア展開（梅田）
第５回：家電製品のデザイン(4)・アイデアの絞り（梅田）
第６回：家電製品のデザイン(5)・設計製図（梅田）
第７回：家電製品のデザイン(6)・モデル制作（梅田）
第８回：家電製品のデザイン(7)・プレゼンテーション・講評（梅田，原田）
第９回：食器のデザイン(1)・課題説明（梨原，永山）
第10回：食器のデザイン(2)・コンセプト立案（梨原，永山）
第11回：食器のデザイン(3)・アイデア展開（梨原，永山）
第12回：食器のデザイン(4)・アイデアモデル制作（梨原，永山）
第13回：食器のデザイン(5)・設計製図（梨原，永山）
第14回：食器のデザイン(6)・プレゼンテーション・講評（梨原,原田,永山）
第15回：総括（原田）

〔授業計画〕
【エクスペリエンスデザインコース】
第１回　第１課題「生活用品のデザイン」経験したことを表現する課題説明，調査内容説明（堀江）
第２回　体験の分析，図化（堀江）
第３回　体験の可視化（堀江）
第４回　アイデア展開（堀江）
第５回　アイデアの収束と具体化（堀江）
第６回　プレゼンテーション（堀江）
第７回　総括，リフレクション（両角）
第８回　第２課題「XDを説明・表現するWebsiteデザイン」これから経験することを表現する（中居）
第９回　表現する内容の調査・検討(1)（中居）
第10回　表現する内容の調査・検討(2)（中居）
第11回　内容の構造化（中居）
第12回　内容の構造化・表現（中居）
第13回　内容の表現（中居）
第14回　プレゼンテーション（中居）
第15回　総括，リフレクション（両角）

〔授業計画〕
【ビジュアルデザインコース】
第１回：前期オリエンテーション・名刺デザイン(1)課題説明（篠原・古川）
第２回：名刺デザイン(2)アイデア展開・デザイン制作（篠原・古川）
第３回：名刺デザイン(3)プレゼンテーション・講評（篠原・古川）
第４回：メッセージカードデザイン(1)課題説明（篠原・古川）
第５回：メッセージカードデザイン(2)アイデア展開（篠原・古川）
第６回：メッセージカードデザイン(3)デザイン制作（篠原・古川）
第７回：メッセージカードデザイン(4)プレゼンテーション・講評（篠原・古川）
第８回：チラシデザイン(1)課題説明（篠原・古川）
第９回：チラシデザイン(2)アイデア展開（篠原・古川）
第10回：チラシデザイン(3)デザイン制作（篠原・古川）
第11回：チラシデザイン(4)プレゼンテーション・講評（篠原・古川）
第12回：デジタルイラストレーション(1)課題説明（篠原・古川）
第13回：デジタルイラストレーション(2)アイデア展開・デザイン制作（篠原・古川）
第14回：デジタルイラストレーション(3)プレゼンテーション・講評（篠原・古川）
第15回：総括（篠原，古川）

〔教科書・参考書等〕
自作資料

〔準備学習等〕
（PD）予習として，次の課題のための調査をしておくこと，復習として課題内容をポートフォリオにまとめること。
（XD）各回で検討・実習した内容の復習・改善と次回の準備を行うこと。
（VD）各実習課題について，世の中でどのように使われているかを事前に調査し，概要を理解しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
各課題のプレゼンテーションおよび提出物によって評価する。

14 デザイン実習Ⅱ　Design Practice Ⅱ

必修　４単位　後期

２年全組　教　授　梨原　宏　教　授　原田　一
教　授　両角　清隆　准教授　中居　尚彦
准　教　授　梅田　弘樹　准教授　篠原　良太
准　教　授　堀江　政広　講　師　古川　哲哉
非常勤講師　中島　敏

〔授業の達成目標〕
デザインプロセスの大まかな流れを理解し，デザインをするための基本技術（アイデア表現技術，プレゼンテーション技術，コンピュータ技術）を習得する。

〔授業の概要〕
デザイン実習Ⅰで習得した初歩的な技術，知識を活用したデザイン課題を通し，デザインの基礎を身につける。
ＰＤ：容器，遊具，コミュニケーション機器を題材に，さらに高度な表現手法（発泡モデル，グラフィックソフト等）とアイデア展開力を身につける。
ＸＤ：ハンドヘルドツールを題材に，インターフェイスデザインとその表現に必要な技術（アニメーションソフト，プログラミング）を学ぶ。
ＶＤ：ダイヤグラム，エディトリアル，Webデザインを題材に，情報を整理し視覚化する方法を学ぶ。

〔授業計画〕
【プロダクトデザインコース】
第１回：ガイダンス（梅田）
第２回：容器のデザイン(1)・課題説明（梅田）
第３回：容器のデザイン(2)・コンセプト立案，アイデア展開（梅田）
第４回：容器のデザイン(3)・設計製図，モデル制作（梅田）
第５回：容器のデザイン(4)・プレゼンテーション・講評（梅田）
第６回：遊具のデザイン(1)・課題説明（梨原・中島）
第７回：遊具のデザイン(2)・コンセプト立案，アイデア展開（梨原・中島）
第８回：遊具のデザイン(3)・設計製図，モデル制作（梨原・中島）
第９回：遊具のデザイン(4)・プレゼンテーション・講評（梨原・中島）
第10回：コミュニケーション機器のデザイン(1)・課題説明（原田）
第11回：コミュニケーション機器のデザイン(2)・コンセプト立案（原田）
第12回：コミュニケーション機器のデザイン(3)・アイデア展開（原田）
第13回：コミュニケーション機器のデザイン(4)・設計製図，モデル制作（原田）
第14回：コミュニケーション機器のデザイン(5)・プレゼンテーション・講評（原田）
第15回：総括（梨原）

〔授業計画〕
【エクスペリエンスデザインコース】
ハンドヘルドツールへの搭載を前提に，適切な表現を創造する。
第１回　「“動物or植物”を表現する」モノを良く見る，聞く課題説明，調査内容説明（中居）
第２回　モノやコトの構造を観察する（中居）
第３回　モノやコトの構造を分析する（中居）
第４回　モノやコトの構造を表現する　アイデア展開（中居）
第５回　モノやコトの構造を表現する　完成（中居）
第６回　プレゼンテーション（中居）
第７回　総括，リフレクション（堀江）
第８回　「ポートフォリオ作り」自分の学んだことを表現する（両角）
第９回　よいサンプルを探す（両角）
第10回　よいサンプルを分析する（両角）
第11回　法則・規則を見つける（両角）
第12回　表現する内容を整理する（両角）
第13回　規則を適用して表現する（両角）
第14回　プレゼンテーション（両角）
第15回　総括，リフレクション（堀江）

〔授業計画〕
【ビジュアルデザインコース】
第１回　後期オリエンテーション・リーフレットデザイン(1)課題説明（篠原・古川）
第２回　リーフレットデザイン(2)アイデア展開（篠原・古川）
第３回　リーフレットデザイン(3)デザイン制作（篠原・古川）
第４回　リーフレットデザイン(4)プレゼンテーション・講評（篠原・古川）
第５回　装丁デザイン(1)課題説明（古川）
第６回　装丁デザイン(2)アイデア展開（古川）
第７回　装丁デザイン(3)デザイン制作（古川）
第８回　装丁デザイン(4)プレゼンテーション・講評（古川）
第９回　ボトルブランドデザイン(1)課題説明（古川）
第10回　ボトルブランドデザイン(2)アイデア展開（古川）
第11回　ボトルブランドデザイン(3)デザイン制作・ロゴ（古川）
第12回　ボトルブランドデザイン(4)デザイン制作・ラベル（古川）
第13回　ボトルブランドデザイン(5)デザイン制作・ポスター（古川）
第14回　ボトルブランドデザイン(6)プレゼンテーション・講評（古川）
第15回　総括（篠原・古川）

〔教科書・参考書等〕
自作資料

〔準備学習等〕
（PD）予習として，次の課題のための調査をしておくこと，復習として課題内容をポートフォリオにまとめること。
（VD）各実習課題について，世の中でどのように使われているかを事前に調査し，概要を理解しておくこと。
（XD）各回で検討・実習した内容の復習・改善と次回の準備を行うこと。

〔成績評価方法・基準〕
各課題のプレゼンテーションおよび提出物によって評価する。

15 ＣＡＤ演習　Exercises CAD

必修　３単位　後期

２年１組　准　教　授　中居　尚彦
２組　非常勤講師　日原　広一

〔授業の達成目標〕
自分が思い描いた形をCADにより自由自在に表現出来るようになることを目標とする。

〔授業の概要〕
デザインツールとして欠かせないものとなったCADについて，それらの操作方法を習得する。3次元CADソフトを使用し，図形及び基本形状の作成・編集及びそれらの合成，モデリングの作成，テクスチャーの設定及びレンダリング環境の設定，テキストの作成と編集，レンダリングの作成，ファイルの保存と出力等の方法を学ぶ。２クラスに分けて実施する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンスソフトの起動，ファイル作成，保存，ファイルを閉じる。（中居，日原）
第２回：画面の操作－分割，拡大・縮小，移動，切り替え。（中居，日原）
第３回：基本形状の作成－線形状，矩形，円，球。（中居，日原）
第４回：基本形状の作成－掃引体，回転体，自由曲面。（中居，日原）
第５回：基本形状の作成－ポリゴンメッシュ，メタメッシュ。（中居，日原）
第６回：形状の編集－移動，拡大・縮小，変形，複製。（中居，日原）
第７回：形状の編集－パート作成，ジョイントの設定。（中居，日原）
第８回：テクスチャーの設定－色の設定，陰影，マッピング。（中居，日原）
第９回：カメラの設定－ウィンドウ，視点，注視点，焦点距離。（中居，日原）
第10回：光源の設定－平行光源，点光源，アイライト，環境光。（中居，日原）
第11回：光源の設定－スポットライト，線光源，面光源。（中居，日原）
第12回：背景の設定－背景ウィンドウ，イメージ合成。（中居，日原）
第13回：レンダリング－レンダリングの設定，レンダリングの実行。（中居，日原）
第14回：イメージの保存と印刷－イメージサイズ，解像度とプリントサイズ。（中居，日原）
第15回：まとめと作品提出（中居，日原）

〔教科書・参考書等〕
自作資料

〔準備学習等〕
各授業ごとのソフトウェアのアイコンの使用法を繰り返し確認すること。

〔成績評評価方法・基準〕
進行状況に応じた課題提出状況，習得技術の程度により評価する。

16 デザイン実習Ⅲ　Design Practice Ⅲ

必修　８単位　前期

３年全組
教　　授　荒井　俊也　　教　授　梨原　宏
教　　授　原田　一　　教　授　両角　清隆
准　教　授　中居　尚彦　　准教授　梅田　弘樹
准　教　授　篠原　良太　　准教授　堀江　政広
准　教　授　盧　慶美　　講　師　古川　哲哉
非常勤講師　伊藤　光弘

〔授業の達成目標〕
デザインプロセスの流れを理解し，デザインをするための基本技術（アイデア表現技術，プレゼンテーション技術，コンピュータ技術）を活用できるようになる。

〔授業の概要〕
デザイン実習Ⅰ，Ⅱで習得した技術，知識を活用してより複雑なデザインの提案を行う。
ＰＤ：ハンドツール，家電および自動車を題材に，コンセプト立案からデザイン設計までの流れと，調査･分析･評価の方法について学ぶ。
ＸＤ：活動支援のデザイン，商業情報のデザインを題材に，Webベースアプリによるコミュニケーション支援の提案を行う。
ＶＤ：商品の企画・製作・広告のすべてをグループでデザインすることで，自己の適性と他者との接し方を学びながら，作品のクオリティと自己のスキルを向上させる。

〔授業計画〕
【プロダクトデザインコース】
第１回：ガイダンス（梨原）
第２回：ハンドツールのデザイン(1)・課題説明（梅田）
第３回：ハンドツールのデザイン(2)・コンセプト立案（梅田）
第４回：ハンドツールのデザイン(3)・アイデア展開（梅田）
第５回：ハンドツールのデザイン(4)・設計製図，モデル制作（梅田）
第６回：ハンドツールのデザイン(5)・プレゼンテーション・講評（梅田）
第７回：家電製品のデザイン(1)・課題説明（梨原）
第８回：家電製品のデザイン(2)・コンセプト立案（梨原）
第９回：家電製品のデザイン(3)・アイデア展開（梨原）
第10回：家電製品のデザイン(4)・設計製図，モデル制作（梨原）
第11回：自動車のデザイン(1)・コンセプト立案（原田）
第12回：自動車のデザイン(2)・アイデア展開（原田）
第13回：自動車のデザイン(3)・設計製図，モデル制作（原田）
第14回：自動車のデザイン(4)・プレゼンテーション・講評（原田）
第15回：総括（梨原）

〔授業計画〕
【エクスペリエンスデザインコース】
第１回　「活動を支援する情報機器」，課題説明，調査内容説明（両角）
第２回　人々の知りたいことはなに？（両角）
第３回　疑問の視覚化（両角）
第４回　中間プレゼンテーション（両角）
第５回　表現の工夫（両角）
第６回　プレゼンテーション（両角）
第７回　総括，リフレクション（両角）
第８回　「商業用Webサイト」－お店を特定してクライアントにする－課題説明，調査内容説明（中居）
第９回　二つのお客様（エンドユーザーとユーザー）の要求（中居）
第10回　要求の構造化・基本デザイン（中居）
第11回　詳細デザイン・表現の工夫（堀江）
第12回　中間プレゼン（客先で）（堀江）
第13回　表現の最適化（堀江）
第14回　プレゼンテーション（堀江）
第15回　総括，リフレクション（堀江）

〔授業計画〕
【ビジュアルデザインコース】
第１回　オリエンテーション，企画会議（駅弁をデザインする）（伊藤，荒井）
第２回　パッケージ材料について，駅弁パッケージ制作（篠原，盧）
第３回　駅弁パッケージ提出，駅弁ポスター制作（荒井，古川）
第４回　駅弁ポスター提出，駅弁ＣＭ制作（篠原，盧）
第５回　駅弁中間プレゼンテーション，企画修正（伊藤，古川）
第６回　駅弁課題制作物の修正，駅弁ＣＭ提出（篠原，盧）
第７回　コストと販売方法，駅弁試食と修正（荒井，古川）
第８回　駅弁最終プレゼンテーション，課題整理（伊藤，盧，荒井，古川，篠原）
第９回　石鹸の造り方について，企画会議（石鹸をデザインする），石鹸パッケージ制作（荒井，古川）
第10回　石鹸パッケージ提出・石鹸ポスター制作（篠原，盧）
第11回　石鹸ポスター提出・石鹸ＣＭ制作（古川，荒井）
第12回　石鹸中間プレゼンテーション，企画修正（篠原，盧，伊藤）
第13回　石鹸課題制作物の修正，ＣＭ提出（荒井，古川）
第14回　石鹸最終プレゼンテーション，課題の整理（伊藤，古川，荒井，盧，篠原）
第15回　総括，ポートフォリオ制作（盧，篠原）

〔教科書・参考書等〕
自作資料

〔準備学習等〕
各コースごとの課題について図書やネット等で調査し予備知識を得ておく。

〔成績評価方法・基準〕
各課題のプレゼンテーションおよび提出物によって評価する。

17 キャリアデザイン　Career Design

必修　１単位　後期

３年全組　准教授　篠原　良太
教　授　原田　一
教　授　両角　清隆

〔授業の達成目標〕
プロのデザイナーになるためのキャリアとは何かを学ぶ。自分の能力を客観的に判断できるようにする。また，それをプロの仕事，起業にどのように生かしていくかを習得する。

〔授業の概要〕
広い意味でのデザイナーのキャリアの可能性を考える。そのために自分の過去を振り返り未来のあるべき姿を予測し，さらに自分の適性などを考えて，具体的な目標を作って行く。考える参考として，実際に企業に入った場合や起業した場合などの実例を挙げ，さらに世界に眼を転じて今起こっている変化を指摘し，これから自分で道を拓けるように，今後すべきことを指摘する。

〔授業計画〕
第１回：概論 キャリアデザインとは何か？
第２回：自己の目標とキャリアデザインの関係
第３回：将来の目標設定
第４回：自己の基礎能力とは何か？
第５回：自己の基礎能力の確認
第６回：対人能力，対自己能力，対課題能力
第７回：処理力，思考力
第８回：仕事に取り組む動機，自己の価値観
第９回：専門力・・・プロフェッショナルへの道
第10回：自己の専門力に対する見方
第11回：専門力を磨く
第12回：起業とは何か？
第13回：起業の方法
第14回：自己のキャリアデザインの作成
第15回：キャリアデザインのまとめ，レポート作成

〔教科書・参考書等〕

〔準備学習等〕
各回の講義内容に沿って，自己の目標に関係づけてまとめをすること。

〔成績評評価方法・基準〕
提出を課すレポートの内容と，期末試験の点数で評価する。

18 デザイン実習Ⅳ　Design Practice Ⅳ

必修　８単位　後期

３年全組　教　授　荒井　俊也　　教　授　梨原　宏
教　授　原田　一　　教　授　両角　清隆
准教授　中居　尚彦　　准教授　梅田　弘樹
准教授　篠原　良太　　准教授　堀江　政広
准教授　盧　慶美　　講　師　古川　哲哉

〔授業の達成目標〕
デザインプロセスの流れを理解し，デザインをするための基本技術（アイデア表現技術，プレゼンテーション技術，コンピュータ技術）を活用できるようになる。

〔授業の概要〕
デザイン実習Ⅲまでに身につけた，技術，知識，考え方を総合的に用い，より専門的なデザイン提案を行う。
PD：公共サービスの中で用いられる機器の提案をグループワークで行う。後半は製品デザイン，ユニバーサルデザイン，エルゴノミクスの中から各自が課題設定をする。
XD：情報デザイン・プログラミングデザイン・Software デザインの中から研究テーマを選び，調査分析とデザイン提案を行う。
VD：エディトリアルデザイン・Web デザイン・CG・ビジュアルアートの中から自分の研究テーマを決め，各教員の指導のもとに作品を制作する。

〔授業計画〕
【プロダクトデザインコース】
第１回：公共サービスの中のデザイン(1)・課題説明（梨原）
第２回：公共サービスの中のデザイン(2)・コンセプト立案（梨原）
第３回：公共サービスの中のデザイン(3)・アイデア展開，アイデアの絞り（梨原）
第４回：公共サービスの中のデザイン(4)・設計製図（原田）
第５回：公共サービスの中のデザイン(5)・モデル制作（原田）
第６回：公共サービスの中のデザイン(6)・プレゼンテーション・講評（原田）
第７回：行為に相即するデザイン(1)（梅田）
第８回：行為に相即するデザイン(2)・プレゼンテーション・講評（梅田）
第９回：独自課題(1)・課題グループ分け（梨原，原田，梅田）
第10回：独自課題(2)・コンセプト立案（梨原，原田，梅田）
第11回：独自課題(3)・アイデア展開，アイデアの絞り（梨原，原田，梅田）
第12回：独自課題(4)・設計製図（梨原，原田，梅田）
第13回：独自課題(5)・モデル制作（梨原，原田，梅田）
第14回：独自課題(6)・プレゼンテーション・講評（梨原，原田，梅田）
第15回：総括（梅田）

〔授業計画〕
【エクスペリエンスデザインコース】
第１回　課題説明，調査内容説明（両角）
第２回　課題の発見（グループワーク）（両角）
第３回　解決策の展開（グループワーク）（両角）
第４回　システムの提案と具体化（グループワーク）（両角）
第５回　検証（グループワーク）（両角）
第６回　プレゼンテーション準備（中居）
第７回　中間プレゼンテーション（中居）
第８回　基本デザイン（展開）（中居）
第９回　基本デザイン（精緻化）（中居）
第10回　詳細デザイン（展開）（中居）
第11回　詳細デザイン（精緻化）（堀江）
第12回　検証（堀江）
第13回　プレゼンテーション準備（堀江）
第14回　プレゼンテーション（堀江）
第15回　総括，リフレクション（堀江）

〔授業計画〕
【ビジュアルデザインコース】
第１回　オリエンテーション，テーマ設定（荒井）
第２回　各分野の特性について，制作課題Ａ（荒井）
第３回　ポートフォリオのまとめ方について，制作課題Ａ（荒井）
第４回　作品の展示方法について，制作課題Ａ（荒井）
第５回　コンセプトの裏づけ，制作課題Ｂ（古川）
第６回　コンセプトの組み立て方，制作課題Ｂ（古川）
第７回　作品のクオリティについて，制作課題Ｂ（古川）
第８回　プレゼンテーションの方法について，制作課題Ｃ（篠原）
第９回　作品のクオリティ向上について，制作課題Ｃ（篠原）
第10回　プロのデザイナーになるために，制作課題Ｃ（篠原）
第11回　制作の段取りについて，制作課題Ｄ（盧）
第12回　ポートフォリオのまとめ方について，制作課題Ｄ（盧）
第13回　作品と社会との関わりについて，制作課題Ｄ（盧）
第14回　最終プレゼンテーション（荒井，篠原，盧，古川）
第15回　ポートフォリオの整理，総括（荒井，篠原，盧，古川）

〔教科書・参考書等〕
自作資料

〔準備学習等〕
各コースごとの課題について図書やネット等で調査し予備知識を得ておく。

〔成績評価方法・基準〕
各課題のプレゼンテーションおよび提出物によって評価する。

19 クリエイティブデザイン研修Ⅰ　Undergraduate Design Study Ⅰ

必修　３単位　前期

４年全組　全教員

〔授業の達成目標〕
特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて，「目標設定→方法の検討→実行→結果の考察」という論理的方法を修得し，活用できるようになること。

〔授業の概要〕
本科目は卒業研究であり，４年間の総仕上げでもある。具体的には，指導教員の研究室に所属し，個人もしくは共同で，特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて，「目標設定→方法の検討→実行→結果の考察」という論理的方法を修得させる。

〔授業計画〕
第１回：卒業研究について（オリエンテーション）
第２回：研究課題の検討（背景と目的と方法）
第３回：研究課題の検討（背景と目的と方法）
第４回：各テーマに関する資料の収集と基礎理論の学習
第５回：研究方法，政策手段，実験方法，調査方法の検討
第６回：調査，研究，制作，実験などの計画立案
第７回：調査，研究，制作，実験などの諸準備
第８回：予備実験，予備調査，制作など
第９回：予備実験結果，予備調査結果，制作結果などの検討
第10回：調査，研究，制作，実験など
第11回：調査，研究，制作，実験など
第12回：報告書の作成
第13回：発表会の準備
第14回：発表会
第15回：発表会の反省と検討

〔教科書・参考書等〕

〔準備学習等〕
１年次から３年次かけて実習や講義を通して学んだ内容を整理し，「論文」や「作品」を研究・制作取り掛かれるようにしておくこと。本学や他大学などの卒業研究・制作展などを見学し，目標とする内容のレベルを確認しておくこと。

〔成績評評価方法・基準〕
テーマの設定，方法，手段の妥当性
テーマの分野，性格，位置づけの認識度
進捗状況と後期への準備状況

20 クリエイティブデザイン研修Ⅱ　Undergraduate Design Study Ⅱ

必修　３単位　後期

４年全組　全教員

〔授業の達成目標〕
特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて，「目標設定→方法の検討→実行→結果の考察」という論理的方法を修得し，活用できるようになること。

〔授業の概要〕
本科目は卒業研究であり，４年間の総仕上げでもある。具体的には，指導教員の研究室に所属し，個人もしくは共同で，特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて，「目標設定→方法の検討→実行→結果の考察」という論理的方法を修得させる。
また，学内の発表会，学外の発表会を実施し，研究・制作と社会とのつながりを理解させる。

〔授業計画〕
第１回：本実験，本調査などの実施または作品制作
第２回：本実験，本調査などの実施または作品制作
第３回：分析と追加実験，追加調査などの実施または作品制作
第４回：分析と追加実験，追加調査などの実施または作品制作
第５回：分析と追加実験，追加調査などの実施または作品制作
第６回：論文の構成または制作内容の検討
第７回：論文作成または作品制作
第８回：論文作成または作品制作
第９回：論文作成または作品制作
第10回：論文の総括または作品の仕上げ
第11回：論文の総括または作品の仕上げ
第12回：研修発表の準備
第13回：口頭発表会
第14回：学外展示会準備
第15回：学外展示会準備

〔教科書・参考書等〕

〔準備学習等〕
前期の「クリエイティブデザイン研修Ⅰ」の課題を整理し，最終的な目標に到達できるように計画を立てる。

〔成績評評価方法・基準〕
実験，調査，分析，制作の学習度
内容構成の妥当性，目標とゴールの関連度
論文または作品の完成度
口頭発表の明快度，展示の完成度

21 生産技術　Production Technology

選択　２単位　前期　　２年全組　准教授　梅田　弘樹

〔授業の達成目標〕
各素材の加工・成形方法の原理を理解する。さらに，それらと製品の形態･構成との関係を学び，製品デザインに生かせる生産技術の知識を養う。

〔授業の概要〕
製品デザインの際に用いる素材，加工，成形方法について学ぶ。アイデアを魅力的な形態と構成に結びつけるための生産技術の知識を習得し，設計製図，モデル提示に生かす力を育てる。具体的な内容としては，金属，プラスチック，陶磁器，ガラス，木材，紙等を用いた製品，部品の成形，加工，設計の事例を見ながらそれらの原理を理解し，デザインへの応用の可能性について考察する。

〔授業計画〕
第１回：デザイン計画における生産技術
第２回：プラスチックの成形１（射出成形）
第３回：プラスチックの成形２（型による成形）
第４回：プラスチックの成形３（その他の成形技術）
第５回：金属の加工方法１（鋳造）
第６回：金属の加工方法２（鍛造・プレス）
第７回：金属の加工方法３（その他の加工技術）
第８回：陶磁器の成形１（量産技術）
第９回：陶磁器の成形２（手作りの技術）
第10回：ガラスの成形１（量産技術）
第11回：ガラスの成形２（手作りの技術）
第12回：木材の加工１（量産技術）
第13回：木材の加工２（手作りの技術）
第14回：紙の加工
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
参考書　「工業デザインのための材料知識」岩井正二・青木弘行　日刊工業新聞社
「モノができる仕組み事典」　成美堂出版
「デザイン技法材料･加工技術　工業デザイン全集５上下」　日本出版サービス

〔準備学習等〕
予習として，次回講義分の参考書の記述をよく読んでおくこと。復習として，講義内容をもとに実際のモノに触れ，加工方法を追求し，考察をすること。

〔成績評評価方法・基準〕
毎回の講義後に課されるレポートの内容と，期末試験の点数および学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

22 エルゴノミクス　Ergonomics

選択　２単位　前期　　２年全組　教　授　原田　　一

〔授業の達成目標〕
人間の諸機能とその特性を理解し，デザインワークができるようになること。単純に負担を少なくするだけではなく，人間本来の能力を維持し，高めることにも配慮したデザインができるようになること。

〔授業の概要〕
デザインを行う上で人間の諸機能とその特性を理解し，単純に負担を少なくするだけではなく，人間本来の能力維持を基本に高めることにも配慮したデザインができるようになることを目標とし，人間とモノや環境との関係について学ぶ。適宜，簡単な演習を取り入れ理解を深める。人間のことを充分に理解した上でのモノづくりについて学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：序論
第２回：エルゴノミクスの歴史
第３回：人類の歴史と人間の形態
第４回：人間の感覚特性
第５回：人間とモノとの関わり
第６回：エルゴノミクスにおける心理事象
第７回：エルゴノミクスにおける生理反応の評価
第８回：テクノストレスとデザイン
第９回：情報社会におけるエルゴノミクス
第10回：使いやすさとデザイン
第11回：事故から学ぶ安全なデザイン
第12回：障害者に対応したエルゴノミクス
第13回：高齢者に対応したエルゴノミクス
第14回：快適性の捉え方
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　適宜プリントを配布するので，教科書は指定しない。
参考書　中島利誠（編著）：生活と技術　ライブラリー生活の科学７　コロナ社2002

〔準備学習等〕
毎回配布する資料に記述している問題および宿題により，復習を行うこと。次回講義資料を用いて予習をしておくこと。

〔成績評評価方法・基準〕
毎回のレポート50％，試験50％および学習に取り組む姿勢により総合的に評価する。

23 材料学　Design Material Planning

選択　２単位　前期　　２年全組　教　授　梨原　　宏

〔授業の達成目標〕
様々な工業材料の特性に関する基本的な知識を身につけ，実際にデザインを行う際に適切な材料の選択が行えるようになる

〔授業の概要〕
デザイン全般を行う上で必要な様々な材料の物理的･感覚的特性に関する基本的な知識を習得する。それらをデザイン表現で応用するためのポイントを，具体的な事例を見ながら理解し，実際にデザインを行う際に適切な材料の選択が行えるようになることを目標とする。対象となる材料は，各種プラスチック，金属，木材，陶磁器，ガラス，塗料，テキスタイル，紙などで，講義はそれぞれの材料ごとにまとめて行う。また，材料に関連するトピックス（例：エコロジー）を交えながら，材料とデザインが社会に及ぼす影響についても考察する

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：材料の機械的性質について
第３回：材料の選択について
第４回：熱可塑性樹脂の性質と適用
第５回：熱硬化性樹脂の性質と適用
第６回：金属材料の性質
第７回：金属材料の適用
第８回：木材の性質
第９回：木材の適用
第10回：陶磁器の性質と適用
第11回：ガラスの性質と適用
第12回：テキスタイルの性質と適用
第13回：紙，竹，その他材料の性質と適用
第14回：材料とデザインそして社会
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
参考書　岩井正二・青木弘之著『工業デザインのための材料知識』日刊工業新聞社

〔準備学習等〕
予習として，次回講義分の参考書の記述をよく読んでおくこと。復習として，講義内容をもとに実際のモノに触れ，素材とデザインとの関係を考察すること。

〔成績評評価方法・基準〕
毎回の講義後に課されるレポートの内容（50％）と，期末試験の点数（50％），および学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

24 色彩論　Colour Theory

選択　２単位　前期　　２年全組　准教授　盧　慶美

〔授業の達成目標〕
カラーコーディネーター・色彩検定につながる色彩や配色の基礎を学ぶ。色彩検定は企業の商品開発，販売促進，CIなどの製造，流通，販売における各段階，公共空間のデザインや街づくり，都市計画の分野など，色彩の心理的効果等を重視した適切な色彩をコーディネイトできる人材を育成することを目的としている。

〔授業の概要〕
テキストに沿い色彩の科学的な理論と表現にかかわる理論を演習を含め講義し，それらの基本的な能力を体系的に理解を深めていく授業を進める。
テキスト，パネル，スライド，色立体，配色カードなどを用いて色彩理論を視覚的に理解できるように学習する。

〔授業計画〕
第１回：年間の授業の進め方，教材，評価方法などの説明，色と生活についての概論
第２回：色と光について…視覚三要素〈光，物体，目〉についての解説
第３回：表色系（カラーシステム）について…色の表示：JIS（マンセル表示）とPCCS
第４回：色名体系について…概論とJIS色名体系（系統色名と慣用色名）についての解説
第５回：混色について…光の混色である加法混色と色料の混色である減法混色の解説
第６回：色の知覚現象…対比，同化色の見えの基本特性
第７回：色彩心理について①…色の見えについての解説と対比演習（明度対比や色相対比など）
第８回：色彩心理について②…感情色の演習（すき／きらい，暖／寒など感情色の選定）
第９回：PCCS配色調和について…配色調和概論
第10回：色彩調和論について…解説と演習
第11回：色彩管理について…色彩と素材についての解説と演習
第12回：色彩デザインについて…デザインされた結果物を通した色彩の理解と分析，演習
第13回：色彩計画について…色彩の諸現象を色彩計画に活かす，色材の特徴を知り色彩計画に望む重要性の理解
第14回：ファッションと色彩表現について
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：「カラーコーディネーター入門　色彩（改訂増補版）」大井義雄・川崎英昭著　日本色彩研究所監修　工大生協
参考書：授業内容に応じて随時おこなう。

〔準備学習等〕
予習として，次回講義分の教科書の記述をよく読んでおくこと。復習として，講義で聞いた内容に関する事例を探し出して観察すること。

〔成績評価方法・基準〕
授業中に課す課題（実習，レポート）40%，まとめの試験20%，学習に取り組む姿勢40%を総合的に評価する。

25 映像・メディア論　Image and Media

選択　２単位　前期　　２年全組　准教授　猿渡　学

〔授業の達成目標〕
映像が綿密な計画性の元で作り上げられていることを中心に，作品制作の過程を現代的なプロダクションを例に挙げながら映像理論と映像に関する原理的な文法を理解することを目的とする。

〔授業の概要〕
ダニエル・アリホンらの映像文法に関するテキストを読み解きながら，制作された映像が綿密に計算されて構成されていることを体験する。また，エイゼンシュテインやクレチョフらの実験的な映像を追体験することで，イメージのテクスト性を考察する。これらを通して，イメージメディアの問題点を検討し，新たな表現系としての映像を確認する。

〔授業計画〕
第１回：イメージとは何か，映画とは何か，映像とは何か（オリエンテーション）
第２回：映像イメージと言語体系の関連について
第３回：映像の文法シーンを作るために／絶対要素と相対要素
第４回：映像の文法シーンを構成する／アングルとブロッキング
第５回：映像の文法シーンを構成する／フレーミングの意味性
第６回：映像の文法シーンを構成する／空間的配置とフレーミング
第７回：映像の文法シーンとシーケンス
第８回：映像の文法映像実験・クレチョフとエイゼンシュテイン
第９回：映像の文法映像実験・自主制作映画を例に
第10回：映像の文法モンタージュとシーケンス
第11回：映像の文法モザイクとシーケンス
第12回：映像の文法シーンとシーケンス
第13回：イメージメディアのテクスト性
第14回：次世代映像の可能性を探る映像の文法youtubeほか
第15回：総論と試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　指定しない。講義ではプリントを用いる。
参考書　講義中に適宜指示する

〔準備学習等〕
別途指定するテキストを講義開始前に読解し，レポートを提出すること。
また，自宅にあるデジタルビデオカメラや動画機能のついているデジタルデバイスについて調査をしておくこと。

〔成績評評価方法・基準〕
講義中の小テスト，課題ならびにまとめの試験によって総合的に評価する。

26 広告論　Theory of Advertisement

選択　２単位　前期・集中　　２年全組　非常勤講師　宮坂　克己
非常勤講師　守屋　康宏
非常勤講師　伊藤　光弘

〔授業の達成目標〕
各媒体の特性を把握して作り手の視点で広告を理解できること。

〔授業の概要〕
紙媒体，映像媒体，音声媒体等の多様な広告メディアの実情を知り各媒体の特性と表現方法をデザイナーの視点から理解する。鑑賞者の視点から作り手の視線に立つことを目標とする。

〔授業計画〕
第１回：広告について（歴史･広告業界の仕組みなど）（守屋）
第２回：印刷メディア①　視覚コミュニケーションによる，ブランディングについて（守屋）
第３回：印刷メディア②　アートディレクションについて（守屋）
第４回：広告のデザインについて１　（新聞広告，雑誌広告，ポスター等，紙媒体のグラフィックデザインについて）（守屋）
第５回：広告のデザインについて２　（WEB SITEと，リーフレット，パッケージ等，紙媒体以外のデザインについて）（守屋）
第６回：映像メディア①　テレビＣＭ（企画・絵コンテなど）（伊藤）
第７回：映像メディア②　テレビＣＭ（映像表現など）（伊藤）
第８回：映像メディア③　テレビＣＭ（音楽・演出など）（伊藤）
第９回：音声メディア①　ラジオＣＭ（企画・シナリオなど）（伊藤）
第10回：音声メディア②　ラジオＣＭ（音楽・演出など）（伊藤）
第11回：広告表現①　タイポグラフィ概論（宮坂）
第12回：広告表現②　タイポグラフィとグラフィックについて（宮坂）
第13回：広告表現③　デジタル媒体におけるグラフィック表現について（宮坂）
第14回：広告表現④　VI，CI計画について（宮坂）
第15回：総括（宮坂）

〔教科書・参考書等〕
教科書　なし
参考書　なし

〔準備学習等〕
予習として各メディア（テレビ，ラジオ，新聞，雑誌等）の広告を見ておくこと。また，講義内容を理解した上で作り手の立場から再び各メディアの広告の役割を検証すること。

〔成績評評価方法・基準〕
３人の講師により指示された提出レポートの評価合計による。

27 エディトリアルデザイン　Editorial Design

選択　２単位　後期　　２年全組　講　師　古川　哲哉

〔授業の達成目標〕
情報伝達表現の形や種類の多様さを知る。エディトリアルデザインの基本構造を学び，デザイン要素のどの部分が「読者の理解」に影響を与えているのかを理解して，表現・評価ができる。

〔授業の概要〕
多様なエディトリアルデザインの具体例を見せながら，実践に結びつけて解説する。

〔授業計画〕
第１回：エディトリアルデザインって何？
第２回：本の解体
第３回：文字のはなし
第４回：エディトリアルデザインの連続性
第５回：レイアウトのはなし１
段組とグリッド・マージン・スペーシング・広がり
第６回：レイアウトのはなし２
大きさ・コントラスト・カモフラージュ・対称と非対称
第７回：文字組のはなし１
本文書体・見出しとリード
第８回：文字組のはなし２
小見出し・引用文・キャプション
第９回：ヴィジュアル処理のはなし１
図版・ダイアグラム
第10回：ヴィジュアル処理のはなし２
囲みと罫線・シャドー・色
第11回：エディトリアルデザインの仕上げのはなし
第12回：編集者とデザイン
第13回：新しいメディアとエディトリアルデザイン
第14回：エディトリアルデザインはあらゆるところに応用できる
第15回：総括

〔教科書・参考書等〕
教科書
参考書

〔準備学習等〕
予習復習ともに，図書館もしくは書店においてデザインされた本の装丁を手にとって観察すること。

〔成績評評価方法・基準〕
提出された課題の内容で評価する。

28 プロダクトデザイン論Ⅱ　Theory of Product Design Ⅱ

選択　２単位　後期　　２年全組　准教授　梅田　弘樹

〔授業の達成目標〕
製品のデザインの実態を知る。またその上で，実際にデザインをするために必要な思考法，発想法，造形技術の必要性を理解する。

〔授業の概要〕
プロダクトデザイン論Ⅰで学んだ製品デザインの多様性に関する知識を踏まえ，様々な製品開発事例を通して社会におけるデザインの経済的，文化的意義について考える。上記の考察を通して，製品デザインをする上で必要な知識，技能および思考法（問題の捉え方，コンセプト立案・アイデア展開の仕方）について理解し，デザイナーに必要な発想力とそれを具現化する造形力を身につけるために何をすべきかを理解する。講義は，「家電」「自動車」「家具」「日用品」などの製品カテゴリーごとにまとめて行う。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス・「プロダクトデザイン論Ⅰ」の復習
第２回：企業とデザイン，商品企画
第３回：デザインプロセス１（白モノ家電）
第４回：デザインプロセス２（精密機器）
第５回：デザインプロセス３（自動車）
第６回：コンセプト起案の手法
第７回：家具のデザイン
第８回：「コンセプト→かたち」の方法論
第９回：日用品のデザイン１（スイッチ）
第10回：日用品のデザイン２（花器）
第11回：ユーザ調査１（産業用機器）
第12回：ユーザ調査２（福祉機器）
第13回：社会とデザイン
第14回：デザインの未来
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
参考書　「プロダクトデザインガイドブック」逸見健二郎著　美術出版社
「プロダクトデザイン　商品開発にかかわるすべての人へ」　日本インダストリアルデザイナー協会編　ワークスコーポレーション

〔準備学習等〕
「プロダクトデザイン論Ⅰ」の復習をしておくこと。日常的にデザイン関連のニュース等に目を向け，デザインと社会とのつながりを意識すること。関連する分野の製品の実物をよく観察しておくこと。

〔成績評評価方法・基準〕
毎回の講義後に課されるレポートの内容と，期末試験の点数および学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

29 道具と空間　Tools and Spaces

選択　２単位　後期　　２年全組　教　授　原田　　一

〔授業の達成目標〕
ヒューマンスケールを理解し，モノつくりや空間デザインができるようになること。サイズとの関わりだけでなく，時間的要素も取り入れたデザインができるようになること。

〔授業の概要〕
ヒューマンスケール，モノづくりと空間デザインの理解に加えて，時間的要素も取り入れたデザインができるようになることを目標とする。食器，照明，家具など衣食住に関わる道具のサイズや素材と空間との関わりについて考え，時間の要素も含めて，ものづくりの原点を見直す。日常生活で使用する道具と空間の関わりについて理解する。

〔授業計画〕
第１回：序論
第２回：ヒューマンスケールの考え方
第３回：日本における道具の変遷
第４回：日本人と道具
第５回：人間のふるまいと道具
第６回：道具と標準化
第７回：椅子の変遷
第８回：日本人とトイレ
第９回：家具と住まい
第10回：あかりと空間
第11回：人間の空間意識と時間の感覚
第12回：道具と空間デザイン
第13回：人間と道具の共生
第14回：これからの道具のあり方
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　適宜プリントを配布するので，教科書は指定しない。
参考書　秋岡芳夫：暮らしのためのデザイン，新潮社1979

〔準備学習等〕
エルゴノミクスを履修しておくことが望ましい。毎回配布する資料に記述している問題および宿題により，復習を行うこと。次回講義資料を用いて予習をしておくこと。

〔成績評評価方法・基準〕
毎回のレポート50％，試験50％および学習に取り組む姿勢により総合的に評価する。

30 情報デザイン論Ⅰ　Theory of Information Design Ⅰ

選択　２単位　後期・一部集中

２年全組　教　授　両角　清隆
准教授　堀江　政広

〔授業の達成目標〕
人々の活動と情報の関係を理解し，情報のデザインを行うときに考慮すべき要素や枠組みを学ぶ。

〔授業の概要〕
「ものごと」を形にする「情報デザイン」が生まれた背景や歴史，最新の動向を学ぶ。
また，情報デザインの核となる種々の分野に共通する“コミュニケーションと理解の形態”について学ぶ。
さらに，情報デザインを形作る要素となる人々の活動と，関連するICT（情報伝達技術）との関係を学ぶ。

〔授業計画〕
第１回　私たちの未来？”Googlezon”（両角）
第２回　インターネットについての哲学的考察（堀江）
第３回　情報の歴史（1）情報とは，生物と情報（両角）
第４回　情報の歴史（2）文字の発明（両角）
第５回　情報の歴史（3）国家と宗教（両角）
第６回　情報の歴史（4）メディアとコミュニケーション（両角）
第７回　情報の歴史（5）生産方式とメディア（両角）
第８回　情報の歴史（6）コミュニケーションと社会（両角）
第９回　情報の歴史（7）総括（両角）
第10回　人間の認知特性（１）モデルを作る生物（両角）
第11回　人間の認知特性（２）誤る生物（両角）
第12回　人間の認知特性（３）合理的な生物（両角）
第13回　人々の活動と情報の特性（両角）
第14回　ICTとデザインの課題（両角）
第15回　まとめと試験（両角）

〔教科書・参考書等〕
教科書：「誰のためのデザイン」D.A.ノーマン著　新曜社
参考書等：「情報の歴史を読む」松岡正剛著 NTT出版
「生命を捉えなおす生きている状態とは何か」清水 博著 中公新書
「インターネットについて 哲学的考察」ヒューバート･L･ドレイファス 産業図書

〔準備学習等〕
各回の講義内容に沿って，出題されたレポートを期限までに提出すること。

〔成績評評価方法・基準〕
毎回提出を課すレポートの内容と，ステップごとのレポートおよび試験の点数で評価する。

31 デザインプログラミング　Design programing

選択　２単位　前期

３年全組　准教授　中居　尚彦

〔授業の達成目標〕
WEBデザインでも必要になってきているプログラミング手法を修得する。

〔授業の概要〕
Webデザインやゲームなどに必要なプログラムの一つであるFlashのActionScript3.0を修得することを通してプログラミングの考え方を学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：プログラミングの考え方
第２回：フローチャートの記号と手順
第３回：フローチャートの作成
第４回：ActionScript３とオブジェクト指向
第５回：シンボルとインスタンス
第６回：変数と定数
第７回：関数定義
第８回：データ型
第９回：演算子
第10回：繰り返し
第11回：条件分岐
第12回：配列
第13回：クラス
第14回：イベント処理
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：基本からしっかりわかるActionScript3.0 マイコミ
参考書：Flash ActionScript3.0関連書籍

〔準備学習等〕
１年教養教育科目「数学的思考法」を修得していることが望ましい。

〔成績評評価方法・基準〕
小テスト・課題作成70%，まとめの試験30%。

32 インタラクションデザイン論　Theory of Interaction Design

選択　２単位　前期

３年全組　教　授　両角　清隆

〔授業の達成目標〕
ユーザーがシステム・ツールとどのようにやり取り（インタラクション）を行なっているかを理解し，どこに課題があるかを分析し，改善をおこなうことができるようにすることを目標とする。また，このこと通じて，現代のデザイナーの役割の役割を理解できるようにする。

〔授業の概要〕
携帯電話・端末などを対象に，実際のインタラクションの分析を行い，やり取りに存在するユーザーの行動の共通性や原理の見つけ方，システムの問題点の分析方法，デザインの改善方法についての技術を習得する。

〔授業計画〕
第１回　新しいデザインの課題を知る
第２回　ユーザーの行動を知るための方法
第３回　ユーザーの行動の分析方法（１）記録
第４回　ユーザーの行動の分析方法（２）分析
第５回　インタラクションデザインの実際：ソフト＆ハード分野
第６回　ユーザーの行動の分析結果報告
第７回　行動に基づくリデザインの方法（１）空間要素
第８回　行動に基づくリデザインの方法（２）時間要素
第９回　検証方法の説明（１）空間のデザイン
第10回　検証方法の説明（２）手順のデザイン
第11回　インタラクションデザインの実際：ソフト分野
第12回　検証結果の報告（１），（参）シナリオ法・ペルソナの設定
第13回　検証結果の報告（２），（参）目標主導型のデザイン
第14回　検証結果の報告（３），（参）デザイナーの役割
第15回　総括，リフレクション

〔教科書・参考書等〕
自作資料
参考文献：「コンピュータは，むずかしすぎて使えない」アラン・クーパー著　翔泳社

〔準備学習等〕
各回の講義内容に沿って，出題されたレポートを期限までに提出すること。

〔成績評評価方法・基準〕
毎回提出を課すレポートの内容と，ステップごとの提出物およびプレゼンテーションの内容で評価する。

33 情報デザイン論Ⅱ　Theory of Information Design Ⅱ

選択　２単位　前期

３年全組　非常勤講師　菊地　　聡
非常勤講師　那須　尚平

〔授業の達成目標〕
人間が感じる「動き」や「音」の特性を理解し，そのデザインの方法を修得する。

〔授業の概要〕
「**動きのデザイン**」では，身の回りにある映画，テレビ，ネット等映像コンテンツをサンプルに，１）時間軸を使って，「わかりやすく」伝える技術と分析を体験する。２）文章と映像のリンク等，映像表現の基本を身につける。３）画像に音をつける映像演出の体験を，情報デザイン力に結びつける。
「**音のデザイン（Sound Design）**」では，「音」の本質を知ることにより，生活に役立つ音（機能音）や表現手段（効果音）としてコントロールすることが出来るようになる。また，ロック，ポップス，クラシック等の音楽に関して理解を深めることにより，クリエーターとしての教養を身に付ける。
コラボレーションライブ演習では，グループで「動き」，「音」のデザインを総合的に演出，短編映像にライブで音をアフレコし，制作体験をしてもらう。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション～「動きのデザイン１」「映像づくりの歴史と科学」（菊地・那須）
第２回：「動きのデザイン２」～「体験マジックロール」～映像の組立てとアニメのウォーミングアップ（菊地）
第３回：「動きのデザイン３」～「台本のつくりかた」映像の文法～“文章と映像”のリンク関係を探る（菊地）
第４回：「動きのデザイン４」～映像制作体験１～青空文庫から短編マジックロールアニメをつくる「台本・絵コンテ」作成（菊地）
第５回：「音のデザイン１」～映像と音楽（那須）
第６回：「動きのデザイン５」～映像制作体験２～「アニメ素材完成，撮影，編集指示書」作成（菊地）
第７回：「音のデザイン２」～音を分析，コントロールする
第８回：「動きのデザイン６」～試写１（台本読み合わせ）」（菊地）
第９回：「音のデザイン３」～音の歴史と音楽の歴史（前半）（那須）
第10回：「音のデザイン４」～音の歴史と音楽の歴史（後半）（那須）
第11回：「音のデザイン５」～芸術と大衆音楽について（那須）
第12回：「音のデザイン６」～映像の中での音楽的効果（那須）
第13回：コラボレーションライブ演習１〈試写２～ライブで音付け（前半）〉（菊地・那須）
第14回：コラボレーションライブ演習２〈試写２～ライブで音付け（後半）〉（菊地・那須）
第15回：完成試写（那須・菊地）
※進度，状況に応じて，順番を調整する場合あり。

〔教科書・参考書等〕
自作資料，DVD等資料映像

〔準備学習等〕
各回の講義内容に沿って，自己の専攻分野に関係づけてまとめをすること。映像制作体験，コラボ演習はグループで作業し，制作を行うこととする。

〔成績評評価方法・基準〕
レポートと制作体験，コラボ演習課題の制作態度，過程，提出内容によって評価する。

34 ユーザーリサーチ論　Theory of User Research

選択　２単位　前期

３年全組　非常勤講師　山崎真湖人

〔授業の達成目標〕
エクスペリエンスデザインにおけるユーザーリサーチの位置づけと背景となる理論，各種手法を理解し，自ら計画・実践できるようになること。また，ユーザーリサーチの結果を活かしてデザインの発想ができるようになること。

〔授業の概要〕
エクスペリエンスデザインの対象はユーザーの認知・行為・感情であり，その答はユーザーの現実にしかない。本講座では，ユーザーの現実に学び，デザインの精度を高めるための技術を学ぶ。ユーザーとの関係の築き方，インタビューの仕方や質問紙の作り方，活動の記述と整理の方法，さらに，得られたデータからユーザーの体験の内容を理解・分析し，そこからアイディアを導くための発想法などを，具体的な演習を体験しながら学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：ユーザーリサーチの考え方
第２回：デザインプロセスとユーザーリサーチ
第３回：人と経験を捉える視点：認知科学とデザイン
第４回：ユーザーリサーチの各種手法
第５回：インタビュー調査の概要
第６回：語りを引き出す／読み取る／構成する
第７回：インタビュー調査の分析１：理解のかたち
第８回：インタビュー調査の分析２：個から普遍を知る
第９回：アンケート調査の概要
第10回：調査票の設計
第11回：アンケート調査データの分析
第12回：グループによる共有と発想
第13回：ユーザーリサーチから提案の構築へ
第14回：自分の視点を鍛える／知識を生み出す
第15回：企業における知識創造とリサーチ

〔教科書・参考書等〕
特定の教科書は使用せず，適宜，自作資料を配布します。
参考書：「発想する会社！　世界最高のデザイン・ファームIDEOに学ぶイノベーションの技法」トム・ケリー＆ジョナサン・リットマン，2002年，早川書房

〔準備学習等〕
予習としては，ユーザーリサーチやユーザーエクスペリエンスに関する参考書を紹介するので読んでおくこと。復習として，講義で示す調査計画の検討や分析を行うこと。

〔成績評評価方法・基準〕
授業内容の理解を確認するレポート課題の品質，及び，授業中のワークショップにおける取り組みをふまえ，総合的に評価する。

35 工芸学　History and Theory of Industrial Arts

選択　２単位　前期

３年全組　非常勤講師　庄子　晃子

〔授業の達成目標〕
郷土の暮らしの工夫と生活技術から生まれた工芸の歴史と現状を把握するとともに，世界の工芸も合わせて観察し，なお工芸学の基礎体系を理解する。

〔授業の概要〕
自然や風土や生活の仕方の異なる世界の国々の変化に富んだ生活工芸に触れつつ，北から南に連なる日本列島各地の豊かな生活工芸の実例に親しみながら，地元の身の周りの自然材を活かしつつ生活の工夫を凝らした知恵や発想や技術の豊かさやについて解説する。

〔授業計画〕
第１回：工芸学入門
第２回：工芸論（１）美術工芸，伝統工芸，近代工芸，クラフトなど
第３回：工芸論（２）生活工芸，産業工芸，民芸など
第４回：工芸の歴史概説（１）国内
第５回：工芸の歴史概説（２）国外
第６回：焼物など
第７回：塗物など
第８回：打物，鋳物など
第９回：金彫，象嵌など
第10回：ガラス細工など
第11回：編組物など
第12回：指物，挽物など
第13回：紙漉，紙細工など
第14回：染織など
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：自作資料

〔準備学習等〕
１，経験値を増やすことに努めること（普段から身の回りの工芸品を愛用し，各種工芸品や作り手や材料を観察するとともに，自らも制作を体験することが望ましい）
２，講義の順に従ってテキストの予習復習に努め，自らの経験値と比較する

〔成績評評価方法・基準〕
レポートと授業中の小テストと試験によって評価する

36 デザイン史　History of Design

選択　２単位　後期

３年全組　非常勤講師　庄子　晃子

〔授業の達成目標〕
近代デザインの国際性と地域性を理解するとともに，あわせて美術・工芸の国際性と固有性および伝統性を理解する。

〔授業の概要〕
近代デザインの動向とその基礎として存在した美術・工芸について概説する。

〔授業計画〕
第１回：近代デザイン史１）　仙台
第２回：近代デザイン史２）　宮城
第３回：近代デザイン史３）　東北
第４回：近代デザイン史４）　日本
第５回：近代デザイン史５）　アジア
第６回：近代デザイン史６）　ヨーロッパ
第７回：近代デザイン史７）　アメリカ
第８回：美術・工芸の歴史１）　仙台
第９回：美術・工芸の歴史２）　宮城
第10回：美術・工芸の歴史３）　東北
第11回：美術・工芸の歴史４）　日本
第12回：美術・工芸の歴史５）　アジア
第13回：美術・工芸の歴史６）　ヨーロッパ
第14回：美術・工芸の歴史７）　アメリカ
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　自作資料
参考書　「現代デザイン事典」平凡社
「カラー版世界デザイン史」美術出版社
「カラー版日本デザイン史」美術出版社
「カラー版日本美術史」美術出版社
「カラー版西洋美術史」美術出版社
「仙台市特別編３　美術工芸」

〔準備学習等〕
普段からデザイン・美術・工芸に関する経験を増やすと共に，テキストとノートによる予習・復習に努めること。

〔成績評評価方法・基準〕
授業中の小テストとレポートと試験で，総合評価する。

37 データ分析　Data Analysis for Design Planning

選択　２単位　後期

３年全組　教　授　梨原　　宏
教　授　両角　清隆
准教授　中居　尚彦

〔授業の達成目標〕
デザイン計画を進める上での，調査データ，アンケートなどの各種データの入手・分析･評価手法を学び，デザイン計画を進める上での科学的な思考能力，デザイン計画を進めるための実践力を身につけさせる。

〔授業の概要〕
デザイン計画を進める上での，調査データ，アンケートなどの各種データの入手・分析･評価手法を，議論と演習を混ぜながら学び，デザイン計画を進める上での科学的な思考能力を身につける。具体的な内容としては，質的及び量的データの求め方，質的及び量的データの集計方法，アンケート用紙の作成方法，質的データの集計，質的データの統計処理をとらえる。以上を通して，データの入手方法と統計的分析手法をよく理解させ，デザイン計画に生かすことのできる力を養う。

〔授業計画〕
第１回：デザイン計画におけるデータ分析とは何か（梨原）
第２回：市場調査によるデータ分析方法（梨原）
第３回：デザインコンセプト立案のための手法（梨原）
第４回：チェックリストによる評価（梨原）
第５回：イメージマップによる分析（梨原）
第６回：イメージ評価の全体像（両角）
第７回：イメージ評価のサンプルと評価者（両角）
第８回：イメージ評価の測度（形容詞）の選択方法（両角）
第９回：イメージ評価の実施（両角）
第10回：イメージ評価データの解読方法（両角）
第11回：Excelによる統計処理の基礎（中居）
第12回：Excelによる大量のデータ処理（中居）
第13回：Excelによる相関関係分析（中居）
第14回：ExcelデータのIllustratorによる表現（中居）
第15回：分析データの可視化と評価（中居）

〔教科書・参考書等〕
参考書「文系にもよくわかる多変量解析」内田治，菅民朗，高橋信著　東京図書

〔準備学習等〕
高校数学の統計を復習しておくこと。予習として，次回講義内容について予調べておくこと。復習として学んだ内容を読み返し，再度分析を行ってみること。

〔成績評評価方法・基準〕
小テスト及び課題50％，まとめの試験50％，および学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

38 デザインマーケティング論　Theory of Design Marketing

選択　２単位　後期

３年全組　非常勤講師　佐藤　耕平

〔授業の達成目標〕
現代の会社経営に不可欠なマーケティングという概念を，デザイナーの視点から理解し，使いこなせるようになることを目標とする。一般的なマーケティング論ではなく，デザインの現場で役立つ「デザインマーケティング」をテーマとする。

〔授業の概要〕
デザイン計画におけるマーケッティング手法を，企業活動事例をもとに学び，市場の要求に応えるための知識を身につけさせる。具体的には，メーカーベンダーとして日常生活用品を提供する企業のマーケッティング活動を，商品開発コンセプト，商品開発事例を交えて紹介し，デザイン開発に携わる人々の役割を認識させる。そして工場見学を通して，実際の商品の生産・供給の様子を実体験させ，企業の目指す「ホームソリューション・マネージメント」について理解させる。

〔授業計画〕
第１回：デザインマーケティングとは？
第２回：ユーザーイン発想とＳＥＧコンセプト
第３回：商品開発サイクル
第４回：商品のライフサイクル
第５回：感性マーケティング
第６回：具体的開発事例
ガーデン用品　その１　プラスチック製品
第７回：具体的開発事例
ガーデン用品　その２　その他素材の製品
第８回：　〃　日用品
第９回：　〃　文具
第10回：　〃　ペット用品　その１　犬，猫用製品
第11回：　〃　ペット用品　その２　その他のペット用製品
第12回：　〃　レジャー用品
第13回：　〃　収納用品
第14回：工場見学
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
なし

〔準備学習等〕
予習として，講義対象の製品がどのように市場に出されているかを事前調査すること，復習として，講義内容を市場に出て再確認し，分析を加えること。

〔成績評評価方法・基準〕
課題として出す宿題レポート，定期試験を用いて評価する。

39 知的財産権

Intellectual Property Right

選択　２単位　前期

４年全組　非常勤講師　蘆立　順美
非常勤講師　松本　　有

〔授業の達成目標〕
①デザイン開発の現場における知的財産権の重要性を理解する。②著作権法において，いかなる要件を満たす場合に創作物が保護され，いかなる利用行為が権利の侵害を構成するのか，について理解する。③意匠法において，いかなる要件を満たす場合に創作物が保護され，いかなる利用行為が権利の侵害を構成するのか，について理解する。④創作物の法的な保護制度として，著作権法，意匠法という異なる法制度が採用されていることの理由，および両制度の違いを理解する。⑤その他，創作行為の際に留意しておくべき権利等について理解する。

〔授業の概要〕
本講義では，創作行為において留意すべき法的な権利関係について理解することを目的として，デザインの開発現場と知的財産権との関わり，および，知的財産法に属する分野のうち，特にデザインとの関係が深い法領域（著作権法および意匠法）について，その基本的な内容について概説する。

〔授業計画〕
第１回：デザイン開発における知的財産権の考え
第２回：デザイン業務の中で知的財産権の活用と運用
第３回：デザインビジネスと知的財産権のあり方
第４回：知的財産法とデザイン／知的財産法の全体像
第５回：著作権法で保護される創作物
第６回：著作権の侵害となる行為
第７回：著作権の制限
第８回：著作者人格権の侵害となる行為
第９回：権利の帰属（権利を有する者）
第10回：意匠法で保護される創作物
第11回：意匠権を取得するための要件と手続き
第12回：意匠権の侵害となる行為
第13回：その他の知的財産法（特許法，商標法，不正競争防止法）
第14回：まとめと試験
第15回：試験の解説

〔教科書・参考書等〕
教科書　「はじめての著作権講座」著作権情報センター

〔準備学習等〕
授業開始前の準備として，身の回りの創作物の中で，法的な保護の必要があると思うもの，法的な保護は必要ないと思うものをピックアップし，それぞれの理由について考えておくこと。
授業後は，授業で配布したレジュメと説明の内容を中心に，教科書の該当部分を参考としつつ，復習をしておくこと。また，授業中に実施する小テストについても，再度確認をして理解を深めておくこと。

〔成績評評価方法・基準〕
授業中に実施する小テスト（40%），筆記試験の成績（60%）を総合して評価する。

40 クリエイティブデザイン特別講義

Special Lecture in Design

選択　２単位　前期・集中

４年全組　非常勤講師　鹿野　　護
非常勤講師　木村浩一郎
非常勤講師　渡辺　弘明

〔授業の達成目標〕
現代における“デザイン”の急速な拡大を理解し，自らがデザインのパラダイムを拡大する態度を身につけられるようになること

〔授業の概要〕
デザインの対象分野は，きわめて多岐で多様である。様々な分野で活躍している専門家を通じて，デザイン活動の現状を学ぶことによって，今後自分がデザインとどのようにかかわっていくかについて考えられるようにする。
内容としては「デザインとコンピューター」「デザインとアート」「日米におけるデザイン活動」などである。

〔授業計画〕
第１回：コンピューターとデザイン（鹿野）
第２回：ダイナミックなビジュアルデザイン（鹿野）
第３回：エモーショナルデザイン（鹿野）
第４回：他分野とのコラボレーション（鹿野）
第５回：デザインで世界とつながる（鹿野）
第６回：アートとデザイン（自己）（木村）
第７回：アートとデザイン（社会）（木村）
第８回：世界の先端デザイン（日本・アジア）（木村）
第９回：世界の先端デザイン（欧米他）（木村）
第10回：世界の中で活躍するには（木村）
第11回：企業･事務所のデザイン活動の比較（企業内）（渡辺）
第12回：企業･事務所のデザイン活動の比較（事務所）（渡辺）
第13回：日米のデザイン活動の比較（日本）（渡辺）
第14回：日米のデザイン活動の比較（米国）（渡辺）
第15回：自分の活動をプレゼンテーションする（渡辺）

〔教科書・参考書等〕
自作資料

〔準備学習等〕
デザインの潮流・動向について予習すること。議論された内容を，自分の進む分野に関連付けてまとめ直すこと。

〔成績評評価方法・基準〕
それぞれの回のレポート内容によって評価する。

41 デザイン起業論

Entrepreneurship in Design Business

選択　２単位　前期

４年全組　非常勤講師　伊藤　雅行

〔授業の達成目標〕
①働き方の多様性にふれる
②デザインビジネスを概観する
③アイディア（発案）をキャッシュ（収益）に変換するプロセスを体験する
④簡単なビジネスプランを作ってみる

〔授業の概要〕
①社会が求める製品やサービスを提供するには，メーカーやメディア制作企業に就職し仕事をするだけではなく，デザイナー自身が考えたアイデアを直接ビジネスに繋げていくための組織を立ち上げることも有効である。そのためには，単にアイデアを考え形に落とすだけではなく，必要な資源を確保し，チームの協力を通じて現実化していく努力が必要である。デザイン分野で起業するために身につけたい考え方，マネジメントの方法を紹介する。
②本科目では講師による一方向の講義は最低限にし，ケース（事例）をもとにしたディスカッションや，グループワークを中心に進める。積極的に参加して，他者との学びあいに慣れ，自己表現を磨く場にしてほしい。

〔授業計画〕
［デザイン起業の基礎］
第１回：オリエンテーション，授業の進め方
第２回：ビジネスに必要なものは何ですか？（ケース：サーカス物語）
第３回：ビジネスの三要素－３つのＣ（ケース：旭山動物園））
第４回：プロフェッショナル（専門職）のキャリアー（ケース：工業デザイナーＫ氏とＩ氏）
第５回：統計でみるデザインハウス業界（ケース：佐藤可士和オフィス）
［プロジェクト１］デザイン家電企業調査
第６回：美しいカデン「amadana」が目指すデザイン・イノベーション（ケース：リアル・フリート）
第７回：世界のデザイン家電企業（ウェブ調査）
［プロジェクト２］ビジネスプランの作成（グループワーク）
第８回：ビジネスプランの意義と構成
第９回：ビジネスプランのつくりかた（１）発想の方法
第10回：ビジネスプランのつくりかた（２）事業機会
第11回：ビジネスプランのつくりかた（３）マーケティング
第12回：ビジネスプランのつくりかた（４）実行計画
第13回：ビジネスプランのつくりかた（５）収益・資金計画
第14回：プレゼンテーションのこつ
第15回：プレゼンテーション

〔教科書・参考書等〕
講義資料としてパワーポイントを毎回配布する。ビジネスプランはワークシートを使用する。
参考書：
①ティナ・シーリグ：「20歳のときに知っておきたかったこと」（スタンフォード大学集中講義）
②エイドリアン・ショーネシー：「魂を失わずにグラフィックデザイナーになる本」

〔準備学習等〕
ビジネスプラン（事業計画）のテーマ候補を考えておいてください。「身の回りの困りごと（の解決）」が発想のヒントになります。

〔成績評価方法・基準〕
発言（クラスへの貢献）を重視する。発言40%，グループワーク40%，レポート20%を目安に評価する。

42 クリエイティブデザイン特別課外活動　Off-class Practice Design

選択　１～４単位　１年前期～４年後期　全学年全組

本学科の専門に関連の深い資格の取得や検定等の合格，学科が指定する課外活動などに対して，本人の申請に基づいて学科で審査の上，専門選択科目の単位として合計４単位までを認める。
申請した課外活動の内容により１単位あるいは２単位を認定する。

◎資格の取得による単位認定

本学科の専門に関連の深い資格を取得した場合，あるいは検定に合格した場合は，「クリエイティブデザイン特別課外活動」か教養教育科目の「特別課外活動」のいずれかに申請できる。
どのような資格や検定が「クリエイティブデザイン特別課外活動」の対象になるかは学科が判断するが，99ページの説明を参照されたい。

◎学科が指定する課外活動は次のようなものである。

（１）学科内の研究室が単独または合同で実施する調査研究や各種ゼミへの参加
（２）企業実習への参加
（３）インターンシップへの参加
（４）各種デザインコンペへの応募
（５）自主的に行なう国内・国外のデザイン見聞旅行の計画・実施など

◎単位の申請および認定

単位認定を希望する者は，学科事務室に申し出て，「クリエイティブデザイン特別課外活動単位認定申請書」を受け取り，必要事項を記入して学科事務室へ提出する。
申請は毎年度の1月末日までとする。
単位認定および評価の方法は，100ページの方法に準じて行なうのでそれらを参照されたい。

43 他学科開講科目群　Interdisciplinary Topics

選択　８単位　１年後期～４年後期　全学年全組

各科目のシラバスを参照のこと。

44 他大学開講科目群　Subjects offered other universities

選択　４単位　１年後期～４年前期　全学年全組

詳細についてはシラバスの「他大学開講科目群」，学生生活の「学都仙台単位互換ネットワーク協定に基づく東北工業大学特別聴講学生取扱要項」を参照のこと。

安全安心生活デザイン学科

(Department of Life Design for
Safety and Amenity)

(専門教育科目)

S D

13 生活デザインセミナーⅢ　SD Career Design Seminar Ⅲ

必修　１単位　前期　　２年全組　全教員

〔授業の達成目標〕
適性検査による自己分析と，各種業界で活躍する諸先輩の講話を通して，自分の適性と進路を考える。これらを通して，「実践するための方法と内容の把握」や「自らの専門性の適性判断」などを，自ら実践出来る様になることを目指す。

〔授業の概要〕
適性検査は１年間の学生生活を踏まえた「自己プログレスレポート」とし，自己の成長度合いや今後の適正な進路を，ある程度確認できるものである。更に，進路を考えるために，３コースに関係する各種業界の実践者から，実践事例・取り組み方・心構え・関係ライセンス等についての講話を受ける。学生は，講話概要・印象度合い・将来の目標等のレポートを作成する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業の全体の流れの解説と授業に臨むための諸注意等を行う）
第２回：本学が行う適性検査「自己プログレスレポート」を受検する
第３回：業界研究として先輩の講話を聞きレポートをまとめる－（１：地域コースに関して）
第４回：業界研究として先輩の講話を聞きレポートをまとめる－（２：地域コースに関して）
第５回：業界研究として先輩の講話を聞きレポートをまとめる－（３：地域コースに関して）
第６回：業界研究として先輩の講話を聞きレポートをまとめる－（４：住まいコースに関して）
第７回：業界研究として先輩の講話を聞きレポートをまとめる－（５：住まいコースに関して）
第８回：業界研究として先輩の講話を聞きレポートをまとめる－（６：住まいコースに関して）
第９回：業界研究として先輩の講話を聞きレポートをまとめる－（７：住まいコースに関して）
第10回：業界研究として先輩の講話を聞きレポートをまとめる－（８：心身コースに関して）
第11回：業界研究として先輩の講話を聞きレポートをまとめる－（９：心身コースに関して）
第12回：業界研究として先輩の講話を聞きレポートをまとめる－（10：心身コースに関して）
第13回：適性検査「自己プログレスレポート」の結果解説を聞き，自己をよく理解する
第14回：自分の進路を具体的にイメージしてレポートを作成する－（１）
第15回：自分の進路を具体的にイメージしてレポートを作成する－（２）

〔教科書・参考書等〕
教科書　適性検査解説書　講師作成の概要書
参考書

〔準備学習等〕
新聞や社会書評やキャリアサポートの資料等にも眼を通し，自分に適する業種・職種とはどんなものなのかを日常不断考える。併せて，関連する資料をストックし，ファイル等に整理する。

〔成績評価方法・基準〕
講話ごとに提出するレポート及び自分の進路を具体的にイメージしたレポートの評価。

14 住まいの環境工学Ⅰ　Environmental Engineering for Dwelling, Part Ⅰ

必修　２単位　前期　　２年全組　教　授　石川　善美

〔授業の達成目標〕
省エネルギーと居住環境の質の向上を前提として，室内環境と外部環境の関係を理解できるようになること。熱負荷の推定や結露防止，室内空気汚染防止の意義を理解できるようになること。以上の結果と具体的な室内環境のデザインがどこで結びついているかについて説明できるようになること。

〔授業の概要〕
本講は，住まいと人間をとりまくさまざまな物理的環境を取り扱うもので，住まいの環境がどのようにしてつくられるか，どのようにして制御できるかについて学び，人間の生活空間を健康的で快適かつ作業能率の高い環境につくりあげるための基礎事項を習得することを目的とする。ここでは，主として，暖かくて涼しい住まい，湿気のない住まい，空気のきれいな住まい，に焦点を当てて学習し，安全で安心な住まいを成り立たせるための，暖冷房と換気の計画の重要性，省エネルギー計画の必要性などを考察する。

〔授業計画〕
第１回：序論，ガイダンス
第２回：自然環境の利用と制御（１）気候要素と生活
第３回：自然環境の利用と制御（２）太陽エネルギーと太陽位置
第４回：自然環境の利用と制御（３）日照と日影
第５回：自然環境の利用と制御（４）日照調整計画とブリーズソレイユ
第６回：暖かくて涼しい住まい（１）熱環境と生活
第７回：暖かくて涼しい住まい（２）伝熱の三つのプロセス
第８回：暖かくて涼しい住まい（３）熱伝達と熱貫流
第９回：暖かくて涼しい住まい（４）熱負荷
第10回：暖かくて涼しい住まい（５）暖冷房計画とパッシブデザイン
第11回：湿気のない住まい（１）相対湿度と絶対湿度
第12回：湿気のない住まい（２）結露防止
第13回：空気のきれいな住まい（１）室内空気汚染とシックハウス
第14回：空気のきれいな住まい（２）換気計画の重要性
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
参考書　石川善美，垂水弘夫ほか：熱と空気のデザイン，井上書院，2,500 円
日本建築学会編：雪と寒さと生活Ⅰ，発想編，彰国社，3,000 円

〔準備学習等〕
日常的に，自らの生活と住まいの環境（熱環境や空気環境）との関係およびその問題点などに注意をはらっておくこと。予習として，あらかじめ配布してある次回講義分の目次および講義ノートをよくみておくこと。復習として，前回講義分のノートや配布資料などを自分なりに整理しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
宿題レポート提出 20%，試験 80%の配分で総合的に評価する。

15 健康生理学概論　Introduction to Health Physiology

必修　２単位　前期　　２年全組　准教授　諏訪　雅貴

〔授業の達成目標〕
身体の健康管理や運動介入の技法を学び実際に行う際に必要となる知識を学ぶ。健康や体力および運動と関連する身体の構造と制御の仕組みを知り，身体の可塑性，特に運動による適応を理解する。

〔授業の概要〕
形態・身体組成および呼吸循環系，神経筋骨格系，エネルギー代謝と栄養・内分泌，自律神経といった全身から細胞内レベルに至るまでの身体の諸生理機能とこれらの健康や体力との関連性について概説する。さらにこれらに対するトレーニング効果や身体活動量の増減などの生活習慣，外部環境の変化などの影響について学ぶ。

〔授業計画〕
第１回　生理学におけるストレスについて
第２回　体力とトレーニングの原則
第３回　肥満と痩せの判定法と意義
第４回　肥満と痩せのメカニズム
第５回　呼吸と循環
第６回　エネルギー供給系の分類
第７回　エネルギー供給系と疲労
第８回　まとめと試験
第９回　運動とエネルギー代謝
第10回　栄養素と水分摂取
第11回　筋収縮の制御と筋力
第12回　運動と筋の可塑性
第13回　筋の組織化学的特性
第14回　筋損傷と筋肉痛
第15回　まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
適宜資料を配布する。

〔準備学習等〕
高校基礎レベルの生物と化学の知識が必要となるので，復習しておくこと。「試験の要点」のプリントを配布するので，それを基にして他の配布資料とともに予習と復習を進めておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
２回のまとめの試験（各50%）により評価するが，学習に取り組む姿勢や参加態度も加味する。

16 生活デザイン演習Ⅰ　Exercises in Life Design Ⅰ

必修　４単位　前期　　２年全組　全教員

〔授業の達成目標〕
専門性のある地域･住まい･心身の３つのコースの各テーマに取り組み，それぞれのコースの特質を理解することと共に，自己の進路（コース選択）を選択できる基盤を身につけることを目指す。

〔授業の概要〕
３コースのそれぞれの基礎的なテーマ全てに取り組み，自分の進むコースを選択する基盤を身につける。地域のコースと住まいのコースは，住まいや地域空間に関する基礎の講義を受け，更に，それらの観察・実測の作図化により，それぞれの表現手法のいくつかを習得する。心身のコースは，健康・安全な生活をめぐる今日的課題について，心理・生理・スポーツに着目した講義と，それぞれに関する測定・実験や調査等を通して学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：地域空間の基礎
第３回：地域空間の事例研究
第４回：地域空間（キャンパス空間）の実測
第５回：地域空間（キャンパス空間）の作図
第６回：住まいの空間の基礎
第７回：住まいの空間の事例研究
第８回：室内空間の実測と作図
第９回：室内空間の模型製作
第10回：心理・生理・スポーツの基礎
第11回：心理・生理・スポーツの測定
第12回：心理・生理・スポーツの実験
第13回：スポーツ関連調査
第14回：発表と講評
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
教科書　自主資料
参考書　なし

〔準備学習等〕
各コースで配布される資料や参考書等を読み込み，ファイルに整理する。演習で製作したものは，常にポートフォリオとして活用できるように，加筆修正を加え，質を高めるようにする。

〔成績評価方法・基準〕
３コースの提出物（作品・レポート）とその発表の内容をもとに評価を行う。

17 生活デザインセミナーⅣ　SD Career Design Seminar Ⅳ

必修　１単位　後期　　２年全組　全教員

〔授業の達成目標〕
自分に相応しい業種・職種の方向性を決められる。その上でのキャリアビジョンシートが作成できるようにする。

〔授業の概要〕
デザインセミナーⅢに引き続き，セミナーⅣでは地域系･住まい系･心身系の３コースに関わって活躍する実践者(旧デザイン工学科や建築学科の卒業生含む）からの講話を通して，学生自身の進路の方向性を位置づけることを目指す。具体的には，キャリアビジョンシートを作成し，少人数セミナー担当教員からの指導・助言を受ける。また，適性検査としてSPI検査を実施し，その結果からキャリアビジョンシートに反映できるようにする。これらを通して，社会が求める人物像や将来の姿を思考する力を身につけることを目指す。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業の全体の流れを解説）
第２回：SPI適性検査を受検する
第３回：「地域コース」「住まいコース」「心身コース」の実践者の講話を聞きレポートにまとめる。－１
第４回：「地域コース」「住まいコース」「心身コース」の実践者の講話を聞きレポートにまとめる。－２
第５回：「地域コース」「住まいコース」「心身コース」の実践者の講話を聞きレポートにまとめる。－３
第６回：「地域コース」「住まいコース」「心身コース」の実践者の講和を聞きレポートにまとめる。－４
第７回：「地域コース」「住まいコース」「心身コース」の実践者の講話を聞きレポートにまとめる。－５
第８回：「地域コース」「住まいコース」「心身コース」の実践者の講話を聞きレポートにまとめる。－６
第９回：「地域コース」「住まいコース」「心身コース」の実践者の講話を聞きレポートにまとめる。－７
第10回：「地域コース」「住まいコース」「心身コース」の実践者の講話を聞きレポートにまとめる。－８
第11回：「地域コース」「住まいコース」「心身コース」の実践者の講話を聞きレポートにまとめる。－９
第12回：SPI適性検査結果の解説を受ける
第13回：キャリアビジョンシートを作成する－１
第14回：キャリアビジョンシートを作成する－２
第15回：少人数学生を担当する教員のゼミごとにキャリアビジョンシートの内容を発表する

〔教科書・参考書等〕
教科書　ＳＰＩ適性検査解説書　講話者の概要書
参考書

〔準備学習等〕
新聞や社会書評やキャリアサポートの資料等にも眼を通し，自分に適する業種・職種とはどんなものなのかを日常不断考える。併せて，関連する資料をストックし，ファイル等に整理する。

〔成績評価方法・基準〕
各講話のレポートとキャリアビジョンシートの評価

18 看護学入門　Introduction to Nursing Science

必修　２単位　後期　　２年全組　准教授　伊藤美由紀

〔授業の達成目標〕
健康な方，疾患や障害をかかえる方に対して，心と身体の健康を維持するため，健康を取り戻すための安全で安心な生活を提供できるように，看護や介護について理解を深め，考えることができる。

〔授業の概要〕
現代は，高齢者や病気を抱えた人の看護や介護に携わる人間や施設，システム，住環境などが著しく変化している。これからは，専門の医療･福祉施設に任せるだけではなく，職場や家庭でも，看護についての基礎的な知識を持った人が，それぞれの立場で適切に対応することが求められる。この講義では，それらの考え方と技術をわかりやすく話す。

〔授業計画〕
第１回：看護とは何か
第２回：食への援助
第３回：動作や移動への援助
第４回：健康と看護；病気や障害とは!?
第５回：看護過程と看護技術
第６回：成人の健康と看護（１）；がんとは!?
第７回：成人の健康と看護（２）；がん患者への支援
第８回：成人の健康と看護（３）；生活習慣病と看護
第９回：高齢者の健康と看護（１）；加齢に伴う変化とは!?
第10回：高齢者の健康と看護（２）；加齢に伴う変化と看護
第11回：高齢者の健康と看護（３）；高齢者体験実習ガイダンス
第12回：高齢者の健康と看護（４）；高齢者体験実習
第13回：こどもの健康と看護
第14回：医療事故；ヒューマンエラーとリスクマネジメント
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
自作資料
参考書はその都度紹介する

〔準備学習等〕
日常的に心と身体の健康，医療や保健，福祉に関する情報に関心を示し書籍などを読んでおくこと。講義の復習としては，配布資料を参照し講義内容を他者に説明できるようにすること。

〔成績評価方法・基準〕
授業中に行うレポートや試験を用いて評価する。

19 生活デザイン演習Ⅱ　Exercises in Life Design Ⅱ

必修　４単位　後期

２年全組　全教員

〔授業の達成目標〕
３コースに分かれ，それぞれのテーマに取り組み，その専門的な手法の基礎を習得することを目標とする。

〔授業の概要〕
３コースに分かれ，それぞれのテーマに取り組み，その専門的な手法の基礎を習得する。地域のコースと住まいのコースは，環境デザイン要素（光・音・熱・空気）の講義と実験，更に，住まいと地域空間の事例に関する講義と演習を行う。心身のコースは，健康・安全な生活をデザインするための要件を，心理と生理，それにスポーツ振興や高齢者等の実生活に着目した講義と，それぞれに関する測定・実験や調査等を通して考える。

〔授業計画〕
①地域のコース　②住まいのコース　③心身のコース
第１回：ガイダンス（コース毎に行います。）
第２回：①地域のデザイン１；設計図の基礎　②住まいのデザイン１；設計図の基礎　③心理と生理の測定１；音楽と精神ストレスの影響
第３回：①地域のデザイン２；設計図の理解　②住まいのデザイン；設計図の理解　③心理と生理の測定２；実験計画
第４回：①地域のデザイン３；設計図のコピー　②住まいのデザイン３；設計図のコピー　③心理と生理の実験１；心拍と快感情
第５回：①地域のデザイン４；課題説明と調査　②住まいのデザイン４；課題説明と調査　③心理と生理の実験２；発表
第６回：①地域のデザイン５；生活者の理解　②住まいのデザイン５；生活者の理解　③実験結果解析
第７回：①地域のデザイン６；光・音・熱・空気の理解　②住まいのデザイン６；光・音・熱・空気の理解　③プレゼンテーション
第８回：①地域のデザイン７；生活空間の問題解決　②住まいのデザイン７；生活空間の問題解決　③スポーツ振興に関する基礎理解
第９回：①地域のデザイン８；図面作成　②住まいのデザイン８；図面作成　③スポーツ振興に関する調査
第10回：①地域のデザイン９；模型制作　②住まいのデザイン９；模型制作　③対象理解のための調査基礎
第11回：①地域のデザイン10；発表　②住まいのデザイン10；発表　③対象理解のための調査発表
第12回：共通課題１；高齢者等の実生活の把握
第13回：共通課題２；高齢者等の実生活の問題解決法の検討
第14回：発表と講評（コース毎に行います。）
第15回：まとめ（コース毎に行います。）

〔教科書・参考書等〕
教科書　それぞれのコースにて自作資料を配付する。
参考書　なし

〔準備学習等〕
各コースで配布される資料や参考書等を読み込み，ファイルに整理する。演習で製作したものは，常にポートフォリオとして活用できるように，加筆修正を加え，質を高めるようにする。

〔成績評価方法・基準〕
提出物（作品・レポート）とその発表の内容をもとに評価を行う。

20 地域のデザイン実習Ⅰ　Regional Design Practice Ⅰ

必修　４単位　前期

３年全組　教　　授　菊地　良覺
准　教　授　大沼　正寛
准　教　授　福留　邦洋
非常勤講師　加藤喜久男

〔授業の達成目標〕
学生は「調査･評価分析･条件設定･提案（プレゼンテーション含む）」の能力を身につけることを目指す。

〔授業の概要〕
現代の地域社会においては，環境破壊・少子高齢化・防災・食料自給率等のさまざまな課題が浮上してきている。
本実習では，その諸課題を視野に入れつつ安心で健やかな地域づくりを目指したテーマ設定し，テーマに関する講義を行う。これを承けて，学生一人ひとりが「調査評価分析問題点と課題の抽出デザイン条件の設定提案展開」の進め方で想像力と創造力が発揮できる最終提案と発表を行う。
尚，具体的なテーマは「地域の有形無形の資源を活かす」，「地域の安全安心な防災のあり方」等を心身系や住まい系との関係をもちつつ設定する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（実習方法と内容の解説）グループ分けＡ）・Ｂ）・Ｃ）の実行計画を立てる
第２回：Ａ）建造物・敷地の現地診断と記録－１（調査のための企画書作成）
第３回：　建造物・敷地の現地診断と記録－２（現地調査）
第４回：　建造物・敷地の現地診断と記録－３（データ整理）
第５回：　建造物・敷地の現地診断と記録－４（まとめと提言）
第６回：　建造物・敷地の現地診断と記録－５（発表）
第７回：Ｂ）現像物群の実測－１（予備調査）
第８回：　現像物群の実測－２（実測）
第９回：　現像物群の実測－３（表現－製図その１）；平面
第10回：　現像物群の実測－４（表現－製図その２）；断面
第11回：　現像物群の実測－５（発表）
第12回：Ｃ）地域産業の現地視察と記録－１（予備調査）
第13回：　地域産業の現地視察と記録－２（現地調査）
第14回：　地域産業の現地視察と記録－３（まとめ）
第15回：　地域産業の現地視察と記録－４（発表）

〔教科書・参考書等〕
自作の資料
参考書はその都度紹介する

〔準備学習等〕
配布された課題要旨や関係資料の他，関係する参考となる資料を読み込み，ファイルに整理する。
制作作品等はポートフォリオとして活かせるようにし，常に質を高めた内容になるように目指す。

〔成績評価方法・基準〕
提出物（レポート）とその発表の内容をもとに評価を行う。

21 住まいのデザイン実習Ⅰ　Housing Design Practice Ⅰ

必修　４単位　前期

３年全組　教　授　石川　善美
准教授　小山　祐司
准教授　伊藤美由紀
准教授　小杉　　学

〔授業の達成目標〕
安全で安心な住まいのデザイン手法とプロセスを修得する。家族生活と空間の関係を把握することを基本に据え，地震や火事などの災害および家庭内事故から家族を守るための空間的な条件とともに，高齢者や障害者に対する配慮，快適な室内環境の確保などを織り交ぜた住宅の計画および設計ができるようになることを目指す。

〔授業の概要〕
安全で安心な住まいの計画と設計について，家族生活と空間の関係を把握することを基本に据え，地震や火事などの災害および家庭内事故から家族を守るための空間的な条件とともに，高齢者や障害者に対する配慮，快適な室内環境の確保などを織り交ぜた住宅の設計課題を行う。まず，課題に関する様々なデザイン条件に関わる講義を受け，設計に取り組む。これらを通して，安全で安心な住まいのデザイン手法とプロセスを修得する。課題に関する講義に始まり，事例研究や実地見学，イメージコラージュの作成，エスキースを経て，平面図などの各種図面および模型を作品として提出し，最後にプレゼンテーションを行って講評を受ける。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンスと課題１の説明
第２回：課題１　戸建て住宅のデザイン（木造２階建て）平面計画１
第３回：　戸建て住宅のデザイン　平面計画２
第４回：　戸建て住宅のデザイン　断面･立面計画1
第５回：　戸建て住宅のデザイン　断面･立面計画2
第６回：　戸建て住宅のデザイン　配置計画
第７回：　戸建て住宅のデザイン　室内計画（バリアフリー）１
第８回：　戸建て住宅のデザイン　室内計画（バリアフリー）２
第９回：　戸建て住宅のデザイン　外構計画（バリアフリー）
第10回：課題１　発表会と講評
第11回：課題２　ランドスケープデザイン（短期課題）配置計画１
第12回：　ランドスケープデザイン　配置計画２
第13回：　ランドスケープデザイン　アイソメ図作成
第14回：課題２　発表会と講評
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
教科書　コンパクト建築設計資料集成　日本建築学会編

〔準備学習等〕
配布された課題要旨や関係資料の他，関係する参考となる資料を読み込み，ファイルに整理すること。
制作作品等はポートフォリオとしてまとめ，常に内容・質を高めるようにすること。

〔成績評価方法・基準〕
提出物（作品・レポート）とその発表の内容をもとに評価を行う。

22 心身のデザイン実習Ⅰ　Practice for Developing Health Ⅰ

必修　４単位　前期

３年全組　教　授　太田　博雄
准教授　吉田　　毅
准教授　諏訪　雅貴

〔授業の達成目標〕
中高齢者を対象とした健康運動（健康づくりのための運動）と，その指導の基本的な方法を理解するとともに，健康に関するフィールドワークの方法，種々の心理・生理機能の測定技術を習得する。

〔授業の概要〕
心身を健康に保つことは，安心して日常生活を送るための基盤である。本授業では，主として中高齢者を対象とした種々の健康運動について，各々の理論背景の解説と実践を通して理解を図る。また，健康生活をめぐる実態を捉えるフィールドワークの基本的な方法を学ぶとともに，運動等による心身の変化を科学的に捉えるために心理学や生理学の種々の実験・測定を行う。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：健康運動実践１－形態－
第３回：健康運動実践２－筋力－
第４回：健康運動実践３－持久力－
第５回：健康運動実践４－データ分析－
第６回：健康運動実践５－データ評価－
第７回：健康運動実践６－発表－
第８回：フィールドワーク１－方法論－
第９回：フィールドワーク２－実践－
第10回：フィールドワーク３－データ整理－
第11回：フィールドワーク４－発表－
第12回：心理・生理実験１－実験計画－
第13回：心理・生理実験２－実験実施－
第14回：心理・生理実験３－データ整理－
第15回：心理・生理実験４－発表－

〔教科書・参考書等〕
自作の資料

〔準備学習等〕
現代社会における種々の健康問題と，それら各々の解決へ向けた運動・スポーツの効果について，文献や新聞，テレビ等を通して理解し，授業での質疑応答等に積極的に参加できるようにする。

〔成績評価方法・基準〕
提出物（レポート）とその発表内容をもとに評価を行う。

23 地域のデザイン実習Ⅱ　Regional Design Practice Ⅱ

必修　４単位　後期

３年全組　教　　授　菊地　良覺
准　教　授　大沼　正寛
准　教　授　福留　邦洋
非常勤講師　遠藤　一男

〔授業の達成目標〕
学生は，調査・評価分析・条件設定・提案の能力の他，他者とのコミュニケーション能力や段取りを行う能力を身につけことを目指す。

〔授業の概要〕
地域のデザイン実習Ⅰに引き続き，地域に関する諸課題を解決するテーマとするが，テーマ設定は，学生自らが主体的に設定する。実習Ⅱは，４年次になる前提として，多くの課題を解決するための与条件を設定し，デザイン展開を試みる。テーマ設定の前提条件としては，「現地に入り地域住民と協働で組み立てる」，「地域資源の評価基準の設定」，「資源を活かす体制作りと運営方法の吟味」，「地域の自律を促す」等の実践が挙げられる。先ず，これらの条件及び実践に関わる講義を受ける。そして，これらを承け，各自が独自のテーマの条件として位置づけを行い，課題に取り組む。
グループ別とし，３～４名を１グループとする。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（実習の方法と内容の解説グループ分け）
第２回：対象地域の資料蒐集１：無形資源の調査
第３回：対象地域の資料蒐集２：有形資源の調査
第４回：地域資料を空間・時間・人間軸で整理する１：空間軸マトリックス表の作成
第５回：地域資料を空間・時間・人間軸で整理する２：時間軸マトリックス表の作成
第６回：地域資料を空間・時間・人間軸で整理する３：人間軸マトリックス表の作成
第７回：現地踏査１；正の資源・負の資源を五感（視覚）をもって探り地図に落とす
第８回：現地踏査２；正の資源・負の資源を五感（聴覚・嗅覚）をもって探り地図に落とす
第９回：現地踏査３；正の資源・負の資源を五感（味覚・触覚）をもって探り地図に落とす
第10回：正の資源価値を増幅し，負の資源を減少ないし正に転換する方法を探る１：規模のスケールを横軸に，保全・保存・修復・除去・附加・を縦軸に空間軸で整理する
第11回：正の資源価値を増幅し，負の資源を減少ないし正に転換する方法を探る２：規模のスケールを横軸に，保全・保存・修復・除去・附加・を縦軸に時間と人間軸で整理する
第12回：調査から得た要素を具体的に計画・設計・表現の道具をととのえる１：五感（視覚）
第13回：調査から得た要素を具体的に計画・設計・表現の道具をととのえる２：五感（聴覚・嗅覚）
第14回：調査から得た要素を具体的に計画・設計・表現の道具をととのえる３：五感（味覚・触覚）
第15回：まとめ（発表）

〔教科書・参考書等〕
自作資料
参考書はその都度紹介する

〔準備学習等〕
配布された課題要旨や関係資料の他，関係する参考となる資料を読み込み，ファイルに整理する。
制作作品等はポートフォリオとして活かせるようにし，常に質を高めた内容になるように目指す。

〔成績評価方法・基準〕
提出物（作品・レポート）の内容をもとに評価を行う。

24 住まいのデザイン実習Ⅱ　Housing Design Practice Ⅱ

必修　４単位　後期

３年全組　教　授　石川　善美
准教授　小山　祐司
准教授　伊藤美由紀
准教授　小杉　　学

〔授業の達成目標〕
集合住宅の設計課題に取り組みながら，そのデザインの手法とプロセスを修得する。個から群へと規模が大きくなることにより空間のスケール感覚を養うとともに，集合住宅におけるコミュニティ空間の必要性や効率的な空間の納まりの重要性などについて理解し，計画・設計への応用力を身につけることを目指す。

〔授業の概要〕
住まいのデザイン実習Ⅰに引き続き，安全で安心な住まいの計画と設計について，集合住宅の設計課題に取り組みながら，そのデザインの手法とプロセスを修得する。個から集へと規模が大きくなることにより空間のスケール感覚を養うとともに，集合住宅におけるコミュニティ空間の必要性や効率的な空間の納まりの重要性などについても講義を受け学習する。実習Ⅰと同様に，課題に関する講義に始まり，事例研究，イメージコラージュ，エスキースを経て，各種図面および模型を作品として提出し，最後にプレゼンテーションを行って講評を受ける。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンスと課題の説明
第２回：集合住宅のデザイン　事例調査と分析
第３回：集合住宅のデザイン　戸別の平面計画；ＲＣ造中層，フラット・メゾネット混交
第４回：集合住宅のデザイン　戸別の平面計画；光・音・熱・空気
第５回：集合住宅のデザイン　戸別の断面・立面計画
第６回：集合住宅のデザイン　全体の平面計画；ＲＣ造中層，フラット・メゾネット混交
第７回：集合住宅のデザイン　全体の平面計画；光・音・熱・空気
第８回：集合住宅のデザイン　全体の断面・立面計画
第９回：集合住宅のデザイン　全体の配置計画；光・音・熱・空気
第10回：集合住宅のデザイン　全体の配置計画；敷地内空間と建物の配置計画
第11回：集合住宅のデザイン　室内計画；バリアフリーと生活道具のデザイン
第12回：集合住宅のデザイン　室内計画；住み手のライフスタイルに応じたデザイン展開
第13回：集合住宅のデザイン　外構計画；共同の外部空間のバリアフリーのデザイン展開
第14回：発表と講評
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
教科書　コンパクト建築設計資料集成　日本建築学会編

〔準備学習等〕
配布された課題要旨や関係資料の他，関係する参考となる資料を読み込み，ファイルに整理すること。
制作作品等はポートフォリオとしてまとめ，常に内容・質を高めるようにすること。

〔成績評価方法・基準〕
提出物（作品・レポート）とその発表の内容をもとに評価を行う。

25 心身のデザイン実習Ⅱ　Practice for Developing Health Ⅱ

必修　４単位　後期

３年全組　教　授　太田　博雄
准教授　吉田　　毅
准教授　諏訪　雅貴

〔授業の達成目標〕
中高齢者を対象とした健康運動（健康づくりのための運動）の指導スキル，ならびに健康・安全な生活をデザインするための心理学，運動生理学，スポーツ社会学の研究方法を習得する。

〔授業の概要〕
心身を健康に保つことは，安心して日常生活を送るための基盤である。本授業では，前期の「心身のデザイン実習Ⅰ」で学んだことを基礎に，主として中高齢者を対象とした種々の健康運動の指導実践を通して指導スキルの習得を図る。また，健康・安全な生活デザインの観点から，心理学，運動生理学，スポーツ社会学の研究方法について実践（実験，調査）を通して学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：運動指導実践１－形態・体力測定－
第３回：運動指導実践２－ロー・ミドルパワー系の運動－
第４回：運動指導実践３－ハイパワー系の運動－
第５回：運動指導実践４－レクリエーション指導法－
第６回：運動指導実践５－報告・ディスカッション－
第７回：心理学実験・調査１－研究計画－
第８回：心理学実験・調査２－実験実施－
第９回：心理学実験・調査３－データ整理－
第10回：運動生理学測定１－研究計画－
第11回：運動生理学測定２－実験実施－
第12回：運動生理学測定３－データ整理－
第13回：社会調査１－対象・方法－
第14回：社会調査２－調査実施－
第15回：社会調査３－データ整理－

〔教科書・参考書等〕
自作の資料

〔準備学習等〕
前期の「心身のデザイン実習Ⅰ」で学んだことについて復習しておく。

〔成績評価方法・基準〕
提出物（レポート）とその発表内容をもとに評価を行う。

26 生活デザイン研修Ⅰ　Thesis and Work Research in Life Design Part Ⅰ

必修　３単位　前期

４年全組　全教員

〔授業の達成目標〕
特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて，「目的設定→方法の検討とその実行→結果と考察」という論理的な研究方法を修得し，活用できるようになること。

〔授業の概要〕
本科目は卒業研修であり，４年間の学習の総仕上げである。具体的には，各教員の研究室に所属して，教員指導のもと，個人もしくは共同で，特定のテーマに基づいた研究または制作を行う。ここでは，研究テーマに関するガイダンスに始まり，テーマに関連する資料の収集，基礎理論の学習を通して研究テーマを決定し，研究方法または制作手段の検討，実験，調査，制作の計画立案，それらの準備と予備実験や予備調査の実施，中間報告書の作成とその口頭発表までを行う。

〔授業計画〕
第１回：テーマに関するガイダンス
第２回：テーマの背景と目的について
第３回：同上
第４回：テーマに関する資料の収集および基礎理論の学習
第５回：同上
第６回：研究方法または制作手段の検討および実験，調査，制作等の計画立案
第７回：同上
第８回：基礎理論のまとめおよび制作のための諸準備
第９回：同上
第10回：予備実験，予備調査，制作など
第11回：同上
第12回：同上
第13回：中間報告書の作成.
第14回：中間発表の準備
第15回：中間発表（口頭発表）と講評

〔教科書・参考書等〕
各研究室の教員が，研究課題の進捗状況に応じて提示する。

〔準備学習等〕
研究テーマに沿った既往の文献の収集と分析，または類似作品の情報収集と分析を行う。

〔成績評価方法・基準〕
テーマの設定，方法や手段の妥当性。テーマの分野，性格，位置づけの認識度。進捗状況と後期への準備状況。以上を総合して評価する。

27 生活デザイン研修Ⅱ　Thesis and Work Research in Life Design Part Ⅱ

必修　３単位　後期

４年全組　全教員

〔授業の達成目標〕
特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて，「目的設定→方法の検討とその実行→結果と考察」という論理的な研究方法を修得し，活用できるようになること。

〔授業の概要〕
本科目は卒業研修であり，４年間の学習の総仕上げである。具体的には，各教員の研究室に所属して，教員指導のもと，個人もしくは共同で，特定のテーマに基づいた研究または制作を行う。ここでは，研修Ⅰで行った予備実験や予備調査または制作の中間報告結果に基づき，本実験や本調査または作品制作の計画立案からその実行までを行い，結果の分析を深めるとともに，追加実験，追加調査を経て，論文の構成や制作内容を検討し，卒業論文または卒業制作としてまとめる。さらに，内容梗概を作成して口頭発表やパネル展示発表などを行う。

〔授業計画〕
第１回：中間報告結果の吟味とテーマの内容および方法の再検討
第２回：本実験，本調査または作品制作の計画立案
第３回：同上
第４回：本実験，本調査または作品制作の実施
第５回：同上
第６回：同上
第７回：同上
第８回：分析と追加実験，追加調査または再制作の実施
第９回：同上
第10回：同上
第11回：論文構成または制作ノート構成の検討
第12回：論文の総括または制作の仕上げ
第13回：内容梗概の作成
第14回：研究発表または制作発表の準備
第15回：口頭発表と講評

〔教科書・参考書等〕
各研究室の教員が，研究課題の進捗状況に応じて提示する。

〔準備学習等〕
論文作成に当たっては，論文の構成，文章の書き方などを理解しておくこと。作品制作に当たっては，プレゼンテーションのための基本ツールについて学習しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
実験，調査の内容およびその分析または制作の学習度。内容構成の妥当性。目的とゴールの関連度。論文または作品の完成度。内容梗概の完成度。口頭発表の明快度と完成度。以上を総合して評価する。

28 防災コミュニケーション　Communication for Antidisaster

選択　２単位　前期

２年全組　准教授　福留　邦洋

〔授業の達成目標〕
防災時のコミュニケーションがどのようでなければならないかを学び，その知識を地域において活用できるように指導する。

〔授業の概要〕
都市防災論では都市の防災のあり方を学んだ。都市は人間が住むために構築されているものであるから，都市の防災を考える場合，そこには住んでいる人々の生活を無視しては論じられない。人間の生活は人々相互のコミュニケーションから成り立っていると言っても過言ではない。防災には非日常的なコミュニケーションが要求される。非日常的なコミュニケーションを日常生活の中でどのように構築すべきかを学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：防災コミュニケーションとは
第２回：災害と防災と復旧
第３回：防災のいろいろ
第４回：復旧のいろいろ
第５回：日常のコミュニケーションと非日常のコミュニケーション
第６回：コミュニケーションの日常から非日常への変換
第７回：世代とコミュニケーション
第８回：世代間のコミュニケーション
第９回：コミュニケーションの世代継続
第10回：コミュニケーション教育
第11回：学校教育
第12回：家庭教育
第13回：社会教育
第14回：コミュニケーションと行政
第15回：コミュニケーションと社会

〔教科書・参考書等〕
なし

〔準備学習等〕
防災およびコミュニケーションに関する本を事前に沢山読んでおくこと。

〔成績評価方法・基準〕
定期試験によって評価する。

29 地域の産業デザイン論Ⅱ　Advancement of Regional Industry Ⅱ

選択　２単位　前期

２年全組　准教授　大沼　正寛

〔授業の達成目標〕
近代産業デザイン史の文脈と空間的連続性を把握し，具体的に地域のもの・こと・環境をかたちづくる造形・造景の基本的な考え方・手法を修得すること。

〔授業の概要〕
東北歴史地理と産業史を主題とした１年次「地域の産業デザイン論Ⅰ」を基礎として，主に東北の造形・造景論に着目し，その具体的実践事例と産業・社会システムについて考察する。近世を中心とする地域・都市母体・地場産業の形成と，近代を中心とするグローバリゼーションによる変革・変質を経てもなお，地域には固有普遍の存在感があり，その資源評価と活用は共通のテーマとなっている。本講では，まず西欧／日本の産業デザイン史の概略をつかむ。そのうえで，東北の風土と，そこに培われたくらしのかたちを探求する。地域資源を活かした数々の実践事例に光をあて，その成果と課題について考えながら，東北地方の復旧・復興・進展についても議論したい。

〔授業計画〕
第１回：復習・近代地域生産史
：東北のいまをみつめ，背景を考える
第２回：産業デザイン史１
：西欧／産業革命と都市の近代化
第３回：産業デザイン史２
：西欧／アーツ・アンド・クラフツと近代デザイン
第４回：産業デザイン史３
：西欧／インダストリアル・デザインの萌芽
第５回：産業デザイン史４
：日本／城下町・港町から近代都市へ
第６回：産業デザイン史５
：日本／建築・まちなみの変容
第７回：産業デザイン史６　：日本／仙台地方の近代
第８回：ミニテスト＆レポート：産業デザイン史のまとめ
第９回：東北の風土とかたち１：地形と気候と災害
第10回：東北の風土とかたち２：農山漁村の多様性
第11回：東北の風土とかたち３：地方都市のあゆみ
第12回：東北の風土とかたち４：残されし風景資産
第13回：東北の風土とかたち５
：現代東北の造形・造景とその実践現場
第14回：東北の風土とかたち６
：東北の造形・造景と震災復興
第15回：ミニテスト＆レポート：
小括：東北の風土と造形・造景・復興論

〔教科書・参考書等〕
教科書　適宜資料を配布する
参考書　適宜紹介する

〔準備学習等〕
教科書に事前に眼を通す。また，配布資料・講義ノート（参考書も含め）と照らし合わせファイル整理を行う。

〔成績評価方法・基準〕
授業で行うミニ演習と試験による。

30 インテリアデザイン論Ⅱ　Theory of Interior Design Ⅱ

選択　２単位　前期

２年全組　教　　授　菊地　良覺
非常勤講師　加藤喜久男

〔授業の達成目標〕
学生は，講話で紹介した内容をもとに，可能な限り実物に触れた内部空間の観察のもと，評価・分析を行い，問題点と課題の抽出ができる能力を身につけることとする。

〔授業の概要〕
インテリアデザインⅠで修得した内容をもとに，ここでは具体的な内部空間を持つ「乗り物・住まい・公共施設・商業施設・戸外空間」等の事例を通して，「空間構成要素とその関連性」・「作り手（デザイナーやアーキテクチャー）の意図や手法を読み取る」等を講話する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業の進め方の解説）（菊地・加藤）
第２回：プライベートスペースのインテリア計画－１（収納方式）（加藤）
第３回：プライベートスペースのインテリア計画－２（サニタリー）（加藤）
第４回：プライベートスペースのインテリア計画－３（地下空間）（菊地）
第５回：プライベートスペースのインテリア計画－４（高齢者の空間）（菊地）
第６回：パブリックスペースのインテリア計画－１（オフィス）（加藤）
第７回：パブリックスペースのインテリア計画－２（宿泊施設）（加藤）
第８回：パブリックスペースのインテリア計画－３（大型店と小売店舗）（加藤）
第９回：パブリックスペースのインテリア計画－４（外部空間のカラーその１）（菊地）
第10回：パブリックスペースのインテリア計画－５（外部空間のカラーその２）（菊地）
第11回：パブリックスペースのインテリア計画－６（外部空間のカラーその３）（菊地）
第12回：パブリックスペースのインテリア計画－７（乗物内のインテリア）（菊地）
第13回：パブリックスペースのインテリア計画－８（サインデザイン）（菊地）
第14回：パブリックスペースのインテリア計画－９（樹木）（菊地）
第15回：まとめとしての試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　インテリアデザイン教科書」インテリアデザイン教科書研究会編著
参考書　「コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編
「建築製図」朝倉書店
他その都度紹介する

〔準備学習等〕
教科書に事前に眼を通す。また，配布資料・講義ノート（参考書も含め）と照らし合わせファイル整理を行う。

〔成績評価方法・基準〕
授業で行うミニ演習と試験による。

31 生活デザイン CAD Ⅱ　Exercises CAD for Housing Design Ⅱ

選択　２単位　前期

２年全組　准　教　授　小山　祐司
１組　非常勤講師　佐藤　　充
２組　非常勤講師　渡邉　武海

〔授業の達成目標〕
本演習では，設計者自らが考える建築を表現する手段として重要となっている３次元 CAD について，基本操作からプレゼンテーションまでを演習を通して習得することを目的とする。

〔授業の概要〕
生活の場面を提案・表現する手段として重要となっている３次元 CAD について，モデリング・レンダリングまでの基本を身につける。具体的には，生活デザイン CAD Ⅰで作成した住宅コピー課題を３次元化することを行う。更に，より効果的な提案・表現を行うための画像編集やプレゼンテーションなどのソフトウエアなどの操作方法までを演習を通して習得する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンスと各種設定（プリンタ・スキャナー・LANなど）
第２回：小規模な建築物の平面図の２次元CAD化
第３回：３次元CADの基本操作　種々の立体図形モデリング
第４回：３次元CADの基本操作　光源の設定
第５回：３次元CADの基本操作　材質の設定
第６回：小規模な建築物の３次元モデリング　基礎～土台まで
第７回：小規模な建築物の３次元モデリング　屋根の作成
第８回：小規模な建築物の３次元モデリング　軸組の作成
第９回：小規模な建築物の光源と材質の設定
第10回：家具什器の３次元CADによる制作
第11回：内観パースのモデリング
第12回：内観パースとそのレンダリング　材質の設定
第13回：外観パースとそのレンダリング　光源の設定
第14回：作品のプレゼンテーション資料作成
第15回：作品発表会と講評

〔教科書・参考書等〕
教科書　必要に応じて教員自作資料のプリントを配布する。
参考書　CAD ソフトについては，市販の解説書もあるので適宜参考にすること。

〔準備学習等〕
教員自作のテキストを配布します。この資料を手がかりに，CAD 操作を復習すること。

〔成績評価方法・基準〕
提出作品，及び演習に取り組む姿勢を含め総合的に評価する。

32 地域のくらしと生産　Regional Works to make a good Living

選択　２単位　後期

２年全組　非常勤講師　佐藤　　明
非常勤講師　遠藤　一男

〔授業の達成目標〕
有形無形の地域資源の把握（評価・分析）ができ，その資源の活用の方法を身につけられるようにする。

〔授業の概要〕
現代の地域社会では，地域内の協働による生産やくらしを行いつつ，より豊かなコミュニティ形成と，自律した地域形成が強く望まれている。本科目では，特に実践的な立場で地域やその企業等に参画する下記の講師が詳述し，これからの地域を如何に切り開いていくべきかを考察する力を持つ学生を育むことを狙いとしている。
主に「みやぎのものづくりとデザイン」に関して県内企業の事例を詳述する。具体的には,「ものづくりの現状」,「ものづくりとデザインの基本スタンス」,「県内製造業の現状と課題」,「主な公的支援施策」,「企業の共同化で進める事例」等。食産業からモノ産業までを幅広く紹介する。（佐藤明担当）
一方，主に東北地方や宮城県内を中心とした地域の食材の歴史や食品加工とそのブランド形成等について詳述する。（遠藤一男担当）

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業の進め方と講話概要等の解説）（佐藤・遠藤）
第２回：日本や宮城におけるものづくりやデザイン振興策（佐藤）
第３回：地域資源を活用したものづくりの現状・課題・展望（佐藤）
第４回：地域資源活用による産品開発の実践例１（もの系－津山・鳴沢）（佐藤）
第５回：地域資源活用による産品開発の実践例２（食産業系－酒造組合・製麺組合）（佐藤）
第６回：地域資源活用による産品開発の実践例３（食産業系－村田ソラマメ組合・三本木ひまわり組合）（佐藤）
第７回：地域資源活用による産品開発の実践例４（伝統的工芸品系－雄勝・鳴子）（佐藤）
第８回：食料自給率向上のなぜ？in Japan（宮城県の農林水産業と食料自給率の現状を事例に）（遠藤）
第９回：食の安全・安心 in 東北（我が国の食料基地・東北や北海道を事例に）（遠藤）
第10回：地産地消 in 宮城（宮城県内での地産地消の事例,地産地消で独立国となりえるか？のシミュレーション）（遠藤）
第11回：宮城の水産物を活かす（水産王国宮城の現状と課題について）（遠藤）
第12回：宮城の「米」今昔（沃土の民といわれた伊達藩の地域づくりと現代への提案）（遠藤）
第13回：伊達な食文化（仙台藩主の料理本から，現代における宮城の食生活提案）（遠藤）
第14回：仙台牛タンと地域作り（仙台，農と食の変遷と未来）（遠藤）
第15回：まとめと試験（佐藤・遠藤）

〔教科書・参考書等〕
教科書　自作の配布物
参考書　その都度紹介する

〔準備学習等〕
配布資料と講義ノートと照らし合わせ読み，ファイルに整理する。紹介された資料や参考書にできるだけ眼を通す。

〔成績評価方法・基準〕
毎回の授業のレポートと試験で評価する。

33 高齢者の生活と住まい　Life and Housing for the Aged

選択　２単位　後期

２年全組　准教授　小杉　　学

〔授業の達成目標〕
①現代の我が国において，高齢者の住環境や居住水準がどのようなものであるのかを理解する。
②今後さらに増加する高齢者世帯のために，住まいはどのようなことに配慮すべきか,居住環境の向上のためには，何が問題であるのかを理解をする。
③都市に集まって住む形態としての集合住宅について理解する。

〔授業の概要〕
この授業では，現代の日本の高齢者の生活と住環境を対象にして，
①現在それがどのような状況にあり，どんな問題を抱えているのか
②居住の場として他にどんな施設があるのか
③居住地域や住まいの形態によってどのように異なる問題があるのか
④集合住宅という形式での生活にどんな問題があるのか。
を講義する。

〔授業計画〕
第１回：講義の内容と進め方および高齢者の生活について
第２回：高齢者の住環境と，バリアフリーについて
第３回：高齢者の特別養護老人ホームでの生活について
第４回：高齢者の戸建て住宅での在宅生活について
第５回：高齢者の住まいづくりについて
第６回：都市に集まって住むことについて
第７回：生活の集合化と住まいの集合化について
第８回：住戸，住棟の計画
第９回：住まいの高層化，事例１．ユニテと晴海アパート
第10回：住まいの接地性，事例２．水戸六番池団地他
第11回：集合住宅で生活の個別化に対応，事例３．ＳＩ住宅，インテリア
第12回：住まいを協働でつくる，事例４．コーポラティブ住宅
第13回：市民参加の住宅地づくり，事例５．名古屋千草台団地
第14回：新しい集合住宅の課題と可能性
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
テキスト：講義の時間に毎回プリントを配布する
参考書：「事例で読む現代集合住宅のデザイン」彰国社 2004
「現代集合住宅のリ・デザイン」彰国社2010

〔準備学習等〕
日頃から新聞やテレビで取り上げる高齢者の住生活問題を関心をもって見ること。
次週の学習について配布するプリントに目を通してくること。

〔成績評価方法・基準〕
毎回の内容をどの程度理解したかを知る簡単な演習の評価点と，期末の講義全体の理解度を見る試験の２つによって評価する。

34 住まいの環境工学Ⅱ　Environmental Engineering for Dwelling, Part Ⅱ

選択　２単位　後期　　２年全組　教　授　石川　善美

〔授業の達成目標〕
音，光，色彩の物理量としての表し方とその意味を説明できるようになること。残響計算や照明計算などの意味を理解できるようになること。および，それらの結果と具体的な室内環境のデザインがどこで結びついているかについて理解できるようになること。

〔授業の概要〕
住まいの環境工学Ⅰに引き続き，ここでは，主として，音と光の環境の人間生活への関わり方を学習する。具体的には，静かな住まい，明るい住まい，に焦点をあて，安全で安心な生活を成り立たせるための，音響計画，採光計画，照明計画，色彩計画などについて考察する。

〔授業計画〕
第１回：序論
第２回：静かな住まい（１）音と聴覚
第３回：静かな住まい（２）音の三要素とその表し方
第４回：静かな住まい（３）室内音響
第５回：静かな住まい（４）騒音の評価
第６回：静かな住まい（５）音環境のデザイン
第７回：明るい住まい（１）光と視環境
第８回：明るい住まい（２）昼光光源と採光
第８回：明るい住まい（３）人工光源と照明
第９回：明るい住まい（４）グレアとその防止
第10回：明るい住まい（５）光環境のデザイン
第11回：住まいの色彩計画（１）色とその表示
第12回：住まいの色彩計画（２）色彩の心理
第13回：住まいの色彩計画（３）色彩の調和とデザイン
第14回：総括
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
参考書　田中俊六ほか：最新建築環境工学，井上書院，2,800円
前川純一：建築・環境音響学，共立出版，3,500 円
乾　正男：ロウソクと蛍光灯，照明の発達からさぐる快適性，祥伝社新書，740 円
乾　正男：建築の色彩設計，鹿島出版会，3,000 円

〔準備学習等〕
日常的に，自らの生活と住まいの環境（音環境や光環境）との関係およびその問題点などに注意をはらっておくこと。予習として，あらかじめ配布してある次回講義分の目次および講義ノートをよくみておくこと。復習として，前回講義分のノートや配布資料などを自分なりに整理しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
宿題レポート提出 20%，試験 80%の配分で総合的に評価する。

35 健康体医学論　Physical Health and Medicine

選択　２単位　後期　　２年全組　准教授　諏訪　雅貴

〔授業の達成目標〕
本講義は健康管理や運動介入を行う際に必要となる医学的な知識や理論の習得を目標とする。

〔授業の概要〕
現代社会で見られる健康問題の背景にある身体活動量などの生活習慣，体力の低下，加齢などにより顕在化する日常生活動作の障害や生活習慣病との関連性について，さらに，運動がこれらの健康問題の予防や改善に貢献することを生理学・生化学的背景や疫学的視点から概説する。また実際の運動処方の理論と方法および運動により生じる傷害などの注意点について学ぶ。

〔授業計画〕
第１回　現代社会の健康問題１（社会システム発展の弊害）
第２回　現代社会の健康問題２（身体的不活動の問題）
第３回　体力の加齢変化と疾病・障害
第４回　骨の加齢変化と転倒・骨折
第５回　脳・神経機能の加齢変化と認知症
第６回　老化と生活習慣
第７回　嗜好品の作用
第８回　まとめと試験
第９回　環境に対する身体の適応
第10回　特殊環境（高温・低温・水中・微小重力）の身体への影響
第11回　代謝性疾患（インスリン抵抗性症候群）の概要
第12回　代謝性疾患の病態と発症メカニズム
第13回　運動処方の方法論
第14回　運動は本当に身体に良いのか？
第15回　まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
適宜資料を配布する
参考書：「福祉住環境コーディネーター検定試験　２級公式テキスト」　東京商工会議所
「健康と運動の疫学入門」　熊谷秋三責任編集　医学出版

〔準備学習等〕
高校基礎レベルの生物と化学，および「健康生理学概論」の講義内容の知識が必要となるので，復習しておくこと。「試験の要点」のプリントを配布するので，それを基にして他の配布資料とともに予習と復習を進めておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
２回のまとめの試験（各50%）により評価するが，学習に取り組む姿勢や参加態度も加味する。

36 住まいの構造と材料　Structure and Material for Residence

選択　２単位　後期　　２年全組　非常勤講師　野津　　弘

〔授業の達成目標〕
建築空間を形造る構造の考え方とその構法について学び，建築デザインの基礎知識を習得する。

〔授業の概要〕
建築空間を形造る構造の考え方とその構法について述べ，デザインとの関連について学ぶ。特に木構造に力を入れ，簡単な設計の演習も行う。具体的には，「主体構法の概説，鉄骨造」，「鉄筋コンクリート造，組積造，プレキャスト造」，「鉄骨鉄筋コンクリート造」，「各部構法，地業・基礎」，「屋根の構法」，「壁の構法」，「開口部・建具」，「床の構法」，「階段」，「天井，造作と納まり」，「設計計画，設計プロセスと構法」，「木構造，在来工法とその他の構法」等を行う。学生は主要な建築構造の骨組と部位の種類と内容が理解できることとする。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス，建築空間を形造る構造の考え方概説（１）
第２回：建築空間を形造る構造の考え方概説（２）
第３回：主体構法－鉄筋コンクリート造
第４回：主体構法－鉄骨造
第５回：主体構法－鉄骨・鉄筋コンクリート造
第６回：主体構法－組積造，プレキャスト造他
第７回：各部構法－地業・基礎の構法
第８回：各部構法－屋根の構法
第９回：各部構法－壁の構法
第10回：各部構法－開口部・建具の構法
第11回：各部構法－床，天井の構法
第12回：各部構法－階段，内部仕上げの構法
第13回：木構造，在来工法と他の構法
第14回：木構造を中心にした設計計画，設計プロセスと構法
第15回：木造在来工法の設計演習

〔教科書・参考書等〕
テキスト　建築構法　内田祥哉編　市ヶ谷出版
建築製図　二瓶博厚　他著　朝倉書店

〔準備学習等〕
テキストの予習及び配布資料の作品事例について，講義内容を確認すること。

〔成績評価方法・基準〕
課題レポート 50%とエスキスデザイン 20%，および学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

37 地域環境の保全とエネルギー　Regional Environmental Conservation and Energy

選択　２単位　前期　　３年全組　教　授　渡邉　浩文

〔授業の達成目標〕
地域を取り巻く環境の理解のため，地球システム（気圏・水圏・地圏）と地域との関わりを理解し，環境保全および省資源・省エネルギーのために，私達自身が地域で考え対処しなければならないことを学ぶ。

〔授業の概要〕
近年の産業経済社会の変化，とくに情報技術の飛躍的な発展は，我々の生活様式を多様化させる一方で，都市といわず農村といわず，生活水準だけは横並びの高度化を求める傾向を作り出し，その結果，エネルギー消費を増大させ，全体として地域環境の保全とは逆行する環境上の悪循環を招いている。そこで，本講では，地域環境を良好に維持しながら環境負荷を低減できるような生活デザイン手法について，環境共生の考え方を織り交ぜながら解説する。

〔授業計画〕
第１回：地域と環境（オリエンテーション）
第２回：気圏の概要
第３回：大気汚染と地域
第４回：地球温暖化とエネルギー消費
第５回：水圏の概要
第６回：水汚染と地域
第７回：地圏の概要
第８回：土壌汚染・資源循環と地域
第９回：生態系保全と地域
第10回：地域景観の保全
第11回：都市のインフラ・ストラクチャー
第12回：気候風土と地域のデザイン
第13回：気候風土と住まいのデザイン
第14回：環境共生のための生活デザイン（生活様式）
第15回：総括

〔教科書・参考書等〕
教科書　なし

〔準備学習等〕
講義を受講するに当たり，今日の地球環境の問題について，日ごろ新聞やテレビ・ラジオで報道されていることがらについてまとめておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
レポート課題によって評価する。

38 都市と地域の計画　Planning of Urban and Rural Community

選択　２単位　後期　　３年全組　教　授　沼野　夏生

〔授業の達成目標〕
市民参加のまちづくり・地域づくりがこれからの時代に不可欠な要素であることを理解し，その担い手となるために必要な基礎知識を修得する。将来建築や都市デザイン，計画行政といった仕事に就きたいと考える人には，これらが地域や都市に関する政策・計画の基礎知識となる。

〔授業の概要〕
人々の生活様式やそれが抱える様々な問題は，住む地域の自然条件や，社会的な特質と大きく関わっている。これからは，生活する一人ひとりが自らの住まいとその地域が持つ問題を調べ，同じ地域に住む人々と力を合わせて，地域づくり，まちづくりに積極的に参加して，自らの生活環境を豊かなものにつくり上げていくことが期待される。この授業では，現在どのような形で都市と地域の計画が作られているのかを理解し，その技術を学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：まちづくりと都市計画
第２回：都市・地域の計画の歩み　その１・近代都市計画の黎明期
第３回：都市・地域の計画の歩み　その２・近代都市計画の成立と展開
第４回：都市・地域の計画の歩み　その３・20世紀の都市・地域計画
第５回：都市計画の制度と事業　その１・都市計画制度の概要
第６回：都市計画の制度と事業　その２・都市計画の手法と事例（１）
第７回：都市計画の制度と事業　その３・都市計画の手法と事例（２）
第８回：住民主体のまちづくりへの歩み
第９回：産業・仕事おこしのまちづくり
第10回：環境共生・循環のまちづくり
第11回：伝統文化に根ざしたまちづくり
第12回：歴史的街並みを活かしたまちづくり
第13回：自然と景観を楽しむまちづくり
第14回：交通とバリアフリーのまちづくり
第15回：課題の総括

〔教科書・参考書等〕
教科書　自作プリント
参考書　地域共生の都市計画，市民のためのまちづくり入門（いずれも学芸出版社），まちづくりの実践，まちづくりの発想（田村明著，岩波新書）

〔準備学習等〕
教員自作の資料を手がかりに，参考書として挙げてある書物などを読むこと。

〔成績評価方法・基準〕
学期末の試験などによって評価する。

39 在宅看護論　Introduction to Home Care Nursing

選択　２単位　前期　　３年全組　准教授　伊藤美由紀

〔授業の達成目標〕
在宅での高齢者や療養者の生活をデザインするために，その社会的背景を理解し，治療や療養をする方とともに家族全体を援助の対象とした支援方法を理解する。

〔授業の概要〕
多くの高齢者や療養者が，住み慣れた家庭や地域でできる限り過ごしたいと願っている。介護保健制度も在宅生活を重視した支援体制の確立を目指している。社会的背景を理解し，在宅での高齢者や療養者の生活を支えるためには，病気や障害を持った方のみに注目するのではなく，一単位としての家族全体を援助の対象としたケアが求められる。この講義では，それらの考え方と技術をわかりやすく話す。

〔授業計画〕
第１回：在宅看護とは何か!?
第２回：家庭や地域で療養するということ
第３回：地域で療養する人を支える保健・医療・福祉
第４回：高齢者や療養者を理解する（１）：施設見学実習ガイダンス
第５回：高齢者や療養者を理解する（２）：施設見学実習
第６回：精神疾患（うつ病）とその家族への支援
第７回：笑いの効用
第８回：基本的生活行動と看護（１）：体位交換と移動の援助
第９回：基本的生活行動と看護（２）：移動と寝衣交換の援助
第10回：基本的生活行動と看護（３）：清潔の援助
第11回：基本的生活行動と看護（４）：食事と排泄の援助
第12回：リハビリテーションと看護
第13回：認知症と看護
第14回：救急や災害時の看護
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
自作資料
参考書はその都度紹介する

〔準備学習等〕
「看護学入門」などの心と身体の健康や医療，看護に関することを復習しておくこと。また日常的に医療や保健，福祉に関する情報に関心を示し書籍などを読んでおくこと。講義の復習としては，配布資料を参照し，講義内容を他者に説明できるようにすること。

〔成績評価方法・基準〕
授業中に行うレポートや試験を用いて評価する。

40 住まいのための力学　Structural Design of House

選択　２単位　前期　　３年全組　非常勤講師　伏見　義則

〔授業の達成目標〕
①建築構造の主要な部材に生じる応力を十分理解する
②建築構造の主要な部材に加わる力の原則を知り，静定梁の反力と応力を求める応用問題が解ける

〔授業の概要〕
重力・風圧・地震等の外力が建築骨組みの各部に及ぼす作用を知るための力学について学ぶ。力の釣り合い，部材応力等の概念及び静定梁の解法を解説し，随時演習を行う。具体的には,「建築物に働く力」,「力と力のモーメント，力の合成･分解」,「示力図，連力図，偶力」,「力の釣合い，支点と支点反力」,「反力の計算」,「片持ち梁の応力」,「単純梁の反力」について解説する。

〔授業計画〕
第１回　ガイダンス　構造力学とは
第２回　建築物に作用する力
第３回　力の定義
第４回　モーメント，力の合成と分解
第５回　示力図と連力図，偶力
第６回　力の釣合い
第７回　支点と支点反力，反力の計算
第８回　総合演習
第９回　片持ち梁の応力
第10回　静定梁の応力１
第11回　静定梁の応力2
第12回　トラス骨組の応力
第13回　静定ラーメンの応力の求め方
第14回　総合演習
第15回　不静定骨組みについて

〔教科書・参考書等〕
教科書　建築構造力学　静定構造力学を学ぶ(学芸出版社)
坂田弘安，島崎和司

〔準備学習等〕
教科書に事前に眼を通す。また，配布資料・講義ノート（参考書も含め）と照らし合わせファイル整理を行う。

〔成績評価方法・基準〕
随時実施する演習，第８回，第14回の授業で実施する総合演習及び学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

41 環境心理学　Environment Psychology

選択　２単位　後期　　３年全組　非常勤講師　吉田　信彌

〔授業の達成目標〕
環境と人間のかかわりを心理学的に考察し，安全工学の基本的な考えとその限界を考察できるようになること。データの複眼的な見方，読み方，考え方を学ぶ。

〔授業の概要〕
環境がいかに人間の行動を支配するかという例とともに，人間の心のほうが環境より影響が大とする考えとの対照を紹介する。また環境改善が安全・安心に直結するとは限らない例などを紹介する。

〔授業計画〕
第１回：環境と行動（主観的・客観的，外部・内部など環境の分類など）
第２回：環境の認知
第３回：環境と安全　人間工学の発想
第４回：安全工学のフェイルセーフとフールプルーフ
第５回：エラーの心理学理論（１）認知科学の見解
第６回：エラーの心理学理論（２）レポート課題とレポートの書き方について
第７回：環境の設計と人間行動
第８回：中間レポートの講評
第９回：工学的な環境改善と事故統計
第10回：リスク補償説（１）歴史と概説
第11回：リスク補償説（２）リスクホメオスタシス説と論争
第12回：都市という環境（１）都会は人間を薄情にするか
第13回：都市という環境（２）都会の隣人愛
第14回：防犯の工学的設計
第15回：理解とまとめ

〔教科書・参考書等〕
吉田信彌『事故と心理　なぜ事故に好かれてしまうのか』中公新書，その他，配布資料など。

〔準備学習等〕
講義を受講するに当たり，今日の日本の環境問題についての犯罪，交通，エコロジーに関して日ごろ新聞やテレビ･ラジオで報道されていることがらについてまとめておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
レポートと試験の両方を課す。とくに論述の仕方と文章の表現について，可能が限り指導する。

42 障害者生活論　Life of Challenged

選択　２単位　前期　　３年全組　非常勤講師　末田　耕司
非常勤講師　岩佐　義明
非常勤講師　高橋　源一

〔授業の達成目標〕
障害者の生活の実状とそこにおける問題点，ならびに障害者福祉や障害者の QOL（生活・人生の質）の充実・向上のための基本的方策について理解する。

〔授業の概要〕
我が国では障害者が日常生活を送っていく上で未だに多くの問題が残存している。障害者の健康づくり，QOL の充実・向上を支援していくには，そうした問題はもとより障害者の視点や立場について理解を深めることが肝心である。本授業では，種々の障害者の生活の実状とそこにおける諸問題に着目し，各々の問題解決の基本的方策について考える。それにあたり，通常は見たり触れることのない種々の障害者スポーツを適宜交え，幅広い視野から障害者について理解することを図っていく。なお，障害者スポーツの部分は夏季休業中に集中で行う。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：主な障害とその特性
第３回：障害者の生活課題①－肢体不自由児について－
第４回：障害者の生活課題②－中高齢者について－
第５回：課題解決アプローチ①－ソーシャルワーク，自立支援，ICF－
第６回：課題解決アプローチ②－リハビリテーション工学，福祉用具－
第７回：課題解決アプローチ③－コミュニケーション支援，情報通信技術－
第８回：課題解決アプローチ④－人権保障，まちづくり，キャンパスライフ－
第９回：障害者スポーツの歴史と現状
第10回：身体障害者スポーツの体験①－基礎－
第11回：身体障害者スポーツの体験②－発展－
第12回：身体障害者スポーツの課題
第13回：視覚障害者スポーツの体験と課題
第14回：知的障害者スポーツの体験と課題
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
適宜，自作資料を配布する。

〔準備学習等〕
授業に入る前に，障害者の生活に関する文献等を１つは読んでおく。また，日頃から障害者の生活に関連する情報（メディア報道等）に留意する。

〔成績評価方法・基準〕
課題レポート（２回）40%，授業中に実施する小テスト（２回）20%，まとめの試験40%，および学習に取り組む姿勢を交えて総合的に評価する。

43 現代スポーツ文化論　Modern Sport and Culture

選択　２単位　前期

３年全組　准教授　吉田　　毅

〔授業の達成目標〕
現代社会における文化としてのスポーツの諸相と主な問題点について理解する。

〔授業の概要〕
スポーツは時代の移ろいとともに変容しつつ発展を遂げ，現代社会では多くの人々の健康的な生活に欠かせないものとなっている。本授業では，スポーツを文化として捉え，その諸相と主な問題点，さらにこれからの望ましきスポーツビジョンについて学ぶ。最後はグループに分かれ，現代スポーツの問題点とその解決の方途について考察し，プレゼンテーションを行う。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：スポーツの社会学的・文化論的捉え方
第３回：近代スポーツの誕生と変容
第４回：スポーツの現代化
第５回：スポーツのグローバリゼーション
第６回：地域スポーツをめぐる問題①－高度化路線－
第７回：地域スポーツをめぐる問題②－大衆化路線－
第８回：メディアとスポーツ
第９回：障がい者とスポーツ
第10回：ジェンダーとスポーツ
第11回：発育発達とスポーツ
第12回：グループワーク①－問題設定－
第13回：グループワーク②－問題解決の方途の検討－
第14回：グループワーク③－プレゼンテーション－
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
適宜，自作資料を配布する。
参考書：「現代スポーツのパースペクティブ」大修館書店，「現代スポーツの社会学」南窓社

〔準備学習等〕
日頃からスポーツに関連する情報(マスメディア報道等)に留意し，現代社会でスポーツがどのような役割を果たしているかを考える。

〔成績評価方法・基準〕
課題レポート（２回）20％，プレゼンテーション20％，まとめの試験60％，および学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

44 バリアフリーとユニバーサルデザイン　Barrier-Free and Universal Design

選択　２単位　後期

３年全組　非常勤講師　中島　　敏
非常勤講師　西條　芳郎

〔授業の達成目標〕
高齢化社会を迎えている現代社会では，高齢者と福祉，障がい者と福祉の概念のもとに，これから特に望まれるバリアーフリーデザインの手法が理解できること。その上で，全ての人を対象としたユニバーサルデザインの考え方とその手法も理解できること。

〔授業の概要〕
高齢者社会の生活空間では，生活に必要な道具とそれらを取り込んでいる外部空間や内部空間が存在しているが，高齢者や障がい者にとって決して使いやすい道具や空間のデザインが十分に備わっているとは言い難い。従って，これから益々弱者に相応しい道具や空間のデザインが要求される。講義では生活の中で使用している様々な道具とそれらを取り囲んでいる空間を紹介しつつ，バリアーとユニバーサル型のデザインに相応しいかを解説する。真に安全で安心な社会形成のためのあるべき姿の基礎をここでは学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：高齢者や障がい者の生活道具に関する概論（中島）
第２回：道具のバリアフリートとは（中島）
第３回：道具のユニバーサルデザインとは（中島）
第４回：運動器具の事例（移動式道具）(中島)
第５回：運動器具の事例（固定式道具）(中島)
第６回：日用品の事例（移動式道具）(中島)
第７回：日用品の事例（固定式道具）(中島)
第８回：高齢者や障がい者の生活空間に関する概論（西條）
第９回：生活空間のバリアフリートとは（西條）
第10回：生活空間のユニバーサルデザインとは（西條）
第11回：生活空間（内部空間）の事例（戸建ての共有空間）（西條）
第12回：生活空間（内部空間）の事例（プライベート空間）（西條）
第13回：生活空間（外部空間）の事例（公共空間）(西條)
第14回：生活空間（外部公共空間）と道具との関係事例（西條）
第15回：まとめと試験（中島・西條）

〔教科書・参考書等〕
教科書　講義ごとに配布する資料
参考書「バリアフリーの建築設計－福祉社会の設計マニュアル」荒木兵一郎他著・彰国社
「ユニバーサルデザインの実践マニュアル」中川総監修・日経ＢＰ社

〔準備学習等〕
事前に提示する課題の実践事例を観察し，問題点や課題を明らかにし解決方法を探る

〔成績評価方法・基準〕
課題提出による評価（40％）とまとめの試験（60％），及び学習に取り込む姿勢の総合評価とする。

45 住環境の制御と設備　Dwelling Environmental Control and Equipment System

選択　２単位　後期

３年全組　准教授　許　　雷

〔授業の達成目標〕
住まいの室内環境を制御する技術としての暖冷房設備や給排水衛生設備および電気設備のしくみを理解し，「住まいの環境工学」と関連づけながら,「住まいの計画」や「インテリアデザイン」の中で，さまざまな住宅設備の位置づけが考えられるようになることが目標である。

〔授業の概要〕
建物の起源は，人間を雨や風，日射など厳しい気象条件から身を守るシェルターであった。しかし，人体にとって好ましいと感ずる室内環境は，多くの場合，自然のままにつくられる環境とは一致せず，外界の条件が厳しいほど両者のずれは大きくなる。暖房と冷房の技術は，このずれを埋めるための機械的方法として考えられてきた。現代の住まいにおいて健康で快適な生活を送るためには，暖冷房設備は不可欠であり，本講では，それらのしくみと計画方法を考察する。また，ここでは，給排水設備，電気設備についても基礎事項を学習する。

〔授業計画〕
第１回：序論
第２回：熱の伝わり方と暑さ，寒さ
第３回：日射の利用と制御
第４回：暖房と冷房の負荷とその考え方
第５回：暖房と冷房のしくみとその計画方法
第６回：空気清浄と換気設備
第７回：住まいにおける空気調和設備
第８回：水源と水質汚染の防止
第９回：給水のしくみとその計画
第10回：排水の種類と方式
第11回：トラップおよび通気のしくみと役割
第12回：衛生設備とサニタリー空間の考え方
第13回：電気設備の概要
第14回：住まいにおける受電と配電のしくみ
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書:「初学者の建築講座－建築設備」大塚雅之著，市ヶ谷出版社，2,800 円＋税
（教科書は図書室にも備えてある。積極的に利用されたい。）

〔準備学習等〕
参考書などをもとに，各自の住宅・部屋の暖冷房設備，給排水設備，電気設備について普段から観察すること。

〔成績評価方法・基準〕
課題レポート，まとめの試験，および学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

46 心の発達　Developmental Psychology

選択　２単位　後期

３年全組　教　授　太田　博雄

〔授業の達成目標〕
思考力の学習について具体的方法の理解と実習を通して身に着けること。そして，健康な人格形成のための発達課題の理解と実践力を身につけること。

〔授業の概要〕
知情意の発達過程を概説し，とくに思考力の発達をフィンランドメソドやブレーンストーミングの実習を通して理解を深める。また心の発達については幼児期から青年期まで発達課題の観点から解説する。

〔授業計画〕
第１回：序章
第２回：心の発達
第３回：幼児期における人格形成
第４回：児童期における人格形成
第５回：青年期における人格形成
第５回：学習理論と行動療法
第６回：知能検査
第８回：創造性とは何か
第９回：創造性の開発
第10回：ブレーンストーミング
第11回：ブレーンストーミング実習
第12回：KJ法実習
第13回：KJ法実習
第14回：実習結果のプレゼンテーション
第15回：まとめと学習

〔教科書・参考書等〕
自作資料

〔準備学習等〕
毎回の講義前に前回講義内容について知識確認のための小テストを実施するので，復習を行うこと。

〔成績評価方法・基準〕
授業中に実施する小テストや定期試験を用いて評価する。

47 生活習慣病と健康支援　Life Style-Related Deseases and Health Support

選択　２単位　後期

３年全組　准教授　坂本　　譲

〔授業の達成目標〕
１．疾病発症への遺伝と環境の相互作用　２．生活習慣病の実態とその危険因子の理解　３．生活習慣病の予防・改善可能性　４．生活習慣病の運動疫学　５．生活習慣病の社会疫学　６．健康支援の定義とその内容　７．生活習慣病の予防改善のための健康行動支援プログラム評価，などを理解し，それを実践につなげること。

〔授業の概要〕
現代社会でますます深刻化する生活習慣病を予防するには，運動あるいは栄養といった個別的側面に留意するだけでは不十分であり，社会環境をも含めた総合的・包括的な健康支援が重要である。そうした健康支援のあり方を理解するために，生活習慣病の諸要因を疫学的，体系的に捉えて提示するとともに，国内外における様々な健康支援の実践例や施策を示し，各々の意義や問題点について解説する。

〔授業計画〕
第１回：授業の概要の説明
第２回：生活習慣病とは
第３回：生活習慣病の各種疾患１（循環器系疾患）
第４回：生活習慣病の各種疾患２（代謝性疾患）
第５回：生活習慣病の各種疾患３（がん）
第６回：健康支援の基礎理論１（神経筋機能・脂肪細胞）
第７回：健康支援の基礎理論２（循環器機能）
第８回：健康支援の基礎理論３（糖代謝・免疫機能）
第９回：健康・運動の疫学と対人支援１（肥満・メタボリックシンドローム）
第10回：健康・運動の疫学と対人支援２（生活習慣病）
第11回：健康・運動の疫学と対人支援３（メンタルヘルス・介護予防）
第12回：健康・運動の疫学と対人支援４（転倒予防）
第13回：運動行動の政策支援とその展望
第14回：授業の総括
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
熊谷秋三（責任編集）：健康と運動の疫学入門．医学出版，2008

〔準備学習等〕
教科書，参考書の事前予習・復習を適宜指示する。

〔成績評価方法・基準〕
授業の単元毎に少レポートを３回課す（計30%）。最後の講義時に筆記試験を課す（70%）。

48 住まいの材料実験　Experiments in Materials of House

選択　２単位　３年後期　３年次前期・後期にわたり実施します。但し，履修登録は前期に行い，単位認定は後期授業終了後に行います。

３年全組　教　　授　最知　正芳
教　　授　有川　　智
非常勤講師　伊藤　憲雄

〔授業の達成目標〕
住まいの建築材料として用いられるコンクリート･木材･鋼材，およびボード類について，基本的な性質を理解する。また，各材料の試験方法及びデータのまとめ方を修得する。

〔授業の概要〕
実験室において，コンクリート・木材・鋼材の強度試験や弾性係数の測定，およびボード類の各種試験を行ない，得られた測定値の計算処理を経て，レポートを作成する。また，それらに必要な計算方法，材料の性質，レポートの作成法などについての解説を行なう。

〔授業計画〕
第１回：プロローグ
第２回：木材の測定
第３回：木材の曲げ試験
第４回：コンクリートの調合設計
第５回：コンクリートの打設とフレッシュコンクリートの試験
第６回：硬化コンクリートの１週強度試験
第７回：硬化コンクリートの４週強度試験と弾性係数の測定
第８回：鋼材の引張試験
第９回：ボードの曲げ試験
第10回：ボードの耐水試験
第11回：ボードの難燃性試験
第12回：ボードの衝撃試験
第13回：データのまとめ
第14回：総まとめ
第15回：エピローグ

〔教科書・参考書等〕
教科書：教員が自作したテキストを使用する。
参考資料：「建築材料実験用教材」日本建築学会
「建築材料用教材」日本建築学会

〔準備学習等〕
次回の実験内容について教員自作のテキストの内容を予習すること。実験後は，実験結果を速やかにまとめることや演習問題を解くことなどにより復習すること。

〔成績評価方法・基準〕
平常点(実験に臨む態度や演習の提出状況など)とレポートにより評価する。

49 生活デザイン総合科目Ⅰ　General Introduction of Life Design Ⅰ

選択　２単位　前期　　４年全組　非常勤講師　庫山　恆輔

〔授業の達成目標〕
地域自治を担う首長，議会，住民等のそれぞれの役割が把握でき，その上に立った地域の安全安心な姿を描きつつ，これからの地域の自立（自律）の途を模索する力を身につけられるようにする。

〔授業の概要〕
安全で安心な生活に関する問題は，その時々の国内外の社会情勢や地域自治のすすめ方と密接に関係する。本科目では，特に「地域の自立（自律）」を主課題とした内容を実践事例も交えて講話する。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（地方自治の意義を踏まえた総論）
第２回：地方自治体の長と議会の権限と役割について
第３回：首長の役割に関する最近の問題提起について（大阪市・名古屋市等を例に）
第４回：議会の現状について（仙台市議会を例に①）
第５回：議会の現状について（仙台市議会を例に②）
第６回：議会の現状について（議会改革の動きについて－栗山町議会等を例に）
第７回：監査委員の権限と役割について
第８回：監査委員の現状について（監査委員経験者の問題提起を例に）
第９回：監査委員の現状について（宮城県や仙台市等を例に）
第10回：地方自治と住民の権利について
第11回：住民の役割について（市民オンブズマンの活動を例に①）
第12回：住民の役割について（市民オンブズマンの活動を例に②）
第13回：住民の役割について（市民オンブズマンの活動を例に③）
第14回：情報公開の意義について
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
教科書　自作製作もので対応する。
参考書　その都度対応する。

〔準備学習等〕
現在の日本社会の地方自治に関する諸課題をマスコミや関係する文献等の資料収集に努め，授業に臨むこと。

〔成績評価方法・基準〕
学習に取り組む姿勢とレポートを総合的に評価する。

50 生活デザイン総合科目Ⅱ　General Introduction of Life Design Ⅱ

選択　２単位　前期　　４年全組　非常勤講師　冬木　勝仁

〔授業の達成目標〕
①我々の食生活の現状を多角的に考えられるようにする。
②その基礎となっている国内外の食料の現状を把握する。
③そのうえで，食料・農業に関わる生活・生産・地域デザインの方向性を見定める力を身につける

〔授業の概要〕
生活デザイン総合科目Ⅰと同様に，安全安心に関わるさまざまな問題から，現在，最もプライオリティの高いと思われるテーマ，例えば，地球環境問題，環境ホルモンやシックハウス問題，介護福祉問題などを選び，現代の生活デザインが抱える課題を考える。
今回は，国内外の食料問題の現状を概説した上で，食料・農業に関わる生活・生産・地域デザインの方向性について先進的事例を紹介しつつ解説する。

〔授業計画〕
第１回：子供の「食」から見た現代社会　～「好きなものだけ食べる」子供たち～
第２回：現代の「食」と情報　～フード・ファディズムに囚われた生活～
第３回：「日本型食生活」の内実　～米と魚と小麦と肉と油のせめぎ合い～
第４回：「コンビニ社会」の食生活　～「食」を削る「便利な」生活～
第５回：ビジネス化する「食」　～早い？旨い？安い？崩れていく「ケ」の場～
第６回：グローバル化する「食」　～「豊か」で脆弱な社会は世界の中で生き残れるか？～
第７回：世界の「食」と地球環境　～エネルギーｖｓ．食糧？～
第８回：食品安全行政の現状　～「食」の安全をデザインする仕組み～
第９回：重層化する食品表示　～「食」の安心はデザインできるか？～
第10回：「身土不二」，「農都不二」　～韓国が日本に問いかけるもの～
第11回：CSAとファーマーズ・マーケット　～食糧超大国アメリカで生じている変化～
第12回：「食」を通じた生活・生産・地域デザイン　～イタリアから世界へ～
第13回：日本における地産地消　～「食」と「農」をつなぐ実践に挑戦する多様な担い手～
第14回：農業・農村の担い手の現状　～新しい農村のかたちをデザインし，都市へ拡げる
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
テキストは用いない。授業の際に資料を配付する。
授業の前半は経済学的な内容も含まれるので，大塚茂・松原豊彦編『現代の食とアグリビジネス』（有斐閣）が参考になる。また，食料・農業をめぐる現状については農林水産省『食料・農業・農村白書』が詳しい。後半の実践例については逐次発行されている『現代農業』（農山漁村文化協会）に数多く紹介されているので参考にしてほしい。

〔準備学習等〕
日本の食料に関する問題が何かをマスコミ（新聞，テレビ，ラジオ等）や関係すると思われる資料収集に努めて授業に臨むこと。

〔成績評価方法・基準〕
授業中に実施するまとめの試験および学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

51 住まいのための法規　Building Regulation

選択　２単位　前期　　４年全組　非常勤講師　伏見　義則

〔授業の達成目標〕
住まいの計画や建築に必要な法令の概要を認識し，安全性や快適性に関する基本的知識の養成と備えるべき社会的責任の理解

〔授業の概要〕
・建築基準法を理解するうえで重要な用語や定義について図や写真等を交え解説するとともに法制定の背景や課題等について説明する。
・また，理解度を高めるため随時演習を行う。

〔授業計画〕
第１回　ガイダンス，建築法令の歴史と概要，建築関連法令の体系，法文読解の基本ルール
第２回　建築基準法の意義及び構成と概要，用語の定義
第３回　単体規定１　建築物の敷地，構造及び建築設備
第４回　単体規定２　建築物に加わる荷重，建築物の骨組みの安全性
第５回　単体規定３　一般構造，建築設備
第６回　単体規定４　防火と避難
第７回　単体規定５　避難施設等
第８回　集団規定１　都市計画区域と建築制限
第９回　集団規定２　用途地域，防火・準防火地域の建築制限
第10回　集団規定３　建築物の形態制限（建蔽率，容積率，高さ制限等）
第11回　集団規定４　建築物の形態制限（斜線制限，日影規制，外壁後退等）
第12回　集団規定５　すまいとまちづくり
第13回　建築工事と手続き
第14回　すまいに係る関係法令の概要と体系
第15回　住宅政策関係法

〔教科書・参考書等〕
教科書　配布資料
参考書　建築法規用教材

〔準備学習等〕
教科書に事前に眼を通す。また，配布資料・講義ノート（参考書も含め）と照らし合わせファイル整理を行う。

〔成績評価方法・基準〕
授業中随時実施する演習問題及び学習に取り組む姿勢を総合的に評価する

52 住まいの施工と積算　Construction and estimate for Building

選択　２単位　前期

４年全組　非常勤講師　野津　　弘

〔授業の達成目標〕
建築空間を具体化する施工の考え方とその基礎となる積算について，建築デザインとの関連の中で学ぶ。

〔授業の概要〕
施工概要，契約と見積，工事計画・管理，仮設工事，地下工事，RC 系工事，鉄骨系工事，木質系工事，内外装工事，設備工事について

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス・概要
第２回：契約と見積
第３回：工事計画・管理
第４回：仮設計画
第５回：地下工事
第６回：RC系工事
第７回：鉄骨系工事
第８回：木質系工事
第９回：内外装工事
第10回：施工の実際
第11回：施工の実際・躯体工事
第12回：施工の実際・内装工事
第13回：施工の実際・仕上工事
第14回：施工の実際・附帯工事
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
・「建築製図」　朝倉書店　二瓶博厚・他
・「建築工法」　市ヶ谷出版　内田祥哉・他
・「建築施工」　彰国社　建築施工教科書研究会

〔準備学習等〕
配布資料でもってきちんと復習すること。

〔成績評価方法・基準〕
課題レポート 50％及び学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

53 生活デザイン特別講義　Special Lecture of Life Design

選択　２単位　後期

４年全組　非常勤講師　中島　　敏
非常勤講師　山田　好恵
非常勤講師　熊野　　彰

〔授業の達成目標〕
生活者の視点に立った企業の実践の方法と内容の把握し，その応用としての新たなる提案につなげられるようにする。

〔授業の概要〕
生活デザインの分野は極めて多岐にわたっている。それぞれの領域の専門家の話を聞いたり，実物を見学したりして，生活デザインの視野を拡げる。学科独自企画の講演会のほか，関連するさまざまな学協会が企画する講演会，セミナー，シンポジウム，ワークショップなどへの参加を対象とすることもある。具体的には，生活者とのやり取りを通じて商品開発を行っているメーカーの実践内容（現地視察含む）を解説し，各自が描く生活者の視点に立った新たな提案を試みる。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス（授業の進め方の解説）
第２回：メーカーの取扱い商品と企業の基本理念の解説
第３回：現地調査－ 製造の流れの解説（各セクションの役割についても含む）
第４回：商品企画の実態－①
第５回：商品企画の実態－②
第６回：販売企画の実態－①
第７回：販売促進の実態－②
第８回：広報活動の実態－①
第９回：広報活動の実態－②
第10回：施設企画の実態
第11回：地域生産者との連携実態
第12回：生活者に立つデザインの提案－１（企画を練る）
第13回：生活者に立つデザインの提案－２（企画をまとめる）
第14回：生活者に立つデザインの提案－３（企画を発表する）
第15回：まとめとしての試験

〔教科書・参考書等〕
自作の資料を使用

〔準備学習等〕
商品企画・開発・流通に関する文献の収集に努め，授業に臨むこと。

〔成績評価方法・基準〕
講義ごとのレポート（30％）と試験（40％）とする

54 生活デザイン特別課外活動　Off-class Practice in Life Design

選択　１～４単位　１年前期～４年後期

全学年全組　教　授　菊地　良覺

本学科の専門に関連深い資格取得，検定等の合格，及び学科が指定する課外活動（ボランティア活動も含む），各種デザインコンペへの応募に対して本人が単位申請を行った場合，学科で審査の上，上限４単位で専門科目としての単位認定を行う。

１．資格取得による単位認定

本学科の専門に関連のある資格を取得した場合，あるいは検定に合格した場合は，専門教育科目の「生活デザイン特別課外活動」か，教養教育科目の「特別課外活動」のいずれかに申請できる。どちらの科目に申請するかは本人が選択する。
どのような資格や検定が「生活デザイン特別課外活動」の対象となるかは，学科が判断するが，シラバスの説明（99 ページ）を参照すること。

２．学科が指定する課外活動による単位認定

１）シラバスで指定されている学科指定の活動に対する評価は，次のポイント加算を行う。
１単位は５pt 以上，２単位は 10pt 以上，３単位は 15pt 以上，４単位は 20pt 以上とする。

（１）学科内の各研究室が単独または，合同で実施する調査研究・各種ゼミへの参加。１pt ／日
（２）企業実習などへの参加。１pt ／日
（３）自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施。１pt ／日
（４）学科が実施する対外活動への参加，大学祭での生活デザイン作品・企画の展示。１pt ／日
（５）学科が認定するボランティア活動への参加。１pt ／日
（６）その他，学科で認めた活動。１pt から２pt ／日

２）前項で指定された活動についてポイント取得を申請する場合には,「活動報告書（Ａ４用紙で 10 枚程度の報告書）」と「参加を証明する資料」を揃えて教務委員に申請すること。
３）発行されたポイント証明書と返却された資料は，学生が自分で保管すること。
４）５pt 以上取得した学生は，所定の資料とポイント証明書を揃えた上で，シラバス 100 ページの手順に従い，単位認定を申請できる。

３．各種デザインコンペへの応募による単位認定

各種デザインコンペへの応募に対する評価は，顕彰の程度を適正に考慮し行う。

４．申請について

１）単位認定を希望する学生は，学科事務室に申し出て「生活デザイン特別課外活動単位認定申請書」を受取，必要事項を記入の上，必要書類（上記「２の２），４）」，及びシラバス参照）ともに，学科事務室に提出すること。
２）申請時期は，学期末の７月末日と１月末日とする。
３）単位認定及び評価の方法は，シラバス 100 ページに示されている方法に準じて行われるので参照すること。

55 他学科開講科目群　Interdisciplinary Topics

選択　８単位　１年後期～４年後期

学生が本学科における専門知識をより深く理解するため，他学科の開講科目を履修する機会を設けている。他学科の専門科目として開講されている講義等を履修することにより，単位が認定される。受講に際しては，長町キャンパス事務室（八木山キャンパス・学生サポートオフィス）から，専用の申込用紙を受け取ること。先ず，科目担当教員の了解を得て，本学科教務委員に提出すること。

詳細は，当該科目のシラバスを参照のこと。

56 他大学開講科目群　Subjects offered other universities

選択　４単位　１年後期～４年前期

詳細については，シラバスの「他大学開講科目」，学生生活の「学都仙台単位互換ネットワークに基づく特別聴講学生取扱要項」を参照のこと。

経営コミュニケーション学科

(Department of Management and Communication)

(専門教育科目)

MC

５ミクロ経済学　Microeconomics

必修　２単位　前期　　２年１組　教　授　金井　辰郎

〔授業の達成目標〕
初級レヴェルのミクロ経済学（消費者行動理論，生産者行動理論，市場均衡）の概念・議論を理解する。

〔授業の概要〕
はじめて経済学を学ぶ学生を対象とした講義である。前提知識としては微分が理解できていればそれでよく，ほとんどはグラフ的方法により説明される。途中２回の問題演習の回を設け，知識の定着をはかる。

〔授業計画〕
第１回：イントロダクション
第２回：効用・選好・無差別曲線
第３回：限界代替率・限界効用
第４回：予算制約式・効用極大化
第５回：需要関数
第６回：生産関数・等量曲線・技術的限界代替率
第７回：費用最小化・総費用関数
第８回：問題演習
第９回：限界費用・平均可変費用・平均総費用
第10回：利潤極大化・供給関数
第11回：市場均衡
第12回：経済厚生・安定条件
第13回：長期均衡・不完全競争
第14回：問題演習
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：自作の講義ノートを配付する。
参考書：西村和雄『ミクロ経済学入門』（第二版），岩波書店，1995年

〔準備学習等〕
高校数学の数Ⅱレベルの内容を復習しておくこと。予習として，次回講義分の講義ノートの記述をよく読んでおくこと。復習として，授業時に配布される練習問題を解くこと。

〔成績評価方法・基準〕
小テスト・レポート（40%）＋試験（60%）で評価する。

６経営管理論　Management Policy

必修　２単位　前期　　２年１組　教　授　阿部　敏哉

〔授業の達成目標〕
組織を運営する経営者の役割とその重要性を正しく理解できるようになること。

〔授業の概要〕
本講義では，企業の存続と発展の鍵を握る経営者の役割に焦点を当てる。このことを学ぶにあたり，テイラーに始まり，バーナード，サイモン等を経て今日に至る一連の学説を取り上げ，経営管理の捉え方を考察する。さらに，経営者が組織を発展させるために不可欠である変化する環境への適応の問題や，人々から貢献を得るための仕組みとしてのリーダーシップなどの問題についても取り上げ，経営管理の主要分野について理解することを目指す。

〔授業計画〕
第１回：経営管理論の基本的考え方
第２回：経営管理論の変遷　その１　古典的管理論
第３回：経営管理論の変遷　その２　近代的管理論
第４回：人間と協働
第５回：組織の成立と存続
第６回：複合公式組織
第７回：組織と管理
第８回：前半のまとめと試験
第９回：組織作りと専門化
第10回：組織作りとオーソリティ
第11回：存続のための意思決定
第12回：動機付けのための誘因
第13回：管理過程
第14回：管理責任
第15回：後半のまとめと試験

〔教科書・参考書等〕
本講義はテキストを使用しない。なお随時自主制作資料を配付する。

〔準備学習等〕
履修にあたっては「経営学概論」「経営心理学」の内容をきちんと理解していること。なお予習は不要であるが，講義後は必ずノートを整理し直し，重要なポイントをきちんと理解すること。

〔成績評価方法・基準〕
定期試験の結果と講義への取り組み等を総合的に評価する。

７論理的思考法　Logical Thinking

必修　２単位　前期　　２年１組　講　師　亀井あかね

〔授業の達成目標〕
本科目では，経営コンサルティング業界のノウハウをもとに，戦略立案や提案営業において説得力のある資料を作成するための思考法，表現技術を講義し，若干の演習を行なう。

〔授業の概要〕
具体的内容は，論理展開の基本である演繹法と帰納法，物事を整理分析する際の基本であるMECE概念（MECE=mutually exclusive，collectively exhaustive，もれなくだぶりなく），MECEな表現をする技術であるロジックツリー，マトリクス図，論理的構成の基本であるピラミッド構造などである。初歩的な分析と資料作成ができるレベルを目指す。評価は，定期試験，演習，出席態度を総合して行なう。（分析調査の目的と方法，調査企画・設計，仮説構成，調査（全数・標本・無作為抽出），サンプリング方法，調査票作成，調査の実施方法，データ整理などについて講義する。また，表現技術を身につけるために演習を行い，「資料作成」を最終的な目的とする。）
社会調査士資格認定科目［Ｂ］に相当する科目である。

〔授業計画〕
第１回：論理展開の基本１（演繹法，など）
第２回：論理展開の基本２（帰納法，など）
第３回：ゼロベース思考・仮説思考
第４回：MECCE概念
第５回：ロジックツリー
第６回：論理的構成の基本（ピラミッド構造，など）
第７回：調査テーマ設定
第８回：調査票・質問文の作り方
第９回：調査の実施方法１：調査票の配布・回収など
第10回：調査の実施方法２：調査データの整理１・エディティング
第11回：調査の実施方法３：調査データの整理２・コーディング
第12回：調査の実施方法４：調査データの整理３・データクリーニング
第13回：調査の実施方法５：調査データの分析
第14回：調査報告書提出とグループプレゼンテーション
第15回：まとめ・試験

〔教科書・参考書等〕
教科書
『社会調査の基礎：社会調査士Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ科目対応』篠原清夫，他偏　弘文堂　2,500円＋税
参考書
１．『問題解決プロフェッショナル　思考と技術』齋藤嘉則著　ダイヤモンド社　2,330円＋税
２．『新版　MBAクリティカル・シンキング』グロービス・マネジメント・インスティテュート著　ダイヤモンド社　2,800円＋税

〔準備学習等〕
次の２冊の新書は読んでおくこと。
１．『データはウソをつく　科学的な社会調査の方法』谷岡一郎著　ちくまプリマー新書　760円＋税
２．『「社会調査」のウソ　リサーチ･リテラシーのすすめ』文春新書　690円＋税

〔成績評価方法・基準〕
課題レポート，授業中に実施する小テスト，まとめの試験を総合的に評価する。

８マーケティング論　Marketing

必修　２単位　後期　　２年１組　准教授　佐藤　飛鳥

〔授業の達成目標〕
本講義では，ビジネスの現場で必要とされるマーケティングの考え方を身につけることを目標とする。マーケティングの概要，マーケティングの要素，といったマーケティングの基礎を理解した上で，講義で紹介する概念やフレームワークを実際のビジネス・シーンに応用できる力をつける。

〔授業の概要〕
今日，マーケティングは，ビジネス活動を行う企業はもちろんのこと，自治体やNPOにおいても欠くことの出来ない存在となっている。経営関連の科目の中で，唯一，市場･消費者を分析対象としているのが「マーケティング論」である。誰しもが消費者という立場で，毎日「何をいくらで買うか」という意志決定を行っているため，当事者として製品やサービスを考えることが出来るだろう。一方，企業や組織は，市場や社会に受け入れられて，存続していくためにマーケティング戦略を用いている。企業や組織がどんな工夫（＝マーケティング）をしているかを学習することを通して，消費者と，企業や組織の両者の立場から，消費者に受け入れられるマーケティングとは何かを考える。

〔授業計画〕
第１回：マーケティングとは：マーケティング・コンセプト，マーケティング･ミックス
第２回：マーケティングのSTP：セグメンテーション，ターゲティング，ポジショニング
第３回：マーケティングと消費者：顧客満足と消費者行動，ブランド･カテゴライゼーション
第４回：マーケティングと市場志向型戦略：ミッション，SWOT分析，成長ベクトル，ポートフォリオ
第５回：戦略的マーケティング：リーダー，チャレンジャー，フォロワー，ニッチャー
第６回：マーケティング・リサーチ：１次データ，質問法，観察法，実験法
第７回：顧客価値の創造　①製品：製品ミックス，製品ライフサイクル
第８回：顧客価値の創造　②ブランド：ブランド・エクイティ，ブランド戦略
第９回：顧客価値の創造　③サービス：無形性，品質の変動性，不可分性，消滅性，需要の変動性
第10回：顧客価値の伝達　①流通：チャネル設計，チャネル管理
第11回：顧客価値の伝達　②営業：営業管理，営業革新
第12回：顧客価値の説得　①価格：損益分岐点，需要の価格弾力性
第13回：顧客価値の説得　②広告：セールス・プロモーション
第14回：顧客価値の説得　③コミュニケーション：媒体，統合型マーケティング・コミュニケーション
第15回：まとめ，及び期末レポート課題の作成にあたって

〔教科書・参考書等〕
教科書　テキストは使用しない。
参考書　講義中に紹介する。

〔準備学習等〕
シラバス上に記載の各講義のキーワード（各回タイトルの後の：以降に示した単語）を，インターネットで検索し，ノートを作成したり，プリントアウトしてマーキングしたりするなど，次回の講義内容で用いられるマーケティング概念を予習しておくこと。また，復習として，講義内容のノートと予習ノートを比較参照して，まとめ直すこと。

〔成績評価方法・基準〕
学習に取り組む姿勢と，講義内容の理解度を確認するためのレポート（全15回実施）を合わせて70%，期末レポート30%の配分で評価する。期末レポートは期末テストの代わりに行うものであり，提出しない場合は単位を付与しないため注意すること。

９工業生産管理論　Industrial Engineering

必修　２単位　後期　　２年１組　教　授　渡部　順一

〔授業の達成目標〕
工業経営学入門を発展させ,工業生産管理について学ぶ。理論を中心とした学習と実際の企業で行われている事例について学習する。
①生産管理の各要素について理解する。②サプライチェーンマネジメントの概要を理解する。③実際の企業で行われている生産管理について理解することを到達目標としている。

〔授業の概要〕
生産管理とは，生産活動を計画し，組織し，統制することであり，その目的は「要求される品質の製品を，要求される時期に,要求量だけを,効率的に生産すること」である。大量生産，大量消費から顧客志向への市場変化の中でその管理のプロセスも変わりつつある。本講義では，エレクトロニクス産業で盛んなファブレス，ファンドリーに代表される水平分業体制，それを支えるITを駆使したサプライチェーンマネジメントにも触れる。

〔授業計画〕
第１回：イントロダクション（授業の進め方）
第２回：基本書による学習その１（はじめに：競争力とシステムの視点）
第３回：基本書による学習その２（開発と生産のプロセス分析）
第４回：基本書による学習その３（製品と工程の歴史分析：「大量生産方式」とは何であったか）
第５回：基本書による学習その４（競争力とその構成要素）
第６回：基本書による学習その５（コスト･生産性の管理と改善）
第７回：基本書による学習その６（納期と工程管理）
第８回：基本書による学習その７（品質管理とその管理・改善）
第９回：基本書による学習その８（フレキシビリティ）
第10回：基本書による学習その９（生産戦略）
第11回：サプライチェーンマネジメントその１（ファブレス，ファンドリーに代表させる水平分業体制）
第12回：サプライチェーンマネジメントその２（ITを駆使したサプライチェーンマネジメント）
第13回：事例研究その１（大企業）
第14回：事例研究その２（中堅企業）
第15回：事例研究その３（中小企業）

〔教科書・参考書等〕
教科書　「生産マネジメント入門Ⅰ」藤本隆宏　日本経済新聞社　工大生協
参考書　「生産マネジメント入門Ⅱ」藤本隆宏　日本経済新聞社　工大生協
「サプライチェーン経営入門」日経文庫　藤野直明　工大生協

〔準備学習等〕
各回ごとに，次回の講義内容を説明するので，事前に教科書，参考書その他指定された内容を十分に学習して授業に臨むこと。また，合わせて復習すべきポイントを説明するので，自ら復習した内容を授業ノートに記載してきちんとしたノートの作成を行うこと。

〔成績評価方法・基準〕
レポート30%（事例研究について），並びに定期試験70%の配分で評価する。レポートについては，授業に出席しないと作成できないことがあるので留意すること。また，レポートは，必要に応じて外部に公表する場合があるので留意すること。事例研究の都合等により，若干授業計画に変更があることがある。

10 経営組織論　Organization Theory

必修　２単位　後期　　２年１組　教　授　阿部　敏哉

〔授業の達成目標〕
様々な組織の構造と機能を正しく理解し，それを応用できるようになること。

〔授業の概要〕
経営組織論では，企業・学校・病院・NPOなどあらゆる組織体の経営問題を扱う。企業をはじめとする様々な組織体は，営利の追求や，理念の達成という目標に向かって日々活動している。それらは社会と関わりながら活動を行っている以上，人間性，社会性，公共性を無視するようなものであっては長期的な繁栄は望めない。こうした問題意識のもと，組織の構造を理解し，企業を含む様々な組織の機能を正しく認識できる力を養い，将来社会人として組織で担うべき役割を自覚させる。

〔授業計画〕
第１回：組織の基本的考え方
第２回：組織構造
第３回：非営利組織
第４回：作業組織　その１　古典的な作業組織
第５回：作業組織　その２　近代的な作業組織
第６回：モティベーション　その１　誘因の方法
第７回：モティベーション　その２　説得の方法
第８回：前半のまとめと試験
第９回：リーダーシップ　その１　リーダーシップ理論の変遷
第10回：リーダーシップ　その２　モティベーションとリーダーシップ
第11回：組織文化
第12回：組織と戦略　その1　古典的な枠組み
第13回：組織と戦略　その2　近代的な枠組み
第14回：組織学習と組織変革
第15回：後半のまとめと試験

〔教科書・参考書等〕
本講義はテキストを使用しない。なお随時自主制作資料を配付する。

〔準備学習等〕
本講義を履修するにあたっては「経営学概論」「経営心理学」「経営管理論」の内容をきちんと理解していること。なお予習は不要であるが，講義後に必ずノートを整理し直し，重要なポイントをきちんと理解しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
定期試験の結果と講義への取り組み等を総合的に評価する。

11 経営統計学　Business Satistics

必修　２単位　後期　　２年１組　教　授　渡部　順一

〔授業の達成目標〕
経営を学んでいく上で，統計手法を用いた分析を理解することはとても重要である。
①統計の概念が分かる，②グラフ化できる，③数値の意味が理解できることを到達目標とする。なお，予習，復習は欠かさず，しっかりノートを作成するとともに，自ら進んで演習問題にチャレンジすること。

〔授業の概要〕
統計学は経営上の意思決定に必要な情報を数量的なデータとして分析する基本的テクニックで，生産部門の工程管理，品質管理で広く用いられているが，近年は企業のリスクマネジメントにも応用されている。本講義は，社会学的データ分析で用いる基礎的な多変量解析法について，基本的な考え方と主要な計算モデルを解説し，重回帰分析を基本としながら，他の計算モデル（例:分散分析，パス解析，ログリニア解析，因子分析，数量化理論等）の中から若干のものを取り上げ，実際の事例を通じて理解を深める。

〔授業計画〕
第１回：イントロダクション（授業の進め方）
第２回：基本書による学習その１（はじめに）
第３回：基本書による学習その２（アクションのための統計学）
第４回：基本書による学習その３（グラフはかくも雄弁なり）
第５回：基本書による学習その４（全体と一言で表すには－代表値（中心値）の諸指標）
第６回：基本書による学習その５（リスクを理解しよう－ばらつき度の諸指標）
第７回：基本書による学習その６（不確かな世界を取り仕切る法則－確率）
第８回：基本書による学習その７（最も典型的なばらつきのタイプ－正規分布）
第９回：基本書による学習その８（１を聞いて10を知る方法－サンプリング論）
第10回：基本書による学習その９（未知のものに当たりを付ける方法－推定）
第11回：基本書による学習その10（却下すべきか，せざるべきか，それが問題だ－検定）
第12回：基本書による学習その11（マネジメントに求められる統計学－管理図の手法）
第13回：基本書による学習その12（風が吹いたら桶屋はもうかるか－回帰直線）
第14回：総合演習その１（重回帰分析）
第15回：総合演習その２（その他の主要な計算モデル）

〔教科書・参考書等〕
教科書「経営のための直観的統計学」　吉田耕作　日経BP社　工大生協
参考書
「重回帰分析の利用法」　君山由良　データ分析研究所　工大生協
「Excelで学ぶ経営科学入門シリーズⅡ　データ解析」　荒木勉監修　実教出版 工大生協
「Excelで学ぶ経営科学入門シリーズⅡ　統計解析」　荒木勉監修　実教出版 工大生協
「これだけは知っておこう！統計学」　東北大学統計グループ　有斐閣ブックス　工大生協

〔準備学習等〕
各回ごとに，次回の講義内容を説明するので，事前に教科書，参考書その他指定された内容を十分に学習して授業に臨むこと。また，合わせて復習すべきポイントを説明するので，自ら復習した内容を授業ノートに記載してきちんとしたノートの作成を行うこと。

〔成績評価方法・基準〕
小テスト60％（５点×12回），並びに定期試験40％の配分で評価する。

12 経営実践　Field Work

必修　２単位　前期　　３年１組　准　教　授　佐藤　飛鳥
非常勤講師　白田　良晴
助　　教　野澤　壽一

〔授業の達成目標〕
地元の優良企業のオフィス，工場等，経営の最前線における企業活動を実践的に学ぶ。具体的には，職場内の規律の遵守，正しい人間関係の構築と，経営現場の諸問題の経験を身につけるために必要な知識を教授する。

〔授業の概要〕
（オムニバス方式，佐藤飛鳥教員が全回を統括）
（野澤壽一／１～５回）地域企業における経営実践
（白田良晴／６～10回）中小製造業における経営実践
（佐藤飛鳥／11～15回）産学連携，産官学連携における経営実践

〔授業計画〕
第１回：企業（事業）とは？（企業の価値とは何か？）
第２回：地域企業経営研究①（顧客は誰か？）
第３回：地域企業経営研究②（顧客は何を求めているのか？）
第４回：地域企業経営研究③（成果は何か？）
第５回：地域企業経営研究④（目標は何か？）
第６回：会社運営の基礎実務（設立・株式・役員・税務申告・労務など）
第７回：経営資金の管理と運用（売上・利益・キャッシュフロー・財務会計など）
第８回：経営戦略と経営計画（経営の羅針盤と達成計画の作成について）
第９回：TQM－トータルクオリティマネジメント－（総合的品質管理による生産性の向上）
第10回：コスト構成と管理（コストの構成要素を理解しコストコントロールをする）
第11回：産官学連携とは
第12回：製品化という目的を超えたネットワークづくり（事例紹介　文部科学省知的クラスター創成事業　金沢地域）
第13回：Role Playing１：様々な関係者になりきって産官学連携をすすめてみよう
第14回：Role Playing２：産官学連携を遂行する上で留意すべき諸問題
第15回：まとめと最終レポート課題について

〔教科書・参考書等〕
第11回から15回（佐藤飛鳥担当）の講義では，本学両図書館蔵の下記２冊を参考図書とする。（財）石川県産業創出支援機構　知的クラスター創成事業　社会システム研究会『石川予防型社会創造産業クラスターと予防型医療社会システムの展開』，『予防医療先進地域石川の実現をめざして』

〔準備学習等〕
講義と平行して，現場実践のためにインターンシップ制度を活用することを強く勧める。

〔成績評価方法・基準〕
講義中に配布する課題レポートあるいは講義に関するプリント課題と，期末レポートにより，内容理解に対する評価を行う。また，学習に取り組む姿勢も合わせて評価する。

13 技術系中小企業論　Management of Small Engineering Corporations

選択　２単位　前期　　３年１組　教　授　渡部　順一

〔授業の達成目標〕
工業経営学入門，工業生産管理論で学んだことを基礎として，技術経営について学習するとともに，特に技術を中核能力とした中小企業の戦略について理解を深めていく。基本書をベースに，適宜，先行論文，事例研究を交えて学習するので，留意すること。
①技術経営とは何かについて理解する。②技術を中核能力とした中小企業の戦略について理解する。③先行論文，事例について，①，②から分析を加えることができることを到達目標としている。
なお，予習，復習は欠かさず，しっかりノートを作成すること。

〔授業の概要〕
わが国の地域経済を支えるのは多くの中小企業群である。これらには経営基盤の弱いものもある反面，世界に雄飛した企業も多い。ベンチャーから立ち上げ，大きく成功した中小企業経営者の苦心談，成功談などから実践経営学を学ぶ。企業の社会貢献のありかた，仕事のやりがいの真の意味を学び，具体的な産業活動従事者の講話を通して，産業社会の構造，組織，それを動かしている経済原理の一部を理解させるための講義を行う。

〔授業計画〕
第１回：イントロダクション（授業の進め方，レポートの書き方）
第２回：基本書による学習その１（中小企業で働くこと）
第３回：基本書による学習その２（企業の創業と進化）
第４回：基本書による学習その３（中小企業とは何か）
第５回：基本書による学習その４（戦後日本の中小企業問題の推移）
第６回：基本書による学習その５（戦後日本の中小企業発展の軌跡）
第７回：基本書による学習その６（ものづくりと中小企業）
第８回：基本書による学習その７（中小製造業の経営）
第９回：基本書による学習その８（中小企業の金融）
第10回：基本書による学習その９（戦後日本の中小企業政策の変遷）
第11回：資料によるよる学習（技術開発）
第12回：事例研究その１（中小企業政策）
第13回：事例研究その２（中小企業（日本））
第14回：事例研究その３（中小企業（宮城県））
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
教科書「21世紀中小企業論」　渡辺幸男他　有斐閣アルマ　工大生協
参考書
「製品開発の知識」　延岡健太郎　日経文庫　工大生協
「MOT［技術経営］入門」　延岡健太郎　日本経済新聞社　工大生協
「中小企業白書」（各年度版）　中小企業庁

〔準備学習等〕
各回ごとに，次回の講義内容を説明するので，事前に教科書，参考書その他指定された内容を十分に学習して授業に臨むこと。また，合わせて復習すべきポイントを説明するので，自ら復習した内容を授業ノートに記載してきちんとしたノートの作成を行うこと。

〔成績評価方法・基準〕
レポート30％（先行論文，事例研究について），並びに定期試験70％の配分で評価する。レポートについては，授業に出席しないと作成できないことがあるので留意すること。また，レポートは，必要に応じて外部に公表する場合があるので留意すること。先行論文・事例研究の都合等により，若干授業計画に変更があることがある。

14 技術系事業計画論　Technological Business Planning

選択　２単位　後期　　３年１組　非常勤講師　熊田　　憲

〔授業の達成目標〕
本講義では，新しい技術から新規事業や新商品を創出する際に必要となる知識や方法論を学ぶことにより，新規事業の計画を立案できる能力を身に着けることを目標とする。

〔授業の概要〕
新しい技術をもとに新規事業を立ち上げるためには，自社の資源や競争力など内部環境のみならず，市場のニーズや技術動向，競合相手など多くの外部環境を的確に理解した上で，不確実性の高い新技術をマネジメントする必要がある。本講義では，理論と実践の両面から事業計画の立案に関する知識の習得を目指す。このために，第１に新規事業を構想，計画するための理論的枠組みの解説を行う。次に，新規事業の各ステージにおける分析の手法，事業や技術の評価，マネジメント戦略の策定等について，計画立案までの諸段階で必要とされる取り組みについて実践的な方法論を学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：イントロダクション
第２回：新事業創出の基礎知識
第３回：新事業創出におけるベンチャーの役割
第４回：米国の開発ベンチャー
第５回：米国における開発プロジェクトのマネジメント
第６回：日本の開発型ベンチャー
第７回：日本における新事業展開
第８回：ビジネスプランの考え方
第９回：新事業とベンチャーのビジネスプラン
第10回：基本戦略とマネジメント戦略
第11回：マーケティングと企業戦略
第12回：プロジェクト・マネジメントとアライアンス
第13回：知財マネジメントと研究開発評価
第14回：ロード・マップと人材戦略
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　「新事業創出のすすめ」出川通　オプトロニクス社
「実践図解　最強のＭＯＴ戦略チャート」出川通　秀和システム

〔準備学習等〕
事前に教科書の該当部分を精読して講義に臨むこと。
講義終了後には講義内容を十分踏まえて教科書を再読すること。

〔成績評価方法・基準〕
定期試験 60%，レポート及び講義への取り組み等 40%，により総合的に評価する。

15 経営戦略論　Business Strategy

選択　２単位　前期　　３年１組　非常勤講師　横田　靖之

〔授業の達成目標〕
当授業では，企業活動における戦略とは何かということについて最初に考察し，企業経営で考えるべき基本的な戦略の枠組みを紹介し，実際にどのように使われているのかを事例を用いながら説明して行こうと考える。基本的な経営戦略の概念・フレームワークを理解・使いこなせる様になるのを目標とする。

〔授業の概要〕
経営戦略には，全社戦略，個別事業戦略，ITなどの機能別戦略があるが，本講座では前者二つを扱う。全社戦略ではポストン・コンサルティング・グループのPPM（製品や事業の組合せの管理），CSR（企業の社会的責任）概念と経営戦略の関係などを論じる。事業戦略では伝統的なポーターの競争戦略論と最近のブルー・オーシャン戦略論を中心に論じる。いずれも，いくつか事例検討を通じて理解を深める。

〔授業計画〕
第１回　オリエンテーション～戦略とは？～嶋口など第１章「戦略とは」
第２回　経営環境分析(1)～業界の５つの力分析～嶋口など第２章「業界の構造分析」
第３回　経営環境分析(2)～構造－行為－業績モデル～嶋口など第３章「戦略グループ」
第４回　企業戦略(1)～企業ドメイン～嶋口など第９章「事業領域」
第５回　企業戦略(2)～多角化～嶋口など第10章「成長戦略」
第６回　企業戦略(3)～SWOT分析，資源ベースの競争優位論Ⅰ～嶋口など第11章「経営資源」
第７回　企業戦略(4)～PPM～嶋口など第12章「資源展開」
第８回　CSRと企業戦略　大滝など第10章「経営戦略と社会」
第９回　事業戦略(1)～３つの競争戦略～嶋口など第４章「基本戦略」
第10回　事業戦略(2)～製品ライフサイクル～嶋口など第５章「製品ライフサイクル別戦略」
第11回　事業戦略(3)～市場内のポジション～嶋口など第６章「市場地位別戦略」
第12回　事業戦略(4)～資源ベースの競争優位論Ⅱ～嶋口など第７章「能力基盤の競争」
第13回　ブルーオーシャン戦略
第14回　事例研究
第15回　まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：嶋口・内田・黒岩編著『１からの戦略論』（碩学舎），大滝・金井・山田・岩田著『経営戦略　新版』（有斐閣アルマ）の２冊を使う。
「ブルー・オーシャン戦略」に関してはキム＆モボルニュ著『ブルー・オーシャン戦略』（ランダムハウス講談社）をテキストにする予定であるが変更の可能性はある。
参考書：適宜紹介する。
その他，授業ごとに新聞等での事例を紹介する予定である。

〔準備学習等〕
それぞれの回の該当章の特にケース部分を毎回授業前に読んでおくこと。

〔成績評価方法・基準〕
評価方法：期中レポート（１回か２回）と期末試験の結果等を総合的に考慮する。
授業では積極的な発言を期待する。発言は加点の要素となり得る。

16 ビジネス法　Business Law

選択　２単位　後期　　３年１組　非常勤講師　牧　真理子

〔授業の達成目標〕
ビジネスにおいて社会人に必要とされる法的問題意識を持ち，検討できるようになること。

〔授業の概要〕
こんにち，企業のコンプライアンス（法令遵守）が強く求められており，ビジネス実務では，迅速な法的対応をとることが必要とされている。この点から，本講義では，特にビジネスにかかわる法の根幹をなす民法と会社法について学ぶ。ビジネスにかかる法は多岐に渉るため，授業では基礎的な部分のみしか触れることができない。受講生各々が，より発展的な法律知識を自主的に習得していこうとする姿勢が望まれる。

〔授業計画〕
第１回：ビジネスに関係する法律の体系と基礎知識
第２回：民法総則・会社法総則（権利義務の主体）
第３回：会社の種類
第４回：代理制度
第５回：株式会社の設計
第６回：会社の機関（１）株主総会
第７回：会社の機関（２）取締役
第８回：会社の機関（３）監査役
第９回：資金調達
第10回：債権（１）債権各論
第11回：債権（２）債権総論
第12回：決済（１）決済法の全体像
第13回：決済（２）約束手形の振出・譲渡
第14回：その他（独占禁止法，著作権法等の概論）
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
（必須）小型の六法（岩波セレクト六法等）を購入すること。初回講義から使用する。
（参考書等）ビジネス法を網羅する教科書はないが，『ゼミナール会社法入門』『ゼミナール商法総則・商行為法入門』『ゼミナール民法入門』（いずれも日本経済新聞出版社）がビジネスの現場に触れるのに有効である。

〔準備学習等〕
ビジネス法に関心を持つよう，新聞に目を通す。上記参考書の各章第一部は，法律の予備知識がなくとも最近の各法律の動向を理解できるよう配慮してあるので，関心のある章を読むとよい。

〔成績評価方法・基準〕
小テスト（毎回）30%，定期試験 70%

17 環境経営論　Environmental Management

選択　２単位　後期

３年１組　教　授　渡部　順一

〔授業の達成目標〕
工業経営学入門，技術系企業倫理論，及び工業生産管理論で学んだことを基礎として，環境経営について学習する。基本書をベースに，適宜，先行論文，事例研究を交えて学習するので，留意すること。
①環境経営とは何かについて理解する。②環境経済との関係について理解する。③先行論文，事例について，①，②から分析を加えることができることを到達目標としている。
なお，予習，復習は欠かさず，しっかりノートを作成すること。

〔授業の概要〕
わが国の高度経済成長期1960年代は，公害の時代でもあり，企業活動による環境汚染で多くの住民が被害を受けた歴史がある。一方，現在は環境経営の時代であり，企業は利潤追求だけでなく，省エネと地球温暖化の原因物質であるCO_2削減の視点が欠かせない。本講義では，グローバルな視野に基づく企業の社会的責任と，住民の利益に対する正しい考え方を身につけ，いつの時代にあってもブレない企業理念･信念を持ち，行動力を備えた人材を育成する。

〔授業計画〕
第１回：イントロダクション（授業の進め方，レポートの書き方）
第２回：資料による学習（BOPとは）
第３回：基本書による学習その１（BOPと富を共創する）
第４回：基本書による学習その２（よりよい事業を構築する）
第５回：基本書による学習その３（４つのイノベーション）
第６回：基本書による学習その４（緑の飛躍戦略）
第７回：基本書による学習その５（どこにでもあるニーズ，どこにもない市場）
第８回：基本書による学習その６（ミクロレベルで市場を理解する）
第９回：基本書による学習その７（デザインのリフォーム）
第10回：基本書による学習その８（拡大可能な組織構成とは）
第11回：基本書による学習その９（旅は続く）
第12回：事例研究その１（国の環境政策）
第13回：事例研究その２（企業の環境政策）
第14回：事例研究その３（文献研究）
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
（教科書）「BOP ビジネス　市場共創の戦略」スチュアート・L. ハート他著編集清川幸美訳　英治出版　工大生協
（参考書等）「未来をつくる資本主義」スチュアート・L. ハート著石原薫訳　英治出版　工大生協
「環境白書」（各年度版）環境省

〔準備学習等〕
各回ごとに，次回の講義内容を説明するので，事前に教科書，参考書その他指定された内容を十分に学習して授業に臨むこと。また，合わせて復習すべきポイントを説明するので，自ら復習した内容を授業ノートに記載してきちんとしたノートの作成を行うこと。

〔成績評価方法・基準〕
レポート 30％（先行論文，事例研究について），並びに定期試験 70％の配分で評価する。レポートについては，授業に出席しないと作成できないことがあるので留意すること。また，レポートは，必要に応じて外部に公表する場合があるので留意すること。先行論文・事例研究の都合等により，若干授業計画に変更があることがある。

18 ソーシャル・アントレプレナー論　Theory of Social Entrepreneurs

選択　２単位　後期

３年１組　助　　教　　野澤　壽一
非常勤講師　グエン・チ・ギア

〔授業の達成目標〕
社会問題への貢献を目的とした事業活動を行う社会起業家の本質を理解し，NPOやNGO等の組織形態別のマネージメント手法等の心得と基本を習得する。

〔授業の概要〕
事業活動と通じて社会問題の解決を貢献しようとするソーシャル・アントレプレナー（社会起業家）の活動が注目されている。その活動範囲は医療，福祉に止まらず，「まちおこし」など社会を活性化する活動にまで拡がり見せている。その尊い活動も収益モデルがしっかりしていないと長続きしない。本講義では，諸外国の事例も見ながら社会起業のビジネスモデルを考える。

〔授業計画〕
第１回：ソーシャル・アントレプレナー（社会起業家）とは何か？　～社会企業家の定義～
第２回：社会起業家の原点　～ソーシャル・アントレプレナーの歴史～
第３回：ボディ・ショップもベン・アンド・ジェリーズも社会起業家？　～社会問題とビジネス～
第４回：ソーシャル・アントレプレナー登場の背景　～公共サービスの限界～
第５回：日本の社会起業家
第６回：世界の社会起業家
第７回：ケースに学ぶソーシャルアントレプレナーの社会的課題の認知
第８回：ケースに学ぶソーシャルアントレプレナーの資源活用
第９回：ソーシャルアントレプレナーの視点
第10回：ソーシャルアントレプレナーの条件
第11回：現在の社会的課題
第12回：社会的課題の解決のプロセス
第13回：多様な「ソーシャル」の実態
第14回：課題『社会起業アイデア提案』
第15回：課題発表会

〔教科書・参考書等〕
『社会起業家～「よい社会」をつくる人たち～』町田洋次　PHP新書
『NPO入門』山内直人　日経文庫

〔準備学習等〕
授業計画に沿って教科書を事前に読み，感想並びに疑問点等を明確にして置くこと。

〔成績評価方法・基準〕
レポート課題の提出状況，講義時の発言とレポート課題『社会起業アイデア提案』を総合評価し単位認定する。

19 地域技術系企業論　Essay on Technology-Based Local Enterprises

選択　２単位　後期

３年１組　非常勤講師　平間　英生

〔授業の達成目標〕
変化する時代の中で，地域特性と技術系企業のあり方を学び，地域の安全と発展を，バランスよく両立させる考え方を身につける。

〔授業の概要〕
激変している世界の中でのわが国の地域特性を正しく認識していただくため，世界の大きな潮流と，技術の歴史的な変遷，日本的技術の系譜をたどり，今活発に動いている商品（自動車，半導体，携帯電話など）の歴史や市場・技術動向，そして国や地域の政策を俯瞰しつつ，地域の企業の実情を学ぶ。
また，毎回の授業の最初に最近の技術，産業トピックスを日・英新聞から紹介し，終了前には有用な話題を提供する。

〔授業計画〕
第１回：自己紹介，授業の進め方，メガトレンド，科学技術立国，話題：人生の時間
第２回：トピックス，少子高齢化，環境問題，話題：地図の見方
第３回：トピックス，技術の歴史，産業革命，情報革命，話題：スマイルカーブ
第４回：トピックス，日本的技術発想，話題：イノベータのジレンマ
第５回：トピックス，自動車，２次電池の市場，技術動向，話題：かんばん方式
第６回：トピックス，FDPの市場，技術動向，スーパーコンピュータ，話題：２・８の法則
第７回：トピックス，携帯電話，コンピュータの市場，技術動向，話題：原子力発電
第８回：トピックス，再生可能エネルギー，太陽電池/風力発電の市場，技術動向，話題：スマートグリッド
第９回：トピックス，ROBOT/HDD/ ベアリング/電子顕微鏡の市場，技術動向，話題：工程能力
第10回：トピックス，国の政策（文部科学省，経済産業省），話題：SWOT分析
第11回：トピックス，地域の政策（宮城県，仙台市，東北経済連合会），話題：PDPC
第12回：トピックス，経営戦略，マーケティング，人材育成，話題：B/S，P/L
第13回：トピックス，ベンチャーキャピタル，話題：グッドマンの法則
第14回：トピックス，知的財産権，地域企業，IPO目指している会社等紹介，話題：マズローの法則
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
自主資料

〔準備学習等〕
新聞の経済，産業，地域欄の記事に目を通しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
まとめの試験，および学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

20 技術マネジメント論　Technology Management

選択　２単位　後期　　３年１組　非常勤講師　熊田　　憲

〔授業の達成目標〕
企業が，現在の激しい経済社会の環境変化に適応し長期的に維持発展していくための中核に位置付けられるものが，従来の枠組みを刷新し，画期的な事業アイディアにより，新しい製品やサービスを生み出すイノベーションの創造である。本講義では，技術経営において「イノベーション･マネジメントとは何なのか？」について考える。毎回，各章を読み解くための技術経営の基礎理論やモデルを中心に解説し，イノベーションの諸現象について理解する視点を紹介する。イノベーション・マネジメントを支える様々な知識を習得し，その活用能力を身につけることを目標とする。

〔授業の概要〕
わが国の研究開発支出（GDP 比）は特許出願数ともに世界一であるが，ある国際機関の調査（2004）によると国際競争力は 23 位，企業家精神の広がり 60 位，マーケティング力は 39 位で，科学技術の成果を市場に結びつけ事業成果として専有する経営力の強化が課題である。本講義は技術と経営の両方の課題を理解し，橋渡しできる人材の育成を目標とする。
なお，技術そのものの知識は必要としない。

〔授業計画〕
第１回：イノベーション・マネジメントとは（イントロダクションを含む）
第２回：イノベーションの歴史
第３回：イノベーションのパターン
第４回：イノベーションと企業
第５回：イノベーションと企業戦略
第６回：新製品開発のマネジメント
第７回：イノベーションと企業間システム
第８回：技術者の論理とパーソナリティ
第９回：イノベーションと熟練
第10回：イノベーションと経済発展
第11回：技術政策
第12回：知的財産権とイノベーション
第13回：ベンチャー・ビジネスとベンチャー・キャピタル
第14回：イノベーションと大学
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　「イノベーション・マネジメント入門」一橋大学イノベーション研究センター　日本経済新聞社

〔準備学習等〕
事前に教科書の該当部分を精読して講義に臨むこと。
講義終了後には講義内容を十分踏まえて教科書を再読すること。

〔成績評価方法・基準〕
定期試験 60%，レポート及び講義への取り組み等 40%，により総合的に評価する。

21 人材マネジメント　Human Resource Management

選択　２単位　前期　　４年１組　非常勤講師　北村　勝朗

〔授業の達成目標〕
企業における人材マネジメントを考えるための基礎的な理論を理解する。特に，①企業組織の中で人はどのように学び，成長していくのか，②企業の中で人をどのように育成するか，③企業の中で集団をどのようにまとめ生産性を高めるか，という問いに対する具体的な提案と，それが有効な理由を説明できる力を習得する。

〔授業の概要〕
わが国経済は成長期から成熟期に入り，終身雇用，年功序列に代表される日本的人事管理制度が変革を迫られている。本講義では，業容拡大重視から独創的な事業創成，横並び主義から戦略的な経営へのシフトに必要な人事政策（人員配置計画，業績評価，適材適所，能力開発等）を，経営側だけでなく,働く人の視点から皆さんのキャリアー･デザインを含めて考えてゆきたい。

〔授業計画〕
第１回：組織における人材とは？　企業組織を取り巻く環境と人材マネジメントの捉え方
第２回：人材はいかに育成されるか？
(1)　企業人の才能の理解
第３回：人材はいかに育成されるか？
(2)　熟達化段階に応じた育成
第４回：人材マネジメントにおけるコーチングとは？
(1)　相手の能力を最大限引き出す
第５回：人材マネジメントにおけるコーチングとは？
(2)　相手の能力を最大限発揮させる
第６回：人材マネジメントにおける自律性とは？　自ら動ける人材を育てる
第７回：人材マネジメントにおけるやる気とは？　企業人のやる気を高める
第８回：OJTによる人材育成とは？　状況の中での学び
第９回：組織風土改革の必要性とは？　人が育つ企業文化･組織風土の特徴
第10回：人材マネジメントにおけるメンタリングとは？　上司としてのふるまいとケア
第11回：リーダーシップとは？　組織をまとめる考え方と手法
第12回：よい人間関係とは？　人とのかかわりの理論と実践
第13回：人材マネジメントにおけるキャリアパスとは？　キャリアデザインの課題
第14回：これからの人材マネジメントとは？　人材マネジメントの課題
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　指定しない。講義では逐次プリントを配布する。
参考書　『企業内人材育成入門』　中原淳編　ダイヤモンド社

〔準備学習等〕
毎回，授業の最後に次の回の授業で使う資料を配布するので，翌週の授業までに必ず熟読してくること。

〔成績評価方法・基準〕
毎回の授業時に提出してもらうミニレポート（60%）と，まとめの試験（40%）を総合して評価する。

22 ベンチャービジネス論　Management of Venture Business

選択　２単位　前期　　４年１組　助　教　野澤　壽一

〔授業の達成目標〕
若い皆さんにはいろいろな可能性が広がっています。人生において重要な仕事も，企業に入社して力を発揮する方法もありますが，自ら起業して夢を実現する道を選ぶことも可能です。
この講義は，ベンチャービジネスの本質を理解すると共に，起業に際しての心得と知識の基本を習得します。

〔授業の概要〕
ベンチャービジネスは,「成長意欲の強い起業家に率いられたリスクを恐れない若い企業で,製品や商品の独創性,事業の独立性，社会性，さらに国際性をもった何らかの新規性のある企業」などと定義されるが，本講義では，未だ日本経済の大きな部分である大企業での社内ベンチャーや，大学発ベンチャーなど様々な形態のベンチャービジネス論をについて学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：ベンチャーとは何か？一般企業との違いは
～ベンチャーの定義～
第２回：シャープもソニーも元々は小さな企業だった
～企業経営の歴史～
第３回：HPもデルもヤフーもみんなベンチャーだった
～ベンチャー企業の歴史～
第４回：社内ベンチャー，大学発ベンチャーとは
～ベンチャー企業の形態　～
第５回：主役は起業家　～起業家の重要性～
第６回：起業家への５つの質問
～成功する起業家の条件～
第７回：ベンチャーは急成長しなければならない
～マネージメントの重要性～
第８回：どんな人を集めて，どんなチームをつくるのか
～ベンチャー企業の組織モデル～
第９回：やっぱりお金が必要です
～ベンチャーの資金調達と株式上場について～
第10回：夢と現実のてんびん
～ベンチャーのリスクと回避～
第11回：応援してくれる人々
～ベンチャー支援の為のインフラについて～
第12回：誰にも真似されないビジネスにする為に
～知的財産と関連法律～
第13回：起業への熱い思いの表現方法
～ビジネスプラン（事業計画）の立案～
第14回：起業するには
～ベンチャーの起業プロセス（会社設立）～
第15回：レポート課題『起業ビジネスプラン作成』

〔教科書・参考書等〕
教科書：『ベンチャー企業』　松田修一　日経文庫，『経営史』安部悦生　日経文庫
参考書：『イノベーションと企業家精神』P.F. ドラッカー　ダイヤモンド社

〔準備学習等〕
講義中に指示する教科書部分を熟読し，疑問点や意見を持って講義に臨むこと

23 知的財産論　Management of Intellectual Property Rights

選択　２単位　前期　　４年１組　非常勤講師　酒井　俊之

〔授業の達成目標〕
①知的財産の役割について理解する
②知的財産について関心を持ち、知的財産の視点でものごとを考えることができる
③権利化のおおまかな手続の流れを理解すると共に、権利化後の活用をイメージできる
④簡単な特許調査をすることができ、権利化や侵害の可能性について判断できる

〔授業の概要〕
本講義では，事業戦略を立てる際に知財戦略も併せて立案できるようその意義，出願プロセス，維持，活用についての基礎知識を習得する。デザイン，意匠など著作権を含む知財の権利化プロセスに加えて，特許防御，権利行使，ライセンス，クロスライセンスなど事業戦略に沿った活用を具体例を通じて概観する。諸外国の特許制度の比較にも触れる。

〔授業計画〕
第１回：知的財産権の役割
第２回：知的財産権制度について
第３回：企業における知的財産の活用事例
第４回：出願から権利化までの流れ
第５回：特許になる発明，特許情報・特許調査について
第６回：特許調査（IPDL）演習
第７回：発明の発掘・新しい発明を特許にするために
第８回：明細書の読み方・書き方
第９回：出願書類（明細書）作成演習
第10回：実用新案，意匠，商標の出願
第11回：外国における権利化（制度，調査，出願）について
第12回：知的財産の活用について（企業における知財戦略策定）演習
第13回：著作権法
第14回：営業秘密管理，コンプライアンス，契約の基礎
第15回：まとめと試験（レポート）

〔教科書・参考書等〕
①教科書：「産業財産権標準テキスト（総合編），（特許編）」（工業所有権情報・研修館発行）
②知的財産権法文集（発明協会）

〔準備学習等〕
①先行文献調査のため，インターネットを使用し，キーワード検索などができること
②毎回学習した内容を使って、どのような知財戦略が策定できるか、次回まで検討してくる

〔成績評価方法・基準〕
レポート（50％）および演習の成果（50％）を考慮して成績を評価する

24 交渉学　Negotiation Theory

選択　２単位　前期　　４年１組　非常勤講師　林　洋一郎

〔授業の達成目標〕
本講義は，目標は，以下の３点です。１）交渉やビジネス・コミュニケーションに関する心理学的な知識を身につけること，２）ビジネスにおける交渉の実際について学ぶこと，３）受講者自身のコミュニケーション能力や交渉力を高める“ヒント”を得るという３点です。

〔授業の概要〕
本講義は，主に心理学や経営学の観点から交渉，コミュニケーション，コンフリクト（葛藤）という問題について考えていきたいと思います。交渉，コミュニケーション，葛藤ということばは日常的にも使用しますが，日常語と学問用語との違いなどにも注目しながら丁寧に解説します。適宜，映像資料やエクササイズも導入したいと思います。

〔授業計画〕
第１回：イントロダクション
第２回：コミュニケーションの理論
第３回：エクササイズ①（情報伝達の正確性）
第４回：交渉とは何か
第５回：交渉の理論①（ゲーム理論／社会的ジレンマ）
第６回：交渉の理論②（組織的公正理論）
第７回：エクササイズ②（模擬交渉）
第８回：交渉における意思決定バイアス①（ヒューリスティック，フレーミングなど）
第９回：交渉における意思決定バイアス②（合理的思考VS.直感的思考）
第10回：集団力学①（社会的影響）
第11回：映像資料によるエクササイズ③（集団意思決定）
第12回：映像資料によるエクササイズ④（12人の怒れる男を観て）
第13回：集団間の交渉
第14回：事例分析
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
大渕憲一（編著）2008「紛争解決の社会心理学」ナカニシヤ出版
※掲示などにて改めてアナウンスする可能性もあります。

〔準備学習等〕
基礎的な心理学の知識があると講義に参加しやすいと思います。

〔成績評価方法・基準〕
授業内の小レポートと試験による

27 文書コミュニケーションA　Writing and Document Communication A

必修　２単位　前期　　２年１組　未　　定

〔授業の達成目標〕
効果的な文章の特徴と表現方法等についての理解を深める。

〔授業の概要〕
グローバル化と情報化が加速する現代社会では，ビジネスの場で高度なコミュニケーション能力が求められており，日本語と英語による文書の作成方法を学ぶ。具体的な目標は，メッセージを効果的に表現する文章表現の方法を身につけることである。そのために，入手した情報を分析，評価，整理することから始め，次にレトリックについて学ぶ。さらには，コミュニケーションの用途に応じて簡単な文章等を作成する方法を学んでいく。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：レトリック・コミュニケーションとは（定義，構成要素，特徴）
第３回：効果的なレトリックについて
第４回：コミュニケーションの目的とメッセージの作成
第５回：英語による文章表現　パラグラフ，主題文，支持文，まとめの文について
第６回：パラグラフの構成と演習
第７回：タイム・オーダーのパラグラフ
第８回：手続きや手順の説明のパラグラフ
第９回：出来事や体験を述べるパラグラフ
第10回：描写のパラグラフ
第11回：パラグラフ・ライティング演習
第12回：例証のパラグラフ
第13回：例を挙げるパラグラフの応用
第14回：パラグラフ・ライティング演習
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：初回の授業で指示する。
その他，必要に応じてハンドアウトを配布する。

〔準備学習等〕
教科書の関連箇所を読んでくる。

〔成績評価方法・基準〕
試験80％と課題20％を総合的に評価する。

28 文書コミュニケーションB　Writing and Document Communication B

必修　２単位　後期　　２年１組　未　　定

〔授業の達成目標〕
効果的な文章作成の技術を身につける。

〔授業の概要〕
「文書コミュニケーションＡ」で習得した知識をもとに，情報，意見等をより効果的に表現する文章表現の方法を身につけることを目標とする。具体的には，ビジネス場面を想定して各種メッセージの作成について学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：英語による文章表現　プロセス・ライティングとは
第３回：プロセスライティング　Idea generation
第４回：Organization と Outlining
第５回：First Draft
第６回：Rewriting
第６回：分類のパラグラフ
第７回：理由のパラグラフ
第８回：原因と結果のパラグラフを読んで分析する
第９回：原因と結果のパラグラフを書く
第10回：比較・対象のパラグラフ
第11回：パラグラフからエッセイへ
第12回：意見文を読んで分析する
第13回：意見文を書く
第14回：演習
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：初回授業で指示する。

〔準備学習等〕
教科書の関連箇所を読んでくる。

〔成績評価方法・基準〕
試験80％と課題20％を総合的に評価する。

31 キャリア・カウンセリング理論　Career Counseling Theory

選択　２単位　後期　　２年１組　非常勤講師　千葉　政典

〔授業の達成目標〕
キャリア（カウンセリング）に関する理論を学ぶと共に，将来の進路選択および，日常生活の中で応用できるようになること。

〔授業の概要〕
本講義では，キャリア・カウンセリング理論を中心に学び，加えて，将来，職業人として必要な①人間関係を形成する力（コミュニケーション能力），②意思決定する力，③情報を活用する力，④将来を設計する力を身につけることを目指す。講義を通じて労働安全衛生につながるメンタルヘルスに関しての知識，快適な職場を作るための対人関係の持ち方，問題解決の方法をカウンセリングの理論と実際を学び，それを身につけることを目標とする。

〔授業計画〕
第１回：キャリア理論①（過去－現在－未来について）
第２回：キャリア理論②（モラトリアムとは）
第３回：事例研究
第４回：人間関係形成力①（社会で求められる力について）
第５回：人間関係形成力②（ロールプレイング）
第６回：討論
第７回：意思決定について①（理論を学ぶ）
第８回：意思決定について②（理論を応用する）
第９回：ヘルピング①
第10回：ヘルピング②（実践）
第11回：情報の収集・分析
第12回：情報の整理・活用
第13回：キャリアを考える①（キャリアプランの作成）
第14回：キャリアを考える②（プレゼンテーション）
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
講義で随時紹介する。

〔準備学習等〕

〔成績評価方法・基準〕
成績評価基準として課題レポート（２回）30％，授業中に実施する小テスト（随時）40％，まとめの試験30％，に加え，学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

32 異文化コミュニケーションA　Intercultural Communication A

選択　２単位　前期　　２年１組　未　　定

〔授業の達成目標〕
文化とコミュニケーションの概念を把握し，異文化コミュニケーションの基礎を理論と実践を通して理解する。

〔授業の概要〕
背景文化が異なる相手と効果的にコミュニケーションを図るために，異文化コミュニケーションの理論を学ぶ。授業では，具体的なコミュニケーション・スキル（ここでは英語を想定してのスキル）と知識について，擬似体験の演習も交えて学習する。知識については，異文化コミュニケーションで不可欠である語用論の視点から認識を深める。評価は，定期テスト，課題，演習等を総合的に評価する。授業は講義形式で行う。

〔授業計画〕
第１回：「文化」と「コミュニケーション」の定義
第２回：文化とコミュニケーションの関係
第３回：異文化コミュニケーションの背景
第４回：言語と文化
第５回：非言語コミュニケーション
第６回：空間と時間の認識
第７回：通訳・翻訳と異文化コミュニケーション
第８回：「わたし」を定義する
第９回：「わたし」と相手とのかかわり
第10回：「わたし」と集団とのかかわり
第11回：カルチャーショック
第12回：信念，価値，規則
第13回：コミュニケーション能力
第14回：メディアと国際化
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』久米昭元・長谷川典子　有斐閣選書
参考書　自主資料

〔準備学習等〕
教科書を一通り読んでおくこと。復習として，講義内容と教科書を照らし合わせ理解すること。

〔成績評価方法・基準〕
課題レポート20％，授業中の演習で見せる理解度10％，まとめの試験70％を総合的に評価する。

33 異文化コミュニケーションB　Intercultural Communication B

選択　２単位　後期　　２年１組　未　　定

〔授業の達成目標〕
異文化コミュニケーションの実態を知りその可能性を探りながら，ケーススタディを通じて異文化コミュニケーション能力を養う。

〔授業の概要〕
「異文化コミュニケーションＡ」の知識をもとに，異文化コミュニケーションにおいて想定される具体的な場面の特徴と効果的なコミュニケーション方法について，擬似体験の演習も交えて学んでいく。すなわち，日常生活の場面およびビジネスの場面での幾つかの異文化コミュニケーションの例を取り上げる。評価は，定期テスト，演習等を総合的に評価する。授業は講義形式で行う。

〔授業計画〕
第１回：異文化コミュニケーションと国際社会
第２回：多民族・複合文化国家の実態と試み
第３回：演習・ケーススタディ１
第４回：異文化コミュニケーションと地域社会
第５回：日本語文化と英語文化
第６回：演習・ケーススタディ２
第７回：通訳・翻訳
第８回：非言語コミュニケーション演習
第９回：演習・ケーススタディ３
第10回：実生活と異文化コミュニケーション
第11回：人間関係と国際関係
第12回：演習・ケーススタディ４
第13回：異文化コミュニケーションの可能性
第14回：外国語教育
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』久米昭元・長谷川典子　有斐閣選書

〔準備学習等〕
教科書を一通り読んでおくこと。復習として，講義内容と教科書を照らし合わせ理解すること。

〔成績評価方法・基準〕
授業中の演習で見せる理解度30％，まとめの試験70％を総合的に評価する。

34 対人コミュニケーションA　Interpersonal Communication A

選択　２単位　前期　　２年１組　教　授　宮曽根美香

〔授業の達成目標〕
対人コミュニケーションについて，定義や構成要素および効果的な方法についての理解を深める。

〔授業の概要〕
１対１の対人（個人間）コミュニケーションの理論および基本的な構成要素について学び，効果的に対人コミュニケーションを行なうための方法を学んでいく。授業では，自分のコミュニケーションについて振り返り，コミュニケーションの定義とレベル，特徴，対人コミュニケーションの構成要素と特徴を理解する。さらに，言語および非言語メッセージについても触れ，それぞれの重要性を認識する。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：コミュニケーションモデルとコミュニケーションの特徴
第３回：対人コミュニケーションとは（定義・特徴）
第４回：対人コミュニケーションの構成要素
第５回：言語の特徴とインパクト
第６回：言語メッセージ
第７回：非言語コミュニケーションの特徴と機能
第８回：非言語コミュニケーションのタイプ
第９回：非言語メッセージ
第10回：まとめと試験
第11回：自己概念
第12回：コミュニケーションと自己概念
第13回：自己表現：アイデンティティー・マネジメントとしてのコミュニケーション
第14回：演習
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：『人間とコミュニケーション』原岡一馬編　ナカニシヤ出版 ¥2,400 ＋税
その他，必要に応じてハンドアウトを配布する。

〔準備学習等〕
教科書および資料の関連箇所を読んでくる。

〔成績評価方法・基準〕
試験（90％）と課題（10％）で総合的に評価する。

35 対人コミュニケーションB　Interpersonal Communication B

選択　２単位　後期　　２年１組　教　授　宮曽根美香

〔授業の達成目標〕
対人コミュニケーションに関する理論的知識を実生活に応用する力を養う。聴き方，話し方等についても学ぶ。

〔授業の概要〕
自他を尊重する聴き方，および自己表現の方法（アサーティブ・コミュニケーション）についての理論の学習と演習を行なう。そして職場を中心とした場合の聴き方，話し方についても学ぶ。さらに，異文化，家庭，職場でのコミュニケーションについて理解を深める。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：共生のためのコミュニケーション
第３回：アサーティブ・コミュニケーション
第４回：聴く目的と聴き方の種類
第５回：聴き手による反応の仕方
第６回：聴く演習
第７回：話すこと
第８回：話す演習
第９回：グループ・ディスカッション（意見の聴き方，述べ方，質問の仕方）
第10回：まとめと試験
第11回：感情とコンフリクト
第12回：文化とコミュニケーション
第13回：異文化間コミュニケーション
第14回：職場でのコミュニケーション
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：『人間とコミュニケーション』原岡一馬編　ナカニシヤ出版 ¥2,400 ＋税
その他，必要に応じてハンドアウトを配布する。

〔準備学習等〕
教科書および資料の関連箇所を読んでくる。

〔成績評価方法・基準〕
試験（90％）と課題（10％）で総合的に評価する。

36 ビジネス英語A　Business English A

選択　２単位　前期

３年１組　准教授　佐藤　夏子

〔授業の達成目標〕
ビジネス通信（手紙，FAX，電子メール）の基本，社交関係の英語（面会の申し入れ，ホテルの予約，慶弔など），雇用関係の英語（履歴書など）のビジネス通信文を作成できるようになる。電話での会話に習熟する。

〔授業の概要〕
ビジネス通信（手紙，FAX，電子メール）の基本を実例を見ながら学ぶ。社交関係，雇用関係のビジネス通信文を実際に作成する。
ビジネス通信文の例が出題されている TOEIC の練習問題にも取り組む。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：ビジネス通信の基本：手紙
第３回：ビジネス通信の基本：FAX
第４回：ビジネス通信の基本：電子メール
第５回：社交関係の英語：面会の申し入れ
第６回：社交関係の英語：面会の申し入れに対する対応
第７回：雇用関係の英語：履歴書
第８回：雇用関係の英語：応募の手紙
第９回：雇用関係の英語：推薦状
第10回：雇用関係の英語：面接と面接結果の通知
第11回：社交関係の英語：ホテルの予約
第12回：社交関係の英語：慶弔
第14回：課題の総括
第15回：総復習とまとめテスト

〔教科書・参考書等〕
教科書は初回授業までに指示する。
日商ビジネス英語検定２・３級公式模擬問題集
日商ビジネス英語検定３級公式テキスト（日本能率協会マネージメントセンター）
日商ビジネス英語検定２級公式テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
グロービッシュではじめる！ビジネス英語ライティング（三修社）

〔準備学習等〕
課題を必ずやって授業に臨むこと。

〔成績評価方法・基準〕
提出課題，定期試験，授業の参加態度総合的に評価する。カレッジ TOEIC の受験を必須とする。

37 ビジネス英語B　Business English B

選択　２単位　後期

３年１組　准教授　佐藤　夏子

〔授業の達成目標〕
社内関係の英語（物品の購入，社内研修予約，通知，案内など），社外取引関係の英語を（引き合い，注文，代金の回収，クレームと調整）に関するビジネス通信文を作成できるようになる。

〔授業の概要〕
社内の英語（物品の購入，社内研修，社外研修）社外取引関係の英語（引き合い，注文，代金の回収，クレームと調整）について，実際に文書を作成しながら学ぶ。
日商ビジネス英語検定の練習問題にも取り組む。

〔授業計画〕
第１回：社内の英語：物品の購入
第２回：社内の英語：社内研修の案内
第３回：社内の英語：社内研修の報告
第４回：社内の英語：日程の中間報告
第５回：取引関係の英語：引き合い
第６回：取引関係の英語：引き合いに対する返信
第７回：取引関係の英語：引き合い（２）カタログ請求
第８回：取引関係の英語：引き合い（３）資料請求
第９回：取引関係の英語：注文と交渉
第10回：取引関係の英語：注文と交渉に対する返信
第11回：取引関係の英語：代金の回収
第12回：取引関係の英語：クレーム
第13回：クレームに対する返信
第14回：課題の総括
第15回：総復習とまとめテスト

〔教科書・参考書等〕
教科書は初回の授業までに指示する。
日商ビジネス英語検定２・３級公式模擬問題集
日商ビジネス英語検定３級公式テキスト（日本能率協会マネージメントセンター）
日商ビジネス英語検定２級公式テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
グロービッシュではじめる！ビジネス英語ライティング（三修社）

〔準備学習等〕
課題を必ずやって授業に臨むこと。

〔成績評価方法・基準〕
提出課題，定期試験，授業の参加態度を総合的に評価する。

38 海外語学研修　Study English Abroad Program

選択　４単位　２年前期～４年後期

２～４年１組　教　授　宮曽根美香
准教授　佐藤　夏子
准教授　二瀬　由理
准教授　佐藤　飛鳥
未　　定

〔授業の達成目標〕
１．事前研修－海外で語学研修をするために必要な基本的知識とスキルを身につける。
２．現地語学研修－異文化理解を深め，コミュニケーション能力の向上を図る。日本文化と日本人としての自分を見直す。

〔授業の概要〕
１．事前研修
事前研修としての通常の講義では，海外での生活，ホームステイ，勉強法，プロジェクトワーク等について事前指導と準備を行う。
２．現地語学研修
オーストラリアクイーンズランド州にある大学の付属語学学校で行われる語学研修に参加し，英語レッスンに加えてプロジェクトワーク，プロジェクトワークに関するプレゼンテーションをする。異文化理解を深め，実際のコミュニケーション場面を体験しながらコミュニケーション能力の向上を目指す。帰国後は報告書の提出が必須である。

〔授業計画〕
１．事前研修（後期）
第１回：オリエンテーション
第２回：滞在する国及び地域について
第３回：自己紹介，グループワーク
第４回：英会話　①入国審査　②ホームステイ
第５回：〃　③食事
第６回：〃　④買い物
第７回：〃　⑤病気　他
第８回：プロジェクトワークグループ分け・準備
第９回：理論の学習と企画
第10回：企画についてのプレゼンテーション
第11回：企画の修正及び準備
第12回：最終確認
第13回：現地研修での諸問題と対応－適応と心の問題
第14回：最終準備
第15回：最終打ち合わせ
２．現地語学研修（２月～３月の間に実施予定）
第１回：オリエンテーション
第２回：自己紹介及び相手との情報共有の英会話
第３回：ホームステイでの生活に必要な表現及び語彙
第４回：場面及び機能に応じた会話
第５回：四技能の活動と演習
第６回：プレゼンテーションについての学習
第７回：オーストラリアの文化をまとめる
第７回：日本文化紹介
第８回：小学校訪問時の発表練習
第９回：小学校訪問の感想を述べ合う，感想を書く
第10回：プロジェクトワークのための視察
第11回：プロジェクトワークの準備
第12回：プロジェクトワークのプレゼンテーションの準備
第13回：プロジェクトワーク－プレゼンテーション（英語で発表）
第14回：まとめ
第15回：帰国後に報告書を作成，提出

〔教科書・参考書等〕
ハンドアウトを配布して，教科書として使用する。

〔準備学習等〕
資料の関連箇所を読んでくる。自分なりに情報収集をする。

〔成績評価方法・基準〕
参加姿勢，英語レッスン・プロジェクトワークの評価，及び帰国後の報告書を総合的に評価する。

40 表計算Ⅰ　Spreadsheet Ⅰ

必修　２単位　前期　　２年１組　教　授　小島　正美

〔授業の達成目標〕
実際にパソコンを使いながら，学んだことを体得できるようにする。そのことにより，実務資料を作成する際に必要となる技術を習得することを目指す。

〔授業の概要〕
本講義では，表計算や図表の作成など，エクセルの基礎的な操作技術を習得することを目指す。具体的には，表計算の考え方に始まり，表計算の行い方や表の種類・特徴などについて解説する。

〔授業計画〕
第１回：序論
第２回：ワークシート作成：基本概念
第３回：ワークシート作成：演習
第４回：セルの参照：相対参照
第５回：セルの参照：絶対参照
第６回：セルの書式設定：基本概念
第７回：セルの書式設定：演習
第８回：数式と関数利用：基本概念
第９回：数式と関数利用：平均値
第10回：数式と関数利用：偏差値
第11回：ヒストグラムの作成
第12回：データの変化をみるグラフ
第13回：データの構成をみるグラフ
第14回：グラフによるデータ分析
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
自作資料

〔準備学習等〕
エクセルの基本操作にどのようなものがあり，どのように活用されているかを調べておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
演習の成績および期末試験を総合して評価する。

41 ネットワークⅠ　Networking Fundamental Ⅰ

必修　２単位　前期　　２年１組　教　授　小島　正美

〔授業の達成目標〕
コンピュータをネットワークに接続して，データのやりとりを行うことにより，コンピュータの活用範囲が飛躍的に広がる。その仕組みを修得する。

〔授業の概要〕
本講義は，データのやりとりを行う仕組みについて，その基本となるクライアント／サーバシステムの仕組みおよび，共有したデータを有効に活用する方法について分かりやすく解説する。

〔授業計画〕
第１回：序論
第２回：コンピュータネットワークの活用
第３回：コンピュータネットワークの基本的な考え方
第４回：TCP/IP参照モデルと基本機能（１）：基本概念
第５回：TCP/IP参照モデルと基本機能（２）：実習
第６回：ネットワークアーキテクチュア基本技術（１）：基本概念
第７回：ネットワークアーキテクチュア基本技術（２）：実習
第８回：データリンク制御（１）：基本概念
第９回：データリンク制御（２）：実習
第10回：LAN技術（１）：基本概念
第11回：LAN技術（２）：実習
第12回：WAN技術
第13回：ワイヤレスネットワーク
第14回：演習
第15回：課題の総括

〔教科書・参考書等〕
自作資料・「コンピュータ概論－情報システム入門－」魚田編著，渥美，植竹，大曽根，森本，綿貫著，共立出版

〔準備学習等〕
ネットワークの構成にはどのようなものがあり，どのように活用されているかを調べておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
演習の成績40％および期末試験60％を総合して評価する。

42 データベースⅠ　Database Ⅰ

必修　２単位　前期　　２年１組　教　授　小島　正美

〔授業の達成目標〕
リレーショナルデータベースについての原理を修得する。

〔授業の概要〕
本講義は，リレーショナルデータベースの基本構造を理解し，表の作成，表のデータ操作の基本について，実際にデータベースを操作する言語SQL（Structured Query Language）について分かりやすく解説する。

〔授業計画〕
第１回：データベース・システムの基礎論
第２回：関係データベース・システムの基礎（１）：基本概念
第３回：関係データベース・システムの基礎（２）：モデル
第４回：関係データベース・システムの基礎（３）：演習
第５回：データベースの設計（１）：基本概念
第６回：データベースの設計（２）：モデル
第７回：データベースの設計（３）：演習
第８回：トランザクション処理
第９回：関係データベースの内部構造（１）：基本概念
第10回：関係データベースの内部構造（２）：演習
第11回：関係データベースの適用業務とチューリング（１）：基本概念
第12回：関係データベースの適用業務とチューリング（２）：演習
第13回：オブジェクト指向データベース
第14回：総合演習
第15回：課題の総括

〔教科書・参考書等〕
自作資料・「コンピュータ概論－情報システム入門－」魚田編著，渥美，植竹，大曽根，森本，綿貫著，共立出版

〔準備学習等〕
リレーショナルデータベースはどのようなところで利用され，どのような活用をされてるかを調べておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
演習の成績40％および期末試験60％を総合して評価する。

43 情報科学研修Ａ

Induction Course for Information Sciences A

選択　２単位　後期

３年１組　准教授　二瀬　由理
講　師　亀井あかね

〔授業の達成目標〕
受講生が，社会調査（研修テーマ・調査課題の設定，資料の収集・整理・分析，報告書の作成）を一通り経験することを通じて，実践的な調査能力を習得すること。

〔授業の概要〕
初めに共通の研修テーマを設定し，受講生各自が，そのテーマに沿う個別の調査課題を，既存研究の検討を通じて設定する。その後は，受講生各自で，資料を収集し，それを整理・分析し，報告書を作成する。その過程で，グループによる共同作業も予定している。（調査の企画，仮説構成，調査項目の設定，質問文・調査票の作成，対象者・地域の選定，サンプリング，調査の実施（調査票の配布・回収・面接），インタビューなどのフィールドワーク，フィールドノート作成，エディティング，集計，分析，仮説検証，報告書の作成，アプリケーション・ソフトを利用した量的データの統計的分析の実習，もしくは，質的データの分析ないし事例研究を行う実習も含む）「情報科学研修Ｂ」とあわせて履修することを条件とし，社会調査士資格認定科目【Ｇ】に相当する科目である。

研究テーマ／概要
＊選んだテーマは情報科学研修Ｂ履修時継続，担当講師変更不可
講師　亀井あかね
１．ソーシャルネットワークに関わるテーマ，２．健康・美容･ファッションに関する消費動向，３．サブカルチャー「メディアのあり方について，市民がメディアをどのようにとらえているかを明らかにした上で，ソーシャル・ネットワークに与える影響を検討する。もしくは，健康・美容・ファッションに関する消費動向調査により自己表現のあり方について検討する。」
准教授　二瀬由理
１．社会意識，階級意識について，２．社会階層と不平等・「社会階層論を基底に社会意識について調査する。」

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：調査企画
第３回：テーマ設定に関わる調査目的の整理
第４回：既存研究の第一報告書提出（課題１）
第５回：既存研究の第一報告書に関するフィードバック
第６回：既存研究の第二報告書提出（課題２）
第７回：既存研究の第二報告書に関するフィードバック
第８回：既存統計資料利用の検討
第９回：調査課題・既存研究の整理
第10回：仮説構成
第11回：調査設計
第12回：調査計画書の作成（課題３）
第13回：調査計画書の作成・提出（フィードバック）
第14回：調査計画に関するプレゼンテーション
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
各担当教員毎に別途掲示にて知らせる。

〔準備学習等〕
関連科目群より【Ａ】～【Ｄ】科目を事前に履修していることが望ましい。
本科目は社会調査士資格認定科目【Ｇ１】に相当し，【Ａ】～【Ｇ２】科目の履修･単位取得を要件とし，「社会調査士」資格の申請・取得が可能である。
関連科目群：　社会調査法【Ａ】・論理的思考法【Ｂ】，表計算Ⅱ【Ｃ】，統計学【Ｄ】，社会科学各論【Ｆ】，情報科学研修Ｂ【Ｇ２】

〔成績評価方法・基準〕
課題（３回）などを総合して判定する。

44 情報科学研修Ｂ

Induction Course for Information Sciences B

選択　２単位　前期

４年１組　教　　授　小島　正美
講　　師　亀井あかね
非常勤講師　青木　俊明

〔授業の達成目標〕
受講生が，社会調査（研究テーマ・調査課題の設定，資料の収集・整理・分析，報告書の作成）を一通り経験することを通じて，実践的な調査能力を習得すること。

〔授業の概要〕
初めに共通の調査テーマを設定し，受講生各自が，そのテーマに沿う個別の調査課題を，既存研究の検討を通じて設定する。その後は，受講生各自で，資料を収集し，それを整理・分析し，報告書を作成する。その過程で，グループによる共同作業も予定している（調査の企画，仮説構成，調査項目の設定，質問文・調査票の作成，対象者・地域の選定，サンプリング，調査の実施（調査票の配布・回収・面接），インタビューなどのフィールドワーク，フィールドノート作成，エディティング，集計，分析，仮説検証，報告書の作成，アプリケーション・ソフトを利用した量的データの統計的分析の実習，もしくは，質的データの分析ないし事例研究を行う実習も含む）。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：調査項目の選定
第３回：調査票の仮提出（フィードバック）
第４回：調査票の作成
第５回：フィールドワーク１：実査（調査票の配布）
第６回：フィールドワーク２：実査（調査票の回収）
第７回：調査票の整理
第８回：調査データのとりまとめ
第９回：調査報告書の仮提出
第10回：調査データの分析
第11回：既存研究の整理と調査課題のまとめ
第12回：調査報告書の作成（フィードバック）
第13回：調査報告書の作成・提出
第14回：調査結果報告プレゼンテーション
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
各担当教員毎に別途掲示にて知らせる。

〔準備学習等〕
「情報科学研修Ａ」（履修標準学年　３年次開講）との組合せで資格認定科目Ｇとする。情報科学研修Ｂは，情報科学研修Ａで作成した調査計画を用いて社会調査・分析，報告書作成を行う。情報科学研修Ａで学習した内容や調査計画について復習しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
報告書（60%），プレゼンテーション（40%）

〔履修条件〕
開講直前学期までに，次の科目の全てについて単位を修得していること。
１．社会調査法　２．論理的思考法　３．表計算Ⅱ
４．統計学　５．社会科学各論　６．情報科学研修Ａ
なお，この履修条件は平成 22 年度入学生より適用する。

45 情報化と経営

Information Technology and Management

選択　２単位　後期

３年１組　非常勤講師　吉田　　徹

〔授業の達成目標〕
組織の一員として企業活動に関連する固有の専門知識や専門技術を十分活用するためには，産業政策，経営理念，科学技術・管理技術等を良く理解して，世の中の変化に対応する必要がある。ものづくりの社会をケースにしてその考え方を学ぶとともに世の中の動きの情報媒体であるテレビや新聞並びに関係ある雑誌等の記事を読み解く力を身につける。

〔授業の概要〕
（ａ）企業組織の構造，経営活動の基本事項や，企業活動と情報システムの相互依存関係について（ｂ）企業活動を理解するうえで必要不可欠な企業会計の基礎知識について（ｃ）企業の実際の業務に最適な情報システムを実現するＩＥ分析手法とオペレーションズリサーチ法の基礎的技法について（ｄ）エンジニアリング分野における情報システム活用例について（CAD/CAD，POS システム等）（ｅ）情報化に関連する法制度および標準化の必要性と動向について（ｆ）セキュリテーに関する知識の習得と，セキュリテーの必要性について学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：施策の基本的な考え方の変化
第２回：ベルトコンベアからセル生産方式へ
第３回：ITによるモノづくり
第４回：多発する製造現場事故（失敗から学ぶ）
第５回：仕事の管理（業務とは・目標管理）
第６回：問題解決に向けて（QCストーリー）
第７回：会議とは（会議の進め方・ファシリテータの留意点）
第８回：会議に有効な手法（BS法・KJ法・その他）
第９回：品質管理総論（歴史・品質管理の基本的な考え方）
第10回：統計的手法の基本的な考え方（簡単なQCの７つ道具）
第11回：工程能力（ばらつきの活用：ヒストグラムと正規分布）
第12回：工程解析（ばらつきの活用：管理図）
第13回：品質保証概論と標準化，新工業標準化法（新JISマーク表示制度）
第14回：国際標準と国際承認（品質保証とISO9000sファミリー，評価に関する大きな動き）
第15回：技術経営（MOT）と技術者　特別課題の解析

〔教科書・参考書等〕
参考書：失敗学のすすめ（畑村洋太郎：講談社），品質管理を考える－日本の品質管理と ISO9000（久米　均：日本規格協会），百の論より一つの証拠－現場研究術（西堀栄三郎：日本規格協会）

〔準備学習等〕
自分でノートすることを基本としたパワーポイントの活用型講義を進める。新聞やテレビそして雑誌などの情報に留意すること。

〔成績評価方法・基準〕
講義終了後の課題小レポートを 50%，特別課題を 50%，および学習に取り組む姿勢を総合的に評価する。

46 統計学　Statistics

選択　２単位　後期　　２年１組　非常勤講師　塩谷　芳也

〔授業の達成目標〕
本授業は，統計的データをまとめたり分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識を習得することを目標とする。「社会調査において役立つこと」を念頭に，授業は組み立てられている。

〔授業の概要〕
講義形式である。統計学的知識の習得のために，演習問題を解いてもらう。公式の理解，基礎的な計算能力の習得とともに，社会調査（特に無作為抽出法による標本調査）において，それらの公式，計算がどのような意味を持つのか，どのように使われるのかの理解をめざす。そのため本授業は，計算能力だけではなく，社会調査の場における計算能力の運用能力の教育でもある。
社会調査士資格認定科目【D】に相当する科目である。

〔授業計画〕
第１回：社会調査と統計学１（量的調査における統計学の役割）
第２回：社会調査と統計学２（社会調査データに対する統計分析の実際）
第３回：確率論の基礎１（確率変数）
第４回：確率論の基礎２（正規分布）
第５回：基本統計量１（代表値）
第６回：基本統計量２（分散，標準偏差，変動係数など）
第７回：検定・推定理論とその応用（平均・比率の差，独立性の検定など）
第８回：抽出法の理論１（ランダムサンプリングとその理論的基礎）
第９回：抽出法の理論２（ランダムサンプリングと統計的検定）
第10回：属性相関係数（クロス表の統計量）
第11回：相関係数１（散布図と相関係数）
第12回：相関係数２（相関係数の応用）
第13回：変数のコントロールと偏相関係数
第14回：回帰分析の基礎
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
教科書：なし（適宜，資料・課題を配布する）
参考書：田中勝人「統計学」新世社　1998 年
吉田寿夫「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」　北大路書房　1998 年
縄田和満「Excel による統計入門（第2版）」朝倉出版　2000 年
宮川公男「基本統計学（第３版）」有斐閣　1999 年

〔準備学習等〕
社会調査データなどを紹介した新聞や雑誌をよく読み，どのような分析･解釈がなされているかを知っておくこと。高校程度の数学の知識を持っていることが望ましい。講義は毎回連続した内容を扱っていくため，しっかり復習を行うこと。その復習が，次の講義の予習にもなる。講義には，計算機（ルート計算ができるもの）と定規を持参すること。

〔成績評価方法・基準〕
授業へ取り組む姿勢・課題 40%，試験 60%で評価する。

47 社会調査法　Social Research

選択　２単位　前期　　２年１組　非常勤講師　土田久美子

〔授業の達成目標〕
受講生が，社会調査の意義と諸類型に関する基本的知識を習得することを目標とする。特に社会調査史，社会調査の目的，調査方法論，調査倫理，調査の種類と実例，量的調査と質的調査，統計的調査と事例研究法，国勢調査と官庁統計，学術調査，世論調査，マーケティング・リサーチなどのほか，調査票調査やフィールドワークなど，資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項に力点を置く。

〔授業の概要〕
講義形式で進む。練習問題を課すこともある。社会調査の類型論（量的／質的，直接／間接など）について講義した後，各類型についての解説に進む。量的調査の授業では，調査票調査を中心に，関連する統計学的知識についても講義する。統計学的知識の習得のために，計算問題を含む練習問題を課すこともある。質的調査の授業では，インタビュー調査，参与観察，既存文献の検討について基礎事項を講義する。調査倫理の授業では，近年問題となっている「調査公害」について解説し，調査対象者に対して害をなさないためにはどうすればいいのかを考える。
社会調査士資格認定科目【A】に相当する科目である。

〔授業計画〕
ガイダンス
第１回：社会調査の意義・用途社会調査の意義・用途の解説
第２回：社会調査の類型（１）量的調査（その意義・用途の実例を用いて）
第３回：社会調査の類型（２）質的調査（その意義・用途の実例を用いて）
第４回：社会調査の類型（３）直接的方法と間接的方法（その意義・用途の実例を用いた比較）
第５回：社会調査の類型（４）学術調査，世論調査，マーケティング・リサーチ（その意義・用途の実例を用いた比較）
第６回：調査票調査の歴史調査票調査の古典的業績の紹介と解説
第７回：調査票調査の方法（１）仮説の構築，調査票の作成の解説
第８回：調査票調査の方法（２）実査・データセットの作成の解説
第９回：調査票調査の方法（３）データの分析・報告書の作成の解説
第10回：インタビュー調査の歴史・方法インタビュー調査におけるデータ収集・分析・解釈などの方法の解説と古典的業績の紹介
第11回：フィールドワークの歴史・方法インタビュー調査におけるデータ収集・分析・解釈などの方法の解説と古典的業績の紹介
第12回：既存統計資料の活用（１）各種調査（国勢調査，官庁統計および新聞社・調査会社等の民間調査機関の調査）の特性と歴史についての解説
第13回：既存統計資料の活用（２）各種調査（国勢調査，官庁統計および新聞社・調査会社等の民間調査機関の調査）結果の利用法についての解説
第14回：調査倫理調査倫理の基本事項の解説および現在の争点の紹介
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
授業時にプリントを配布する。教科書・参考書等は，授業開始時に連絡する。

〔準備学習等〕
毎回授業前に復習してくること。

〔成績評価方法・基準〕
授業へ取組む姿勢 30 点，小テスト 10 点，試験 60 点。授業中に小テストを課すこともある。試験では，知識の暗記ではなく，抽象的思考・論理的思考と結合した知識の運用能力をみる。そのため単位取得には，かなりハードな復習が必要となると思われる。

49 経営コミュニケーションセミナーⅡ　Management and Communication Seminar Ⅱ

必修　２単位　後期　　３年１組　全教員

〔授業の達成目標〕
進路決定に関する望ましい姿勢と知識を身につける。長期的なビジョンに立ち，自分の人生のキャリアデザインができるようになること。また，そのために必要な知識と姿勢を身につけること。

〔授業の概要〕
学生は，各教員の研究室に配属される。各教員は配属された学生の学業および大学生活についての相談役の役割を担う。セミナーは，全体セミナーおよび個別の研究室別に行い，その中で，経営･コミュニケーションについて学ぶ。また，将来の進路について考える機会を与え，必要な進路支援を行う。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：個別セミナー
第３回：支援セミナー
第４回：支援セミナー
第５回：支援セミナー
第６回：支援セミナー
第７回：支援セミナー
第８回：個別セミナー
第９回：支援セミナー
第10回：支援セミナー
第11回：支援セミナー
第12回：支援セミナー
第13回：支援セミナー
第14回：個別セミナー
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
特になし。必要に応じて知らせる。

〔準備学習等〕
配属された担当教員から，予習すべき内容，復習すべき内容が提示される。指定された内容を確実にこなすことが望まれる。

〔成績評価方法・基準〕
以下の評価項目に従って単位認定を行う。
積極性（参加の姿勢）と成果の質の高さ（課題の内容）。

50 経営コミュニケーション研修Ａ

Graduation Thesis Research A in Management and Communication

必修　２単位　前期

４年１組　全教員

〔授業の達成目標〕
各人の問題意識に従い，卒業研究の構想をまとめ，中間的な発表ができること。

〔授業の概要〕
構想発表会に向けて，３年次まで学んできたことをもとに，経営学またはコミュニケーション学の分野において自分の関心のあるテーマを設定し，研究を行う。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：各教員による研究指導
第３回：同上
第４回：同上
第５回：同上
第６回：同上
第７回：同上
第８回：同上
第９回：同上
第10回：同上
第11回：同上
第12回：構想発表会
第13回：構想発表会
第14回：構想発表会
第15回：まとめの指導

〔教科書・参考書等〕
各指導教員の指示による。

〔準備学習等〕
各指導教員の指示による。

〔成績評価方法・基準〕
研修への参加状況，構想発表会に向けての調査・準備状況，構想発表会でのプレゼンテーションなどにより総合的に評価する。

51 経営コミュニケーション研修Ｂ

Graduation Thesis Research B in Management and Communication

必修　４単位　後期

４年１組　全教員

〔授業の達成目標〕
経営コミュニケーション研修Ａで得られた構想に基づき，卒業研究をまとめる。さらに研究発表を行う。

〔授業の概要〕
経営コミュニケーション研修Ａで得られた構想に基づき，研究をさらに進める。中間発表会および発表会で成果を報告する。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション
第２回：各教員による研究指導
第３回：同上
第４回：同上
第５回：同上
第６回：同上
第７回：中間発表会
第８回：中間発表会
第９回：中間発表会
第10回：各教員による研究指導
第11回：同上
第12回：同上
第13回：同上
第14回：発表会
第15回：発表会

〔教科書・参考書等〕
各指導教員の指示による。

〔準備学習等〕
各指導教員の指示による。

〔成績評価方法・基準〕
研修への参加状況，中間発表会・発表会におけるプレゼンテーション，卒業研究の完成度などにより総合的に評価する。

52 経営コミュニケーション特別講義

Management and Communication Special Lectures

選択　２単位　後期

３年１組　准教授　佐藤　夏子　　非常勤講師　田中　昌志
非常勤講師　吉田　　徹　　非常勤講師　佐藤　郁雄
非常勤講師　赤間　裕子　　非常勤講師　久保　順也
非常勤講師　渡辺　一馬　　非常勤講師　菅野　光憲

〔授業の達成目標〕
職務遂行において，最もコミュニケーション能力が重要となる職業を知ることにより，コミュニケーションの重要性を認識する。また，主体性を持って職業選択を行えるよう，将来の目標を立てながら，職業観を養う。

〔授業の概要〕
コミュニケーション力を生かして第一線で活躍しているアナウンサー，DJ，新聞記者，編集者，作家，舞台監督，コミュニケーション関連の研究者などの多彩な講師を招き，実体験に基づいた講演を聞いたり，ワークショップに参加する。自分が実際にその仕事に就くかどうかにかかわらず，自分の一つの可能性として講師の立場に自分を置き換えてもらう。聴講後，レポートの提出がある。

〔授業計画〕
第１回：英語による異文化コミュニケーション（佐藤夏子）
第２回：コミュニケーション一つで人生は変わる
－毎日は選択で溢れている－（菅野光憲）
第３回：コミュニケーション一つで人生は変わる
－具体的な一歩の踏み出し方（菅野光憲）
第４回：効果的な会議について（吉田徹）
第５回：発想の代表的な手法（吉田徹）
第６回：起業するということ（佐藤郁雄）
第７回：経営コミュニケーションとは顧客創造である（佐藤郁雄）
第８回：好印象を与えデキると認められる声と話し方(1)（赤間裕子）
第９回：好印象を与えデキると認められる声と話し方(2)（赤間裕子）
第10回：人を支援するコミュニケーション：カウンセリングに学ぶ(1)（久保順也）
第11回：人を支援するコミュニケーション：コーチングに学ぶ(2)（久保順也）
第12回：仕事のつくりかた(1)私の仕事のつくり方（渡辺一馬）
第13回：仕事のつくりかた(2)あなたの仕事の作り方（渡辺一馬）
第14回：地域一番店としての藤崎百貨店（田中昌志）
第15回：百貨店はコミュニケーションそのもの（田中昌志）

〔教科書・参考書等〕
教科書は使用しない。参考書は，講義時に講師が指示する。

〔準備学習等〕
各講師につき，１本のレポートを課す。レポートは各講師の講義終了後２週間後が締め切りとなる。講義に出席していなければレポートの提出資格がないため，注意すること。

〔成績評価方法・基準〕
８本のレポートの成績によって総合的に評価する。

53 経営コミュニケーション特別課外活動

Off-class Practice in Management and Communication

選択　４単位　１年前期～４年後期

全学年１組　教　授　渡部　順一

本学科の専門に関連の深い資格取得，検定等の合格，および学科が指定する課外活動に対して本人が単位申請を行った場合，学科で審査の上，専門科目（経営コミュニケーション特別課外活動）」もしくは教養教育科目（特別課外活動Ⅰ・Ⅱ）として最大４単位の範囲内で単位認定を行う。

１．資格の取得による単位認定

本学科の専門に関連のある資格を取得した場合，あるいは検定に合格した場合は「経営コミュニケーション特別課外活動」か，教養教育科目の「特別課外活動」のいずれかに申請できる。どちらの科目に申請するかは本人が選択することとする。どのような資格や検定が「経営コミュニケーション特別課外活動」の対象となるかは学科が個別に判断するが，代表的なものとしてシラバスの該当箇所の説明を参考にすること。
たとえば，インターンシップなどが該当する。

２．集中講義や学外講演会などへの参加による単位認定

認定対象となる集中講義や講演会，オープンカレッジなどがある場合は，開催日時および申請方法を事前にガイダンスするので，申請希望者は随時申し込むこと。
本年度開講する集中講義は，
２年次セミナー
３年次セミナー
である。

３．単位認定の申請および認定

単位認定を希望する学生は，学科事務室に申し出て「経営コミュニケーション特別課外活動単位認定申請書」を受け取り，必要事項を記入して学科事務室へ提出すること。申請は毎学期末（７月末，１月末）とする。
なお単位認定及び評価の方法はシラバス該当箇所の方法に準じて行う。

54 マクロ経済学

Macroeconomics

必修（経営コース）２単位　前期
選択（コミュニケーションコース）２単位　前期

３年１組　教　授　金井　辰郎

〔授業の達成目標〕
初級のマクロ経済学の概要を理解する。財市場・貨幣市場・労働市場の同時均衡の仕組みを理解でき，財政政策や金融政策の影響を論ずることができるようにする。

〔授業の概要〕
本講義では，マクロ経済学の初級部分を概説する。前提知識としては微分の意味がわかればそれでよく，ほとんどはグラフ的方法により説明される。途中２回の問題演習の回を設け，知識の定着をはかる。

〔授業計画〕
第１回：国民所得とは何か
第２回：消費・貯蓄・投資
第３回：消費関数と総需要関数
第４回：45度線図の意味
第５回：貯蓄関数と投資関数
第６回：均衡国民所得・インフレ／デフレギャップ
第７回：問題演習
第８回：利子率を変数にした投資関数・貯蓄関数の復習
第９回：IS曲線の導出
第10回：貨幣保有の動機
第11回：貨幣需要関数と貨幣供給関数
第12回：LM曲線の導出
第13回：経済政策の効果
第14回：問題演習
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：自作の講義ノートを配付する。
参考書：マンキュー『マクロ経済学Ⅰ　入門編』，東洋経済新報社，1996 年

〔準備学習等〕
高校数学の数Ⅱレベルの内容を復習しておくこと。予習として，次回講義分の講義ノートの記述をよく読んでおくこと。復習として，授業時に配布される練習問題を解くこと。

〔成績評価方法・基準〕
小テスト・レポート（40%）＋試験（60%）で評価する。

55 国際経済論

International Economics

必修（経営コース）２単位　後期
選択（コミュニケーションコース）２単位　後期

３年１組　非常勤講師　浅沼　大樹

〔授業の達成目標〕
現代の世界経済における国際貿易・国際資本移動の基本的特徴を把握する。
その特徴を把握するための基礎となる理論を理解する

〔授業の概要〕
ボーダレス社会と言われる現在，自国の経済状況は国内的要因によってのみ決定されるのではなく，国際的要因によって大きく左右される。本講義では，国際経済の動向を読み解くための基礎的な知識を実際の国際取引の例を取り込みながら解説する。

〔授業計画〕
第１回：Introduction；グローバル化とは何か？国際経済を学ぶことの意味
第２回：グローバル化と経済成長および貧困
第３回：国際貿易と世界市場の統合
第４回：国際貿易の理論；リカードゥモデル：モデルの設定
第５回：国際貿易の理論；リカードゥモデル：比較優位の意味
第６回：国際貿易の理論；リカードゥモデル：自由貿易と貿易の利益
第７回：国際貿易の理論；ヘクシャー・オリーンモデル：モデルの設定（リカードゥモデルとの違い）
第８回：国際貿易の理論；ヘクシャー・オリーンモデル：比較優位と資源賦存量との関係
第９回：国際貿易の理論；ヘクシャー・オリーンモデル：本モデルにおける貿易の利益
第10回：第２次大戦後の国際資本移動の傾向
第11回：国際資本移動と国際分業の深化
第12回：国際通貨体制の歴史
第13回：固定相場制と変動相場制
第14回：国際資本移動と経済危機
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
参考書　大川昌幸（2007）『コア・テキスト　国際経済学』（新世社）
佐藤秀夫（2007）『国際経済－理論と現実－』（ミネルヴァ書房）

〔準備学習等〕
ミクロ経済学の知識を有していることが望ましい。常日頃，新聞の国際面に目を通すようにして下さい。

〔成績評価方法・基準〕
レポート 20%，試験 80%

56 簿記・財務諸表論　Bookkeeping and Financial Statements

必修（経営コース）２単位　前期
選択（コミュニケーションコース）２単位　前期

３年１組　教　授　土田　義憲

〔授業の達成目標〕
簿記・財務諸表・経営分析の基本的な知識を得る。

〔授業の概要〕
企業会計は，企業外部の利害関係者に対して会計情報を提供することを目的とする財務会計と，企業内部に対して経営管理に役立つ会計情報を提供する管理会計に分類されるが，本講義では財務会計の基礎を学ぶ。損益計算書，貸借対照表，キャッシュフロー計算書からなる財務諸表の構造に慣れることから始め，経営の健全性を判断するための財務分析の手法にも触れる予定である。

〔授業計画〕
第１回：複式簿記の構造
第２回：複式簿記の一巡の手続き
第３回：仕入と原材料
第４回：生産活動と製品
第５回：販売とアフターセールスサポート
第６回：設備投資と減価償却
第７回：資金調達
第８回：資金運用
第９回：給与，賞与，退職金
第10回：法人税等と繰延税金
第11回：発生主義と実現主義
第12回：費用収益対応と費用配分
第13回：財務諸表の作成
第14回：連結財務諸表の作成
第15回：財務分析

〔教科書・参考書等〕
テキスト：　毎回レジュメを配布する。
参考書・参考資料：　日商簿記２級，３級テキスト

〔準備学習等〕
基本的に次回のレジュメを事前に配布するので，予習としてレジュメを読んでおく，復習として講義内容の理解を深める。講義では練習問題の答練を適宜取り入れる。

〔成績評価方法・基準〕
小テストおよびレポート50％＋期末テスト50％で評価する。

57 財務管理・管理会計論　Corporate Finance and Management Accounting

必修（経営コース）２単位　後期
選択（コミュニケーションコース）２単位　後期

３年１組　教　授　土田　義憲

〔授業の達成目標〕
簿記・財務諸表の基礎を踏まえて，管理会計についての基本的な知識を得ることを目標とする。

〔授業の概要〕
本講義では，企業内部に対して経営管理に役立つ会計情報を提供することを目的とする管理会計の基礎を学ぶ。主な内容は，原価計算法，損益分岐点分析，部門および全社の業績評価，投資に対するリターンの分析手法とそれに基づく意思決定などがある。近年，企業価値の最大化が企業の最も重要な目標とされ，事業活動と金融市場の関わりが深まっていることから企業財務の基本についてもふれる。

〔授業計画〕
第１回：原価計算の種類と目的
第２回：原価要素の計算
第３回：部門費の計算と補助部門費の配賦
第４回：個別原価計算
第５回：単純総合原価計算
第６回：工程別総合原価計算
第７回：等級別・組別総合原価計算
第８回：標準原価計算の目的と原価標準
第９回：標準原価計算と原価管理
第10回：原価差異の分析と部門別業績評価
第11回：直接原価計算と損益分岐点分析
第12回：プロダクトミックス
第13回：投資意思決定
第14回：事業撤退
第15回：企業価値の評価

〔教科書・参考書等〕
テキスト：毎回レジュメを配布する。
参考書・参考資料：都甲和幸・白土英成「やさしくわかる原価計算」，久保豊子「図解でわかる原価計算一番最初に読む本」，柴山政行「最新原価計算の基本と仕組みがよ～くわかる本」のいずれか一つ

〔準備学習等〕
基本的に次回のレジュメを事前に配布するので，予習として，次回講義内容をよく読んでおく，復習として講義の内容の理解を深める。講義では練習問題の答練を適宜取り入れる。

〔成績評価方法・基準〕
小テストおよびレポート50％ +期末試験50％で評価する。

58 実践マネジメント研修　Advanced Management Field Work

必修（経営コース）２単位　前期
選択（コミュニケーションコース）２単位　前期

３年１組　助　教　野澤　壽一

〔授業の達成目標〕
マネジメントの中でも重要な，組織マネジメント，技術マネジメント，プロジェクトマネジメントの本質を理解すると共に，経営者がどのような考え方でマネジメントを実践しているかをモデルケースなどにより習得し，あらゆる問題に対して的確なマネジメントができる能力を習得する。

〔授業の概要〕
マネジメントの本質を理解し，リーダーシップのあり方や企業における経営戦略手法を習得する為に（狙い），企業活動の事例を研究しながら，経営者としての考え方，組織並びに技術のマネジメント手法等について学ぶ。（具体的手法）本研修によりマネジメント人材に必要不可欠な，自ら考え行動，決断できる自立型人間としての資質，能力を高める効果が期待される。（期待される効果）

〔授業計画〕
第１回：マネジメントとは何か？　～マネジメントの重要性～
第２回：組織マネジメントとは？
第３回：マネジメント事例研究①（スーパー正直屋）
第４回：マネジメント事例研究②（オリエンタルランド）
第５回：マネジメント事例研究③（リッツカールトン大阪）
第６回：マネジメント事例研究④（組織マネジメントの本質）
第７回：技術マネジメントとは？
第８回：マネジメント事例研究⑤（デジタルカメラ）
第９回：マネジメント事例研究⑥（ウォシュレット）
第10回：マネジメント事例研究⑦（カップヌードル）
第11回：プロジェクトマネジメントとは？
第12回：マネジメント事例研究⑧（セブンイレブンジャパン）
第13回：マネジメント事例研究⑨（ヤマト運輸宅急便）
第14回：課題『マネジメント提案』
第15回：課題発表会

〔教科書・参考書等〕
随時資料配布

〔準備学習等〕
日常生活において接する企業，事業がどのようなマネジメントをしているのか？を注意深く観察し，疑問点などを持って講義に望むこと。

〔成績評価方法・基準〕
研修間に課す課題レポート及び最終回に実施する課題『マネジメント提案』とを総合評価し単位認定する。

59 表計算Ⅱ　Spreadsheet Ⅱ

必修（経営コース）１単位　前期
選択（コミュニケーションコース）１単位　前期　　３年１組　准教授　二瀬　由理

〔授業の達成目標〕
エクセルの中級程度の技術を習得することを目指す。具体的には，複雑な図表の作成方法マクロの使用方法などを学ぶ。

〔授業の概要〕
表計算において，関数の使用方法，複雑な図表の作成方法，マクロの使用方法などを演習形式で実践的に学ぶ。
主に演習形式を採用し，大量の数値データを取り扱うときの留意事項についても解説を行う。また，各自が自分の到達度を把握できるようにするため，講義の節目毎に課題に取り組んでもらう予定である。これらの作業を通じて，エクセルの実践的な知識の習得を目指す。
社会調査士資格認定科目【C】に相当する科目である。

〔授業計画〕
第１回：表の作成と設定（１）：講義の概要，統計資料の整理（１）
第２回：表の作成と設定（２）：統計資料の整理（２）
第３回：数式の入力と編集（１）：基本的統計概念（１）平均・分散・標準偏差
第４回：数式の入力と編集（２）：基本的統計概念（２）平均・分散・標準偏差
第５回：グラフの作成（１）：記述統計データの読み方・計算・作成方法（１）単純集計・度数分布
第６回：グラフの作成（２）：記述統計データの読み方・計算・作成方法（２）代表値
第７回：グラフの作成（３）：記述統計データの読み方・計算・作成方法（３）クロス表
第８回：中間テスト（またはレポート）
第９回：関数の活用法（１）：因果関係・相関関係
第10回：関数の活用法（２）：因果関係と相関関係の区別
第11回：関数の活用法（３）：擬似相関の概念
第12回：マクロの作成と活用法（１）
第13回：マクロの作成と活用法（２）
第14回：マクロの作成と活用法（３）
第15回：まとめと試験　さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方

〔教科書・参考書等〕
教科書：自作プリント
参考書：「すぐ分かる EXCEL による統計解析」　内田治著，東京図書

〔準備学習等〕
予習として，次回講義分の教科書の記述をよく読んでおき，自分で理解できる部分と理解できない部分を把握して講義に臨むこと。復習として，講義の内容を自分自身で確かめてみること。

〔成績評価方法・基準〕
中間試験，定期試験，レポート等の結果等を綜合的に勘案し評価する。

60 データベースⅡ　Database Ⅱ

必修（経営コース）１単位　前期
選択（コミュニケーションコース）１単位　前期　　３年１組　准教授　二瀬　由理

〔授業の達成目標〕
データベースの目的を理解し，代表的なリレーショナルデータベース言語である「SQL」を使用した演習などを通して，データベースの構造，設計方法，操作方法等を理解する。

〔授業の概要〕
関係データベースを記述する言語である SQL 言語による表の作成，基本操作などの演習により，SQL 言語を理解するとともに，より良いデータベースの設計，構築，操作について学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：データベースの目的
第２回：データベースのモデル
第３回：データの分析
第４回：データベース言語
第５回：データベース言語SQLとSQLの構成
第６回：データベースの定義とデータの制御・投入
第７回：データベースの操作(1)データベース作成と表の操作
第８回：データベースの操作(2)データの入力・変更・削除
第９回：データベースの操作(3)データの検索
第10回：データベースの操作(4)表の結合
第11回：中間試験（またはレポート）
第12回：データベース管理システム
第13回：データベースの応用(1)ビューの使用
第14回：データベースの応用(2)トランザクション管理
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　「明快入門 SQL」　林　春比古　著，ソフトバンククリエイティブ（株）
参考書　「リレーショナルテータベース入門」　増永良文著，サイエンス社

〔準備学習等〕
予習として，次回講義分の教科書の内容をよく読み，内容を把握しておくこと，また，講義で学んだ内容は，新しいことを学ぶ前に，復習しておくこと。

〔教科書・参考書等〕
随時授業中に行う確認テストおよび授業中に提示する課題（20%）と学期末テスト（80%）の成績に基づいて評価する。

61 ネットワークⅡ　Network Ⅱ

必修（経営コース）１単位　前期
選択（コミュニケーションコース）１単位　前期　　３年１組　非常勤講師　北島　宏之

〔授業の達成目標〕
現在では日常となったコンピュータネットワーク技術について，オフィスや公共施設，家庭内での利用も踏まえその原理や仕組みを理解し習得する。

〔授業の概要〕
オフィスや公共施設，家庭内など，現在では日常となり実際に利用されているコンピュータネットワーク技術の仕組みや原理，また具体的事例を通じてそれらの管理や利用について学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：イントロダクション
第２回：情報とデータ
第３回：インターネット
第４回：ネットワークとホスト
第５回：IPアドレスとMACアドレス
第６回：TCPとUDP
第７回：ネットワークサービス
第８回：ドメイン
第９回：ウェブサービス
第10回：eメールサービス
第11回：ファイル転送とファイル管理
第12回：様々なネットワークサービス
第13回：ネットワークの脅威
第14回：ネットワークセキュリティ
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　「図解　ズバッとわかるTCP ／ IP超入門」　並木秀明　（株）技術評論社
参考書　「windowsネットワーク構築ガイドブック」セイエー，井上孝司　（株）毎日コミュニケーションズ

〔準備学習等〕
前週に学んだ内容を復習し，次回講義分の教科書の記述をよく読み，関連性を把握しておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
レポート30%，まとめの試験70%，および学習に取り組む姿勢を総合的に判断する。

62 社会科学各論　Specialized Social Sciences

必修（コミュニケーションコース）２単位　前期
選択（経営コース）２単位　前期

３年１組　非常勤講師　新田　貴之

〔授業の達成目標〕
社会科学の中でも，主に社会学の方法論に焦点を絞って，質的な社会調査について理解を得る。授業の形式としては，後半，調査の進行プロセスに沿って追体験しながら，「調べ」て「読み」，「分析」したものを「書く」という社会調査の方法を身につけることになる。技術的な意味でさまざまな分析アプローチを使えるようになるだけではなく，調査行為そのものについての再帰的な思考に習熟することが最終的な目標である。

〔授業の概要〕
さまざまな質的データの収集や分析方法について解説する科目。聞き取り調査，参与観察法，ドキュメント分析，フィールドワーク，インタビュー，ライフヒストリー分析，会話分析の他，新聞記事などのテキストに関する質的データの分析法（内容分析，他）など。社会調査士資格認定科目【Ｆ】に相当する科目である。

〔授業計画〕
第１回：社会調査の目的
第２回：質的方法についての概説
第３回：調査と理論
第４回：質的方法と量的方法
第５回：分析技法（１）観察法，非構造的インタビュー
第６回：分析技法（２）ドキュメント分析，テキスト分析
第７回：分析技法（３）エスノメソドロジー
第８回：分析技法（４）構造分析，グラウンデッドセオリー
第９回：分析技法（５）アクションリサーチ
第10回：調査の設計（問題，方法，仮説，調査項目）
第11回：調査の準備（理論的サンプリングと事例研究）
第12回：本調査
第13回：調査の記録（フィールドノート・機器による）
第14回：データの分析とレポートの作成
第15回：質的調査と調査倫理，まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
特に使用しない。参考文献は授業前に適宜紹介する。

〔準備学習等〕
どのような調査が行われているのかという観点から，新聞やニュースに目を通すことが望ましい。

〔成績評価方法・基準〕
授業中の小テスト（30%），期末の論述レポート（70%）等を総合して判定する。

63 身体表現研究　Studies of Perfomance Art

必修（コミュニケーションコース）２単位　後期
選択（経営コース）２単位　後期

３年１組　准教授　猿渡　　学

〔授業の達成目標〕
コミュニケーションについての実践的な講義である。身体の使い方や発声，呼吸法等を行いつつ，エチュードなどを通して，コミュニケーションと身体表現との関係を理解する。

〔授業の概要〕
身体を用いるコミュニケーションを中心に，対人関係における発話法や複数場合の対処法等を，理論を通して実践的に学ぶ。

〔授業計画〕
第１回：身体論概観
第２回：身体の構造と発声方法
第３回：行為と身体
第４回：身体的表現について
第５回：これからのコミュニケーションについて
第６回：身体表現の実践（１）－発声練習－
第７回：身体表現の実践（２）－漫才，コントを用いたオーディエンスを意識したパフォーマンス－
第８回：身体表現の実践（３）－発声練習とエチュード－
第９回：映像における身体表現
第10回：身体表現の実践（１）－心と身体の統合・ヨーガの原理－
第11回：身体表現の実践（２）－心と身体の統合・ヨーガの実践－
第12回：身体表現の実践（３）－実生活で生かす心身の統合術－
第13回：古典芸術にみる身体表現－歌舞伎・能・狂言にみる歴史的展開－
第14回：芸能にみる身体表現－落語・漫才にみる「間」－
第15回：身体表現研総論－まとめと試験－

〔教科書・参考書等〕
教科書：特に指定なし
参考書：『身体論のすすめ』（京大人気講義シリーズ）
『新しい舞踏が生まれるまで　ルドルフ・ラバン』（大修館書店）

〔準備学習等〕
演劇やパフォーマンスなどを鑑賞し，さらにリポートを提出すること。詳細は掲示などにより指示する。

〔成績評価方法・基準〕
講義への積極的な参加を重視し，平常点（課題の提出状況など）と期末レポート（作品発表など）で評価する。成績評価基準として平常点 20%，最終レポート 80%の配分で評価する。

64 映像表現Ⅰ　Film Studies Ⅰ

必修（コミュニケーションコース）２単位　前期
選択（経営コース）２単位　前期

３年１組　准教授　猿渡　　学

〔授業の達成目標〕
映像編集ソフトの基本的な使い方・ビデオカメラなど映像機器の特性なども修得し，自らの主張内容を映像で表現できることを目指す。個人並びにグループ制作によるワークとなる。

〔授業の概要〕
コミュニケーションスキルの一つとしての「映像言語」の可能性を，ことばと映像の文法的な関連性の教授を通して理解することを目的とする。ことばによるメッセージと映像によるメッセージの効果の差異を理解し，テーマの設定とシナリオの構築を，講義の中で学習し具体的に提案させる。映像化を前提とするため，映像編集ソフトの基本技術・デジタルビデオカメラなど映像機器の技術的理解や特性の習得を促す。

〔授業計画〕
第１回：映像メディア概論
第２回：映像映写技術と映像撮影技術の歴史
第３回：デジタル映像機器について
－カメラの構造（一眼レフを基軸として）－
第４回：デジタル映像機器について－撮影の実践－
第５回：音声収録について－サウンドの基礎－
第６回：編集についての基礎知識
－編集とは何か：モンタージュ理論を軸に－
第７回：編集の実践－
第８回：エフェクトの使い方
第９回：作品化へのプロセス
第10回：作品制作の基礎知識と実践－企画立案－
第11回：作品制作の基礎知識と実践－プリプロダクション－
第12回：作品制作の基礎知識と実践
－作品に応じた機材選定とフォーマット－
第13回：作品制作の基礎知識と実践－撮影について－
第14回：作品制作の基礎知識と実践－編集を効率よく行うためのプロセス確認－
第15回：作品の完成に向けて

〔教科書・参考書等〕
自作プリントを配布する

〔準備学習等〕
30 秒間の自己紹介ビデオ映像作品を制作すること。

〔成績評価方法・基準〕
講義への積極的な参加を重視し，平常点（課題の提出状況など）と期末レポート（作品発表）で評価する。成績評価基準として平常点 20%，最終レポート 80%の配分で評価する。

65 映像表現Ⅱ　Film Studies Ⅱ

必修（コミュニケーションコース）１単位　後期
選択（経営コース）１単位　後期

３年１組　准教授　猿渡　　学

〔授業の達成目標〕
「映像表現Ⅰ」で学んだ，テーマを的確に伝える手法を，10分から15分のショートフィルムとして作品化を目指す。作品は台本制作から作品発表までを，プレゼンテーションとディスカッションによって理解を深め，作品制作に必要なスキルを学ぶ。グループワークでの作品と個人作品の２つの作品を作成することを最終目標とする。

〔授業の概要〕
ドラマやドキュメンタリーフィルムなどの映像作品の制作を通して，テーマを確実に伝えるための映像構成を目指して，個人制作とグループによる制作の違いを意識させながら，実習として体験させる。HDV規格のビデオカメラの特性を考慮しつつ，デジタルビデオカメラを使用した撮影の技術的実践とノンリニアによる映像編集ソフトウェアの的確なオペレーションを促す。

〔授業計画〕
第１回：HDVビデオカメラ・デジタル一眼レフカメラの基礎知識
第２回：ノンリニア編集ソフトの基礎知識
第３回：プリプロダクション(1)－テーマ設定の方法と実践－
第４回：プリプロダクション(2)－撮影計画立案－
第５回：プリプロダクション(3)－シナリオ・絵コンテの制作（撮影設計の実践）－
第６回：プロダクション－撮影の実践－HDVカメラによる撮影技法－
第７回：プロダクション－撮影の実践－移動ショット：クレーンやドリーを用いた撮影－
第８回：プロダクション－撮影の実践－照明による表現について－
第９回：プロダクション－撮影の実践－より精度の高い音の収録について－
第10回：ポストプロダクション(1)－素材の整理・編集計画の立案－
第11回：ポストプロダクション(2)－アウトライン編集について－
第12回：ポストプロダクション(3)－サウンド調整に向けた映像編集－
第13回：ポストプロダクション(4)－サウンド・カラー調整－
第14回：ポストプロダクション(5)－エンドクレジット作成－
第15回：完成作品の公開と評価

〔教科書・参考書等〕
自作プリントを配布する

〔準備学習等〕
５分程度のストーリー性のあるイメージ映像によるミュージックプロモーションビデオ制作。

〔成績評価方法・基準〕
講義への積極的な参加を重視し，平常点（課題の提出状況など）と期末レポート（作品発表）で評価する。成績評価基準として，平常点20％，最終レポート80％の配分で評価する。

66 メディアプロデュース A　Media Produce Studies A

必修（コミュニケーションコース）２単位　前期
選択（経営コース）２単位　前期

３年１組　准教授　猿渡　　学

〔授業の達成目標〕
企画立案，実行，展開というメディア全体のワークフローを理解し，グループワークを通して，それぞれがグループ内での役割を自覚し，主体的かつ積極的にワークを果たすことを目標とする。

〔授業の概要〕
同じセメスターで開講する『映像編集Ⅰ』におけるワークの企画立案を主に行うとともに，実行と展開において段階的にプレゼンテーションをおこなう。映像編集における作品制作のベースとなる様々な作業（企画立案から実行計画）や必要なステップを確認する。

〔授業計画〕
第１回：メディアプロデュースの現状－TVCMを中心に－
第２回：メディアプロデュースの展開－MV・PVを中心に－
第３回：プリプロダクション－コンセプトの決定－
第４回：プリプロダクション－台本について－
第５回：プリプロダクション－ロケハン・マネジメント－
第６回：プリプロダクションのワークフロー
第７回：プロダクション－撮影について（より高度な撮影技法の習得にむけて）－
第８回：プロダクション－音の収録・サウンドの選定（音楽著作権について）－
第９回：ポストプロダクション－ノンリニア編集による作業方法－
第10回：ポストプロダクション－カラコレ・サウンドの調整の基本－
第11回：新しいメディアコミュニケーションの提案－映像イベントの概略と目的・効果－
第12回：新しいメディアコミュニケーションの提案－プロモーションについて－
第13回：新しいメディアコミュニケーションの提案－ターゲットに応じた広告戦略の立案－
第14回：メディアプロデュースとは何か
第15回：メディアプロデュースの展望－まとめと試験－

〔教科書・参考書等〕
講義中，適宜プリントなど配布を行い講義をすすめる。

〔準備学習等〕
講義開始前にオリエンテーションを行う。ビデオ教材を用いてプロデュースの重要性を確認し，リポートとしてまとめることを事前準備とする。

〔成績評価方法・基準〕
講義への積極的な参加を重視し，平常点（課題の提出状況など）と期末レポート（作品発表）で評価する。成績評価基準として平常点20％，最終レポート80％の配分で評価する。

67 メディアプロデュース B　Media Produce Studies B

必修（コミュニケーションコース）２単位　後期
選択（経営コース）２単位　後期

３年１組　准教授　猿渡　　学

〔授業の達成目標〕
『メディアプロデュースB』において立案した企画を実行する。イベントの目標や目的をターゲットを検討し，学内外との連携を密接におこない，プロジェクト遂行のための各自の役割を果たすことを目標とする。

〔授業の概要〕
同じセメスターで開講する『映像編集Ⅱ』におけるワークの展開についての立案を主に行うとともに，実行と展開において段階的にプレゼンテーションをおこなう。映像イベントの展開方法について，具体的なイベントの提案から実行までの必要なステップを確認する。

〔授業計画〕
第１回：イベントのコンセプトについて－地方での事例より－
第２回：イベントのコンセプトについて－各種映画祭の事例紹介－
第３回：イベント立案－目的とそれに応じた企画－
第４回：コンセプトについて－プレゼンテーション－
第５回：コンセプトの決定－プレゼンテーションによる最終審査－
第６回：コンテンツの検討
第７回：イベントの具体化－日時，場所をどう決めていくか？－
第８回：関連するメディアの検討－コンテンツに沿った広告戦略立案－
第９回：広告戦略の実現－プランニングにより展開するイベントの詳細決定－
第10回：イベントの実行(1)－計画立案－
第11回：イベントの実行(2)－実現に向けて－
第12回：イベントの実行(3)－計画の確認－
第13回：イベント実行に際する課題について
第14回：あらたなコミュニケーションイベントにむけて(1)
第15回：あらたなコミュニケーションイベントにむけて(2)－まとめと試験－

〔教科書・参考書等〕
講義中，適宜プリントなど配布を行い講義をすすめる。

〔準備学習等〕
講義開始前に仙台近郊の様々なイベントに参加し，関係者のインタビューを行いリポートとしてまとめること（グループによるリポート）。

〔成績評価方法・基準〕
講義への積極的な参加を重視し，平常点（課題の提出状況など）と期末レポート（作品発表）で評価する。成績評価基準として平常点20％，最終レポート80％の配分で評価する。

68 他学科開講科目群　Subjects offered by other departments

選択　８単位　１年後期～４年後期

他学科開講科目の受講を希望する学生は，長町キャンパス事務室または学務課にその旨を申し出て「他学科開講科目履修届」を受理し，所属学科の教務委員と科目担当教員の許可を得た上で履修届を提出すること。
なお上級学年の科目は履修できないので注意すること。

評価は点数ではなく「認定」とし，平均点には算入されない。

69 他大学開講科目群　Subjects offered by other universities

選択　４単位　１年後期～４年前期

詳細についてはシラバスの「他大学開講科目」，学生生活の「学都仙台単位互換ネットワークに基づく特別聴講学生取扱要項」を参照のこと。

教育職員課程

東北工業大学教育職員免許状の取得に関する履修規程

第１条　学則第42条の規定に基づく教育職員免許状の取得に要する授業科目の履修に関しては、この規程の定めるところによる。

第２条　本学で取得できる免許状の種類及び免許教科は学則第42条に定めるとおりであるが、その修得に関する授業科目及び単位については次のとおりである。

平成24年度入学生から適用

ライフデザイン学部教職に関する科目及びその他の関連科目

「工業」・「商業」の免許状取得に必要な科目

区分	授業科目	単位		各期の毎週授業時間数							
				１年		２年		３年		４年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教職に関する科目	教職概論	2			2						
	教育原理	2				2					
	教育心理学	2			2						
	教育制度論	2				2					
	教育課程論	2					2				
	工業科教育法Ａ　（「工業」免許必修）	2						2			
	工業科教育法Ｂ　（「工業」免許必修）	2							2		
	商業科教育法Ａ　（「商業」免許必修）	2						2			
	商業科教育法Ｂ　（「商業」免許必修）	2							2		
	特別活動の指導	1					1				
	教育方法学	2					2				
	生徒・進路指導論	2				2					
	教育相談	2					2				
	教職実践演習（高）	2									2
	教育実習	2								6	
	教育実習事前・事後指導　＊１	2								2	
その他の関連科目	日本国憲法	2						2			
	スポーツ実技Ⅰ ＊２		1	1							
	スポーツ実技Ⅱ ＊２		1			1					
	健康論	2					2				
	英語ＩＡ	2		2							
	情報リテラシー	2		2							

＊１　教育実習事前・事後指導は、３年後期から４年にかけて実施する。

＊２の科目については２科目から１科目を選択必修。

クリエイティブデザイン学科

教科に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数　※下線科目：一般的包括的科目

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数				授業科目	単位数		
		必修	選択				必修	選択	
工業の関係科目	現代科学総論A	2			工業の関係科目				
	数学的思考法	2							
	コンピュータ基礎	2							
	造形基礎論	2							
	デザイン史	2							
	プロダクトデザイン論Ⅰ		2						
	エクスペリエンスデザイン論		2						
	ビジュアルデザイン論		2						
	情報デザイン論	2							
	色彩論	2							
	材料学・生産技術	2							
	ＣＡＤ演習	3							
	エディトリアルデザイン論		2						
	エルゴノミクス		2						
	インタラクションデザイン論		2						
	プロダクトデザイン論Ⅱ		2						
	マルチメディア論		2						
	デザインプログラミング	2							
	ユーザーリサーチ論		2						
	データ分析	2							
	デザインマーケティング論		2						
	メカニズム基礎論	2							
	知的財産権		2						
	工芸学		2						
					職業指導	職業指導	2		
					「職業指導」を含め，36単位以上修得すること				

安全安心生活デザイン学科

教科に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数　※下線科目：一般的包括的科目

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数				授業科目	単位数		
		必修	選択				必修	選択	
工業の関係科目	現代科学総論A	2			工業の関係科目				
	安全安心生活デザイン概論	2							
	生活デザインセミナーⅠ	1							
	都市防災論	2							
	住まいの計画	2							
	表現技法演習	2							
	地域の産業デザイン論Ⅰ	2							
	住まいの文化史	2							
	インテリアデザイン論Ⅰ	2							
	住まいの環境工学Ⅰ	2							
	生活デザイン演習Ⅰ	4							
	生活デザイン演習Ⅱ	4							
	生活デザインＣＡＤⅠ		2						
	生活デザインＣＡＤⅡ		2						
	防災コミュニケーション		2						
	地域の産業デザイン論Ⅱ		2						
	インテリアデザイン論Ⅱ		2						
	高齢者の生活と住まい		2						
	住まいの環境工学Ⅱ		2						
	住まいの構造と材料		2						
	地域環境の保全とエネルギー		2						
	バリアフリーとユニバーサルデザイン		2						
	住まいの施工と積算		2		職業指導	職業指導	2		
						生活デザインセミナーⅡ	1		
						生活デザインセミナーⅢ	1		
						生活デザインセミナーⅣ	1		
						生活デザインセミナーⅤ	1		
						生活デザインセミナーⅥ	1		
					「職業指導」を含め，36単位以上修得すること				

経営コミュニケーション学科

教科に関する科目

「商業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数　　※下線科目：一般的包括的科目

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数				授業科目	単位数		
		必修	選択				必修	選択	
商業の関係科目	経営学入門	2			商業の関係科目				
	経営管理論	2							
	工業経営学入門	2							
	暮らしと経済学		2						
	文書コミュニケーション	2							
	ビジネス英語	2							
	表計算		2						
	ネットワーク		2						
	データベース		2						
	統計学	2							
	社会調査法		2						
	経済学入門	2							
	マクロ経済学		2						
	国際経済論		2						
	簿記論	2							
	財務諸表論		2						
	管理会計論		2						
	原価計算論		2						
	マーケティング論	2							
	経営実践	2							
					職業指導	職業指導	2		
					「職業指導」を含め，36単位以上修得すること				

東北工業大学教育職員免許状の取得に関する履修規程

第１条　学則第42条の規定に基づく教育職員免許状の取得に要する授業科目の履修に関しては，この規程の定めるところによる。

第２条　本学で取得できる免許状の種類及び免許教科は学則第42条に定めるとおりであるが，その修得に関する授業科目及び単位については次のとおりである。

平成22年度入学生から適用

ライフデザイン学部教職に関する科目及びその他の関連科目

「工業」・「商業」の免許状取得に必要な科目

区分	授業科目	単位		各期の毎週授業時間数								備考
				１年		２年		３年		４年		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教職に関する科目	教職概論	2			2							
	教育原理	2				2						
	教育心理学	2			2							○印は工業の免許教科について必修。
	教育制度論	2				2						
	教育課程論	2					2					
	工業科教育法Ａ　○	2						2				△印は商業の免許教科について必修。
	工業科教育法Ｂ　○	2							2			
	商業科教育法Ａ　△	2						2				
	商業科教育法Ｂ　△	2							2			合計28単位以上修得のこと。
	特別活動の指導	2					2					
	教育方法学	2					2					
	生徒・進路指導論	2				2						教育実習事前・事後指導は，３年後期から４年にかけて実施する。
	教育相談	2					2					
	教職実践演習	2									2	
	教育実習	2								6		
	教育実習事前・事後指導	2								2		
その他の関連科目	憲法	2						2				
	スポーツ実技Ⅰ	1		2								
	スポーツ・身体科学	1			2							
	英語ⅠＡ	2		2								合計８単位修得のこと。
	情報リテラシー	2		2								

クリエイティブデザイン学科

教科に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数				授業科目	単位数		
		必修	選択				必修	選択	
工業の関係科目	現代科学総論Ａ	2			工業の関係科目	デザイン実習Ⅰ	4		
	デザインセミナーⅠ	1				デザイン実習Ⅱ	4		
	造形基礎論	2				ＣＡＤ演習	3		
	造形演習Ⅰ	3				デザイン実習Ⅲ	8		
	モデリング演習	3				デザイン実習Ⅳ	8		
	プロダクトデザイン論Ⅰ	2				クリエイティブデザイン研修Ⅰ	3		
	エクスペリエンスデザイン論	2				クリエイティブデザイン研修Ⅱ	3		
	ビジュアルデザイン論	2							
	デザインセミナーⅡ	1							
	デッサン演習	3			職業指導	キャリアデザイン	1		
	造形演習Ⅱ	3				職業指導	2		
	デザイン基礎演習	4							
	デザインセミナーⅢ	1							

※上記の単位数（必修及び選択の区別含む）は，進級・卒業条件とは異なる科目がある。

安全安心生活デザイン学科

教科に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数				授業科目	単位数		
		必修	選択				必修	選択	
工業の関係科目	現代科学総論Ａ	2			工業の関係科目	インテリアデザイン論Ⅱ		2	
	安全安心生活デザイン概論	2				生活デザインＣＡＤⅡ		2	
	生活デザインセミナーⅠ	1				高齢者の生活と住まい		2	
	都市防災論	2				住まいの環境工学Ⅱ		2	
	住まいの計画	2				住まいの構造と材料		2	
	表現技法演習	2				地域環境の保全とエネルギー		2	
	地域の産業デザイン論Ⅰ	2				都市と地域の計画		2	
	住まいの文化史	2				住まいのための力学		2	
	インテリアデザイン論Ⅰ	2				バリアフリーとユニバーサルデザイン		2	
	生活デザインＣＡＤⅠ	2				住まいの材料実験		2	
	住まいの環境工学Ⅰ	2				住まいのための法規		2	
	生活デザイン演習Ⅰ	4				住まいの施工と積算		2	
	生活デザイン演習Ⅱ	4				生活デザイン特別講義		2	
	地域のデザイン実習Ⅰ		4		職業指導	職業指導	2		
	住まいのデザイン実習Ⅰ		4			生活デザインセミナーⅡ	1		
	地域のデザイン実習Ⅱ		4			生活デザインセミナーⅢ	1		
	住まいのデザイン実習Ⅱ		4			生活デザインセミナーⅣ	1		
	生活デザイン研修Ⅰ	3							
	生活デザイン研修Ⅱ	3							
	防災コミュニケーション		2						
	地域の産業デザイン論Ⅱ		2						

※上記の単位数（必修及び選択の区別含む）は，進級・卒業条件とは異なる科目がある。

経営コミュニケーション学科

教科に関する科目

「商業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数				授業科目	単位数		
		必修	選択				必修	選択	
商業の関係科目	暮らしと経済学		2		商業の関係科目	統計学		2	
	経営学概論	2				社会調査法		2	
	工業経営学入門	2				マクロ経済学	2		
	経営管理論	2				国際経済論		2	
	工業生産管理論	2				簿記・財務諸表論		2	
	経営統計学	2				財務管理・管理会計論		2	
	文書コミュニケーションA	2				実践マネジメント研修		2	
	文書コミュニケーションB	2				表計算Ⅱ		1	
	ビジネス英語A		2			データベースⅡ		1	
	ビジネス英語B		2			ネットワークⅡ		1	
	表計算Ⅰ	2							
	ネットワークⅠ	2			職業指導	職業指導	2		
	データベースⅠ		2		「職業指導」を含め，36 単位以上修得のこと				
	情報化と経営		2						

※上記の単位数（必修及び選択の区別含む）は，進級・卒業条件とは異なる科目がある。

平成20年度入学生から適用（平成21年度から実施）

ライフデザイン学部教職に関する科目及びその他の関連科目

「工業」・「商業」の免許状取得に必要な科目

区分	授業科目	単位		各期の毎週授業時間数								備考
				1年		2年		3年		4年		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教職に関する科目	教職概論	2			2							
	教育原理	2				2						
	教育心理学	2			2							○印は工業の免許教科について必修。
	教育制度論	2				2						
	教育課程論	2					2					
	工業科教育法A ○	2						2				△印は商業の免許教科について必修。
	工業科教育法B ○	2							2			
	商業科教育法A △	2						2				
	商業科教育法B △	2							2			合計28単位以上修得のこと。
	特別活動の指導	2					2					
	教育方法学	2					2					
	生徒・進路指導論	2				2						教育実習事前・事後指導は，３年後期から４年にかけて実施する。
	教育相談	2					2					
	教職総合演習	2								2		
	教育実習	2								6		
	教育実習事前・事後指導	2								2		
その他の関連科目	憲法	2						2				
	スポーツ実技Ⅰ	1		2								
	スポーツ・身体科学	1			2							
	英語ⅠA	2		2								合計８単位修得のこと。
	情報リテラシー	2		2								

クリエイティブデザイン学科

教科に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数				授業科目	単位数		
		必修	選択				必修	選択	
工業の関係科目	現代科学総論Ａ	2			工業の関係科目	デザイン実習Ⅰ	4		
	デザインセミナーⅠ	1				デザイン実習Ⅱ	4		
	造形基礎論	2				ＣＡＤ演習	3		
	造形演習Ⅰ	3				デザイン実習Ⅲ	8		
	モデリング演習	3				デザイン実習Ⅳ	8		
	プロダクトデザイン論Ⅰ	2				クリエイティブデザイン研修Ⅰ	3		
	エクスペリエンスデザイン論	2				クリエイティブデザイン研修Ⅱ	3		
	ビジュアルデザイン論	2							
	デザインセミナーⅡ	1							
	デッサン演習	3			職業指導	キャリアデザイン	1		
	造形演習Ⅱ	3				職業指導	2		
	デザイン基礎演習	4							
	デザインセミナーⅢ	1							

※上記の単位数（必修及び選択の区別含む）は，進級・卒業条件とは異なる科目がある。

安全安心生活デザイン学科

教科に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数				授業科目	単位数		
		必修	選択				必修	選択	
工業の関係科目	現代科学総論Ａ	2			工業の関係科目	インテリアデザイン論Ⅱ		2	
	安全安心生活デザイン概論	2				生活デザインＣＡＤⅡ		2	
	生活デザインセミナーⅠ	1				高齢者の生活と住まい		2	
	都市防災論	2				住まいの環境工学Ⅱ		2	
	住まいの計画	2				住まいの構造と材料		2	
	表現技法演習	2				地域環境の保全とエネルギー		2	
	地域の産業デザイン論Ⅰ	2				都市と地域の計画		2	
	住まいの文化史	2				住まいのための力学		2	
	インテリアデザイン論Ⅰ	2				バリアフリーとユニバーサルデザイン		2	
	生活デザインＣＡＤⅠ	2				住まいの材料実験		2	
	住まいの環境工学Ⅰ	2				住まいのための法規		2	
	生活デザイン演習Ⅰ	4				住まいの施工と積算		2	
	生活デザイン演習Ⅱ	4				生活デザイン特別講義		2	
	地域のデザイン実習Ⅰ		4		職業指導	職業指導	2		
	住まいのデザイン実習Ⅰ		4			生活デザインセミナーⅡ	1		
	地域のデザイン実習Ⅱ		4			生活デザインセミナーⅢ	1		
	住まいのデザイン実習Ⅱ		4			生活デザインセミナーⅣ	1		
	生活デザイン研修Ⅰ	3							
	生活デザイン研修Ⅱ	3							
	防災コミュニケーション		2						
	地域の産業デザイン論Ⅱ		2						

※上記の単位数（必修及び選択の区別含む）は，進級・卒業条件とは異なる科目がある。

経営コミュニケーション学科

教科に関する科目

「商業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数				授業科目	単位数		
		必修	選択				必修	選択	
商業の関係科目	暮らしと経済学		2		商業の関係科目	統計学		2	
	経営学概論	2				社会調査法		2	
	工業経営学入門	2				マクロ経済学	2		
	経営管理論	2				国際経済論		2	
	工業生産管理論	2				簿記・財務諸表論		2	
	経営統計学	2				財務管理・管理会計論		2	
	文書コミュニケーションA	2				実践マネジメント研修		2	
	文書コミュニケーションB	2				表計算Ⅱ		1	
	ビジネス英語A		2			データベースⅡ		1	
	ビジネス英語B		2			ネットワークⅡ		1	
	表計算Ⅰ	2							
	ネットワークⅠ	2			職業指導	職業指導	2		
	データベースⅠ		2		「職業指導」を含め，36 単位以上修得のこと				
	情報化と経営		2						

※上記の単位数（必修及び選択の区別含む）は，進級・卒業条件とは異なる科目がある。

教職課程の履修要項

教育職員免許状を取得するためには，教育職員免許状および教育職員免許法施行規則に基づき，東北工業大学学則第42条，並びに教育職員免許状取得に関する履修規程によって設置された教職課程について，所定の単位を修得しなければならない。

教職を希望する学生は，以下に示す教職課程の履修要項を熟読の上，間違いのないよう充分に注意することが必要である。

Ⅰ．本学において取得できる普通免許状の種類および免許教科は次のとおりである。

免許状の種類	免許教科の種類	学　　科
高等学校教諭一種免許状	工　　業	クリエイティブデザイン学科 安全安心生活デザイン学科
高等学校教諭一種免許状	商　　業	経営コミュニケーション学科

Ⅱ．上記の免許状を取得するには，東北工業大学教育職員免許状の取得に関する履修規程に定める授業科目を履修し，所定の単位を修得しなければならない。

Ⅲ．「教育実習」について

教育実習は，教職に携わることを望む学生が，大学の授業を通しては容易に得ることのできない教職の専門性に関する能力，とりわけ教科授業に関する指導法を，直接教育の現場において，生徒に対する具体的な指導を通して理解し，集中的に身につけ，教師になるための素地と自覚を養うことを目的として実施される科目である。教育実習は４年生に課せられており，これまで所定の教職課程の学習の総まとめともいうべきものである。

① 教育実習は，次の要件を充足し，履修適格者と認定された者だけが対象となる。

（ⅰ）３年生終了時までに，教職に関する科目（４年次開講科目[1]を除く）およびその他の関連科目並びに「職業指導」をすべて修得しなければならない。

（ⅱ）次の成績要件を充足しなければならない。

ア．平成20年度以降の入学生について（平成21年度から実施）

３年生終了時の全履修科目の平均点がおおむね75点以上であること。

イ．平成22年度以降の入学生について

３年生終了時の全履修科目の累積GPA値※がおおむね2.50以上であること。（ただし，この値は見直される場合がある）

1「教職総合演習（平成21年度入学生まで）」,「教職実践演習（平成22年度入学生より）」,「教育実習」および「教育実習事前・事後指導」

※GPAについて…

『GPA（Grade Point Average)』とは，成績を５段階で評価した値の平均値であり，以下の式により計算する。なお，詳細については，シラバスの10ページを参照すること。

【成績５段階評価の区分】

成績	Grade	Grade Point
90 ～ 100点	A	4.00
80 ～ 89点	B	3.00
70 ～ 79点	C	2.00
60 ～ 69点	D	1.00
不可・不適	F	0.00

【ＧＰＡの計算式】

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{(4\times\text{Aの修得単位数}) + (3\times\text{Bの修得単位数}) + (2\times\text{Cの修得単位数}) + (1\times\text{Dの修得単位数})}{\text{履修登録科目の単位数（Ｆの科目も含む）}}$$

② 上記の履修条件を満たすことのできる見込みの者で，教育実習の履修を希望する者は，３年生の６月までに，教育実習予備登録（実習希望校調査）の手続きをすること。

③ 教育実習は，各自の出身高等学校を原則とし，実習内諾を得るまでの交渉は本人が行なう。出身高校での受入れが不可能な場合は，学科委員もしくは共通教育センター教職課程部に相談すること。

なお，実習内諾を得るための高校訪問は，高校に連絡のうえ，できるだけ３年生の早い時期とする。詳細は次頁教職課程年間スケジュールで確認すること。

④ 教育実習を行う際には，所定の教育実習費を大学に納入しなければならない。

⑤ 教育実習は，都道府県教育委員会，当該高等学校の協力を得て行わなければならず，当初の予定を変更すると，これら関係機関に多大の迷惑をかけることになるので，実習申込み後の自己の都合や履修状況による実習辞退は極力回避するよう努めること。

Ⅳ．教育職員免許状の申請手続きと授与

教育実習を修了し，取得しようとする教科関係の単位を充足し，かつ免許状の出願をしたもので，卒業が確実な者に免許状が授与される。

教育職員免許状の授与申請手続きについては，４年生の11月下旬に説明会を実施し，１月中旬に申請書類を共通教育センター教職課程部で一括し，３月初旬に宮城県教育委員会に提出する。

≪教職課程年間スケジュール≫

実施時期	説　明　会　お　よ　び　手　続　き	対象学年
４月上旬	オリエンテーション （教職課程の説明…所属学科・共通教育センター教職課程部）	１学年
	履修登録	全学年
４月中旬	教育実習履修者決定発表	４学年
	教育実習ガイダンス	４学年
４月下旬 ～５月上旬	教育実習諸経費会計課に納入	４学年
５月上旬 ～10月下旬	教育実習（２週間または３週間）	４学年
５月上旬 ～６月上旬	次年度教育実習履修希望者および教育実習希望高校調査 （各学科毎にガイダンス、オリエンテーション時にも説明）	３学年
６月中旬 ～７月下旬	次年度実習希望者は、実習希望校を訪問し、内諾を得る	３学年
	次年度教育実習希望者に対し、実習希望校への本学からの依頼状交付 （共通教育センター教職課程部）	３学年
７月初旬～	教育実習事後指導	４学年
９月下旬 ～10月上旬	履修登録	全学年
12月上旬	教育職員免許状申請説明会（共通教育センター教職課程部）	４学年
	教育職員免許状申請書類を共通教育センター教職課程部に提出	４学年
10月中旬～	実習指導（掲示にて周知）	３学年
３月初旬	免許状申請書類を共通教育センター教職課程部一括、宮城県教育委員会に提出	４学年
３月中旬	教育職員免許状交付	４学年
３月下旬	教育実習履修者内定	３学年

＊諸行事への欠席，あるいは提出書類が遅れる場合は、必ず事前に学務課あるいは共通教育センター教職課程部に申し出て指示を受けること。

Ⅴ．教職に関する相談について

教職に関する事務的事項については学務課および共通教育センター教職課程部が担当し，学生に対する諸連絡は学内掲示板において指示するので常時注意すること。

教育職員免許状の取得，教育実習，その他教職に関する相談については，教職科目担当教員が，下記のとおり分担して対応する。

平成24（2012）年度「教職相談」担当者予定表

月	担当者	場所
4月	佐藤（三） 片山	佐藤（三）教員室（八木山キャンパス５号館４階） 片山教員室（八木山キャンパス５号館４階）
5月	佐藤（三） 中島（夏）	佐藤（三）教員室（八木山キャンパス５号館４階） 中島（夏）教員室（八木山キャンパス５号館４階）
6月	佐藤（三） 小川（和）	佐藤（三）教員室（八木山キャンパス５号館４階） 小川（和）教員室（八木山キャンパス５号館４階）
7月	佐藤（三） 片山	佐藤（三）教員室（八木山キャンパス５号館４階） 片山教員室（八木山キャンパス５号館４階）
9月	佐藤（三） 中島（夏）	佐藤（三）教員室（八木山キャンパス５号館４階） 中島（夏）教員室（八木山キャンパス５号館４階）
10月	佐藤（三） 小川（和）	佐藤（三）教員室（八木山キャンパス５号館４階） 小川（和）教員室（八木山キャンパス５号館４階）
11月	佐藤（三） 片山	佐藤（三）教員室（八木山キャンパス５号館４階） 片山教員室（八木山キャンパス５号館４階）
12月	佐藤（三） 中島（夏）	佐藤（三）教員室（八木山キャンパス５号館４階） 中島（夏）教員室（八木山キャンパス５号館４階）
1月	佐藤（三） 小川（和）	佐藤（三）教員室（八木山キャンパス５号館４階） 小川（和）教員室（八木山キャンパス５号館４階）
2月	佐藤（三） 片山	佐藤（三）教員室（八木山キャンパス５号館４階） 片山教員室（八木山キャンパス５号館４階）
3月	佐藤（三） 中島（夏）	佐藤（三）教員室（八木山キャンパス５号館４階） 中島（夏）教員室（八木山キャンパス５号館４階）

教育職員免許状取得
に 必 要 な 科 目

1 教職概論　Introduction of Teaching Profession

必修　２単位　後期　　全学科１年全組　教　授　佐藤　三之

〔授業の達成目標〕
公教育制度における学校の仕組み，教育活動の内容と諸問題，教師の権限と義務・責任など，職業としての教職に関する基礎的事項の理解と同時に，先人達の教育への情熱と努力の一端にふれることで教職に従事することの重大さに気づかせる。

〔授業の概要〕
教職課程の意義や教員としての資質･心構えを導入とし，先輩教員の実践例を通して教員としての生き方・考え方にふれ，次いで，現在の公教育制度における学校，学校教育及び教職に関する基礎的な事項について指導する。授業内容と関連して自らを振り返り，進路意識を明確化させるために 10 回程度のレポートを課す。併せて，レポートにはコメントを付して返却することによって，学生との意志の疎通を図る。

〔授業計画〕
第１回：教職課程と教員免許（進路としての教職）
第２回：教員に求められる資質
第３回：教員としての心構え
第４回：先輩教員の実践例に学ぶ
第５回：我が国の教育制度の概要
第６回：学校組織と教員の仕事
第７回：教科指導と教材研究
第８回：教科指導と評価
第９回：生徒指導と教育相談
第10回：進路指導と教育相談
第11回：特別活動と課外活動
第12回：教員の身分と服務義務
第13回：現在の教育課題と背景
第14回：教員と研修
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
教科書　「教職概論」　自作資料
参考書　高等学校学習指導要領　文部科学省発行の諸資料

〔準備学習等〕
シラバスに従って次時の予習を促すとともに，毎時間の授業の定着と深化を図って小レポートを課す。

〔成績評価方法・基準〕
テストの他に，小レポートを課し，学習への取り組み状況と理解の状況とを把握し，評価に含める。

2 教育原理　Theory on Education

必修　２単位　前期　　全学科２年全組　講　師　中島　夏子

〔授業の達成目標〕
教育の基本原理を学び，教育と教育学についての基礎知識を修得すること
教育に関する事象について，基礎知識を基に客観的に理解できること
教育の課題を見つけ，必要な対応について自ら考えることができること

〔授業の概要〕
教育の歴史や思想を学んだり，教育の国際比較をしたり，教育の時事的問題の考察をしたりすることを通して，「教育とは何か」「学校とは何か」「学ぶとは何か」等の原理的な問いを深めていくことを目的とする。各授業では，それぞれの領域の基礎的な知識を学ぶと同時に，特定のテーマを取り上げ，関連資料の読解やディスカッションを通して，その領域の理解を深める。

〔授業計画〕
第１回：教育とは何かを考えるなぜ学ぶのか
第２回：学校とは何かを考える学校の成り立ち
第３回：学校とは何かを考える戦前の日本の学校
第４回：学校とは何かを考える戦後の日本の学校
第５回：学校とは何かを考える現代の日本の学校
第６回：学校とは何かを考える諸外国の学校
第７回：現代における教育の問題について考える
第８回：教育の制度について考える
第９回：教育課程（カリキュラム）について考える
第10回：教育評価について考える
第11回：教育方法について考える
第12回：教師の仕事について考える
第13回：社会や家庭における教育について考える
第14回：教育とは何かを考えるなぜ教えるのか
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書：『教育原理』　自作資料
参考書：『やさしい教育原理　新版』田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二　有斐閣アルマ　2009 年
『学校を考えるっておもしろい教養としての教育学』　水原克敏　東北大学出版会
その他，授業内で随時紹介する。

〔準備学習等〕
【授業に必要な予備知識や技能】　教育に関する時事問題に関心を持っていること。
【予習】　授業のテーマについて本や雑誌，新聞，インターネット等で調べ，どのようなものなのかをイメージできるようにしておく。そして，教育についての個人的体験も含め，どのような教育問題があるかを整理して，次回の授業に持ち寄る。
【復習】　授業で理解できなかったことや疑問に思ったことについて，自分で調べる。受講生からの質問を受け付けるオフィスアワーを有効に活用し，更なる理解を進めることが望ましい。

〔成績評価方法・基準〕
期末の論述試験（60％）と毎時間提出の小レポート（40％）によって評価する。小レポート提出の少ない者は評価対象外となるので，注意すること。

3 教育心理学　Educational Psychology

必修　２単位　後期・集中　　全学科１年全組　教　授　小川　和久

〔授業の達成目標〕
発達と学習に関する基礎理論を理解し，教育の実践の場で応用できる力を養う。生涯発達の観点から，各段階での発達課題と必要とする対応を考えるとともに，適応，発達障害の問題を含め，「生きる力」の育成について理解を深める。

〔授業の概要〕
発達と学習の領域を中心に，子どもたちの教育を考える上で必要となる心理学の知見を解説する。また，教育現場への応用を念頭に置きながら，具体的な教育場面と関連づけて問題提示していく。

〔授業計画〕
第１回：教育心理学とは何か
第２回：発達とは（1）：生涯発達の考え方
第３回：発達とは（2）：遺伝と環境，発達段階
第４回：発達とは（3）：認知発達，自己理解の発達
第５回：児童期における心理的特性と発達課題
第６回：青年期における心理的特性と発達課題
第７回：学習の理論（1）：連合説
第８回：学習の理論（2）：観察学習，モデリング
第９回：学習の意欲（1）：動機づけ
第10回：学習の意欲（2）：自己効力感
第11回：記憶のメカニズムと学習方法
第12回：教育の評価と測定
第13回：学校生活における適応
第14回：発達障害の理解と対応
第15回：まとめ：「生きる力」を育む

〔教科書・参考書等〕
教科書　自作資料
参考書　自作資料

〔準備学習等〕
「現代の教育問題」と題して，受講者は講義を受けるに当たって新聞テレビ等のマスコミ，Web，書籍により１レポート提出を求める。

〔成績評価方法・基準〕
授業中に実施する小テストや実習レポート内容，定期試験を用いて評価する。成績評価基準として，定期試験を70％，実習レポート内容 30％の配分で，総合して評価する。なお，実習レポート提出の少ない者は評価対象外となることもあるので注意すること。

4 教育制度論　Educational Systems

必修　２単位　前期　　全学科２年全組　講　師　中島　夏子

〔授業の達成目標〕
教育制度についての基礎知識を修得すること
教育制度に関する事象について，基礎知識を基に客観的に理解できること
教育制度の課題を見つけ，必要な対応について自ら考えることができること

〔授業の概要〕
本講義は，教育制度の理念や構造，現状と課題について解説する。各授業では，教育制度の様々な領域の基礎的な知識を学ぶと同時に，特定のテーマを取り上げ，関連資料の読解やディスカッションを通して，その領域の理解を深める。

〔授業計画〕
第１回：教育制度とは何か
第２回：現行の教育制度の理念と構造
第３回：教育法規
第４回：学区と学校選択制度
第６回：学級の編制
第５回：教科書制度
第７回：入学者選抜制度
第８回：教育行政制度
第９回：教育財政制度
第10回：教育制度史戦後の教育改革
第11回：教育制度史日本の教育制度の発展
第12回：教育制度の国際比較欧米諸国の教育制度
第13回：教育制度の国際比較アジア諸国の教育制度
第14回：人権と教育制度
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　『教育制度論』　自作資料
参考書　『教育の制度と経営』　葉養正明編　学芸図書株式会社　2009 年（四改訂版）
『わかりやすく学ぶ教育制度課題と討論による授業の展開』　北野秋男　編著　啓明出版株式会社　2004 年
『教育小六法』
その他，授業内で随時紹介する。

〔準備学習等〕
【授業に必要な予備知識や技能】　教育に関する時事問題に関心を持っていること。「教職概論」や「教育原理」等の教職課程の授業で学んだことを復習しておくこと。
【予習】　授業のテーマについて本や雑誌，新聞，インターネット等で調べ，どのようなものなのかをイメージできるようにしておく。そして，教育についての個人的体験も含め，どのような教育問題があるかを整理して，次回の授業に持ち寄る。
【復習】　授業で理解できなかったことや疑問に思ったことについて，自分で調べる。受講生からの質問を受け付けるオフィスアワーを有効に活用し，更なる理解を進めることが望ましい。

〔成績評価方法・基準〕
期末の論述試験（60％）と毎時間提出の小レポート（40％）によって評価する。小レポート提出の少ない者は評価対象外となるので，注意すること。

5 教育課程論　Curriculum Theory

必修　２単位　後期　　全学科２年全組　講　師　中島　夏子

〔授業の達成目標〕
教育課程の基礎知識を修得すること
教育課程に関する事象について，基礎知識を基に客観的に理解できること
教育課程の課題を見つけ，必要な対応について自ら考えることができること

〔授業の概要〕
本講義は，教育課程の理念や構造，現状と課題について解説する。各授業では，教育課程の様々な領域の基礎的な知識を学ぶと同時に，特定のテーマを取り上げ，関連資料の読解やディスカッションを通して，その領域の理解を深める。

〔授業計画〕
第１回：教育課程とは何か
第２回：現行の学習指導要領と教育課程
第３回：教育課程の歴史戦前の教育課程
第４回：教育課程の歴史近代戦後改革期の教育課程改革
第５回：教育課程の歴史高度経済成長期の教育課程改革
第６回：教育課程の歴史ゆとり志向の教育課程改革
第７回：教育目標と教育評価
第８回：教育方法と授業実践
第９回：諸外国の教育課程改革欧米諸国の教育課程
第10回：諸外国の教育課程改革アジア諸国の教育課程
第11回：教育課程開発の新しい動き初等・中等教育
第12回：教育課程開発の新しい動き高等教育
第13回：教育課程の編成方法教育課程編成の構成要件
第14回：教育課程の編成方法教育課程編成論の変遷
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　『教育課程論』　自作資料
参考書　『新しい時代の教育課程』　田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵　有斐閣　2005 年
『学校を考えるっておもしろい教養としての教育学』　水原克敏　東北大学出版　2006 年
その他，授業内で随時紹介する。

〔準備学習等〕
【授業に必要な予備知識や技能】　教育に関する時事問題に関心を持っていること。「教職概論」や「教育原理」等の教職課程の授業で学んだことを復習しておくこと。
【予習】　授業のテーマについて本や雑誌，新聞，インターネット等で調べ，どのようなものなのかをイメージできるようにしておく。そして，教育についての個人的体験も含め，どのような教育問題があるかを整理して，次回の授業に持ち寄る。
【復習】　授業で理解できなかったことや疑問に思ったことについて，自分で調べる。受講生からの質問を受け付けるオフィスアワーを有効に活用し，更なる理解を進めることが望ましい。

〔成績評価方法・基準〕
期末の論述試験（60％）と毎時間提出の小レポート（40％）によって評価する。小レポート提出の少ない者は評価対象外となるので，注意すること。

6 工業科教育法 A　Teaching Method A

必修　２単位　前期　　ＣＤ学科・ＳＤ学科３年全組　非常勤講師　齊藤　信六

〔授業の達成目標〕
工業教育に係る教育方法の知識や指導法の理解を深め，修得することにより実際の教育の場において適切に適応できることを目標とする。特に，授業の実践的態度の育成を目指し，学習指導案作成とそれに付随する知識・指導技術の修得ができるようにする。

〔授業の概要〕
高等学校における職業教育は多様であり，工業分野も産業界の産業構造の変化に伴い多様化している。それらの産業界の要請に応えることが工業教育の大きな役割である。そこで，それらに従事する技術者を育成する指導者としての使命感を自覚させ，工業教育の方法と技術，学習理論，教育機器の活用，学習指導法等を講義を中心にして，実践的態度の育成を目指す講義内容とする。

〔授業計画〕
第１回：学校教育
第２回：高等学校における工業教育の役割
第３回：教育課程１（工業教育の教育課程）
第４回：学習理論１（学習の原理）
第５回：学習理論２（学習の過程）
第６回：学習理論３（学習指導の形態）
第７回：学校教育と教育機器１（学校における情報教育）
第８回：学校教育と教育機器２（教育機器の活用）
第９回：学習指導１（教科指導）
第10回：学習指導２（授業の研究）
第11回：学習指導３（教材研究）
第12回：学習指導４（学習指導案の実際）
第13回：学習指導５（学習指導案の作成）
第14回：職業教育の現状と課題
第15回：総括

〔教科書・参考書等〕
教科書　自作教材を作成（Ａ４版 50 ページ程度）し，授業で活用する。
参考書　文部時報　中央教育審議会答申　高等学校学習指導要領解説（一般編・工業編）
新教育学大辞典（第一法規）など

〔準備学習等〕
講義の導入に教職の魅力や高等学校における工業教育の現状などを講義内容に応じて話題を提供し，興味・関心を持たせる。また，前時の講義内容のポイントを確認するとともに講義内容の定着を図る方策として，学生との対話形式の講義の実施や課題解決学習を取り入れる。

〔成績評価方法・基準〕
授業内容の理解度を授業中に実施するテスト（レポート含む），定期試験の結果により評価する。授業中のテスト，定期試験を合わせて総合的に評価する。なお，授業中のテストを定期試験は同等基準で評価する。

7 工業科教育法 B　Teaching Method B

必修　２単位　後期　　ＣＤ学科・ＳＤ学科３年全組　非常勤講師　齊藤　信六

〔授業の達成目標〕
工業教育に係る教育法の知識や方法を修得し，それらの理解を深めることにより実際の教育の場で適切に適応できることを目標とする。特に，授業の実践的態度の育成を目指し，学習指導案作成とそれに付随する知識・指導技術の習得ができるようにする。

〔授業の概要〕
工業教育に携わる教員の資質である教育評価の理論を習得し，評価の在り方を考える内容とする。また，学習指導案の作成や模擬授業の実践を通して工業教育について理解を深め，工業教員に必要とする知識･技術の習得を目指す。更には，工業技術教育史，工業教育に係わる審議会の役割，工業教育の今日的課題を通して工業教育の未来を展望する講義内容とする。

〔授業計画〕
第１回：教育評価１（教育評価の意義）
第２回：教育評価２（相対評価と絶対評価）
第３回：教育評価３（評価の技法）
第４回：教育評価４（工業高校における評価の実際）
第５回：学習指導案１（学習指導案の様式と書き方）
第６回：学習指導案２（課題Ⅰによる指導案作成）
第７回：学習指導案３（課題Ⅱによる指導案作成）
第８回：学習指導案４（課題Ⅰによる模擬授業）
第９回：学習指導案５（課題Ⅰによる模擬授業）
第10回：学習指導案６（課題Ⅱによる模擬授業）
第11回：学習指導案７（課題Ⅱによる模擬授業）
第12回：日本の工業技術教育史
第13回：理科教育と産業教育審議会
第14回：工業教育の課題と展望
第15回：総括

〔教科書・参考書等〕
教科書　自作教材を作成（Ａ４版 50 ページ程度）し，授業で活用する。
参考書　文部時報　中央教育審議会答申　高等学校学習指導要領解説（一般編・工業編）
新教育学大辞典（第一法規）など

〔準備学習等〕
講義の導入に教職の魅力や高等学校における工業教育の現状などを講義内容に応じて話題を提供し，興味・関心を持たせる。また，前時の講義内容のポイントを確認するとともに講義内容の定着を図る方策として，学生との対話形式の講義の実施や教材作成・課題解決学習を取り入れる。

〔成績評価方法・基準〕
授業内容の理解度を授業中に実施するテスト（レポート含む），定期試験の結果により評価する。授業中のテスト，定期試験を合わせて総合的に評価する。なお，授業中のテストと定期試験は同等基準で評価する。

8 商業科教育法 A　Business Education Teaching Method A

必修　２単位　前期　　ＭＣ学科３年全組　非常勤講師　橋本　勝美

〔授業の達成目標〕
商業教育にかかわる教育理念・教育方法の知識や指導方法の理解を深め，習得することにより実際の教育の場において適切に適応できることを目標とする。特に，授業の実践的態度の育成を目指し，教育課程とそれに付随する知識を習得できるようにする。

〔授業の概要〕
高等学校学習指導要領に基づく商業教育のねらいと指導内容について学習し，産業経済の社会的背景と産業教育との歴史的なかかわりを学ぶ。
商業教育の役割，指導内容，指導方法，教育課程等を講義の核とし，実践的態度の育成を目指す講義内容とする。

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：学校教育と社会教育
第３回：高等学校教育の基本理念と商業教育
第４回：高等学校商業教育の基本理念
第５回：高等学校における商業教育の必要性
第６回：わが国の商業教育の歩み
第７回：学習指導要領　教科「商業」の改訂の経緯と趣旨（1）
第８回：新学習指導要領　教科「商業」の改訂と趣旨（2）
第９回：基礎科目「ビジネス基礎」と「流通ビジネス科目群」の指導内容と指導方法
第10回：「国際経済科目群」と「簿記会計科目群」の指導内容と指導方法
第11回：「経営情報科目群」と「総合的科目群」の指導内容と指導方法
第12回：教育課程１（教育課程の機能と類型）
第13回：教育課程２（商業教育の教育課程）
第14回：商業教育の現状と課題
第15回：課題の整理

〔教科書・参考書等〕
〈教科書〉
自作教材を作成（Ａ４版 50 ページ程度）し，授業で活用する。
〈参考書等〉
・「高等学校学習指導要領解説（一般編，商業編）」（文部科学省）
・「教職必修　最新商業科教育法」（実教出版社）
・中央教育審議会答申

〔準備学習等〕
・あなたの出身県における商業高校及び商業科を設置している学校名と特色ある学科を調べておくこと。
・予習として，次回講義分の教科書，参考書の記述を読んでおくこと。復習として，毎回講義ノートを整理すること。

〔成績評価方法・基準〕
授業内容の理解度を授業中に実施するテスト（レポートを含む），定期試験の結果により評価する。授業中のテスト，定期試験を合わせて総合的に評価する。なお，授業中のテストと定期試験は同基準で評価する。

9 商業科教育法 B　Business Education Teaching Method B

必修　２単位　後期　　ＭＣ学科３年全組　非常勤講師　橋本　勝美

〔授業の達成目標〕
商業教育にかかわる教育法の知識や方法を習得し，それらの理解を深めることにより実際の教育の場で適切に適応できることを目標とする。特に，授業の実践的態度の育成を目指し，学習指導案作成をそれに付随する知識と指導技術の習得ができるようにする。

〔授業の概要〕
教育の評価，学習指導案の作成，教育機器の活用，商業教育にかかわる各種審議委員会等の内容を通して，教員に必要とする知識・技術の習得を目指した講義内容とする。

〔授業計画〕
第１回：学習理論１（学習の原理と学習の過程）
第２回：学習理論２（学習の形態）
第３回：教育評価１（教育評価の意義と構成要素，絶対評価と相対評価）
第４回：教育評価２（評価の技法）
第５回：教育評価３（商業高校における評価の実際）
第６回：学習指導案１（学習指導案の様式と書き方）
第７回：学習指導案２（導入の工夫による指導案の作成）
第８回：学習指導案３（展開の工夫による指導案の作成）
第９回：学習指導案４（終結の工夫による指導案の作成）
第10回：模擬授業１（指導案に基づく模擬授業）
第11回：模擬授業２（指導案に基づく模擬授業，教育機器（OHP）の活用）
第12回：模擬授業３（指導案に基づく模擬授業，教育機器（PC）の活用）
第13回：商業教育にかかわる各種審議会
第14回：産業教育（職業教育）の課題と展望
第15回：課題の整理

〔教科書・参考書等〕
〈教科書〉
自作教材を作成（Ａ４版 50 ページ程度）し，授業で活用する。
〈参考書等〉
・「高等学校学習指導要領解説（一般編，商業編）」（文部科学省）
・「教職必修　最新商業科教育法」（実教出版社）
・中央教育審議会答申

〔準備学習等〕
・予習と復習は前期と同じ。
・商業教育の課題はなにか。それを解決するにはどうしたらよいかを考えておくこと。できれば夏期休暇等に出身高校を訪問し，恩師と話し合うのもよい。
・変化する教育環境や国や県からの教育に関する答申等に常に目を向けておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
授業内容の理解度を授業中に実施するテスト（レポートを含む），定期試験の結果により評価する。授業中のテスト，定期試験を合わせて総合的に評価する。なお，授業中のテストと定期試験は同基準で評価する。

10 特別活動の指導　Guidance of Special Activities

必修　２単位　後期　　全学科２年全組　教　授　佐藤　三之

〔授業の達成目標〕
教育課程の内容と実施計画の立案上の留意事項について理解する。特別活動の意義と目標・内容及び現実的課題について理解する。集団活動の本質をとらえるとともに，実践のためのさまざまな方法を身につける。

〔授業の概要〕
学校教育の根幹をなす教育課程とその変遷についてふれ，その上で重要な領域である特別活動の意義と目標・内容及び現実的課題について解説し，さらに授業計画の後半では，集団活動の実際体験の場をいくつか設定し，特別活動を実践的に学ばせる。

〔授業計画〕
第１回：教育課程の内容
第２回：教育課程の実施計画の立案上の留意事項
第３回：教育課程の変遷
第４回：特別活動の意義
第５回：特別活動の目標と現実的課題
第６回：特別活動の内容「ホームルーム」
第７回：特別活動の内容「ホームルーム活動」
第８回：特別活動の内容「生徒会活動」
第９回：特別活動の内容「学校行事」
第10回：集団活動「グループ内での討議」
第11回：集団活動「グループによるプチボランティア活動」
第12回：集団活動「グループ内での共同調査（ある人物の生き方について）」
第13回：集団活動「各グループによる調査結果に基づくプレゼンテーション」
第14回：集団活動「各グループによるパフォーマンス発表会（寸劇・合唱・合奏など）」
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
教科書　「特別活動の指導」　自作資料，高等学校学習指導要領解説　「特別活動編」　文部科学省
参考書　「身につけるディベードの技術」　茂木秀昭著　中経出版

〔準備学習等〕
シラバスに従って次時の予習を促すとともに，毎時間の授業の定着と深化を図って小レポートを課す。

〔成績評価方法・基準〕
テストでの評価を 30%，グループ活動への参加態度・発表内容及びレポートの内容についての評価を 70%とする。

11 教育方法学　Method of Education

必修　２単位　後期・集中　　全学科２年全組　非常勤講師　鈴木　伸一

〔授業の達成目標〕
高度情報通信社会に生きる人材育成のため，教育機器や教育メディアを活用した教育実践研究の方法を学習し，学校運営の効率化や学習指導の能率化のために有効な教材・教具を効果的に活用する技術を習得する。

〔授業の概要〕
教育方法の基準理論を学習し，実践的な教育機器や教育メディアを活用した授業の設計・実施・評価の技術を体験的に学習をする。

〔授業計画〕
第１回：教育の方法と技術の捉え方（ガイダンス）
第２回：教育方法と基礎理論と教育課程
第３回：学習の原理と学習指導の形態
第４回：教育機器の応用と教材開発
第５回：教科指導の実際
第６回：教科指導の展開
第７回：生徒指導と総合的な学習の時間
第８回：高度情報通信社会と情報教育
第９回：教育メディアとその活用
第10回：パソコンによる学習指導の改善
第11回：学校運営とパソコン活用
第12回：情報の活用とモラル
第13回：パソコン活用と教材開発
第14回：プレゼンテーションの手法
第15回：教育の方法と技術の課題

〔教科書・参考書等〕
教科書　教職必修　教育の方法と技術（教育課程研究会・山下省藏）
参考書　自作教材プリント

〔準備学習等〕
既に身に付けている Computer Literacy を向上させるべく，インターネットを利用する個別学習やグループ協調学習を念頭に，教科書を熟読し，授業後は復習すること。

〔成績評価方法・基準〕
毎時間の演習課題とまとめ課題，グループ協調学習の発表内容に基づき総合的に評価。

12 生徒・進路指導論　Student Guidance and Career Guidance

必修　２単位　前期　　全学科２年全組　教　授　佐藤　三之

〔授業の達成目標〕
学校教育における生徒指導の意義・目的や課題及び青年期の心理的特性や人格形成に関わる基礎的理論を踏まえた指導の在り方，そして，進路指導の在り方と方法について理解する。さらには，生徒指導及び進路指導の現状について正しく受けとめるとともに，改善の在り方について自らの考えを持ち，それを実践に移そうとする気構えを持つことを目指す。

〔授業の概要〕
学校における生徒指導及び進路指導の意義や課題を正しく，切実なものとしてとらえるためには，現実的な視点が大切である。講義の中で，多くの具体的な情報を活用することで，考えることや実感する場面を設定するよう配慮する。また青年期にある自らの内面を過去から現在にわたって振り返りながら学べるよう，７回程度の小レポートを課す方法も取り入れる。

〔授業計画〕
第１回：生徒指導・進路指導とは何か（法令等の規定から）
第２回：生徒指導・進路指導の意義・目的と特性
第３回：青年期の特性と生徒・進路指導（心理的特性…大人に対して）
第４回：青年期の特性と生徒・進路指導（心理的特性…友人に対して）
第５回：人格の形成と生徒・進路指導
第６回：生徒指導の原理（生徒指導と人間観）
第７回：生徒指導の原理（生徒指導と自己指導能力の育成）
第８回：進路指導の定義と指導原理
第９回：集団指導の原理と方法
第10回：個別指導の原理と方法
第11回：ある実践から学ぶ（高校・中学校の実践）
第12回：校則と生徒心得及び懲戒と体罰
第13回：進路指導の内容と方法
第14回：進路相談（キャリアカウンセリング）の在り方
第15回：まとめ

〔教科書・参考書等〕
教科書　「生徒・進路指導論」　自作資料
参考書　「生徒指導の手引き」　旧文部省編
「教室の悪魔」　山脇由紀子　ポプラ社　他

〔準備学習等〕
シラバスに従って次時の予習を促すとともに，毎時間の授業の定着と深化を図って小レポートを課す。

〔成績評価方法・基準〕
テストによる評価の他に，小レポートへの取り組みと内容とを総合的に評価する。

13 教育相談　School Counseling

必修　２単位　後期・集中

全学科２年全組　非常勤講師　安保　英勇

〔授業の達成目標〕
１．児童・生徒の問題行動や不適応行動についてその概要を理解する。
２．学校における教育相談や支援の概要を理解する。
３．学校外の相談資源の概要を理解する。

〔授業の概要〕
不登校･いじめなど児童生徒を取り巻く学校環境に，種々の問題が指摘されて久しい。この授業では，それらの問題とその対応・理論的背景についての基礎的な理解を目指し講義を行う。具体的な理解の促進のため，視聴覚教材も適宜用い，ロールプレイによる基本的コミュニケーション技術の修得も行う。

〔授業計画〕
第１回：オリエンテーション：非行の動向
第２回：心理的不適応の動向①：ストレス
第３回：心理的不適応の動向②：不登校
第４回：心理的不適応の動向③：自殺
第５回：問題行動・不適応行動の要因
第６回：児童生徒に対する指導上の留意点
第７回：不適応行動への対応①：不登校
第８回：不適応行動への対応②：いじめ
第９回：不適応行動への対応③：発達障害
第10回：不適応行動への対応④：ＰＴＳＤ
第11回：教育相談の技術と理論
第12回：カウンセリングの実際①：担任教師
第13回：カウンセリングの実際②：スクールカウンセラー
第14回：カウンセリングの実際③：専門機関相談員
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
教科書　特になし
参考書　適宜紹介，また教室で配布。

〔準備学習等〕
【授業に必要な予備知識や技能】　児童生徒の問題に関心を持っていること。
【予習】　授業のテーマについて本や雑誌，新聞，インターネット等で調べ，どのようなものかをイメージできるようにしておく。
【復習】　授業で理解できなかったことや疑問に思ったことについて，自分で調べる。

〔成績評価方法・基準〕
授業への取り組み態度と試験によりを合わせて総合的に評価する

14 教職総合演習　General Exercises for Teaching profession

必修　２単位　前期・集中

全学科４年全組　教　授　小川　和久　　准　教　授　片山　文雄
講　師　中島　夏子　　非常勤講師　齊藤　信六
非常勤講師　鈴木　伸一

〔授業の達成目標〕
身近な生活環境，自然環境から地球環境の問題と課題の発見，解決へアプローチする視点と能力を獲得させる。その上で学生の自主的,主体的学習を支援する演習を通して，教職に就く者として生徒に適切な指導，助言，情報提供ができる力を養うことをねらいとする。
①地球環境：地球温暖化の原因解析とクリーンエネルギーシステムの開発などによる環境負荷軽減
②生活環境：人間の生活環境を快適にするため，地震などの都市災害，風水害などの自然災害に対する対策，エネルギー多消費型の快適さを追給してきた居住環境の質的転換，障害者などにやさしい生活環境
③自然環境：人間の諸活動にともなって生ずる廃水処理や水環境の解析を水環境対策，汚染物質による自然環境の汚染を環境保全

〔授業の概要〕
①生活（自然・地球）環境問題を学習するプログラム作成
②直接・間接資料収集のための調査方法の習得と調査の実施
③問題と課題解決のためのプログラムとスケジュールの立案・作成
④生徒指導のための教材作成
⑤発表によるプレゼンテーション

〔授業計画〕
第１回：ガイダンス
第２回：テーマ設定のための解説
第３回：テーマの自主的研究
第４回：研究テーマの発表と設定
第５回：学習プログラムの主体的作成を検討
第６回：自主的資料収集
第７回：自主的資料調査
第８回：自主的資料分析
第９回：収集資料の検討
第10回：研究のプレゼンテーション
第11回：生徒指導のための学習プログラムの検討
第12回：生徒指導のための学習プログラムの作成
第13回：上記のプレゼンテーション
第14回：生徒指導のための問題点の検討
第15回：レポート

〔教科書・参考書等〕
教科書　なし
参考書　自主資料

〔準備学習等〕
授業目標として提示したテーマ「地球環境」「生活環境」「自然環境」に関連する情報を事前に収集し，具体的な問題意識をもっておくこと。これらテーマを考えるのに役立つ映像資料等を予習教材として配布するので，学習プログラムの作成に役立てること。グループ討議を通して，また他グループのプレゼンテーション等を参考に，生徒指導上の問題点をまとめ，学習プログラムの作成方法について復習すること。

〔成績評価方法・基準〕
取り組みの態度，プレゼンテーションおよびレポートの内容に基づき総合的に評価する。

15 教育実習　Teaching Practice

必修　２単位　前期・集中

全学科４年全組　教　　授　佐藤　三之
講　　師　中島　夏子
非常勤講師　齊藤　信六
非常勤講師　鈴木　伸一

〔授業の達成目標〕
教育実習生としての基本的な態度や教職員等との適切な関わり方が可能であること。指導案を作成し，生徒への教科・科目・単元のねらいを踏まえた適切な学習指導ができること。生徒の発達段階に応じた適切な生徒指導ができること。授業観察や教材研究，授業実施後の反省を適切に十分に行うことができることを目指す。

〔授業の概要〕
実習校の教員による講話を受講し，学校の課題と生徒の実態，学校運営の在り方などについて理解する。授業参観と教材研究を通して，授業の在り方を学び，実践のための指導案を作成し，授業の準備をする。授業実践を行い，学習指導の実際について学ぶ。授業後の反省を担当教員の指導助言のもとに行い，授業力の向上に生かす。

〔授業計画〕
・講話の受講（学校の教育目標，学校の課題を生徒の実態，学校運営の在り方など）
・授業参観（８時間を目安とする）
・教材研究
・指導案の作成
・授業の準備
・授業実践（８時間を目安とする。うち１時間を研究授業とする）
・授業後の反省，実習生活の日々の反省を記録
・ホームルーム経営・指導の実践
・特別活動の指導実践
・本学担当者による巡回訪問指導（学生の授業参観後の指導，授業及び生活全般に亘るアドバイス等）

〔教科書・参考書等〕
教科書　「教育実習の手引き」　東北工業大学教育実習協議会編
参考書　実習校提供の諸資料，教科書及び高等学校学習指導要領

〔準備学習等〕
学習指導計画案の作成など，授業実践に向けての準備を行う。

〔成績評価方法・基準〕
実習校からの成績評価，実習日誌の記載内容，実習校の指導教員のコメント，巡回訪問指導で確認した取り組み状況から総合的に判断して評価する。

16 教育実習事前・事後指導　Practical Methodologies

必修　２単位　前期・集中

全学科４年全組　教　　授　佐藤　三之
非常勤講師　齊藤　信六
非常勤講師　鈴木　伸一

〔授業の達成目標〕
教育実習に臨む上で必要となる事柄の理解（教育実習の目的と内容等），ふさわしい心構えと態度の育成，学習指導と生活指導に関する指導技術の基礎的能力の向上を目指す。教育実習での経験を振り返り，教職の理論的学習を修正・補強する。

〔授業の概要〕
３年後期から４年前・後期にかけて実施する。３年後期には必要となる理解面の内容を講義で扱い，また学校現場での一日体験実習では，心構えと態度の育成に配慮し，さらに全員に模擬授業を体験させて，指導技術の基礎的能力を向上させていく。４年では，教育実習直前の指導と直後の指導を行う。

〔授業計画〕
第１回：教育実習の意義と目的（講義）
第２回：高等学校の現状と授業観察・記録の仕方（講義）
第３回：高等学校での一日体験実習（ショートホームルーム活動の観察）※
第４回：高等学校での一日体験実習（学校の現状と課題についての講話）※
第５回：高等学校での一日体験実習（授業観察①）※
第６回：高等学校での一日体験実習（授業観察②）※
第７回：高等学校での一日体験実習（生徒への進路相談指導の体験）※
※一日５時間分として実施
第８回：模擬授業と合評会及び教材研究の在り方・指導案の作成の学習①（導入の工夫）
第９回：模擬授業と合評会及び教材研究の在り方・指導案の作成の学習②（板書の工夫）
第10回：模擬授業と合評会及び教材研究の在り方・指導案の作成の学習③（展開と発問の工夫）
第11回：模擬授業と合評会及び教材研究の在り方・指導案の作成の学習④（まとめの工夫）
第12回：模擬授業と合評会及び教材研究の在り方・指導案の作成の学習⑤（評価の工夫）
第13回：教育実習直前の指導（講義）
第14回：教育実習直後の指導（個別面談）
第15回：教育実習後の指導（全員による体験発表）

〔教科書・参考書等〕
教科書　「教育実習の手引き」　東北工業大学教育実習協議会編，「教育実習事前・事後指導」　自作資料
参考書　高等学校提供の諸資料　工業科等の教科書及び高等学校学習指導要領

〔準備学習等〕
模擬授業に向けて，学習指導案の作成と発表のための事前準備を行う。

〔成績評価方法・基準〕
体験学習，模擬授業への取り組み，実践結果及び諸レポートを総合的に評価する。

17 憲法　Constitution of Japan

必修　２単位　前期

全学科３年全組　准教授　片山　文雄

〔授業の達成目標〕
近代立憲主義の原理と，現代日本社会における権力分立・人権保障のあり方を理解する。

〔授業の概要〕
近代立憲主義憲法の原理の内容とその機能を，歴史的見地を踏まえつつ，基礎から学習する。日本国憲法の内容と実態を，権力分立・人権保障それぞれについて，具体的に検討する。

〔授業計画〕
第１回：序
第２回：憲法の原理
第３回：日本国憲法成立史
第４回：国民主権
第５回：国会
第６回：内閣
第７回：裁判所
第８回：人権の原理
第９回：人権保障の方法
第10回：自由権（１）
第11回：自由権（２）
第12回：自由権（３）・平等権
第13回：社会権など
第14回：平和主義
第15回：まとめと試験

〔教科書・参考書等〕
自作プリントによる。憲法条文（『日本国憲法』講談社現代文庫を推奨する）と『憲法判例集〔第 10 版〕』（有斐閣）を準備すること。

〔準備学習等〕
高校程度の社会科（公民）の知識があること，２年次教養科目「市民と法」を履修していることが望ましいが，必須ではない。復習として，配付するプリントを毎回よく読みなおしておくこと。

〔成績評価方法・基準〕
期末試験による。学習態度を加味する場合がある。

18 職業指導（工業）　Vocational Guidance

必修　２単位　前期・集中
※「工業」の免許状取得希望者のみ

ＣＤ学科・ＳＤ学科２年全組　教　授　小川　和久

〔授業の達成目標〕
工業社会で働くことになる生徒の指導にあたり，教師はまず適正な職業観をもつことが求められる。また教師は，生徒がモノ作りなどの生産の仕事に個人の成長と幸福感を得ることができるように，自己発見や自己理解が重要なことも指導する必要がある。その上で，現代の工業社会で課題となる職業選択，職業適性，能力開発，メンタルヘルス等について基礎を学習し，生徒の主体的な問題発見と問題解決能力を育成するための訓練の方法を習得するものとする。

〔授業の概要〕
現代社会の工業技術の変化は日進月歩で著しいものがあり，創造的な能力と適性が以前よりも増して強く求められている。一方で，旧き技術を大切にしながら，新たな工業技術の創造に努めるわが国の工業文化の歴史を学ぶことも重要であり，誠実に働く勤労観が国際社会で評価されるモノ作りを導いたことに触れる。安全で安心できる世界屈指のモータリゼーションを目指した車づくりやソフト開発の取り組みなどを題材にあげ，モノ作りの喜び，無事故社会への貢献，少子高齢化社会で活かされる技術の開発について学んでいく。

〔授業計画〕
第１回：なぜ人は働くのか①：モノ作りの職業観の形成
第２回：なぜ人は働くのか②：モノ作りの職業観とその変遷
第３回：職業選択と適性①：工業と職業興味
第４回：職業選択と適性②：モノ作りの喜びとワークモチベーション
第５回：職業選択と適性③：モノ作りと自己実現
第６回：職業選択と適性④：チーム作業と社会的適応
第７回：職業選択と適性⑤：企業が求める人材と就職活動の実際
第８回：モノ作りと能力開発①：職業技能とは
第９回：モノ作りと能力開発②：職業技能の習得過程
第10回：モノ作りと能力開発③：技能学習の訓練方法とその理論
第11回：モノ作りと能力開発④：創造性の開発（理論）
第12回：モノ作りと能力開発⑤：創造性の開発（実習）
第13回：メンタルヘルス①：競争社会・管理社会とストレス
第14回：メンタルヘルス②：ストレス対処の方法
第15回：工業社会と危機管理

〔教科書・参考書等〕
自作資料

〔準備学習等〕
職業適性およびキャリア教育関連の資料，図書，Web 上での情報を事前に調べ，各回の授業テーマと関連する諸問題に関して，予備知識を得ておくこと。予習として，授業で配布する資料を読み内容を把握しておくこと。復習として，授業ノートを整理し，要点をまとめて理解を深めること。

〔成績評価方法・基準〕
複数回提出を求めるレポートの内容にもとづき総合的に評価する。

19 職業指導（商業）　Vocational Guidance

必修　２単位　前期・集中

※「商業」の免許状取得希望者のみ

ＭＣ学科２年全組　教　授　小川　和久

〔授業の達成目標〕
現代の情報化社会とモータリゼーションの中で，流通ビジネス，経営情報などのグローバルな経営戦略の状況が急速に進展している。一方で安全安心を求める消費者のニーズが高まっている。厳しい競争社会と社会要請，そして急速なビジネス環境の変化の中にあっても，職業観をしっかりともち，サービスを提供する仕事を通して，個人の成長と幸福感が得られるような職業指導が求められている。その上で，現代の商業社会で課題となる職業選択，職業適性，能力開発，メンタルヘルス等を学び，働く力の基礎を育成するものとする。

〔授業の概要〕
現代の高校生の多くはアルバイトによる就業体験を通して職業観を形成している。しかし，賃金獲得以外の職業観の形成が未熟であるため，そのことが就職直後の高い離職率の一因となっている。消費者のニーズに応えながら社会貢献等の「労働＋αの個人の価値」を模索する生き方を伝えなくてはならない。題材として，自動車産業における社会貢献ビジネス，従業員による安全教育ボランティアや植林ボランティアなどを取りあげ，一般的な職業適性の問題に加えて，無事故社会や環境保全への貢献に触れ，＋αの価値を提示していく。

〔授業計画〕
第１回：なぜ人は働くのか①：ビジネス現場での職業観の形成
第２回：なぜ人は働くのか②：労働＋αの個人の価値
第３回：なぜ人は働くのか③：社会貢献ビジネス
第４回：なぜ人は働くのか④：安全教育ボランティア・植林ボランティア
第５回：職業選択と適性①：商業と職業興味
第６回：職業選択と適性②：ビジネス現場でのワークモチベーション
第７回：職業選択と適性③：ビジネス現場での社会的適応
第８回：職業選択と適性④：企業が求める人材と就職活動の実際
第９回：能力開発と教育訓練①：職業技能の習得過程
第10回：能力開発と教育訓練②：技能学習の訓練方法とその理論
第11回：能力開発と教育訓練③：コミュニケーションと問題解決
第12回：能力開発と教育訓練④：コミュニケーションと創造性の開発
第13回：メンタルヘルス①：競争社会・管理社会とストレス
第14回：メンタルヘルス②：ストレス対処の方法
第15回：商業社会と危機管理

〔教科書・参考書等〕
自作資料

〔準備学習等〕
職業適性およびキャリア教育関連の資料，図書，Web上での情報を事前に調べ，各回の授業テーマと関連する諸問題に関して，予備知識を得ておくこと。予習として，授業で配布する資料を読み内容を把握しておくこと。復習として，授業ノートを整理し，要点をまとめて理解を深めること。

〔成績評価方法・基準〕
複数回提出を求めるレポートの内容にもとづき総合的に評価する。

発　行　日	平成24年４月１日
発　　行	東北工業大学
編　　集	教務委員会
編集チーフ	教　務　部
	〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35番１号
	電話（022）305－3160
印刷・製本	㈱　郵　辨　社

Tohoku Institute of Technology